

メカニックスこれくしょん

壺逢のアルキニスト

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

次元転送装置によって跳ばされたメカニック鈴木は何故か提督をすることになったこれは艦これの名を語る作者の自己満足による作品です

『アカン!?』『この子はそんなじゃない』という方はバックして他の作品をお読み下さい

追記、作者の持っている艦娘（AC改、グッズ一部例外あり）しか出ません

急展開や説明を求める方は諦めて下さいでは、メカニックこれくしょん開演いたします

追加タグ時空は砕くもの、大本営は一部敵、特撮と勇者シリーズと仕事人、ブラック提督に慈悲はない、たまに演習、暴食漠食子狐、にわか釣り知識、作者とキャラによるメタ、地味に繋がる全作品、準レギュラー壱逢軍団、たまに出てくるガンダム装備、たまに出てくるライダーアイテム（レプリカ）とウルトラアイテム（パチもん）、ウルトラマンヒカリ&ノアの神涙目、主人公（笑）優奈君、なんちゃって聖衣&艦装（まだまだ増える予定）、文月ちゃんは皆のアイドル、困った時の壱逢設定、次元を越えてやってくる作者がやってるアプリやゲームのキャラ（設定&キャラ崩壊気味）

目次

プロローグ	1
第一航海新しい仲間！（説明）	3
第二航海深海からの救援と次元を切り裂く嵐	6
第三航海ゆき着任	9
第四航海サヨナラは言いません：	11
第五航海一時（ひととき）の魔法	15
第六航海北方から来た友達	18
第七航海時をかける吹雪メカニックメカ+α対深海凄艦	22
第八航海愛の鎮守府：	28
第九航海深雪、壱逢に行く	33
第十航海ネタを求めて鎮守府巡り	36
第十壱航海犬科襲来!?!夕立対稻荷戦隊アニマルズ	39
第十弐航海キヤラ紹介その二	42
外伝第1航海元不幸な彼女の長い一日	44
第十参航海ターゲットは提督!?!追跡作戦	47
第十肆航海謎の人	50
第十伍航海世界が変わっても、一人になろうが、戦う交通安全	53
第十陸航海新装開店？鳳翔食堂!!	57
第十七航海キヤラ紹介その三と比叡のレレパーティー	60
第十捌航海涙の再会	63
第十久航海次元を越える鳳翔と帰ってきた二人	66
第弐拾航海鳳翔のぶらり散歩	69
第弐拾壱航海ブルーベリーと血涙男	72

第貳拾貳航海パーフェクト執事と歴史	75
第貳拾參航海美味しいご飯と涙の別れ	78
第貳拾肆航海瑞鶴と加賀とたまにRJと時々ぽい	83
第貳拾伍航海秋雲執筆日和	86
第貳拾陸航海キャラ紹介その三と天龍園長壺逢に行く	90
第貳拾奈々航海文月と仲良くなるう!!	96
第貳拾蜂航海鈴谷再び、暁レディーへの道とついでにとある部屋	103

103	第貳拾陸航海那珂ちゃん危機一髪	108
	第參拾航海鮭とマタタビと近海の主	111
	第參拾壹航海長門の秘密	114
	第參拾貳航海	117
	第參拾參航海時を越える文月	120
	第參拾肆航海加賀さんの宝物	124
	第參拾伍航海ずぶ濡れの加賀	127
	第參拾録航海赤城珍道中	130
	第參拾七航海AAキャッスル?再び:仲直り作戦	133
	第參拾蜂航海赤城と赤木	137
	第參拾萐航海脱線だらけのキャラ紹介	140
	第肆拾航海最上さん?くん?ちゃん?	142
	第肆拾壹航海夜風と秘湯	145
	第肆拾貳航海トレイン?ビースト?インセクター?	148
	第肆拾參航海再会と目覚める○○	151
154	第肆拾肆航海北上目指して徒歩三分、大きさの概念は捨て去れ!!	

第肆拾伍航海赤木さんとかがさんメカニック鎮守府一般公開に行く	
前編	157
第肆拾録航海赤木さんとかがさんメカニック鎮守府一般公開に行く	
後編	162
第肆拾七航海憲兵αの実家訪問前編	167
第肆拾鉢航海憲兵αの実家訪問中編	170
第肆拾九航海憲兵αの実家訪問後編	173
第悟拾航海きくたぞ、我らくのにこくうせんく	177
第悟拾壺航海ミスミープラザーズ対下衆鎮守府	181
第悟拾式航海大本営終了のお知らせ(笑)	185
第悟拾惨航海脱線上等!! キャラ紹介	189
第悟拾肆航海ようこそメカニック鎮守府へ	191
第悟拾悟航海被り艦娘	194
第悟拾陸航海消えたアレ	198
第悟拾七航海オータムクラウドを捜せ!!	201
箸休み話メカニック鎮守府の謎	204
第悟拾鉢航海飲んべえ達のお酒事情	207
第悟拾九航海厳教官陸堅物娘「きびしいきようかんとりくのかたぶつ	
むすめ」	212
第六十航海ゴールデン神威	215
第六拾壺航海北上、進化!!	219
第録拾式航海狐と女将と酒場なっちゃん	222
第録拾惨航海忘れられたキャラ紹介	225
第録拾肆航海好き嫌いをなくそう!!	227
第録拾五航海秋雲のアシスタント	230

第録拾録航海ふみいとぬいぬい	233
第録拾七航海不殺の聖衣	236
第録拾蜂航海ロンリータートル	239
第録拾Ⅹ航海ラムネのお姉さん	242
第七拾航海名取と憲兵☒S（γ以外）	245
第七拾壱航海メカニック鎮守府c o m i c 祭前編訳は赤木さん	248
第七拾弍航海メカニック鎮守府c o m i c 祭後編	251
第七拾惨航海物置小屋の眼鏡委員	254
第七拾肆航海かがさん!?	257
第七拾伍航海かがさんの散歩を白い目で見られたのは憲兵γ	260
第七拾録航海大和さんが持っていた握力計? ついでのカヤラ紹介	262
第七拾七航海憲兵☒s 会議	264
第七拾鉢航海元帥からの依頼	267
第七拾九航海かなり暇した鈴木（んな訳ないでしょ!! 書類貯まってるよ! by 淀さん）	269
第捌拾航海憲兵βとタイプスピード	272
第捌拾壹航海かがさんのフラリ鎮守府巡り	275
第鉢拾弍航海俺の名はゼロ!! ウルトラマンゼロ!! ウルトラセブンの息子だ!! って知らないのか!?	278
第鉢拾三航海文月のふみいな夜	281
第鉢拾肆航海守れ!! 平和を繋ぐ橋	284
第鉢拾伍航海第三のミスミー	287
第鉢拾呂久航海δと??の恩返し	290

	第鉢拾漆航海結局初期艦は誰なんだ？	293
	第鉢拾捌航海闇の囁きとハーモニカ	296
	第鉢拾九航海ドキッ!?忘れられたキャラ紹介	299
	第玖拾航海メカニック鎮守府の艦LINE	301
	第玖拾壹航海聖なる剣？	304
	第玖拾貳航海比叡を越える者	307
	第捌拾弐・伍航海文月ちゃんと魔剣ベリアロク	311
	第鉢拾弐、漆伍航海怪盗ヒマラと光になった男と光に選ばれなかった 二人と反逆者の剣	314
	第玖拾惨航海文月ちゃんウルトラの星に行く	319
	第玖拾肆航海最期の捕物	323
	第航海艦娘アンケート箱	328
	第：航海：空に向かう方法：	331
	第玖拾五航海はるばる来たぜなキャラ&物紹介	335
	第玖拾陸航海メカニック鎮守府マツサージ事情	337
	第玖拾七航海潮メカニック鎮守府へ行く	340
	第玖拾捌航海荒鷲再結成	343
	第玖拾玖航海はるばる来たぜメカニック	346
	第百航海歪みないキャラ紹介	349
351	第百壹航海ついに登場!!スーパード深海とついでに荒鷲誕生秘話	
	第百貳航海天龍と剣	356
	第百参航海ようこそ、そして久しぶり	359
362	第百四航海【急募】天岩戸（ウォルターガンダムのか）の抉じ開け方	

第百V航海未来から来た花嫁	365
未確認対飛龍&蒼龍!決めろ!!最破碎斬	367
第百奈々航海免許皆伝と巫女ツインの予定	373
第百鉢航海蒼龍:	377
第百久航海目覚め:	380
第百銃航海喧嘩塾日誌	384
第百銃壱航海裏山にあるはず:熱冷ま草(前編)	387
第百銃弐航海後編、岩魚坊主とダム建設	391
第百銃惨航海新規開店!!○○カレー	396
第百銃肆航海渚のキャラ紹介	400
第百銃伍航海などがなぞ呼ぶなぞのなぞ	404
百銃陸航海狐式ちゃんinメカニックcorrection	407
第百拾七航海遠征という名のお使い	411
第百銃蜂航海艦LINEその2	416
第百十九航海淀さんの散歩	421
第百二重航海眠気MAXの時に書くとろくなもんじやない	428
第百二重市航海一戦いいですか?	431

プロローグ

う〜み〜は広いな黒いな〜♪やべえ…：すげえ音程外しまくっていやがる…：そんな海を一人の男がプカプカと浮いていた

??? 「やべえ〜こりや近くにサメいるな…」

彼は自称天災、メカニツク鈴木である

メカニツク鈴木 「携帯も使えないしどしょ…」

その時である!!

??? 「撃て〜!!」

??? 「…!?!」

メカニツク鈴木 「なんだあれ!?!近づいて見よう」

メカニツクいぬかき移動中

??? 「皆の仇はとつたよ…」

??? 「前方より人形反応!?!」

メカニツク鈴木 「すみません、ここはどこでしょうか?」

??? 「ここは鹿屋鎮守府近くの沖…：って誰ですか!?!」

メカニツク鈴木 「私は鈴木兼次、友達にはメカニツク鈴木と呼ばれている!!後、気が付いたらプカプカ浮かんでいた!!」

??? 「鈴木兼続…：って吹雪!?!、この人私達の鎮守府に赴任する新しい提督だよ!?!」

吹雪 「そうなの!?!深雪ちゃん」

時は吹き飛ぶ…：ここは鹿屋鎮守府の執務室

メカニツク鈴木 「深海凄艦ね〜コイツらを倒せばいいの?吹雪ちゃん、深雪ちゃん」

深雪 「はい、ですが…」

吹雪 「今は二人しかいません…」

メカニツク鈴木 「仲間を増やさないとね」

深雪 「工廠で建造しましょう」

メカニツク鈴木 「工廠?」

てくてく

メカニツク鈴木 「私のラボより広いな…」

吹雪「資材も有りますし提督、ボタンを押してください」

メカニツク鈴木「ポチツとな」

100:00

吹深『ひ、ひやくじかんん!?』

メカニツク鈴木「ど、どうしたの!?」

吹雪「普通は五時間なんですよ!?百時間なんてあり得ません!!」

深雪「どうなってるんだよ!?」

メカニツク鈴木「お、バーナー発見♪」ブオー

00:00

吹雪「今のは高速建材と言って待ちきれない人向けの道具です」

メカニツク鈴木「なるほど〜お、出てくるぞ〜」

???「私は超々ギガントカウント、悪は許さない!!ってプロフェツサー!?!」

メカニツク鈴木「ギガントカウント!?!」

吹雪「知り合いですか?」

メカニツク鈴木「こいつは私が作ったメカだ!!」

超々ギガントカウント『合体解除!!』

???『我々は違うからな!!』

メカニツク鈴木「わかっているって!!ダイナキング」

深雪「すげえ〜!!一度に18体も出てきたのか!?!」

メカニツク鈴木「ふふん♪」

???「スキヤン完了、プロフェツサー、我らは少し別行動をする」

メカニツク鈴木「わかった、無理はするなよラングルズ」

ラングルズ『了解!!』

メカニツク鈴木「さてと、携帯の修理するか…」

〜♪

メカニツク提督が来てから毎日が大変です…次回は新しい仲間!

(説明)を期待しないでのんびりお待ち下さい

第一航海新しい仲間！（説明）

今回は説明と少しの小話

鈴木兼続、自称天災メカニックで次元転送装置を弄っていて誤って作動し跳ばされ成り行きで提督をすることになった、趣味は開発と魔改造、後に明石とコンビを組み次元転送装置改を開発する

吹雪、鹿屋鎮守府に配属された艦娘、明るく元気があり仲間を大切にしている

深雪、吹雪がドロップした艦娘、元気いっぱい周囲を励ましたりしていた

鹿屋提督、吹雪達のいる鎮守府の前提督、深海凄艦が攻めてきた時、避難誘導中逃げ遅れた老婆を庇い亡くなった

超々ギガントカウント、メカニックメカと古のメカが豪華19体合体して出来たメカ、何の因果か建造で出てきた今はよほどのことがない限り合体しない

メカニックメカの詳しい詳細は気が向いたら『なろう』をご覧ください

深海凄艦、あまり戦いを好まない平和主義者、海軍上層部の馬鹿が深海凄艦を殺したことが原因で怒り暴れている

小話

吹雪「そういえば、提督？ラングルズさん達は何処にいったの？」

鈴木「なんか労働基準を軽くオーバーしている鎮守府を見つけたらしく壊滅しにいったよ」

吹雪「え!? 『提督!? 多数の艦娘が来ています!?!』」

鈴木「いきますか〜」

てくてく

見よ!? 港を埋め尽くさん勢いの艦娘の数を!?

??? 「黒鎮守府所属戦艦長門以下88名これより着任する!!」

鈴木「かなりいるな〜」

吹雪「は、はい!!」

ラングルズ『プロフェッサー』

鈴木「ようこそ、鹿屋鎮守府へ我々は歓迎しよう吹雪、皆を大浴場に連れていってくれないか？」

吹雪「はい!!」

ドリルラングル「プロフェッサー、何人かは…」

鈴木「わかった…深雪、ケアを頼む」

深雪「はい!!」

鈴木「ラングルズもお疲れ様、ゆっくりしてくれ」

ラングルズ『了解』

鈴木「さてと、作りますか〜」
てくてく

ここは工廠

鈴木「ポチつとな♪」

02:00:00

02:30:00

マグナクルグ「楽しみですね」

鈴木「俺はイラついているがな…」

ハンマーボデイ「この世界に？それともこの機械に？」

鈴木「両方だ!!第一、こうなった原因は海軍上層部の馬鹿のせいじゃないか!!ふざけるな!!」

ℓリグマツグ「確かに…上層部のファイルには『不気味な生物を確認、抵抗したため殺害した…その後に深海凄艦と確認する』と書いていますね」

鈴木「それと…艦娘達は人間だ!!兵器ではない!!」

ドリルラングル「流石にあれはなあ〜」

建造が終了しました

??? 「軽空母鳳翔です」

??? 「ウチは軽空母龍壤や!!」

鈴木「ようこそ、私は鈴木兼続、仮の提督だ」

その後、歓迎会をし鈴木はこの戦いの真実を話しました…

長門「にわかに信じられないな…」

ジャンボカスター「プロフェッサー〜プカプカ浮かんでいたの拾っ

たよ〜」

艦娘『深海凄艦!?!』

今回はここまで

~~~~♪

深海凄艦が語る真実：メカニック鎮守府の艦娘達はどうする？次回は、深海からの救援と次元を切り裂く嵐をあまり期待しないで気長にお待ち下さい

## 第二航海深海からの救援と次元を切り裂く嵐

前回のメカニックこれくしょんは…

ランドラングル「ドリルミサイル!!バケツトクロー!!」

悪徳提督「ぎやあア!?!」

???「ガツガツ」

吹雪「赤城さん!?!」

ジャンボカスター「プカプカ」

???「本編いくぜ!!」

深海凄艦を保護したメカニック鎮守府

鈴木「軽い疲労だな」

長門「提督：私達はどうすればいい…」

鈴木「まずは話し合いそして、和解が一番なんだが…はあ…こんな時に優希ちゃんが居れば…」

オキタゼくシカモ、ワケワカランコトイッテルゾく  
てくてく

鈴木「体調はどうかね？」

深海凄艦「くっ殺『長門、出ていきなさい…病み上がりだが仕方ない…コワレルナヨ?』ヒイ!?!」

鈴木「コレヨリ、ジンモンをカイシスル…ナンカイメデコワレルカナ?」

深海凄艦「ヒイヒイヒイ!?!寄るな!?!寄るなアア!?!」

鈴木「冗談はさておき、この資料に間違いはないか?」

深海凄艦「間違いはない!!我々は平和に過ごしていた!!人間はコロス!!」

鈴木「わかった…人間を代表して言う…仲間を殺してしまい申し訳ない!!」

深海凄艦「許さない!!許して貰いたければ、大本營の実験室にいる仲間を連れてこい!!」

鈴木「わかつ『全員、死んでるぞ』ターボ!?!」

ターボラングル「ほれ、大本營にあったマル秘ファイルだ」

そこに書かれていたのは、惨たらしいくらいの実験データとその詳細であった

深海凄艦「ふぎけるな!!」

鈴木「がふっ!?!」

ターボラングル「プロフェッサー!?!」

鈴木「来るな!!」

ターボラングル「ですが…」

鈴木「こんなもん超ギガントカウントのフルパワーに比べたら軽い

衝撃だ」ぎゅっ

深海凄艦「離れる!?!」

鈴木「約束する!!俺は…」

ターボラングル「お嬢が泣くぞ〜」

その時である!!

パリッ

???'「メカニック発見♪ゆきにチクろうかな〜」

ターボラングル「優奈!!」

優奈「いや〜知り合いに頼んで一時間だけ次元に穴を開けてもらっ

てな、ん?浮気か?」

ターボラングル「マスター…これを…」

優奈「なる…其処のダイナマイツ、晴らせぬ怨みはないか?」

深海凄艦「仲間の仇を討ちたい!!」

優奈「契約完了だ」

優奈移動中〜

ここは大本営のとある一室

提督「早く実験がしたい」

???'「提督殿、大変です!!」

提督「なんだ?名を言え」

???'「はい、憲兵の優と申します、先程、大本営から極秘暗号を受信

し報告にまいりました」

提督「入れ」

優「はっ!失礼します!」

提督「内容はなんだ？」

優「てめえの処刑の執行だ：閻魔に宜しく伝えときな」

提督「ぐあアア!？」

メカニツク鎮守府に戻ろう

鈴木「ん：確か：」

???「ようやく起きましたか？」

鈴木「君は一体：」

???「私は元深海凄艦の扶桑型戦艦妹の山城です」

鈴木「え!？」

山城「提督、あの時の続き教えてくれませんか？」

鈴木「さて？」

山城「はぐらかさないで下さい!!」

鈴木「腹減ったし食堂に行くか!!」

山城「提督!!」

壱逢世界の優奈「言えるわけないよ『お前を裏切らないし裏切らせ  
ない』なんてなくんじや、今回はここまで!!」

くくく♪

提督を見ていると何かモヤモヤしてきます：貴女は!?!次回は、ゆき  
着任をあまり期待しないで気長にお待ち下さい



### 第三航海ゆき着任

メカニック鎮守府、今回は工廠から始まります

鈴木「明石ちゃんのおかげで捗るよ♪」

明石「いやいやご謙遜を、提督の知識は私の心を熱くさせてもらっております」

鈴木「知り合いみたいだな…さて、食堂に行くか？飯くらい奢るよ」

明石「ゴチになります!!」

鈴木「高いのは辞めてな」

???「鈴木さん…浮気？」

鈴木「その声は…ゆ、ゆきちゃん!?!」

ゆき「はい♪鈴木さん、ゆうにこれから聞きましたよ、はい♪着替えと『提督く食堂行きましょ〜って誰ですか？この子』私は鈴木さんの彼女です!!」

鈴木「そういうことだ山城」

山城「あら？可愛らしいわねでも提督と夫婦にはまだ早いですよ」

ゆき「元の世界に戻ればいんばいんだから大丈夫なの!!」

鈴木「なるほど…だからロリゆきちゃんなんだね」

山城「提督ってロリコン」

明石「駆逐ちゃん達に伝えときますね♪」

鈴木「ところで、どうやって来たの？」

ゆき「ゆうにいの知り合いのストーカーさんが手伝って『き

しやああ!!』時間です…さようなら…鈴木さん」

鈴木「ゆきちゃん!!しばらくの間帰れないけど…ラボの管理をお願い!!」

ゆき「ZEROに任せていますよ」

鈴木「じゃあまた…」

ゆき「はい、また…」

鈴木「ゆきちゃん…」

山城「提督はゆきちゃんが大切なんですわね」

鈴木「ああ…あの子は悲しい過去を持っているからな…」

山城「私も提督の世界に行きたいなく駄目？」

鈴木「今、明石ちゃんと一緒に複数可能な次元転送装置を作っているから我慢してなさい」

山明『は〜い♪』

鳳翔「提督!?!食堂に可愛らしいこぎつねが!?!」

鈴木「…」

優奈『どったの?』

鈴木「バク食狐」

優奈『すまん…』

鈴木「保護者に連絡したし大丈夫だろ」

明石「提督の交遊関係がわからないわ…」

鈴木「そういえば…最近吹雪ちゃんをみてないが知らない?」

山城「吹雪ちゃんなら医務室につて提督は?」

明石「医務室のところで走って行ったよ…山ちゃん、食堂行く?」

山城「そうね…行こうかしら…」

明石「他の山城は不幸だわ…とか言うのに貴女は言いませんね?」

山城「楽しくて言う暇が無いだけよ」

場面は変わり医務室では…下着姿の吹雪が横になっていた

吹雪「提督を思うと何かモヤモヤしてきます…」

鈴木「吹雪ちゃん!?!」

吹雪「みにやアアア!?!」

鈴木「へぶ!?!」

深雪「吹雪!?!どうしたのつて提督!?!」

山城「提督、赤城さんが捜してましたから行きますよ〜」

明石「吹雪ちゃん…服着ようよ…」

教訓、ノックはちゃんとしようbyメカニック鈴木

〜〜〜♪

提督?この機械は…え!?!提督の世界に行く装置!?!提督!?!帰っちゃやだ!!次回は、サヨナラは言いません…を期待しないでのおんびり気長にお待ち下さい

## 第四航海サヨナラは言いません…

前回のメカニックこれくしょんは…

鳳翔「赤城さんとごぎつねちゃんが食糧を食べ尽くしてしまいました…」

吹雪「提督に隅々まで見られました…」

山城「提督、本編始まりますよ」

ゆきが来てからしばらく経ったメカニック鎮守府の工廠にて、今回のお話が始まります

鈴木「ついに完成した!!」

明石「凄いですね」

鈴木「じゃあ試運転をしようか」

明石「誰を実験台（モルモット）にします?」

鈴木「明石ちゃん、吹雪ちゃんと山城と深雪ちゃんと長門を呼んでくれないか?」

明石「了解♪」

鈴木「明石ちゃんが来る前に…座標は…」  
しばらくして

『明石と提督の秘密ラボ』

吹山深長『悪趣味』

鈴木「わざわざ来てくれてありがとう、君たちにはモルモット（実験台）になって貰うポチつとな♪」  
にやアアアア!?

哀れ四人は次元の狭間に…メカニックこれくしょん完…次回から明石ちゃんの愉快な工廠ライフをお楽しみに♪

吹雪「なりません!!つてあれ?ここは…優奈さん!?

優奈「ようこそ、歓迎しよう盛大にな!!てめえら!!コイツらの服ひんむいてアレに着替えさせな!!」

???『了解♪』

みにやアアア!?

優奈「その間に退室くえ?着替えの実況しろって?作者に言え!!」

鈴木「すまんな優奈」

優奈「ふっ妹分の惚れた彼氏の頼みで実現可能な範囲だったからな、料金は高いぞ〜特に楓の感謝料的な意味で」

鈴木「お手柔らかにな…」

その楓ちゃんはどうという

楓「ブルーさん!!パフェのおかわり!!」

ブルーベリーの漢「おいおい、そんなに食べると後が怖いぞ〜ホレ、ブルーティーミルクだ口直しに飲みな」

楓「大丈夫です!!鈴木さんからたんまり貰いますから♪後、ミルクティーありがとうございます」

では、吹雪達の方に戻ろう

優奈「頼むぞ、クッキング田中」

クッキング田中「任せといて♪ゆきちちゃんみたく手取り足取りメカニツクの好物までたっぷり教えてあげる♪ところで優奈ちゃん、彼女達は誰かしら?」

優奈「さつき言ったのに…彼女達はメカニツクが世話になっているとこの娘さん達だよ…」

クッキング田中「あら〜そうなの♪ごめんなさいね〜あたしったら料理と可愛らしい子がいると話が聞かないのよ〜」

優奈「こいつはオカマ『オネエよ』だそうだ」

山城「お願いします!!」

クッキング田中「今日は簡単なレシピであるミ〇カンさん推奨の豚肉と大根のさっぱり炒めを作りますよう♪」

艦娘『は〜い♪』

材料と調理過程はミ〇カンホームページをご覧ください、材料以外の食品を使う場合は自己責任でお願いします

優奈「メカニツクは何処かって?今頃ゆきとやってんじやないの」  
約30分後…

クッキング田中「出来上がり♪ご苦労様、さあ食べましょう!」

山城「提督は何処にいますか?」

優奈「鈴木?ラボだな」

山城「ありがとうございますございます」  
てくてく

『メカニックラボ』『ノック大切!!』『閲覧規制中』

山城「閲覧規制?提督、夕飯ができましたよ」

鈴木『わ:た:す:すぐ逝くよ』

ゆき『ふみやアア!!』

山城「提督!」

きやアアア!?

優奈「メカニックのアホくブルーに掘られちまえ」

長門「まだ食べては駄目なのか!」

優奈「うちの狐式といい勝負しそうだな…」

深雪「なあ?狐式って誰だ?」

優奈「バク食狐」

吹雪「あの後、食堂がしばらく使えなかったんですよ!」

優奈「すまん♪今はお仕置きしてるから許してくれ」

そのバク食狐は稲荷神社の柱に縛られて泣いていた

狐式「きゅくゅくゅ!!」

優狐「しばらく反省してなさい!!」

戻ろう

ボロい鈴木「美人と食べるご飯は美味しい!!」

優奈「ねるね〇ねるねかよ」

クツキング田中「駄菓子がお好み?」

鈴木「いやいや、ほら?ハーレムだろ」

優奈「性別男ok?」

クツキング田中「性別クツキングok?」

ゆき「一応小5です」

鈴木「さっさと食って外行くぞ」

その後、艦娘達は平行世界だが、平和な時間を過ごし鈴木を連れて元の世界に戻って行きました:ちなみに、しばらく食堂ではミツ〇ンさん推奨の料理が続いたそうです

くくく♪

山城さん元気無いけどどうしたのかな？次回は、一時(ひととき)の魔法をあまり期待しないで気長にお待ち下さい

## 第五航海一時（ひととき）の魔法

おお!!山城よ、ここに…薬、紐のついたワツシャー、ヘタレもしくは彼女持ちの男性をその気にさせて奪っちゃう指南書の三つがある、これでメカニツクを落とすがよ

山城「ありがとうございますいま…夢か…」

一体メカニツクは

鈴木「ぐふふくゆきちやくん」

寝ていた

山城「さて、起こしに行きますか」

それから数時間、山城を見たものはいない…

別のところでは…

深雪「あれ？吹雪は？」

パリッ

優奈「メカニツクの部屋じゃないの？あいつこの前ゆきとやっていたが貯まってんじゃないの？あ、これ貼つといてね」

深雪「はいよ」

ペタペタ楓の胸部装甲は？

深雪「まな板」

龍壤「大破逝くか？」

深雪「いやいや!？」

龍壤「次言ったらひんむいて叩き出したるからな」

深雪「イエス、ママ!!」

龍壤「そういえば、鳳翔さん見いへんかった？」

深雪「鳳翔さんなら、提督の部屋近くで優奈さん曰く『旦那の写真の前で無理矢理シて背徳心を醸し出す人妻』見たいな顔をしていましたよ」

龍壤「めっちゃ生々しいな…」

???「HEY!!皆の金剛デース!!榛名見てませんか？」

龍壤「榛名なら提督の部屋の前で見たでなんか『時代劇の金の代わり』に私が…みたいな町娘の心境』やったなあ」

深雪「ああわかる、その後、正義のサムライが来るんだろ？」

金剛「ジャパニーズサムライ!？」

では、正解は…メカニックよろ

鈴木「正解は、山城主役のシンデレラだ」

鳳翔「シンデレラ?何ですか!!この汚れは?貴女は掃除も録に出来ないお飯喰らいの役立たずちゃんですね」

山城「お義母さん、すみません」

榛名「シンデレラ?私の服知らない?」

吹雪「シンデレラ?さっさとサンドバッグになりなさい」

鈴木『よく見るとシンデレラの体には沢山のアザがちらほらとあります…なんと痛々しい…』

???「シンデレラさん可哀想なのです!!」

???「電、きつと誰か気付く筈だよ!!」

電「雷ちゃん…」

鈴木『そんなある日のこと、お城の王子が妃を捜すために舞踏会を開くようです』

鳳翔「シンデレラ!!早くおし!!」

シンデレラ「くく!？」

榛名「トロいわね」

吹雪「早くしないと殴るよ」

鈴木『哀れ…シンデレラの身体はボロボロです…』

鳳翔「シンデレラ、留守番宜しくね」

シンデレラ「は…い…」

鈴木『シンデレラはこのまま天に召されるのか!?次回、魔法使いと舞踏会に続く!!』

雷電『えくく!？』

雷「ちやんと続けなさいよ!!」

電「シンデレラさんを助けるのです!!」

鈴木「二人とも、安心して、この話はまだ続くんだし焦らずにね」

そうだ!!ちよつとだけ教えてあげる!!」

雷電『本当!？』



鈴木「魔法使いが言いました…」

魔法使い『可哀想なシンデレラ…今から魔法を掛けてあげる…だけど約束して、一言も喋らないで夜中の十二時には戻ることでないと魔法が解けてしまうわ…』

鈴木「ここまで!!ほら、いい子には間宮のアイスだぞ〜」

雷電『わ〜い♪』

鈴木「四人ともごめんね」

山城「私は大丈夫だけど…」

鳳榛吹『…』

鈴木「キヤラを破壊したからな…別案は榛名の白雪姫と吹雪のアリス、龍嬢の赤ずきんがあっただが…」

鳳翔「私が主役の話は!?!」

鈴木「7にんの駆逐艦?」

山城「提督が食べちゃうんですね♪」

鈴木「お〜〜こわ今日はここまで」

〜〜〜♪

メカニック読み聞かせコーナー…貴女は? 次回は北方から来た友達をあまり期待せず気長にお待ち下さい

## 第六航海北方から来た友達

今日は前回の続きです…

鈴木『その時である!?!』

???「おお、シンデレラよ…こんなところでくたばるとは情けない…」

山城「あなたは…」

???「私は、貴女の母親の知り合いの従兄弟の再従兄弟の知り合いの友達のパーフェクト執事ですが今は魔法使いの炎と申します」

鈴木『長い…絶対にアドリブだろ炎さん』

炎「確か…舞踏会に行きたい?」

山城「はい…ですが身体が動かなくて…」

炎「大丈夫♪ファイヤーミラクル、シンデレラよ今から舞踏会に行きなさい、ですが…一言も喋らないで夜中の十二時に帰って来なさい」

山城「素敵な特効服にガラスの靴!?!」

炎「乗り物は…マジックサイクリング♪」

???「腐れマッド鈴木八つ裂き」

山城「凄く物騒!?!」

???「失礼、私はZERO、ゆきのこと大好きなメカだ」

炎「ZEROさん頼みましたよ」

ZERO「了解」

シンデレラ駆け抜け中…

ここは舞踏会が行われている城

鈴木「ナレーションは天に返そう」

榛名「あの殿方素敵よね!!」

吹雪「そうよ!!今から既成事実を作れば…」

舞踏会の参加者『その手があった!!』

そこに、奴がきた!?!

ZERO「ダンスの時間じゃアアアア!」

鈴木「なんだ!?!」

ZERO「美人お待ち!!」

参加者『う、美しい…』

ZERO『『閲覧規制バリア』!!』

閲覧規制バリア、つまり防音マジックミラーである

ZERO「貴様は気に入くないがゆきの為だ…」

鈴木「なんと美しい!!私の妃に『きしやああ!!』なんだ!？」

ZERO「時間だ…靴でも見ている!チェンジ!!ジェットZERO  
!!」

鈴木「待て!？」

次の日から王子による靴の持ち主探しが始まりましたが、いかなせん娘の数が多く困難を極めていました

鈴木「次が最期だな…」

山城「あ…」

吹雪「消えなさい」

山城「はい…」

鈴木「すまないが娘達にこの靴を履かさせてくれないか？」

鳳翔「構いませんよ♪」

先ずは榛名

榛名「びつたりよ!!」

???「ちげえよ、ミリ単位の誤差だ」

続いて吹雪

吹雪「びつたりよ!!」

???「ちげえよ、詰め物だ」

鈴木「他にいないか？」

鳳翔「いませんよ」

???「納屋に傷だらけの娘がいるぜ」

鳳翔「さつきから誰よ!!」

???「通りすがりのお節介なメカだ!チェンジ!!ZERO!!」

鈴木「お前は!？」

ZERO「早く納屋に行きな」

鈴木「すまない」

ZERO「今のうちに詫び状でも書いてな」

納屋では…

山城「あ、ああ…」

鈴木「君は…」

山城「来ないで!!」

鈴木「それは、藁の中に隠した靴をかい?それとも…紅く染まった手かなあ?」

山城「私は実の母親を殺した罪人です…」

シンデレラの原本、灰かぶりを読もう!

鈴木「お嬢さん?私と相乗りする気はありませんか?」

山城「え…」

鈴木「なあに、君を妃にしようと思ってね♪後、ZERO」

ZERO「義母と義姉妹はブタ箱だ、今頃地下で罪人達にしごかれてるだろ」

鈴木「お父上には君を見初めたと説明しておく『お母様達は悪くないの!!』まだ庇うのか…」

山城「私は何も出来ないノロマだけど…家族なんです!!お願いします!!お母様達を解放して下さい!!」

鈴木「嫌だと言ったら?」

山城「刺し違えてもあなたを殺ります!!」

鈴木「合格だ…来な!直ぐに後悔さしてやんよ!!」

王子が凄く嘔ませっばいです

山城「逝きます!!」

続く…

次回!!ボロボロのシンデレラに勝機はあるのか!?シンデレラ最終回!!シンデレラ大勝利!!友と掴んだ必殺拳にご期待下さい!!

雷電『そんなわけあるかアア!』

山城「提督!?まだやるのですか!」

鈴木「だって暇なんだもん♪」

???「オハナシツツケテ!!」

???「以外『誰!』」

???「ワタシ?レップウダイスキ!!ホッポ!!」

ホッポ以外『また深海かよ!?!』

続く…

~~~~~♪

ここは…嫌!?!来ないで!!

次回は、消えた吹雪をあまり期待しないで気長にお待ち下さい

第七航海時をかける吹雪メカニツクメカ+α対深海 凄艦

前回のメカニツクこれくしょんは…

山城がDV被害!?

北方から烈風絶対奪うウーマン登場!?

お節介なZERO!!

鈴木「本編スタート!!」

ここは…誰も使っていない部屋…今日は月に一度の掃除日!!担当
は吹雪と深雪のようです

吹雪「ふう〜掃除終わり!!」

深雪「早く終わったし手伝い行こうぜー!!」

吹雪「うん!!」

キーン

吹雪「ん?」

深雪「どうしたの?」

吹雪「サキ、イッテテ」

深雪「あ、ああ分かった!!」

後に深雪はあの時引きずってでも連れていけばと後悔しました

吹雪「鏡? 面白いえば…提督が」

前提督『何処かの部屋に不思議な鏡がある…それは、願いを叶えて
くれるが危険だから使わないように!!』

艦娘『はい!!』

吹雪「これがその鏡?…前提督に…お父さんに会いたい…」

鏡『ピカッ』

そこには鏡しか残っていませんでした

吹雪「ん…」

???「気が付いたかい?」

吹雪「提督…お父さん!」ぎゅっ

提督「驚いたよ、いきなり意識不明になって、皆心配したんだぞ」

吹雪「ごめんなさい、すみませんこのまま抱き締めていいでしょうか？」

提督「なんだ？甘えん坊ちゃんめ♪悪夢でも見たのか？」

吹雪「はい…提督が亡くなった夢です」

提督「そりや悪夢だな、今日の遠征は休みたまえ」

吹雪「遠征…提督!?!今は何の月ですか!?!」

提督「水無月の5日だがそれ『今夜深海凄艦が奇襲に來ます!!』おい、それは夢の中の話だろ？」

吹雪「本当なんです!!」

提督「まだ寝ぼけているんだな…」

吹雪「信じて下さい!!」

提督「分かった…大本営に『駄目です!!大本営は…』どうした？」

吹雪「この戦いの原因を知っていますか？」

提督「いきなり深海凄艦が攻めてきたんだろ？」

吹雪「違います…原因は上層部の人が化け物と言う理由で平和に暮らしていた深海凄艦を殺したからです!!」

提督「そんな…では、我々のしていることは!?!」

吹雪「…」

提督「分かった、私は深海凄艦達に謝罪する為に文を書く…吹雪、この戦いが終わったら…『無理です…私には待つている人がいます…お父さんいや提督、私はあの時提督が娘にならないか?とおっしゃった時泣きましたよね?』ああ、駆逐艦の子達も貰い泣きしてたな」

吹雪「嬉しかったです!!」

提督「なんか不吉だな…じゃ夜に会おう」

吹雪「はい…」

一方メカニック鎮守府では、必死に吹雪を探していた…

鈴木「吹雪ちゃんは見つかった!?!」

電「いないのです…」

深雪「あの時、引きずってでも連れていけば…」

明石「提督!?!」

鈴木「明石ちゃんどうしたの!?!」

明石「座標を調べていたらこの鎮守府が奇襲にあった日に停まりました：吹雪ちゃんは過去にいます!!」

明石以外『なにいい!』

山城「提督、次元転送装置にコレを」

鈴木「コイツは：分かった!!」

吹雪ちゃんに戻ろう：

ポトツ

吹雪「これは：提督の通信機：」

そこには：『優奈の携帯のスペアだ：困ったら335を押すこと：そうしたらある程度ならなんとかなる』と書かれていました

その夜：見よ!!海を黒く染める深海凄艦の数を!?

憲兵「敵襲!？」

提督「吹雪の言うとおりになったな：第一戦闘配備!!」艦娘『了解!!』

提督「憲兵は私と共に避難誘導を!!」

憲兵『了解!!』

吹雪「(鈴木さん：提督を：お父さんを助けて!!)」

携帯『カモン!! ZERO!! クアトロシップ!! 超々ギガントカウント!!』

メカ組『よっしゃ!!』

ZERO「避難誘導は任せろ！」

クアトロシップ「傷ついたら言いな、修理してやんよ!!」

超々ギガントカウント「吹雪、君に伝言だ：『過去に干渉し過ぎるな：』それとこの娘を届けにきた、深海凄艦を無力化する!! 合体解除!!」

山城「吹雪ちゃん!!」ぎゅっ

吹雪「山城さん!？」

山城「心配したんだから!!」

吹雪「すみません：」

憲兵 side

憲兵「此方に避難して下さい!!」

主婦「家にお義母さんが…」

提督「わかりました!!」

老婆「儂も終わりかの…」

提督「まだ終わっていませんよ!!」

老婆「儂が後、四十年若ければ惚れてたわい」

提督「嬉しいですね♪」

流れ弾が来たぞ!?

ZERO「飛竜斬!!」

提督「貴方は？」

ZERO「お前の娘に泣きつかれたから仕方なく来た…」

提督「感謝する」

ZERO「引き続き避難誘導を続行する…チェンジ!!スピードZE

RO!!」

憲兵 side end

艦娘 side

赤城「長門さん!!加賀さんと霧島さん、比叡さん大破!」

長門「後退!!」

クアトロシップ「補給と修理に参上!!合体解除!!」

アインスシップ「補給だよ」

ツヴァイシップ「修理は任せな♪」

ドライシップ「守る…」

長門「感謝する!!」

艦娘 side end

ギガントカウント「行くぞ!!」

了解!!

ギガントカウント「ギガントカノン!!」

ランドラングル「ドリルミサイル!!」

スカイカスター「ウイングハリケーン♪」

オーシャンアース『只の強パンチ』

深海凄艦『あぎやアアア!?!』

???'「マイクチェック?アッ!?!アッ!?!」

謝罪内容？書くのがダルいからカット!!知りたければ、歴代総理大臣の辞任時の会見を見てなさい

吹雪「やっと…終わった…」

ギガントカウント「吹雪の父上よ…さよならだ」

山城「吹雪ちゃんのお父上…さよなら」

ZERO「任務完了…」

提督「感謝する…皆、娘と恩人に敬礼!!」

艦娘『了解!!』

吹雪「あれ…透けてきた…」

提督「行ってこい、私の娘…」

吹雪「提督…お父さん、行ってきます!!」

場所は戻りメカニック鎮守府

???'「娘を見に来ました♪」

鈴木「娘?なあ深雪?この方誰?」

深雪「提督、この方はこの前提督で私と吹雪のお父さんだよ♪」

提督「いや、懐かしい夢を見てね…吹雪はどこだい?」

鈴木「ん…深雪!?空から艦娘が!」

山城「カスターさん!」

スカイカスター「ブースト♪」

ギガントレオカウント「只今帰還!!」

ダイナグリッド「同じく」

ランドZERO「不本意」

クアトロシップ「さらばだ!!」

鈴木「あんな舟いたかな?」

吹雪「お父さん!!」ぎゅっ

提督「まだ甘えん坊ちゃんめ…」

吹雪は過去の話をしました

鈴木「こりや未来はある程度変わっているな」

深雪「提督が生きてる時点でな」

今回はここまで!!

~~~~~♪

ん？比叡がカレーを用意している？次回は愛の鎮守府…をあまり期待しないで気長にお待ち下さい

おまけ…

クアトロシップ、メカニックメカだと思われる戦艦型メカ、三隻に分離しアインスシップは補給、ツヴァイシップは修理、ドライシップは鉄壁の守りを見せ三隻合体でクアトロシップになる

前提督（追記）、皆のお父さん

## 第八航海愛の鎮守府…

鈴木「ぐわアアアア!?!」

金剛「やっぱり!?!」

???「ひえく!?!」

吹雪「あははは!!」

山城「久しぶりに言うわ…不幸だわ…」

数時間前に遡る

???「雨は止むさ…止まない雨はない…」

鈴木「雨女の時雨ちゃん♪」

時雨「怒りますよ…」

???「H E Y !?!提督だけのアイドル、金剛でくす!!提督、比叡見てま  
せんか?」

鈴木「比叡ちゃんなら確か…『今日はお姉さまのために美味しいご  
飯を作りに逝きます』とか言っていたなく食堂じゃないの?」

時雨「僕は、買い出しだと思うよ」

鈴木「食糧はたんまりあるはずだが?」

時雨「また来たんだよ…」

鈴木「また?」

時雨「狐ちゃん」

鈴木「はあく」スチャ

優奈『どつたの?』

鈴木「今日、メシ不味王があるから狐を連れてきてくれ」

優奈『ダルいからやだ』

鈴木「ZEROにあることないことチクるからな」

優奈『めんどいが了解!!』

鈴木「よし、なんとかなるな」

てなわけで数時間後…

目指せ!!鳳翔さん!?艦娘料理バトルを開始する!!審査員は、提督の  
メカニツク鈴木!!

鈴木「よろしく」

次に、皆の食事は任せて!!我らがお母さん鳳翔  
鳳翔「よろしくね」

英国のメシ不味は引き継ぎません!!金剛!!  
金剛「HEY!!よろしくね♪」

最期に、鎮守府を一晚である意味崩壊させた四足の悪魔今回の審査  
員長でもある、すーぱーこぎつねこしきちゃん!!

すーぱーこぎつねこしきちゃん「きゅー!!」

参加者は…カレーは得意!!比叡

比叡「頑張ります!!」

トンカツで目指せ!!玉の輿!!足柄!!

足柄「よろしく」

食べる専門だが今日は作る側赤城!!

赤城「慢心せずに頑張ります!!」

メカニツクの為なら火の中、水の中!!山城!!

山城「よろしくお願いいたします!!」

最後に謎のマスクマン

マスクマン「…」

鈴木「天さん、テーマは？」

テーマは無し、得意料理もよし、苦手料理でもよしの何でもありだ

!!では、開始する!!

にやアア!?

調理シーン?カット!!

鈴木「途中、足柄が熱した油を浴びたり、比叡が科学薬品を混ぜた  
りしていたが聞かなかったことにしてくれ」

時雨「ヤバイよ!？」

では、皆さん食べて下さい、なお、順番は比叡↓足柄↓山城↓赤城  
↓マスクマンとなっております

時雨「明らかにヤバイでしょう」

鈴木「比叡か…」

比叡「私と言えばカレー、カレーと言えば私!!というわけでカレー  
です!!」

見た目は普通、味は未知数…

審査員『いただきます!!』

山城「ケロケロケロ」

鈴木「ぐわアアア!?」

鳳翔「…ちーん

すーぱーこぎつねこしきちゃん「まじゅい!!」

金剛「ブルーベリーの漢がやった後、そのまま放置したような味ね!?」

比叡「そんな…」

要は不味いようです…次は飢えた狼足柄!!

足柄「今日はトンカツではなくチキンカツです!!」

すーぱーこぎつねこしきちゃん「おいしく!!」

審査員『普通!!』

足柄「ふふん♪」

お次は盛り付けは余裕だけど…山城!!

山城「はい」

鈴木「さばの味噌煮定食!!」

山城「ある人がさばの味噌煮が全てとっていたから…」

鈴木「明石ちゃん、医務室から消毒液『こんなこともあるのかと』流

石だね、さあ山城?手を出して?」

山城「提督!?!」

鈴木「全く…なれないことをして…綺麗な手が…」

山城「…ありがとう」

お次は食専だが今回は作る方、赤城ちゃん!!

赤城「今回はこれです!!」

赤城以外『インスタント!?!』

まさかのインスタント!!

鈴木「論外」

赤城ちゃん失格です!!最期にマスクマン!!

マスクマン『…』

鈴木「カプセル?」

マスクマン『一日分の栄養をまるごと凝縮したカプセルだ』

鈴木「ぐわアア!？」

すーぱーこぎつねこしきちゃん「にぎやい!!」

マスクマン『間違えた…これはどんな病気も治すが苦すぎて飲めない万能薬じゃった!?!』

鈴木「その口調…紅蓮じい!？」

山城「誰ですか?」

鈴木「いかなる世界にいるチートな薬剤師」

紅蓮「チートは余計じゃ!!儂は暇じゃったから氷の奴とここに遊びにきたのじゃ」

鈴木「氷蓮さんも来てるの!？」

吹雪「誰ですか?」

紅蓮「確か…大本営とやらに氷蓮は居るのう」

鈴木「大本営終了のお知らせ…氷蓮さんは何もないとこから毒劇物を作る婆さ『お姉ちゃんじゃろが!!駄メカニック』氷蓮さん!？」

氷蓮「全く…最近の若いやつはろくなももおらん!!ほれ、クソつたれのとこにいた絵描きの確か…夏空やったかのう?」

夏空? 「夏空じゃなくて秋雲です!!」

鈴木「氷蓮さんも提督になれ『断る!!儂はのんびり楽しく過ごすと決めているからのう』さいですか…」

あのゝ優勝は?

鈴木「個人的に山城」

金剛「足柄ネ!」

鳳翔「山城さんかしら?」

すーぱーこぎつねこしきちゃん「まじゆいのとにぎやいのとてぬき以外!!」

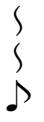
山城のようです

山城「ありがとうございます…」

優勝商品は、メカニック一日券です!!

鈴木「聞いてない!？」

では、第二回までさいなら〜



最近出番ないなく次回は深雪、壱逢に行くをあまり期待しないで  
長にお待ち下さい



## 第九航海深雪、壱逢に行く

深雪「泊めてくれ!!」

優九郎『妻との逢瀬を邪魔するものは泊めぬ』

シート優狐「旦那様？理由だけは聞きましょう」

優九郎『仕方ない：何でこんな夜更けに来たのかい？』

只今の時刻草木も眠る丑三つ時：冬に打ち付けているやつ居るの？

優狐「この前、楓ちゃんがしていたわ：」

優九郎『怖いな：』

では、戻ろう

深雪「実は：」

奈狐『実は？』

深雪「出番がないんだよ!!」

優奈「はあ？」

深雪「私は最初からいたんだぞ?! まあ、作者が改になるまで毎日私を資材にしようとしてたけど山城さんが必死に止めてたらしいしつてか、作者!! 早く改にしがれ!!」

優奈「はあ：なんだ、いつものことか」

次の日：こちらは壱逢世界のメカニックラボ

優奈「メカニックのところから見た目詐欺のJK二号が来たからよろしくしろよ」

優奈、深雪以外『意味がわからん!』

???「優にい？」

優奈「どうした？ゆか」

ゆか「見た目詐欺って何？」

ゆか、深雪以外『お前だよ!?! 男の娘!! ついでに優美』

優美「まあく自覚はしてたわ：ところで楓はどこ？」

優奈「やべ!?! 忘れてた」

???「今どこら辺なんだ？」

優奈「和真あ、ああ今赤壁」

優奈、深雪以外『マジで!?!』

優奈「詳しくは気長にお待ち下さい!!」

深雪「私は深雪ってんだ!!とりあえずよろしくな!!」

ゆき「深雪ちゃん、帰らなくていいの?鈴木さんが心配してるはずだよ」

深雪「大丈夫だつて!書き置きしていたし」

では、メカニック鎮守府に戻ろう

吹雪「提督!?!深雪の部屋から書き置きが!?!」

鈴木「何だつて!?!何々:『駆逐艦深雪は預かった、返してほしかったら貴様のメカを渡せまあ、見た目は可愛いからたっぷり可愛がってやるよぐふふ』よし、殺ろう」

ターボラングル「なあ:」

マツハララングル「大丈夫じゃない?」

???「筆跡は深雪ちゃんだよ!!」

ターハ『言うなよ!?!夕立ちちゃん!!』

では、戻ろう

深雪「と言う風にな」

優奈「大本営終了のお知らせpart2」

深雪「まあ、大丈夫だろ!!」

その時である!!見よ!!空が割れ鈴木が降ってきた!!

鈴木「深雪ちゃん!!」

深雪「て、提督!?!」

鈴木「君を苦しめていたとは:許してくれないか?」

深雪「許すつてもなく」

優奈「ここは若いもん任せてけえつべ」

優奈以外『おゝ!!』

ゆき「鈴木さん、深雪ちゃんとシテ良いからね」

鈴木「ゆ、ゆきちゃん!?!」

深雪「提督♪」

鈴木「ごめん、ゆきちゃん:」

『閲覧規制中』

閲覧規制後：

深雪「何でわかったんだ？」

鈴木「夕立がぼいぼいしながら時空転送機を指差していたり秋雲が昨日深雪が秘蔵の本を読んでいたと言っていたからな」

秋雲の秘蔵の本？ 屑提督によるメカニック鎮守府占拠物である!?

深雪「なあ…この戦いが終わったら鎮守府の皆で此方に来ていいか？」

鈴木「いい男がいなかったらな」

稲荷神社にいる優九郎『今の言葉を覚えていて下さい…では、続く』

くくくく♪

筆が捗るく次回はネタを求めて鎮守府巡りを期待しないでかなり  
気長にお待ち下さい

## 第十航海ネタを求めて鎮守府巡り

秋雲「うわアア!?」

師走：ここメカニック鎮守府ではある艦娘（秋雲）と提督以外年越しの準備をしていた!!

鈴木「深雪、新しいVRの実験に付き合っ『提督!!私にやらして下さい!!』山城!!」

山城「大丈夫!!」

鈴木「わかった：だけど泣くなよ…」

山城「わかりました?」

鈴木「ポチっとな♪」

山城「あにやアアア!?!」

深雪「提督!?!山城さんが気絶したよ!?!」

鈴木「さすがに、農民（山賊にやられる方）視点のファンタジーは駄目か…」

深雪「物騒なもんやらせようとするな!!」

秋雲「でいどぐぐ!」

鈴木「どした?秋雲、かなりやつれているな」

秋雲「ネタがないんだよ」

鈴木「嫌がる鳳翔さんと無理矢理する屑提督本でよくね?」

秋雲「描いていたら空母の皆様は大破寸前まで私対鳳翔さん以外の空母で演習をさせられました!!」

鈴深『ドンマイ♪』

秋雲「提督、何かネタありません?」

鈴木「ネタねく秋雲、何日目を出すの?」

秋雲「そりや三日目ですよ!!」

鈴木「そりや空母の皆様がキレル筈だよ：仮にでも母親代わりの方が屑野郎とイタしてたらなく」

深雪「いっそのこと艦娘皆の日常描いたらどうだ?題して『メカニック鎮守府の日常』とかさ!!」

秋雲「えく」

鈴木「売れる？」

深雪「そういえば、他の鎮守府でメカニック鎮守府に目をつけられたら閻魔様でさえも始末するっていわれてるぞ」

秋鈴『ちょ!?!聞いてない!?!』

???'「ノックして入る」

鈴木「今日も元気だなく夜戦内さん」

夜戦内「川内なんだけど…提督、『ケツコンカツコカリ』の通知が来ていますがどうしますか？」

鈴木「ケツコンカツコカリ?何それ?食いもんか?」

川内「食いもんではなく、艦娘とケツコンすることができる機能で

『断る!!私はゆきちゃん一筋だ!!』さいですか…」

深雪「この前、私としたよなく?」

鈴木「あ、あれはだな…」

山城「ケツコンと聞いて!!深雪ちゃん、提督さんはロリコンよ♪」

鈴木「山城さん!?ナイツテンダアンタ!?ってかお帰り」

山城「提督!!さすがにゴブリンとオークは壊れます!!」

鈴木「sorryでは、次回はサンキャツスル対レッドキャツスルの戦いにしよう」

深雪「直訳すると山城対赤城だな…」

秋雲「では、ぶらつとネタ探しに逝きます!!」

鈴木「バイバイ」

山城「提督?誰とケツコンするのですか?」

鈴木「作者は予定では詳鳳さんらしいよくさて、どうしよう…」

山城「提督…」

深雪「提督…」

吹雪「提督さん…」

明石「にしし」

鳳翔「狐ちゃんがまた来ましたが偶然比叡さんの料理を見て脱兎のごとく逃げていきました」

鈴木「恐るべし比叡…んく決めた!!」

山深吹明『…』

鈴木「全員とケツコンする!!」

鳳翔「あと腐れなく平等にですネ♪」

パリンッ

優奈「あらヨット♪シヨット!!」

鈴木「ぐべ!」

優奈「指輪だ…暇潰しに首輪も作ったからな」

鈴木「ピンポイントだな…しかも首輪には『ぽいとときあめ』って着いてるし…」

深雪「あの二人だな…」

山城「提督、あの人は何者でしょうか?」

鈴木「優奈曰く…通りすがりの旅人兼稲荷神社の神主らしい」

鎮守府の皆とケツコンカツコカリすることにした鈴木、正妻のゆきちゃんにどう説明するのやら…それは後程…続く!!

え?秋雲の新刊?料理好き艦娘による料理本とメカニック鎮守府の日常になりましたが何か?

~~~~~♪

提督、狐ちゃんとワンちゃんが…え?!ワンちゃんじゃない?!次回は犬科襲来!?!夕立対稲荷戦隊アニマルズをやる気があれば出すので期待しないで気長にお待ち下さい

第十壹航海犬科襲来!?!夕立対稻荷戦隊アニマルズ

ここは、メカニック鎮守府にある秘境の地

??? 「私が弱いばかりに…ゆつくりお休み…」

そこには『我が友…霞、山城、隼鷹、副団長ここに眠る』と書かれた石碑がありました

まあ本編と関係ないがな…

時は前回と同じく此方は壹逢世界のメカニックラボでは、ZEROと稲荷狐式、狼の白と黒の姉妹が掃除をしていた

ZERO 「狭いところばかりですまない」

黒 「わふっ」

狐式 「きゅ!!」

白 「わふっ!?!」

狐式ちゃんが次元転送機を誤って作動させたようですでは、メカニック鎮守府に戻ろう

鈴木 「眠い…」

吹雪 「提督!?!空からワンちゃんが!?!」

黒 『ビスッ』

白 『ビスッ』

狐式 『キーン』

鈴木 「ん?…へぶ!?!」

吹雪 「提督!?!」

ちなみに、ヒットしたのは白『人中』、黒『鳩尾』、狐式は安定の『股間』である

時は同じく此方はある駆逐艦の部屋

??? 「深雪ちゃんは鈴木さんのどこに惚れたの?」

深雪 「まあ、ゆき姉ちゃんと変わらねえな、提督は全てを包みこむお人だからな」

ゆき 「鈴木さんはロリコンだよ?」

深雪 「まあ、惚れた弱味って奴だな」

ゆき 「一分…」

深雪「ん？どうし『大変!?!提督がワンちゃんに急所やられて倒れま
した!?!』な、何だつて!?!」

ゆき「逝きますよ?」
てくてく

医務室

山城「提督が起きたら謝るのですよ」

たんこぶ狐白黒『はくい』

ちなみに白黒がたんこぶ一つで狐式が三段である

「ぽい!!」

「どうしたんだい?夕立」

夕立「ときあめ、ワンちゃん達から提督の匂いがするっぽい!!」

時雨「それは、提督にぶつかつたからだよ」

夕立「特に狐ちゃんからは雄の匂いがするっぽい!!」

その時である!!

パリンツ

「迷子狩りに来ました」

狐式「父上!!」

白黒『お父さん!?!』

山城「優奈さん!?!」

優奈「ZEROがオイル流しながら来たから少し臭うが気にする
な」

優奈以外『アツハイ』

比叡「提督!?!大丈夫ですか!?!」

狐式「まじゆいの!!帰れ!!」

比叡「失礼な!!今は鳳翔さんや間宮さんに料理を教わっていますよ
!!」

黒「おかわり!!」

白「しろもおかわり!!」

比叡「はい♪たっぷりありますからね」

山城「幻よ!!全鎮守府杯比叡選手権を優勝した比叡がメシ不味を脱
するわけがない!!」

優奈「そんな選手権あるのか!？」

鈴木「狐ちゃん、比叡は君に不味いつて言われて頑張つて作ったんだよ、それを食べてないのに不味いつて決めつけちゃ駄目じゃないか、ほらごめんなさいして食べてごらん」

狐式「まじゆいの、ごめんなさい!!食べていい?。」

比叡「はい!!」

狐式「おいしく!!♪」

優奈「狐式の趣味は食べ歩きだしな気に入った所には商売繁盛のご利益があるぞ〜ちなみに、優狐が家内安全で蛙野が健康長寿で源九郎さんが無病息災だ」

鈴木「そういえば、サブタイのぽい対稻荷戦隊アニマルズって?」

優奈「作者に聞け」

知らん、サブタイ詐欺だ

作者以外『アツハイ』

鳳翔「優奈さん、無病息災と商売繁盛と家内安全と健康長寿の御守りを下さい!!」

優奈「まいどあり♪」

鈴木「商魂逞しいな…」

優奈「じゃ、御守り取りに行くから天、次回予告よろしく♪」
~~~~~♪

任されました、次回はフ○ミ通じゃない攻略本バりに脱線しまくるキャラ紹介その二を期待?するだけして気長にお待ち下さい

## 第十式航海キャラ紹介その二

トップはもちろんあの男！

優奈、いろんなところに現れる自称通りすがりの嵐、たまにシリアスな奴になる

夕立、メカニック鎮守府のマスコット、前の鎮守府では犬小屋で飼われていた、今は時雨と一緒に散歩したりしている

時雨、メカニック鎮守府のマスコットその式、前の鎮守府では大規模作戦や演習の時に必ず雨を降らしていた為地下牢に軟禁されていた、今は夕立と一緒に散歩をしている

比叡、全鎮守府杯比叡選手権優勝をしている元メシ不味戦艦、あれは皆が元氣であって欲しいという想いが空回りした結果であって本当は美味しいカレーを作る事ができる、今はカレー以外の料理を作るべく日々精進している

長門、皆の頼れるお姉さんの戦艦、たまに駆逐艦大好きながもんになる

秋雲、氷蓮さんが大本営から連れてきた艦娘、絵を描くのが好きでコミケ三日目を狙っているが大抵の艦娘に大破寸前まで演習させられる

氷蓮、本気になれば全ての世界を破壊できる薬剤師の婆『お姉さんじゃろ？』失礼、美人なお姉さん、今は師匠の紅蓮と共にのんびりしている

紅蓮、壹逢世界参照の薬剤師

山城、今作のヒロインの一人、元は深海凄艦だったがメカニックの告白まがいに好感度が天元突破して惚れた、今の日常を愛しており余り口癖である『不幸だわ』を呟かなくなった、手は綺麗過ぎて怪我をしたらすぐにバレる為いつも盛り付けをしている

鳳翔、皆のおかん、最近は料理教室を開いている

RJ、フラットとか言う奴はブルーベリーの漢送りだからな

金剛、那珂ちゃんとアイドルの座を争っている紅茶大好き戦艦

榛名、可愛さと病み度は天元突破している戦艦

電、敵味方関係なく助かる命は助けるがモットーの駆逐艦

雷、電の姉でたまに時雨と夕立と一緒に散歩している

ときあめ&ぽい、優奈がウルトラソウイ!!した首輪を装備した夕立と時雨、一見普通に見えるが嗅覚が鋭くなり犬耳と尻尾が生えているちなみに夕立が茶で時雨が黒である

赤城、食堂で狐式とフードファイトをしてしばらく雑草生活をするはめになった、得意料理はインスタントと簡単な和食である

足柄、玉の輿を狙う重巡、とりあえず、こつてり系じゃなくあつさりも覚えようよbyメカニック

狐式&白黒、壹逢世界最強の漠食狐と絶滅狼の姉妹、優奈を父としたう

優狐&蛙野、稻荷神社の未亡狐と稻荷神社の行けにすむ化け蛙

最後は手抜きだつて? 壹逢を見よう!!では、次回に続く!!

~~~~~♪

山城さん!!なんで深海凄艦のところにいるの!?! 次回は大本営からの指令をあまり期待しないで気長にお待ち下さい

外伝第1航海元不幸な彼女の長い一日

眠い…え!?始まっているって!?ごうおっほん!!ここは、メカニック
鎮守府の山城の部屋ってメカニック!?

山城「にゅふふ♪」

鈴木「…」

抱き枕のようです

工廠で仮眠しようとしている明石「あれは1/1提督人形です!!他に
吹雪ちゃん、深雪ちゃん、鳳翔さん、金剛さん、私も持っています
♪まあ、私のはカスタムタイプなので『閲覧規制』付きですがね」
よく調べたなく

明石「寝てる間に計りました!!」

凄くいい笑顔!?ってな訳であさく

山城「提督♪おはよう」ぎゅ

見た感じバツクブリーカーだよな…

山城「あら?腕が解れているわ確か…針と糸はこの辺りにく『きゅ
!!』きゅ!」

戸棚の中からきゅきゅと、漠食狐登場!?

山城「狐ちゃん?」

狐式「うん…やましろのお姉ちゃん、今日泊めて?」

山城「狐ちゃん、今日はどうしたの?」

狐式「父上の大事にしていたスカーフを破いちやって怒られるのが
嫌だから逃げてきた」

山城「駄目じゃない!!私も謝るから一緒に行きますよ!!」

狐式「や!!帰ったら父上が包丁と煮たった鍋を用意して『今日は狐
鍋だ♪』ってしているんだよ!」

山城「大丈夫、私を守りますよ!!」

てなわけで壱逢世界に行こうくこちらは稲荷神社

優奈「今日は狐鍋♪美味しい狐鍋♪」

こええな

山城「そろそろ許してあげて下さい!!」

逆さ釣りの狐式「きゅく!!」

優奈「今日という今日は駄目だな!!狐鍋にしてやる!!」

狐式「ごめんなさいいい!!」

???「まあ今回は許してやれよ優奈」

優奈「そげなこつゆうて航空参謀に裏切られまくるんだぞメガトロ
ン」

メガトロン「もう慣れたわい」

優奈「しょうがない、今回も許してやろう、次は許さないからな?」

狐式「ごめんなさい!!」きゅつ

メガトロン「仲の良い家族じゃな…ん?サイバトロンめ…優奈、ま
たな!!」

優奈「今度はギガとガルバも連れてこいよ」

山城「狐ちゃんを助けてくれてありがとうございます」

メガトロン「ふん!さらばだ!!」

では、メカニツク鎮守府に戻ろう

山城「さてと、提督♪縫い縫いしますね」

鈴木?「ぎやああ!!」

山城「人形が声をあげるはずがアイエエ!?提督!?なんで!」

明石『ふつふつふ、ここは『閲覧規制』をしないと出られない山ちゃん
の部屋です!!さあ!!潔く愛の無い『閲覧規制』をして秋雲ちゃんの
ネタになりなさい!!』

山城「ふぎけないで!!」

鈴木「さてと、どうしたものか?」

山城「提督!?!」

鈴木「仕方ない…山城…ごめん!!」

山城「きや!?!て、提督!?!」

鈴木「最近、山城の誘惑しているからなくお♪沢山あるじゃん、ゆ
きちゃんがさせてくれないのが沢山できるな、どうせ見ているんだし
見せつけてやろうや、山城」

山城「ていと…鈴木さん」

鈴木「始めは秋雲ちゃんの秘密本その一屑提督に脅迫されて首輪に

『閲覧規制』の状態散歩して『閲覧規制』されている奴でもする?」

秋雲「せめてオリジナルで頼みます!!」

鈴木「仕方ないなく山城、今から屑野郎との一人二役するから提督の前で屑野郎と『閲覧規制』する山城するぞ」

山城「嫌です!! 私が提督の『閲覧規制』を踏みつけて罵倒を浴びせる奴がいいです!!」

鈴木「回想の奴で良くない?」

山城「構いませんよ♪」

しばらく『閲覧規制』になります、え? 詳細だつて? エラー猫が盗んだので諦めて下さいえ? 気になる? 仕方ないなく明石さん、秋雲ちゃんよろ

明石「提督が提督じゃありませんでした…」

秋雲「提督が二人いました…」

続く…

~~~~~♪

提督が知らない人と歩いていました…次回はターゲットは提督!? 追跡作戦を期待するだけ期待して気長にお待ち下さい

## 第十參航海ターゲツトは提督!? 追跡作戦

前回のメカニックこれくしょんは…

山城「離しなさい!!」

屑野郎「逆らうと別室にいる駆逐艦がどうなつてもいいのかな?」

山城「卑怯者!!」

屑野郎「いいね、その顔最高じゃないか!!」

鈴木「山城!! 何処にいるんだ!!」

くく

秋雲「この後、屑野郎と無理やり『閲覧規制』している山城さんを提督が見て絶望する終わりがいいかな?」

くくく

加賀『秋雲ちゃん、大至急第二演習場に来て下さい』

くくく

秋雲「なんだろう?」

この後、轟沈寸前までめちやくちや演習したつてな訳で本編に行こう!

吹雪『こちらブリザード、目標はブティックに入った!! キヤツスル

指示を下さい!!』

キヤツスル『そのまま待機よ!!』

ブリザード『了解、では、回想をどうぞ』

かしこまり♪朝に遡る

吹雪「今日の朝は何かなく」

鈴木「いつてきまゝす」

金剛「行ってしまったヨ…」

吹雪「金剛さん、おはよう!」

金剛「おはよう…」

吹雪「元気ありませんがドウシマシタカ?」

金剛「提督の寝込みを襲おうと行つたらコレが」

吹雪「何々…『デートに行きます、夕飯には帰るので心配するな、鳳翔さんに夕飯は魚がいいと伝えておいて下さいでは、』デートか〜つ

てデート!？」

金剛「私というものがいながら提督浮気です!!」

山城「朝から何よふあく…」

深雪「全くだぜ」

吹雪「深雪ちゃん?なんで山城さんの部屋から出てきたの?」

深雪「山ちゃんのプライバシー保持の為言えない!!」

山城「鈴木さん!?金剛、逝くわよ!!」

金剛「ガッテン!!」

吹雪「その前に朝ごはんです!!」

ごちそうさま!!

山城「鈴木さんはどこかしら?」

金剛「あの人がいれば…」

山城「そうね…」

パリッ

???『宅配だよ♪』

山城「あら?『メカニツクの事は気にするな、ついでにしばらく奴の子が来るがいじめるなよ』ステキな嵐」

そうなの」

金剛「提督がいますよ!!」

鈴木「つてな訳でさ」

???「ふっふ、楽しいのね」

鈴木「ああ、だけど…やっぱりあつちに戻りたい!!ZEROのフルバースト受けるのは嫌だけどゆきちゃんの料理を食べたい」

山城「提督…」

金剛「提督…」

???「っぽい!!」

???「どうしたの?ぽい?」

ぽい「雷、提督が美人なお姉さんとお茶しているっぽい」

鈴木「よお、散歩かい?」

雷「そうよ!!ついでにときあめは電がつれていつてるわところで、お姉さんは誰?」



??? 「私？私は、鈴木ちゃんの『ストップ!!』つまらないわね」

鈴木 「冗談でもやめて下さい!!優子さん」

優子 「だって、鈴木ちゃんが浮気しているのがいけないのよ♪あんな可愛い子がいながら…よよよ…」

鈴木 「口元ニヤけながら泣き真似しないで下さい!!」

優子 「あら？バレちゃった♪」

鈴木 「バレバレです!!」

優子 「じゃ、帰るわね♪ドラマの再放送見なくちゃそういえば、優奈がゆかちゃんを縛って鈴木ちゃんの所に逝くって言ってたわ♪」

鈴木 「な、何だって!?!」

珍しく続くぞ

♪♪♪

鈴木が出掛けている間鎮守府では…次回は謎の人を気長にお待ち下さい

## 第十肆航海謎の人

前回のメカニックこれくしょんは…

青空の下メカニックと見知らぬ女性が『閲覧規制』しているところを偶然見た雷とぼい、二人にメカニックの牙が迫る!!

轟沈寸前の秋雲「やっぱりそのまま『閲覧規制』だよな〜」

赤城『秋雲ちゃん、大至急、第三演習場に来て下さい』

秋雲「なんだろう？第三演習場って確か、ここの鎮守府全員入る広さがあるらしいし」

この後、秋雲だけ夕飯と休憩無しで夜通し演習（VSながもん）させられた

優奈「本編逝くぞ〜」

山城と金剛が出掛けて三十分後

優奈「なくみくだ〜ぐも〜つと♪」

吹雪「優奈さん!？」

優奈「よっス!!今日はお届け物だ!!」

吹雪「お届け物?」

優奈「左様、メカニックの息子を連れてきたぞい」

吹雪「提督の息子!？」

優奈「御披露目するから、放送よろ」

吹雪「わかりました!!霧島さんに伝えておきます」

数分後

霧島『てめえら!!大至急、第三演習場に来い!!特に赤城は速く来い!!雑草生活させるからな!!』

二秒後

赤城「雑草は嫌なのでトップで来ました!!」

優奈「残念♪君は最下位だ」

赤城「え……」

長門「すまんなく今、秋雲対赤城、金剛、山城、駆逐艦以外の艦娘による演習をしていてだな（清々しいくらいのゲス顔）」

赤城「雑草はいやアアアアア!!」

優奈「可哀想に……」

吹雪「優奈さん、始めますよ!!」

優奈「だったな、てめえら!!今日は鈴木の子を連れてきた!!見かけたら『閲覧規制』だろうがなんだろうがしても構わないからな♪」  
???「ちよ!?!優にい!?!」

優奈「ゆか、これは鈴木の子だからな……達者で生きるんだぞ……ふひひ」

ゆか「せめて、泣き真似にしてください!!」

優奈「申し訳ない♪」

死にかけの秋雲「おねシヨタ『演習追加』いやアアア!!」

深雪「うっし!!今日は宴会だな!!間宮さんと鳳翔さん、宴会メニュー考えましょう!」

鳳翔「ですが、提督は魚がいいとおっしゃったので今日は煮付けにしよう思いゴーヤちゃんにオリヨクルさせているのですが……」

一方、オリヨクルゴーヤは

ゴーヤ「久しぶりのオリヨクルでち!!しかも遠征じゃなく魚釣りでちつとヒット!!」

結構満喫していた

優奈「さてと、帰るか♪ばはは〜い♪」

ゆか「優にい!?!」

深雪「バイバイ♪さくてゆかちゃん♪お姉ちゃんとイイコトしようか♪」

ゆか「最初期の元気ハツラツ!『私は神だアア!!』くたばれ!!ゲンム!!」

深雪「最近提督がしてくれないしさく寂しいんだよ!!」

ゆか「無理やりしなよ!?!」

深吹明『その手があった!?!』

ゆか「駄目だこりゃ……」

数時間後

ゴーヤ「只今でち!!今日は大量でち!!ついでに艦娘釣り上げてきたよ!!」

「釣り上げられた一等駆逐艦島風です、速さなら負けません!!」

「おい、デュエルしろよ」

ゆか「蟹はお帰りください」

鈴木「ただいま♪」

ゆか「お父さん!!」ぎゅっ

鈴木「あのバカ：時空転送発動、じゃ♪向こうは任せた」

ゆか「うん!!お母さんは守るから安心して!!」

鈴木「ZEROがキレそうだな…」

次回に続く!!

くくく♪

変な人?が鎮守府に!?!赤城さん!?!なんで変な人といえるの!?!次回は世界が変わろうが一人になろうが戦う交通安全を期待しないで気長にお待ち下さい尚、予定を変更する場合がありますのでその辺はご了承下さい、出来ない方は読まないで下さい、時間の無駄になりますよ

## 第十伍航海世界が変わっても、一人になろうが、戦う 交通安全

メカニック鎮守府近くの林にて

赤城「しくしく：鳳翔さんのご飯が食べたい：雑草不味いよお」  
また、何かしたようです

赤城「ちよつと火の加減間違えただけで雑草なんて…」

ああああああ!

ちゅどくん♪

赤城「何!?!」

??? 「いてててて」

赤城「大丈夫ですか!?!」

??? 「おうってここはチークューのどこら辺だ?」

赤城「ここはメカニック鎮守府の近くの林です、貴方は?」

??? 「俺?俺は元宇宙暴走族ボーゾックのガイナモだ!!お嬢ちゃんは?」

赤城「私は赤城です」

ガイナモ「か、かわいい…じゃなかった!?!赤城ちゃんはなんで林にいるんだ?」

赤城「実は、お風呂の温度を高くし過ぎたせいで上司が全身大火傷してしまい罰で一晩ここで過ごすことになってしまい」

ガイナモ「何だつて!?!こんなかわいいこちゃんを外に追い出すなんて!?!許さん!!俺が文句言いにいつてやる!!」

そのメカニック鎮守府では…

山城「提督!?!死なないで!!あなたが死んだら深雪ちゃんはどうなるの!?!まだ生命力は残っている!!ここを凌げば大丈夫!!次回、メカニック死す、次回をお楽しみに!!」

ミイラ鈴木「いやいや!?!死なないからな!!瞬き一つで復活するからな!?!」

山城「こんな時に冗談言わないで!!お医者様だつて『こりやあかん

!?今日が山だな、早く逝け♪』って言っていましたよ!」

ミイラ鈴木「よし、ブツチ確定だな」

どこかの嵐がくしゃみをして狐を怒らせたとか無いとか

加賀「提督、門の前に不審者が」

鈴木「了解」

山城「提督!? 安静にしてください!」

鈴木「知らんな、逝くぜ!!」

てくてくずるずる

こちらはメカニック鎮守府の門

ガイナモ「今からここは宇宙暴走族ボーゾックの臨時基地にする!!

行け!! ボーゾックーの大食いAAキャツスル!!」

覆面赤城「飯よこせ」

加賀「あれは!! 赤城さんの飛行甲板!? 赤城さんは何処!!」

ガイナモ「俺様に逆らったからなく今頃仲間たちと算数でもしてい

るはずだ」

加賀「な、なんてことを!」

しばらく加賀の妄想と見せかけて秋雲の本

先生「早く解かないとご飯無しだからなく」

赤城「ご飯食べないと解けません!! ご飯ください!」

生徒「先生、赤城ちゃんはさつきお菓子食べてました!!」

先生「よし、一週間ご飯無しだな」

赤城「いやアアアア!」

秋雲『つてなもんじしようかなくん?』

赤城『私は算数くらい出来ます!!』

加賀『お仕置きです♪』

秋雲『本編に戻りまゝす』

加賀「司令、赤城さんを助けに行きますよ!!」

この時、加賀と一部の駆逐艦以外は思った……アレ、覆面してるが

赤城じゃね?と……

鈴木「いや、あれは赤城だか『赤城さんはもつと可愛いです!!』あつ

はい」

ガイナモ「逝くぞ!!」

覆面赤城「は『そこまでだ!!ボーゾック!!』誰!？」

ガイナモ「この懐かしい声は!？」

山城「提督!?屋根の上にお猿さんが!？」

猿? 「うつきー! って違うわ!! 激走!! アクセルチェンジ!! レッドレーサー!!」

ガイナモ「久しぶりだな! レッドレーサー!!」

レッドレーサー「ガイナモ、またボーゾックを再開したのか?」

ガイナモ「ああ、このチーキューを征服してその後、ボーゾック学校を創るためだ!!」

ガイナモ、赤城以外『学校かよ!』

レッドレーサー「なら、いいか…」

加賀「よくありません!! 今も囚われている赤城さんが…」

レッドレーサー「何だって!? ガイナモ!! 今のは嘘だったのか!!」

ガイナモ「いや、違うぞ!! 赤城ちゃんもボーゾック学校の第1号生徒なんだ!! まずは、交通安全を教えているところだ!!」

レッドレーサー「どういう風いだ?」

ガイナモ「赤信号は渡るな!、あおは注意しながら渡れ、黄色は無理なら止まれ、車は急に停まらない!! とかな」

レッドレーサー「わかつているではないか」

ガイナモ「聞いてくれよレッドレーサー!!」

レッドレーサー「いきなりどうしたんだ?」

ガイナモ「赤城ちゃんもな、その提督が入る風呂を地獄温泉レベルにしてしまったから謝ったのに叩き出されて雑草食ってたんだよ!!」

レッドレーサー「可哀想に…、よし、私も一緒に謝るから赤城ちゃんを連れて来てくれ!!」

なんだか、可笑しくなってきたぞ?

ガイナモの作戦はこうだった…ガイナモ達が暴れる↓AAキヤツスル扮する赤城が離反しガイナモと戦う↓ガイナモが逃げ正体をバラす↓最終的にガイナモも許してもらおうという完璧な作戦だったが

まさかのレッドレーサー介入によりわからなくなかった

ガイナモ「AAキヤツスルいや赤城ちゃん、オイラも謝るからおいで」

赤城「はい…」

加賀「赤城さん!?いつの間にか変わったの!?!」

加賀以外『すごい純粋な目してる!?!』

赤城「提督…ごめんなさい!!」

レッドレーサー「提督さん、この娘も反省しているし許してあげなよ」

ガイナモ「赤城ちゃんを許してくれないか!!」

鈴木「なんか俺、悪役なんだが…人には失敗もある!!だから許す!!

今日はでつちが作った鍋だ、お二方もどうですか?」

ガイレーサー『お世話になります!!』

その後、二人は無事に元の世界に戻りました

~~~~~♪

メカニツクの試作メカが盗まれた、自分を責める深雪とゆき、果たして!!次回はゆきゆきコンビ結成!?!盗まれたメカをあまり期待しないで暇な時や気長にお待ちください

第十陸航海新装開店？鳳翔食堂!!

もうすぐ春ですね〜こちらはメカニック鎮守府、ℓリグマツグとハンマーボディとウルトラカウントが何やら小屋を作っていましたℓリグマツグ「とつてんかつてん」

ハンマーボディ「カウント、釘」

ウルトラカウント「はいよ〜」

ℓリグマツグ「ところで、俺達は何を作っているんだ？」

ハンマーボディ「マジかよ……これはだなあ、女将の店だよ」

ウルトラカウント「正確には、プロフェッサーが頼まれた奴だがな」

ここでメカニックメカによる艦娘の呼び方

大人組は『さん』

駆逐艦、明石は『ちゃん』

RJは『RJ』

鳳翔は『女将』である

因みに、ゆきは『お嬢』である

話は第八航海後位に遡る

鈴木「書類が多すぎる!!やっぱり大本営潰そうかな〜ん?嘆願書だ

?鳳翔さんからだ」

鳳翔『自分の店を経営したのでお店を作って下さい』

鈴木「店か…北上ちゃん、鳳翔さん呼んできて」

北上「はいよ〜」

数分後

鳳翔「鈴木さん、入りますよ」

鈴木「昼時にごめんな、嘆願書を見たが詳しく説明してくれないか

?」

鳳翔「狐ちゃんがフードファイトしたりして小さな子達が真似したりするからそれ専用の食堂が欲しいのと憲兵さん達の酒場にしようかと」

鈴木「一人で大丈夫?」

鳳翔「はい!!こう見えて鍛えてますから♪」

鈴木「仕方ない…鳳翔さん、このグラフを見てくれ」

鳳翔「いつの間!?!」

鈴木「これは、メカニック鎮守府の憲兵に聞いた『閲覧規制』や付き合うとするならどの艦娘byオータムクラウド観衆のグラフだ!!」

グラフ

一位鳳翔

コメント『酔わせればこっちのもんよぐふふふ』『母親見たいに甘やかしてくれそう』

二位深雪

コメント『酔った勢いでぐふふふ』『こういう幼馴染が欲しかった』

三位金剛

コメント『紅茶の種類が煩そう』『神社にいても気付かない自信がある!!』

四位吹雪

コメント『田舎ものにありそう』『妹見たいに可愛がるはずだ!!』

五位ときあめ&ぽい

コメント『撫でくり回してたくさん可愛がりたい!!』

鈴木「挿絵は無いからなついでにぐふふふとか言っている野郎はブルーベリーブーツキャンプをさせているからな」

鳳翔「そ、そんな…」

ところ代わりここは壱逢世界の山の中、ぐふふふとか言っていた憲兵が逃げていた…ルールは簡単♪ブルーベリーの漢から逃げるだけ!!どうよ?簡単だろ!!

憲兵 α 「逃げろ〜!!」

ブルーベリーの漢「ヤらないか♪」

憲兵 β 「アッー!!」

憲兵 Γ 「 β !?!」

憲兵 Σ 「 β :お前の死は無駄にはしない!!」

ブルーベリーの漢「イイオトコは飽きないからいいな」

では、メカニック鎮守府に戻ろつてなんで鳳翔さん押し倒してるの!?!こちら野郎の絡み見せられて死にかけてんの!!鈴木去ね!!

そんな中あの娘が来た…ゴーヤである!!今日は遠征という名の釣りをして来て大量のようです

ゴーヤ「只今で…提督が女将を押し倒してるでちいいいい!!」

鈴木「ち、違『死に晒せやアア!!』て、天龍!？」

天龍「ふっふっふっ、てめえ覚悟はできているな?」

鈴木「誤解だ!!『鈴木さん…』あのく鳳翔さん?なして強く抱きしめてるん?」

天龍「天誅うう!!」

鈴木「ぎやアアアアア!!」

その後、誤解も解けメカニック鎮守府に新しき施設鳳翔食堂が出来るのは数日後の話である

~~~~~♪

またもや脱線しまくるキャラ紹介と何やら比叡が作っているようです次回は第三回キャラ紹介と比叡のツレパーティーを気長にお待ち下さい

## 第十七航海キャラ紹介その三と比叡のレレパートリー

### 1、キャラ紹介その三

トップはあの男

炎、壹逢世界にいるパーフェクト執事、元は普通の高校生だったがとあるご令嬢を救い住み込みで働いている

ゆか、壹逢世界だが平行世界のメカニックとゆきの息子、容姿がゆきと似ているためたまに間違われる

ゴーヤ、メカニック鎮守府一の釣りバカ潜水艦で元いた鎮守府では1日一分の休憩しか与えられず過労死寸前であった…今は釣りをするのが趣味で鳳翔食堂と食堂の魚料理は彼女の魚が使われている

天龍、メカニック鎮守府で長門の次に頼れる姉さん、妹の龍田は天龍の補佐をしている

島風、ゴーヤが釣りをしているときに釣り上げた艦娘、誰よりも速さを極めるべく今日も走っている

鳳翔食堂、鳳翔さんが経営している食堂、狐式対赤城のフードファイトを真似したりする子が増えたためそれ専用の食堂にした、夜は酒場になり宴会をしたりしている

加賀、全鎮守府杯赤城当て選手権優勝の腕を持つ正規空母、赤城のためなら火の中水の中土の中な艦娘

北上、いつも目気だるげな艦娘だが、メカニック鎮守府で五番目に怒らせてはいけない

川内、夜戦大好き忍者、マツハラングルを師と仰ぎ今日も修行をしている

~~~~~

二、比叡のレレパートリー

ここは、真夜中のメカニック鎮守府にある食堂…怪しい人影が？

比叡「優しく切る…優しく切る…」

比叡である!!

ことの起こりは数日前に遡る…

ゴーヤ「来週に大規模な釣りをしてくるからおにぎりを作ってくれ
でち!!」

鳳翔「いいけど、何人分かしら?」

ゴーヤ「ゴーヤと漣とイムヤと赤城を出汁にしたら釣れた加賀さん
と秋雲の六人でち!!」

鳳翔「わかりました、ゴーヤちゃん皆さんにおにぎりの具材聞いて
きて下さいね」

ゴーヤ「了解でち!!」

そしてとうとう次の日が大規模な釣りの日なんと!?!料理組が倒れ
てしまいました!?

わざわざ呼ばれたメデイカル相川「軽い過労よ、後1日遅かったら
労災だったわよ?鈴木ちゃん♪」

鈴木「そりや大変だな」

ゴーヤ「これじゃ釣りは中止でち…」

鳳翔「ごめんなさいね…」

比叡「待つて!!私が鳳翔さん達に代わり作ります!!」

ゴーヤ「カレーは帰れでち!!」

比叡「カレーじゃなくおにぎりです!!」

ゴーヤ「無理無理♪」

比叡「作って見せます!!」

つと啖呵を切ったのはいいがなかなか上手くいってないようです

…

比叡「高菜、おかか、昆布、明太、梅、焼き鳥って絶対飲んだくれ
達だよね?」

影にいる金剛『私も手伝いたいネ』

影にいる榛名『隙を狙って行けば…』

???「あら?比叡ちゃんおはよう」

比叡「山城さん…」

山城「手伝うわよ」

比叡「だ、駄目です!!これは私がしなくちゃいけない奴なんです!!」

山城「とある人が言っていました『一人でするより皆がいれば美味しくなる』とほら、食いしん坊達もいますし…ね？」

金剛「おはようネ!!」

榛名「おはようございます!!」

比叡「金剛お姉様に榛名!？」

金剛「早く起きすぎたから散歩してたダケヨ」

榛名「は、榛名もそうです!!」

山城「ね♪良いわね♪比叡ちゃんは愛されていて…私な『たつく、山城さん、私を忘れんなよ!!』深雪ちゃん!？」

深雪「ほら、釣りバカが来るぞ、早くしな」

厨房組『はい!!』

なんとか間に合った比叡：新しく『皆で作るユニークおにぎり』がレパートリーに入ったのは言う間でもない

~~~~~♪

釣りバカがまたもや何かを釣り上げたようです…次回は、涙の再会をあまり期待しないで気長にお待ち下さい

## 第十捌航海涙の再会

前回のメカニックこれくしょんで起こった三つの出来事

一つ、キャラが捌けなくなる

一つ、メカニック鎮守府もしれつとブラックっぽい

一つ、またもやしれつと釣り上がる艦娘

話はゴーヤの帰宅時に遡る

ゴーヤ「只今でち!! 今日も艦娘が釣れたでち…」

鈴木「ブラックか？」

ゴーヤ「釣りでち!!」

鈴木「最近よく釣れるなく本当によくブラック潰すか？」

一応説明するが、ここも隠れブラックだからな!!

鈴木「え？ ニンジャブラック!! ジライヤ？」

ボケるなよ!!

山城「あのく呼ばれたので来たのですが…」

鈴木「そうだった、三人共、きていいよ」

「駆逐艦霞着任しました」

「軽空母隼鷹」

「戦艦山城ですふ『お姉ちゃん!』久しぶりね山城」

鈴木「姉妹か、部屋割りダルいし鳳翔さんとこにいてね」

「ノックして入る」提督、黒三鎮守府がいきなり勝負を仕掛けて

きました。がギガントが闘って勝ちました」

鈴木「事後報告ありがとね川内ちゃん」

川内「ついでに艦娘もらったよふあゝ眠い…お休み」

「瑞鳳です…卵焼き作らないから…いじめないで…」

鈴木「川内、大至急深雪と女将呼んで!」

川内「寝かせてよ」

鈴木「今日の夜間演習無しにしようかな」

川内「逝って来ます!!」

山城「大変ね」

鈴木「全くだ」

山城「抗議すべきです!!」

鈴木「ここは新参鎮守府だしなくそうだもひもひ? 優奈いるか?」

優奈『どした?』

鈴木「狐式ちゃんの食事こっち持ちで一仕事よろ」

優奈『だりくが狐式のためだ一肌脱ぐか』

パリッ

優奈「参上!! あり? 山ちゃん二人おるやん」

山城「私は二代目よ」

城江「初代山城改め城江です」

優奈「で、鈴木? 内容は」

鈴木「あの隅っこで震えている子の復讐だ、可愛そうに卵焼き作っただけで酷い目にあつたようだ、凄く怯えていやがる」

優奈「はいよ、約束忘れんなよ?」

鈴木「わかったわかった」

てくてく、こちらは黒三鎮守府

黒三提督「役立たずの瑞鳳が消えてせいせいしたわい」

優「提督!?! 大変です!!」

黒三提督「どうしたのだ?」

優「大本営より極秘暗号を入手、メカニック鎮守府は深海凄艦とつながっている模様、詳しい詳細は此方を」

黒三提督「ありがと『あばよ、あの世の閻魔に言うなよ』がふっ地獄の閻魔『いやいや!?! 知ってるからね!?!』」

では、メカニック鎮守府にもどろう

詳鳳「そういうことなら…」

鈴木「頼んだよ」

山城改「いつの間にか改が付いているわ」

山城「天の区別らしいわ…」

優奈「んじゃ、高級バイキングよろしくなく♪」

鈴木「いやいや!?! 財布が氷河期になるからな!?!」

山城「私達も出しますよ」

優奈「冗談さ、じゃあな」



新たに仲間になった子達…賑やかになりそうです

~~~~~♪

あら？ここは…次回は次元を越える鳳翔を期待しないで他の作者
さんの作品をお読みください

第十久航海次元を越える鳳翔と帰ってきた二人

事の起こりは些細なこと、珍しく壱逢世界に帰っているメカニック鈴木のアボを鳳翔がはたきと箒装備で掃除していたのだが次元転送装置にはたきがあたり次元の彼方に跳ばされアボにははたきと箒しかありませんでした

鈴木「ただいまっ」と

入れ違いのようです

では、鳳翔さんは何処にいったのか!?

鳳翔「ん…ここは?」

???「あら?お客様かしら?」

鳳翔「優奈さん?お久しぶりです」

???「ごめんなさい、優奈じゃないのよ私は三角優子、優奈の母親です」

???「因みに私は三角優真、優奈の父親だ」

なんと!『閲覧規制』中の三角家の寝室にいたのだ!?

鳳翔「ごめんなさい!私はメカニック鎮守府所属の軽空母鳳翔です」

優真「軽空母鳳翔っていったら、始まりにして終わりの空母じゃないか!」

優子「そうなの?」

鳳翔「はい、私は空母だった頃の記憶がある艦娘と言います」

優真「娘には見えな『はい?』すみません」

優子「もう遅いしねましょ?」

只今、丑三つ時

鳳真子『おやすみなさい』

次の日、今日は土曜日…な恋姫次元を過ごしていた優奈と楓ちゃん
は帰ってきていた

チュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュン
チュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュン
チュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュン

ンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュン
ンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュン
ンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュン
ンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュン
ンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュン
ンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュン
ンチュンチュンチュン

優奈 「うるせえぞ!!居酒屋のメニューにされてえか!!」

雀 『居酒屋だけは!』

優奈 「ふうん」

楓 「んみゆ…」

優希 「おはようお兄ちゃ…なんで楓がいるのかなく？」

優奈 「よう、楓については次元転送装置に巻き込まれてなくちよつと三國ならぬ四國志してきてな、ついさつき帰ってきたのだよ」

優実 「うるさいわねく楓!」

優奈 「優狐以外は手を出さない一途な優九郎だからな」

希実 『なら、よし!!』

楓 「んくく♪」

優九郎 『とりあえず起きてくれないか…流石に二人はキツイ』

優希 「二人？」

優九郎 『捲れば解る』

優実 「せい!!」

そこには優奈を抱き枕にしている楓と上に乗っている小さな楓似の子がいました

優希 「お兄ちゃん!」

優実 「優?いつの間に!」

優希 「楓を義理姉ちゃん呼びしなくちやいけないの!」

優奈 「いやいや!?優実!!笑ってないで何とかして!!」

優実 「wwwwwwマジウケるくwwwwww」

優奈 「いやいや!」

そんな事が起きているとは知らずのんびりしているメカニック鎮

守府では、金剛が紅茶を布教していた

金剛「tea timeは紅茶に限るネ!!」

鈴木「最近エナドリだったしたまにはいつか♪金剛?オススメの飲み方はあるかい?」

山城「私はお茶にします」

暁「『レディーへの近道は紅茶にあり』だわ!!」

山城改「私は陸奥さんと抹茶にします」

北上「そういえば?鳳翔さんは?」

鈴木「壱逢世界で無理矢理休暇取らせた」

その時である!?

秋雲「でいどく」

夏コミ前の秋雲である!!

鈴木「かなりヤツれてるなくおい」

秋雲「ナツゴミおどじょうなんだよ」

鈴木「そうだな」『きゅ!!』あの狐を題材に描けば?」

秋雲「ありがとう今浮かんだよ!!霧島さん、赤城さん手伝って!!」

霧島「構いませんが」

赤城「ん?」ガツガツガツガツガツ

次回までに資材が底をつかないよう祈っていて下さい

くくく♪

提督のいた世界は平和ですね次回鳳翔さんのぶらり散歩を気長に暇なくらい気長にお待ち下さい予定変更もあるのでご注意下さい

第貳拾航海鳳翔のぶらり散歩

前回のメカニックこれくしょんは…

優しい893ニキ「こん狐のせいで高級ズボンが汚れたじゃねえか!! 払えんのか? ああ!!」

優しい893ニキに捕まった狐「きゅく!! きゅく!!」
「まてえ!!」

秋雲『という展開だった!!』

霧島『ハイハイ、ベタ忘れてるわよ』

赤城『いつまでこの格好すれば…』

山城改『入稿まで後、一時間』

鈴木「本編へ行こう!!」

無理矢理休暇になってしまった我らがお艦こと鳳翔さんと言うと

優奈「ふあくおっはー」

鳳翔「おはようございます」

三角家の台所に立っていた

優奈「あり? なして女将がいるんだ?」

鳳翔「実は、鈴木さんの部屋を掃除していたら何かを押したらしく

気が付いたらご両親の逢瀬を邪魔してしままして…」

優奈「へくごつつあん!!」

優真「そうだ、優奈、鳳翔さんを案内しなさい」

優奈「えく父さんがすればいいじゃん」

優真「会社だ」

優子「久しぶりにストレンジで魔法少女まじかるゆうこちゃん
ショー『悪業団の逆襲!?! ゆうこちゃん危機百発』ショーの最後に本物の
ゆうこちゃんと握手ができるよ♪に呼ばれてるから私は無理ね」

優奈「へくい、一応甲児にメールしとこ」

買い物に巻き込まれた甲児「ん? なんだと!?!」

信康「どうしたんだ?」

甲児「昼に屋上のヒーローショーでゆうこちゃんと握手してくる

!!

信康「なんだと!？」

二人は知らないであろう…幼児限定の握手会であることを…
時を同じくこちらはメカニック鎮守府では…

鈴木「書類だるいゝ発明したいゝ」

山城改「提督、改二書類が来ましたよ」

鈴木「改二?」

山城改「一部の艦娘は改二になることができました、改二になる一部の艦娘は名前が替わります」

鈴木「それで、誰ができるんだ?」

山城改「那珂ちゃんです…」

一方、壱逢世界にいる鳳翔さんは、優奈と食べ歩きをしていた
鳳翔「少し…お行儀が悪いですが…」

優奈「食べ歩きもたまにはいいと思うぞ」

資金? 鈴木のポケットマネーから出してるからモーマンタイ!!

??? 「これマジ最高!!」

??? 「インスタ映えするから食べるの勿体無いよね」

優奈「あれは…よっす! 晶と誰だ?」

晶「優さん!! こんにちははくこの子はリーダーが拾ってきた」

??? 「鈴谷です」

鳳翔「こんにちは」

優奈「にしてもよく拾って来るよな」

晶「リーダーは神ですから（…ム…）」

優奈「本音は?」

晶「私以外の女の子は私とリーダーの『閲覧規制』を見ながら悶々
すればいいのです!!」

優奈「おゝ怖い」

鳳翔「ふ、ふしだらです!!」

優奈「初だな…」

晶「はい…」

優奈と鳳翔さんの食べ歩きは続く

~~~~~♪

次に二人がやって来たのは…次回、ブルーベリーと血涙男を気長に  
お待ちください

## 第貳拾壹航海ブルーベリーと血涙男

前回のメカニックこれくしょんは…

晶『私晶、突撃野郎Tチームの副リーダーなの!!大変!?リーダーが物凄くヤリまくってそうなJKを拾ってきたの!!JKキャラが被っちゃうよ!!』

優奈「大体違うな…とりあえず本編だ」

晶達と別れた優奈達は喫茶店にいた…そうあの喫茶『YA☆RA☆NA☆I☆KA』に

ブルー「あつらく久しぶりね〜」

優奈「よっ」

???「おお、孫よこつちじゃよ!!」

優奈「久しぶり〜優介じいちゃん」

優介「何か名前が違うが孫に会えたから良いわい!!」

失礼：優輔さん

優輔「僕も四年近く出とらんからのうしかも他作品では、初登場じゃよ帰るわい」

優奈「ブルー、ブルーガリガリマウンテンと抹茶とパンケーキのホイップたっぷりとホイップ無しで頼みます!!」

ブルー「かしこまりましたでは、あちらでお待ち下さい」

鳳翔「あの…ここ高いのでは?」

優奈「大丈夫、ワンコインだから」

鳳翔「え!?!『お待ちどうさま♪ブルーガリガリマウンテンと抹茶とパンケーキのホイップたっぷりとホイップ無しよ♪』速い!?!」

優奈「速さが売りだからね〜」

携帯『通信中〜』

優奈「ふひふひ?」

???「食うか喋るかどっちかにしろよな…優奈、女将は?」

優奈「ふ〜女将は俺の上で鳴いてるぞ〜メカニック」

鈴木『それは秋雲が書こうとして強制演習してたぞ』

優奈「マジかよ…」



鳳翔「美味しいわ…これなら…」

鈴木『なる…こりやデザートが楽しみだな!』

優奈「んじゃね〜」

鳳翔「ごちそうさまです」

優奈「ごつつあん」

ブルー「またな」

てくてく

甲児「止まるんじや…ねえぞ」

信康「ああああああ!!」

鳳翔「あの…あれは?」

優奈「気にしちやダメダメ、さっ稲荷に行こうか♪」

此方は稲荷神社、狐式ちゃんはいないようです

白「わふ」

黒「ガルルル」

白黒はいるがな…

優奈「黒、この人は新しいお母さんだからな」

鳳翔「ゆ、優奈さん!」

黒「ガルルルわふっ!!わふっ!!」

優狐「浮気ですか?」

優奈「冗談さ、狐式が世話になっている女将を連れてきたんだよ」

黒「きゅーん」

白「わふっ!!」

優狐「いつも狐式がお世話になっています」

鳳翔「いえ、私達のほうが狐ちゃんに助けられていますよ!!」

一方その狐は鳳翔食堂の前で立ち尽くしていた

鳳翔食堂『しばらくの間休みます♪またのお越しを』

では、戻ろう

優奈「女将、休暇は後ドンくらいだ?」

鳳翔「二週間です」

優奈「んじや、たくさん楽しみますか!!」

鳳翔「え、ええ…帰らなくて良いのでしょうか…」

まだまだ続く

~~~~~♪

あれは、私!?! 次回はパーフェクト執事と歴史を気長にお待ちください

い

第貳拾貳航海パーフェクト執事と歴史

女将の休暇も後少しなある日優奈と鳳翔さんはある場所に向かっていたはずなのだが

優奈「あぢ〜」

茜「補習はまだまだたつくさんあるからなく♪（終わったら優真さんとデイナー♪デイナー♪）」

四國志をしていたため補習をしていた

では、代わりを呼ぼう

優希「お兄ちゃんに代わって私が案内します!!」

鳳翔「よろしくお願いいたします」

そーいや楓の補習は？

優奈「責任を取って代わりに俺がしています」

説明ありがとうでは、戻って二人は炎のいる屋敷前にいた

炎「ようこそお越しくださいましてでは、此方へ」
てくてく

???「私はレイの父である名前はない…いつだったか私の可愛い娘をたぶらかすロリコン野郎がいたが奴は未来から来た執事だったなんて夢にも思わなかった」

炎「旦那様、お客様をお連れしたので誰得な説明をお辞めください」

レイパパ「失礼…ようこそ私は名無しだから気楽に呼びたまえ」

優希「パパ〜♪私このブランドバックが欲しいな〜」

レイパパ「何か如何わしい匂いが…」

鳳翔「ふ、ふしだらです!!」

炎「こりや回／うん十万円ぼられそうですね」

レイパパ「うおっほん!!本題に入ろうついてきたまえ」
てくてく

此方はレイパパの模型製作室の隣にある展示室そこに1／1鳳翔がいた!?

レイパパ「少し前に作ったたら人型になってね優奈君に聞いたら『そうだなくちようど本人がいるし連れていくよ』と答えてね」

優希「本物見たい…」

鳳翔「鏡を見ているみたいですよ」

補習終わりの優奈「わくお、女将が二人いるよ」

レイパパ「ようこそ」

優希「お兄ちゃん？あの大量のプリント終わらせたの!？」

優奈「ああ、簡単だったぞ」

茜『優真さんとデイナー♪つとその前にプリントの確認確認』

優子さんがまじかるゆうこちゃんの格好で来ることを茜ちゃんは

まだ知らない

レイパパ『何かあれば私や優奈君を頼るといいではまた…』

鳳翔「頼ってばかりなんですが…」

優奈「気にしない気にしない♪」

優希「お兄ちゃんは気にしようよ」

ぷほぱく

優奈「しもしも？こちらは遊女幹旋センター担当の平三沢真実です」

メカニック『優奈!?女将を大至急連れてきてくれ!!』

優奈「わかった、女将をドエロい格好で連れていくわ」

優希「お兄ちゃん？」

優奈「優希、女将にチエリーキルスーツを着せて帰るわ」

優希「あれを着せるの!？」

鳳翔「嫌なよかんが…」

では、メカニック鎮守府に行こう、鎮守府ではなにやら飾りつけをしていた

木曾「それはあつちでリボンは向こうだ」

電「はわわく!？」

深雪「ひらりつと!？」

木曾「大丈夫かい？」

深雪「だ、大丈夫!!」

鈴木「流石に五人やばいな…」

山城改「提督、もうすぐ到着するそうです」

何故かいる狐式「んしょんしょ」

比叡「料理出来ました!!」

金剛「HEY!!これよりミー達も手伝いに入るネー!!」

天龍「遠征終わったぜ!!補給したらすぐ手伝いにくつからのこしと
けよ!!」

ぽい「ぽい!!ぽい!!ぽい?」

ゴーヤ「大量でっち!!デカイサーモンも釣れたでっち!!」

サーモンを釣り上げた加賀「やりました…流石に気分が高揚しま
す」

赤城「うくく!!」

狐式「食べちゃメツ!!」

長門「ふほおふあふお」

陸奥「つまみ食いしないの」

パリッ

優奈『お届け物です♪判子を』

RJ「ほい」

優奈『ありがとよ』

RJ「ご苦労様です」

電「帰ってきたのです!!」

鈴木「お帰り女将、何か発見はあったぶはっ!」

チエリーキルスーツ装備の鳳翔「て、提督!」

深雪「ゆきねえや山ちゃんや私のは見てるのにね」

金剛「主役が帰ってきたね!!これより少し遅れたけど鳳翔食堂の

完成会と新入りの歓迎会を始めるよ♪fire!!」

鳳翔金剛新入りの艦娘以外『おくく!!』

今回は無礼講、飲めや歌えやの大宴会ですか?詳細ですか?皆さん
のご想像にまかせますでは、次回までさいなら

くくく♪

長門さんが比叡さんに弟子入りするようです次回は、美味しいご飯
と涙の別れを気長にお待ち下さい

第貳拾參航海美味しいご飯と涙の別れ

前回の宴会から数日過ぎたある日ビッグセブンこと戦艦長門は私服で鎮守府のマスコットことときあめと一緒に近くの公園に来ていた

長門「こうも平和だと体が鈍るな」

ときあめ「いいじゃない、のんびりすごせばふあ〜」

長門「ときあめ、膝枕してやるからおいで」

ときあめ「うん…」

その時である!!なにやら騒がしいですね

長門「すまん、ときあめ膝枕は後だ」

ときあめ「僕も逝くよ（膝枕の恨み）」

「私の帽子返してよ!!」

「???'「しんかいせいかなの言うこと聞くわけないだろ!!へい!パス!!」

「???'「悔しかったらとつ『わふっ!!』返しやがれ!!」

ときあめ「君さあ女の子いじめて楽しい?」

「???'「こいつはしんかいせいかなだからいいんだよ!!」

長門「貴様あそれでも日本男児か!!もう我慢できん!!部分解放!!今すぐ謝るか死ぬか選べ」

いじめっ子「かんむすだ!!あのしんかいせいかんをたおしてよ!!」

長門「貴様あ!!言うことかいてまだ言うか!!」

時雨「長門さん、この子鎮守府につれてくよ、だけど君たちはお姉さんに怒られるんだね」

長門「今すぐ家につれて行け親も交えて説教だ!!」

では、時を少し進めてこちらはメカニック鎮守府近くの山今日は秋雲と香取さん、天龍と龍田、暁姉妹による紅葉散策が行われていた

秋雲「芸術の秋だね〜こう紅葉見ているといろんなアイデアが浮かぶよ」

香取「私は教導メニューのアイデアですね」

天龍「なんかつまんねえよ」

龍田「あら〜こうゆうのは風情があるのよ？」

暁「どんぐりがあるわ!!」

響「いい景色だね」

雷「空気も新鮮で気持ちいいわ」

電「はにゃー!?!」

天龍「どうしたんだよってなんじゃこりゃ!?!」

そこには山の動物達とあの狐に囲まれた電がいた!?!

熊『我らの子を救い感謝する』

鳥『以下』

狐『同文』

狸『絶景まであつしと』

鹿『我輩が案内しよう』

狐式「つて言つてた!!」

龍田「お言葉に甘えようかしら〜」

時は同じくメカニック鎮守府

鈴木「たまには飯くらい作るか」

てくてく

此方は食堂なにやら騒がしいようです

???「待たせたな、厚焼き玉子に玄米茶とホイップたっぷりのフルー

ツパフェとおまけの甘さ控えめケーキだ」

???『ありがとうございます』

鈴木「あり?なんでブルーさんいるんだ?」

ブルー「その子に呼ばれた」

吹雪「どうも」

鈴木「そーいや携帯貸したままだったな…うん!吹雪、君にその携

帯を与える!!」

吹雪「え!?!て、提督!?!」

鈴木「君は悪用しないだろ?」

吹雪「は、はあ…」

鈴木「なら問題はない!!」

吹雪は提督から携帯を貰った!!

カスター「プロフェッサー、ときあめが女の子を拾って来ましたよ」

鈴木「わかった、んじゃ後でなくすたすた」

医務室

鈴木「ノック」

時雨「アウト」

鈴木『fighterイエー!!!』

鈴木「で、つれてきた子の詳細をば」

時雨「長門さんと散歩していてちょうど公園で休憩する時に長門さんが膝枕してくれるっていうから膝枕ヒヤッホー!!ってところでこの子が苛められているのを見てね何が深海凄艦だよ!!この子はアルビノなんだよ!!日の光は天敵なのに帽子を取っていたんだよ!!許せない!!というわけで長門さんは虐めていた奴と親を説教しに行つて僕はこの子を連れてきたわけ」(ノンブレス)

鈴木「わかった、とりあえず長門待ちだな…ところでよくノンブレスで言えたな？」

時雨「これのお陰さ!!」

鈴木「ん?」Mr. Pの愛しのSに捧げる愛の囁きノンブレス編』なんじゃこりや!」

時雨「他にも337拍子編や俳句編もあるよ」

鈴木「だいたいわかった…」

???『もひもひ?』

鈴木「平行世界の黄色ネズミを仕置きしてくれ…優奈」

優奈『へ?』

鈴木「Mr. Pとさえばわかるか?」

優奈『面倒くけどやるか♪』

鈴木「たのんだよ」

ときあめ「くうくんくうくん」

鈴木「はい、ジャーキー」

ときあめ「くうくん」ジー

山城改「子供のいる前で盛らないの、逝くわよ」
ときあめ「くうくうくうくうくう」

幼女「？」

では、多少時は進み長門がなにかを引きずりながら帰って来ました
長門「只今!! ついでに軽巡の艦娘を拾ってきたぞ!!」

???「ひい!?! け、軽巡名取です…」

鈴木「長門、何やったんだ？」

長門「いや、帰っている途中で偶然暴漢に襲われている最中のこやつを見つけて助けたら気絶されてな引きずりながら帰って来た!!」

鈴木「その暴漢は？」

長門「艦娘愛護団体会長のブルー殿に預けてきた」

鈴木「何やってんだあの人!?!」

長門「ところであの子は？」

鈴木「大丈夫だ今医務室に『提督!?! ときあめがいなくなりました!!』
医務室に逝くか…」

てくてく

此方は医務室の前

ときあめ「ガルルルル」

長門「ステイ、ステイ」

ときあめ「今着替え中だからね」

鈴木「わかった」

数分後

長門「入るぞ」

幼女「お姉ちゃんさつきワンちゃんがガルルルって言ったの
…」

長門「ときあめが守ってたんだ」

幼女「ときあめありがとう」

ときあめ「わふん♪」

鈴木「だいぶ犬に近づいてきてやがる…クールに去るよ」
てくてく

此方は工廠兼メカニックラボ鎮守府出張所

鈴木「えんやこらさつち」

明石「手伝いますよ?」

鈴木「大丈夫!もうすぐ出来るからな」

その時である!!

プピー

鈴木「警報だ?!」

鈴木以外『わかるかアア!!』

少し前に遡る

???『どーも、娘を知りませんか?』

憲兵「すみません分かりやすく特徴を教えてください」

???『真っ白で麦わら帽子を被った子です』

憲兵「ああ、ときあめちゃんがつれてきた子か!!その子なら医務室にいるよ」

???『どーもありがとうございます』

プピー

憲兵「警報!?!この近くにブラック提督がいるのか!?!」

ブラック提督「ふははは!!この鎮守府は今日から『ハイハイ五月蠅いから消えてね〜』がはあ!?!」

憲兵「お見事、川内さん」

川内「ターボラングルには負けるよ」

鈴木「また豚か:やつぱり大本営潰す?」

長門「その時は強化を頼む」

ときあめ「どうやら、お客さんがいるよししかもあの子の匂いもする」
その後、女の子はお母さんに連れられて帰って行きましたその手を強く握りながら…

~~~~~♪

五航船の妹が来ましたか:次回は瑞鶴と加賀とRJと時々ぽいを  
気長にお待ち下さい

## 第貳拾肆航海瑞鶴と加賀とたまにRJと時々ぽい

今回はメカニック鎮守府の『釣れました』港から始めよう

加賀「カサゴが多いですねサイズのこれはリリースします」

ぽい「くあく」

どうやら散歩中に釣りを始めたようです

???「なんや?ここにいたんか」

加賀「RJ「まな板」どうしたのですか?」

RJ「とりあえず後で秋雲ごとシバくってちやうちやう、ときあめが『ぽい!!』速いなくやない!!ときあめが艦娘つれてしかも加賀の知り合いらしいんや」

加賀「わかりました今から向かいます」

とりあえず秋雲がナニをしたかは放置して数分後此方は実務室

加賀「釣りついでにぽいの散歩終わらせて来ました…提督?」

面喰らったのは無理もない!?着崩れした赤城と鳳翔がいたのだ!?

鈴木「助けて!!加賀さん!!」

赤城「だから、鍋のメは雑炊です!!」

鳳翔「うどんの子達を考えて下さい!!」

加賀「わければいいじゃない…」

赤鳳『それだ!!』

加賀「全く…見なさい、提督が生まれたばかりの鹿見たいにプルプルして今なら『閲覧規制』できますよ」

鈴木「加賀さん!?!」

加賀「赤城さんとお母さんと一緒なら…ジュルリ」

鈴木「ちよ!?!」

加賀「冗談です、私の知り合いはどこですか?」

ときあめ「ああ、食堂で吹雪ちゃん達とババ抜きしながら作者のデッキパクって遊○王してるよ」

加賀「わかりました、赤城さん、お母さん、ちゃんと残しといて下さいね」

てくてく

食堂

??? 「仕込みマシンガン発動!!」

島風 「ヲ!」

金剛 「ヤりますネ…だけど負けられないヨ」

加賀 「カオスね…」

??? 「加賀さくん!!」

加賀 「元気そうね…瑞鶴」

瑞鶴 「はい!!加賀さんも御変わりな…笑顔になってる!」

加賀 「失礼な、笑顔位できます!!それと翔鶴は元気ですか?」

瑞鶴 「翔鶴ねえと来たかったのですが…」

加賀 「嫌な予感が…」

瑞鶴 「朝早くから沖に釣りに行っちゃいました!!」

瑞鶴以外 『ズコオオ!!』

曙 「てつきりクソ提督にやられたかと思ってたわよ!!」

瑞鶴 「うちの提督はホワイトです!!ですが…最近構ってくれなくて」

加賀 「それで暇潰しに来たと?呆れた…」

瑞鶴 「むうゝ妹が会いに来たって言うのにな」

吹雪 「あの?お二人の関係は?」

加賀 「翔鶴が居ないときにメソメソ泣いていたから慰めたらなつかれたのよ」

瑞鶴 「あの時は寂しかったんですよ!!」

回想には入らないからな

加賀 「何にせよあなたは私の可愛い妹でしょ?」

瑞鶴 「はい!!」

鈴木 「やつと解放さ『提督く♪バーニングラアアアアブ!!』がふ!」

おお!!こんな所でくたばるとは情けない…

鈴木 「殺すな!」

金剛 「提督!!浜辺で艦娘拾って来たよ!!」

??? 「最上型重巡の最上だよ、こんな姿だけ付いてないからね」

??? 「久しぶりだな最上、再会を祝って特別な瑞雲をあげよう」

最上 「師匠もおかわりなく…」

鈴木 「増えたなくしかもメタいがこの子達一話目の小話組だからな」

長門 「八十八人だからな」

鈴木 「まだまだ足りないな」

増えるのか？それはまた今度

冬：また彼女がやって来た次回は秋雲執筆日和を気長にお待ち下さい

## 第貳拾伍航海秋雲執筆日和

前回の話からちよつと遡る

冬…また…

秋雲「ん〜プロット完了♪待ってるよ有明のサキユバス  
かなり時間の無い秋雲ちゃんである!？」

秋雲「さてと、お昼なにな〜」

この時、部屋に鍵をかけていればと後悔したらしい

鈴木「秋雲〜飯に行こうっていいないや」

???'「ふみい〜」

鈴木「そうだな、行こうか文月ちゃん」

文月「ふみい!!」

『おお、マイケルのBIGマグナム最高ね〜』

鈴木「!？」

文月「ふみい?」

鈴木「文月ちゃん、行こう!!」

さて、では食堂に行こう

秋雲「日替わりランチ一つ」

鳳翔「はい♪」

鈴木「日替わり定食と『ふみい!!』パンケーキの苺たっぷりを頼みます」

なぜかいる優奈「かしこまりい女将、カラミソにストロベリーパンケーキ入りました!!」

鈴木「優奈、何でいるんだ?」

優奈「暇潰し」

鈴木「さいですか」

秋雲「ご馳走さま!!さて、頑張るぞ〜」

てくてく

???'「私の親友が最上X霞本を書いている件について『どしたの?白雪?』

ひやアアアアア!？」

秋雲「ん?ほく…みくたくな〜」

白雪「こ、こないでえ…」

秋雲「秘密を見られたからには始末するしかない…君は知りすぎたのだよ!!」

白雪「いやアアアアア!?」

数秒後…そこには布面積が狭い水着を着けて震えている白雪がいた!?

秋雲「だから動かないでよ!!」

白雪「だ、だって…恥ずかしい…」

では、少し離れて執務室では…

鈴木「ん〜、流石に考えないとな」

鈴木「膝に乗っている文月「ふみい〜」

ドアの前でハンカチをキッー!!しようとしている山城改「文月ちゃん、羨ましいわ」

最上「凄い光景だね」

深雪「そのうち慣れるさ」

吹雪「流石は古参の深雪ちゃん」

深雪「吹雪も古参だろ?」

数日後…

秋雲「で、出来た〜」

何とか描き終えたようです

白雪「お疲れ様です」

秋雲「よし、今から印刷所に持って行くぞ!!」

白雪「お〜」

すったこらさつさ

印刷所前、途中チャラ系にナンパされたがグラサンかけた侍が乱入した以外は何もありませんでした

秋雲「あ〜」

????「印刷用の紙が無いよ!!なにやってんの!!」

????「ふえええ!?!」

秋雲「提督に頼むか…白雪、奢るからサ店行こう!!」

白雪「うん!!」

数時間後…

秋雲「ていとくくコピー機欲しいな」

鈴木「理由は？」

秋雲「本の為!!」

鈴木「二回目だが仕方ない…これをみる!!」

秋雲「？」

鈴木「こいつはメカニック鎮守府調べ『秋雲のモデルについてのグラフ』だ!!」

モデルになってもいい5%

一部抜粋

紅茶『提督とのイチヤイチャならイイヨ!!』

ながもん『無垢な娘達とのキヤツキヤツならよしだ!!』

半人前のレディー『一人前として扱ってくれるならいいわよ!!』

モデルになりたくない94%

一部抜粋

一応主人公『憲兵さんがイヤらしい目でみました』

女将『私に需要があるとは思いません』

台所『私以上は廃ればいいんや』

ふみい『ふみい!!』

秋雲「提督？残り1%は？」

鈴木「那珂ちゃんのファン辞めますと夜戦以外興味無いわだそうだ…とりあえず憲兵はブルーベリーブーツキャンプだな」

秋雲「お願いします!!コピー機作って下さい!!何でもします!!提督の『閲覧規制』を『閲覧規制』して『閲覧規制』もします!!提督専用の『閲覧規制』だってなります!!」

鈴木「…今回だけだから…全く自分を大切にしなさい」

未だ食堂にいる優奈『おまゆう』

雷「お兄さんありがとうね」

優奈「どういたしましてださてと帰りますか」

秋雲はその後新刊『私と僕と恋敵』と『メカニック鎮守府の反落』を出し、女将と台所から雷を落とされるのは別の話で



♪♪♪♪

一応説明をば次回はキャラ紹介その三と天龍園長壺逢に行くを気長にお待ち下さい

## 第貳拾陸航海キャラ紹介その三と天龍園長壺逢に行く

トップはこの子

瑞鳳、メカニック鎮守府のマスコットその三

前の鎮守府では卵焼きを作って持って行っただけで暴行され、損失したら暴行され、提督の機嫌が悪かったら隊の前で暴行されを繰り返して行われ精神が参り卵焼きを作ろうとしたら拒否反応が出て来て作れなくなつた

今はとある狐や女将、AAキャツスル（赤城）の協力（過激）で卵焼きを作れるようになった

ガイナモ&レッドレーサー、とある地球を守る戦士と地球を宇宙サーキット場にしようとした宇宙暴走族

通称視聴者に月収を知られている戦隊で交通安全教室を開いたりしている

メカニック鎮守府釣り同好会、部長、ゴーヤを筆頭に集まった釣り好き艦娘の総称なんだけど一癖も二癖もある面子が集まったようです

副部長、秋刀魚リーダー曙

最古参ハイエナの吹雪

近場とたまに近海釣りの加賀

基本近場の漣、イムヤ、秋雲である

名取、長門が帰りがけに見つけた軽巡洋艦、チャラ系ヤンキーに襲われている最中に長門が助けた、今は長門を師匠と呼び引っ込み思案の改善をしている

ブラック提督、読んで字のごとく艦娘達を『閲覧規制』の道具または、ストレス発散のサンドバックと考えている屑野郎でメカニック鎮守府に現れると、ターボラングルに攻撃されついでに始末される

最上、金剛が浜辺を散歩中見つけた艦娘でナニは付いてないが明石が着けようと画策してるとかないとか

日向、瑞雲大好き戦艦前の鎮守府では瑞雲を着けてもらえなかった

反動か瑞雲を布教している

鈴谷、突撃野郎Tチームリーダー葛が拾ってきた艦娘副リーダーの晶曰く『やりまくりJKはリーダーに近寄っちゃダメ!!』と言われてるが気にしないで今日もウブな葛にセクハラしながら晶と遊んでいる

文月、新しくメカニック鎮守府に着任した艦娘、前の鎮守府では提督がロリコンだったらしく幼児退行してしまい一部の艦娘と鈴木(お菓子をくれるお兄さん)以外にはなついていなく何処かのBIG7が毎日血涙している

その式天龍園長壱逢に行く…

その日は雨だった…

龍田「天龍ちゃんは何処かしら？」

同時刻メカニック工房

明石「ん？次元転送装置が動いてる？提督が動かしたのかな？」

同時刻食堂

鈴木「びやくしよい!!」

吹雪「大丈夫ですか!？」

鈴木「誰かが噂してるんだろ？全く…モテる奴はつらいね」

では、天龍は何処に行ったのか!？」

優奈「ここ(稲荷神社)は相談所ではないのだが…」

壱逢世界にいた

天龍「深雪が世話になっていたらしいじゃねえか？ここなら大丈夫だと思つてな」

優奈「はあ…夕飯時に来たから警戒しただけだ上がりな茶菓子と茶位出すよ」

天龍「ありがとよ」

一旦メカニック鎮守府に戻ろう

龍田「天龍ちゃんは何処かしら」

文月「ふみいいいい!!」

龍田「あら〜ごめんさいね、飴あげるから泣かないでね？」

文月「ふみ…い」

その時文月の脳裏に前の鎮守府での記憶が過った!!

ロリコン提督『ふひひ、文月ちゃん飴あげるから気持ちいいことしようね?』

ロリコン提督『文月ちゃんクンカクンカ甘い匂いがするね〜』

文月「ふみいいいい!!」

鈴木「どうした!？」

文月「ふみいいいい!!」ギョツ

鈴木「龍田? 文月に何かしたか?」

龍田「天龍ちゃんを捜していたら文月ちゃんが泣き出して飴をあげようとしたら悪化したのよ」

鈴木「なるほど…文月、ここには悪いやつはいないからなほら龍田お姉ちゃんに謝りなさい」

文月「ふみい…」グスン

その時龍田に電流が走った!?

龍田「提督、文月ちゃんを私に預けてくれませんか!! 大丈夫、龍田お姉ちゃんが可愛がるわ!!」

文月「ふみい!？」

ロリコン提督『文月ちゃんは逃げられないからね〜毎日可愛がるよ〜ぐふふ』

文月「ふみい!!」

鈴木「悪いな龍田、文月はあの長門ですらなつかないんだよ」  
昨晚の長門『どうしてなついてくれない!! どうして!!』

龍田「私が長門さんより先になつかせて見せます!!」

鈴木「期待しておくよ」

では、天龍に戻ろうっていいないなくいた源九郎さんの部屋で汗だくになって気絶していた

優奈「夏場は暑いからな〜」

天龍「ん…あ…」

優奈「さて、優狐に浴衣を持ってきて貰うか」

天龍着替え中…

天龍「わりいな」

優奈「気にするな」

テレビ『え〜謎の機械が消えて一ヶ月経ちますがここで政治評論家で軍に詳しい雑魚前田屑弘さんがスタジオに来てくれました』

屑弘『あればT国の我が国殲滅兵器なのです!!』

優奈「いやいやあれ本気になれば世界獲れるからな」

天龍「だから深海の奴等にも勝てたのか」

優奈「ところで何で来たんだ?」

天龍「忘れちまったよ!!」

優奈「清々しいな…」

白「ちち!!」ポフ

優奈「どした?白」

白「ちちが知らない人といたから来た!!」

天龍「安心しなこいつは獲らねえよ」

狐式「眼帯のお姉ちゃん1号だ!!」

天龍「お前、この子だったのか!!」

狐式「うん!!」

天龍「つてこては…巫女様か!」

優奈「んにや、巫女は優狐っていうこいつの母親だ」

天龍「じゃあ父親はどこだ?」

狐式「むく神主は父上だよ!!」

優九郎『どうも、優奈改め源九郎改め優九郎です』

天龍「二重人格か!」

優九郎『いえ、優奈さんが私の生まれ変わりらしく共存しているのです』

天龍「へ〜世の中不思議なことがあるんだな」

優九郎『私としてはかわいらしい子が海の上でドンパチしていることに驚きです』

天龍「まあ、俺達は戦うために『契約完了だ…』何の契約だよ!」  
優九郎『いえ、知り合いにサトリの子がいましたね〜あなたの願いは平和な世界で鈴木君とおっとその先はいえませぬな…さて、今から腐れ下郎を殺りにいきますか♪狐式、白、天龍お姉ちゃんを頼みまし

たよ』

白式『うん!!』

優九郎『ばいにく』

では、鈴木に戻ろう

鈴木「時空転送装置が動いてたのか？知らないよ」

明石「本当にですか？」

鈴木「女将が向こうに行つたきり作動させてないからな」

明石「では、誰が」

ふみいいいい!!

鈴木「長門か龍田だな…」

明石「龍田さんも参戦ですか？」

鈴木「なんか母性本能をジャストミートされたらしい」

その時である!?

憲兵「司令!!元帥殿より伝達!!大本営の元帥以外大本営にいる提督とブラツク提督が怪死しました!!」

鈴木「ブラツク提督？」

憲兵β「はっ、ブラツク提督とは『潜水艦はオリヨクル、気の強い艦娘は倅や近所のガキ専用『閲覧規制』など隠れてやっていた奴等であります!!」

鈴木「へくそいつらが大量に死んだのかい」

憲兵β「そうであります!!」

鈴木「βは確か…ブルーさんに掘られ『アツ』すまん」

明石「つてことは今攻められたら大変ですよ!？」

鈴木「あくそれについては大丈夫だろ」

???「ときあめく遊びにきたよ!!」

鈴木「奴さんは平和ボケしてるからな…」

時雨「君ねえ、ここは君達敵の本拠地なんだけど……」

???「ときあめ、今日はなにをして遊ぶ？」

時雨「聞いてないな……」

鈴木「あれ深海のリーダーだからな」

明石「叩き潰して見せしめで吊るしましょう!!」

鈴木「アイアンハイド混ざってるぞ」

同時刻食堂では

秋雲「いや、比叡さんの料理の試食を頼まれるなんて今日はラッキーだな」

比叡「今日はデザートに挑戦しました!!はい、抹茶アイスです!!」

秋雲「いったただきまうす!!」

比叡「ニヤ」

秋雲「うぎやあああああ!?!」

比叡「どうしましたか?」

秋雲「ひやらしい!!み、みじゆみじゆ」

比叡「ミジユマル?何ですかそれ?」

秋雲「みじゆ、みじゆうう!!」

比叡「まだまだたくさんありますからね」

秋雲「くくくく!?!」

比叡「姉様や榛名をボロ雑巾みたいにして最期は解体する本なんて描くからですよ」

秋雲「あがあああ!?!」

比叡「苦しみなさい♪わさびアイスはまだまだたくさんありますからね♪」

怖いな…では園長に戻ろう

優奈「なるほど、文月ちゃんと仲良くねえ」

天龍「頼む!!あんたらしか頼めないんだ!!」

狐式「気づいてたら仲良くなってた!!」

白黒『もなずく』

優奈「仕方ない…次回に続く!!」

ふざけんな!!次はプロットあるんだぞ!?!『アレ、チクるぞ』わかりました!!

くくく♪

長門、龍田、天龍…今ここに戦いの火蓋が落ちる次回は文月と仲良くなるう!!を気長にお待ち下さい

## 第貳拾奈々航海文月と仲良くなろう!!

前回のメカニックコレクションは…

鈴木「文月ちゃん、今日もかわいらしいです」

龍田「文月ちゃんは私の娘です♪」

比叡「秋雲にお仕置きデス!!」

長門「毎日枕が湿っています…」

優奈「本編逝くぞ〜」

憲兵α「初めまして、憲兵αです…只今私と文月ちゃんは誘拐されたようです」

いきなり誘拐スタートかよ!?

誘拐犯「ぐふふ」

文月「ふみいいいい!!」

憲兵α「その子に手を出さない方がいいぞ!!」

誘拐犯「普通手を出すなだろ?目の前でこいつがボロ雑巾になる姿を見て『閲覧規制』を膨らましてな!!」

憲兵α「一応忠告したからな!!」

誘拐犯「知る『文月に触るな下郎』ぐは」

文月「ふみいい!!」

憲兵α「お見事です川内さん」

川内「α?鍛えてるの?」

憲兵α「人並みには鍛えてますよ!!」

川内「それより文月大丈夫かい」

文月「ぶみやああ!」

憲兵α「おっと」

川内「ありやりや」

憲兵α「すみませんが少し離れてくれないか?」

文月「ふみや」

川内「んじや帰る『待って!』チッ」

憲兵α「流石に文月ちゃんと一緒に戻れば三人に殺られます!」

川内「ダルいからヤダ」



憲兵α「お願いします!!今夜の夜釣りに付き合いますから!!」

川内「ならいいよ!!」

すたすたててく

此方はメカニツク鎮守府、メカニツク鈴木が磔にされている以外はいたって平和です

鈴木「あのくなしで炎天下の下礫されちよるん?」

吹雪「それは、提督が私達姉妹は芋しか食べない芋型艦娘とかいったからですよ♪」

深雪「焼こうぜ?」

初雪「ゲームしたいから手短に」

白雪「秋雲ちゃんの手伝い逝くから手短に」

叢雲「B F S G 買っていくからさつきとしよう」

鈴木「いやいや!?アレ言ったの優奈だからな!」

吹雪「嘘を付かないで下さい!!」

鈴木「本当にあいつが言ったんだからな」

???「やくけ♪やくけ♪やくけ♪ロリコン屑は焼いちまえ♪」

鈴木「優奈!」

優奈「吹雪とやら、あのメカニツクは『叢雲以外揉みごたえないな』とか言つたぞ」

鈴木「言つてないか『fire!!』ぎやあああ!」

叢雲以外『ちゃんとあります!!』

その時である!!

文月「ふみい!!」

鈴木「ぎやあああ!」

憲兵α「爆鎮完了!!」

文月「ふみい!!」

優奈「ちえ、帰る!!ばっはは〜い♪」

憲兵α「何をしていた!!」

吹雪「提督が私たち姉妹は芋型艦娘とほざいていたので火炙りに処してました!!」

白雪「あとすとーん体型は興味無い、ダイナマイトバディ

ふうふううう!!ともほざいていました!!」

龍田「文月ちゃん一緒に遊ばない?」

この時以下略

ロリコン屑提督『ここは誰も来ないからねぐふふ』

文月「ぶみやああ!?!」

憲兵α「おつとと」

龍田「…」

憲兵α「無言で得物を構えないで下さい!!」

天龍「なにやってんだか…よつ文月!!」

文月「ふみい…」

長門「大丈夫だ!!私が来たからには文月は安心したまえ」

憲兵『ぐふふ、文月ちゃんは拙者がまもるであります!!』

ロリコン屑提督『まさかお前もコツチとはなく憲兵』

憲兵『提督程ではありませんぬよ』

文月「ぶみやああ!?!」

憲兵α「あぎやああ!?!」

深雪「ありや脚逝ったかもなく」

叢雲「じゃ、買いに行くわ」

白雪「秋雲ちゃんがインクもだって!!」

叢雲「ういゝ」

文月「ぶみやああ!」

鈴木「…」

優奈「返事がない焼き鈴木のようにだ…しゃあない変声機の番号は…」

川内「文月ちゃんはこつちにいようね〜」

ゆき?「鈴木さんとの子供が出来ました♪」

鈴木「なにいいいい!?!あり?ゆきちゃんは!?!」

優奈「夢でも見てたんじゃね?」

ZERO「貴様ああああ!?!my angelゆきを身籠らせたな!?!ブ

チコロ」

鈴木「ぎやああああ!?!」

優奈「あのロリコンも消えたな…」

では、場所が変わり談話室では長門、龍田、天龍による文月会議をしていた

長門「お前達も文月を狙っているのか？」

龍田「妹が欲しいだけよ」

天龍「ダチになるためだ!!」

何処のリーゼント教師『俺は深海凄艦ともダチになってみせる!!』

龍田「文月ちゃんが『ふみい〜』って言いながら枕片手に来たらどうするの？」

長門「据え膳だな」

テテーン!!長門、憲兵!!

天龍「添い寝ポンポン付きだな」

龍田「流石!!天龍ちゃん!!何処かのBIG7とは違うわね♪」

天龍「ちよつと違うからな」

長門「ぐぬぬ」

龍田「ところで文月ちゃんは誰になつているのかしら？」

長門「女将、R J、ぽい、ときあめ、山城改、吹雪、暁四姉妹、深雪、憲兵α、川内、木曾、明石、優さん、提督、名取、最上、狐だな後、秋雲」

天龍「秋雲とか教育上悪くないか？」

長門「文月がいるときは我慢しているらしい」

龍田「聞いた話じゃ秋雲ちゃん、文月ちゃんて描いて文月親衛隊に全殺しされかけたらしいわよ」

天龍「物騒だな!？」

長門「それ依頼したの私だ…」

???「ハンマークラッシュ!!」

長門「ぐは!？」

龍田「ハンマーボデイさん!？」

ハンマーボデイ「この下手人はブルー殿に引き渡すであります!!」

数時間後：廊下には正座して『もう文月ちゃんをペロペロしたりしません』と書かれたプラカードを下げた長門が石畳を抱いていました

その間について語ろう

食堂では憲兵 $\alpha$ が疲弊していた

憲兵 $\alpha$ 「はあ…」

憲兵 $\alpha$ の膝の上に座っている文月「ふみい？」

北上「仲がいいね」

日向「瑞雲をあげるから文月、こっちにおいで」

文月「ふみい!!」

憲兵 $\alpha$ 「はうう」

北上「はいはい、文月ちゃん、ちよつとこつちにしようね」  
「ふみい!!」  
「ふみい!!」  
「じゃないと憲兵 $\alpha$ の $\alpha$ が $\alpha$ IIになるからね」

憲兵 $\alpha$ 「なるべく我慢はしていますよ」

???「そうか？お前のベッドの下にロリ艦の『閲覧規制』があったのは何故だ？」

憲兵 $\alpha$ 「摩耶さん!?あれは憲兵 $\beta$ のです!!私は紳士ですからね!!」

摩耶「うつつ!!あたしはこの度このメカニック鎮守府に厄介払いされた摩耶ってんだよろしくな」

北上「うわく言っちゃったよ」

かなり昔

憲兵 $\alpha$ 『やはり女将さんはサイコー!!』

憲兵 $\beta$ 『いやいや合法ロリのRJだろ』

憲兵 $\alpha$ 『やるか?』

???『Y A R A N A I K A?』

$\alpha$  $\beta$ 『アッー!!!』

では戻ろう

アフロニツク鈴木「ちかれた」

叢雲以外『私は芋私は芋私は芋私は芋』

どうやら叢雲以外の吹雪型姉妹全員と『閲覧規制』していたようです

文月「ふみい」

深雪「おっと、どうした？」

その以下略

ポロポロの深雪『安心しな、私が…』

ロリコン屑提督『まだ仕置きが足らんようだな』

文月「み…ちや…ない…」

深雪「文月？」

文月「みゆきおねえちゃんにひどいことしないで  
!!!!!!」

深雪「文月!?お前声が」

文月「みゆきおねえちゃんはわたしがまもる!!もうふみづきはにげ  
ない!!」

鈴木「はあ…文月、ここには悪い奴はいないからな」

文月「みゆきおねえちゃんをいじめるやつはあくだ!!いかしちやい  
けないんだよ!!」

龍田「あら?大変ね〜」

天龍「のほほんしてる場合か!？」

正座反省中の長門「私も悪か…」

アフロニツク鈴木「またアフロか〜1日で二度もアフロとか初めて  
だな」

文月「みゆきおねえちゃんをいじめたらようしやしないからね!!」

鈴木「わかったよ」

天龍「派手にしてるな〜」

文月「ふみい?」

鈴木「ん?文月?」

文月「ふみい!!」

龍田「あら?文月ちゃんがいつものものになったわね」

鈴木「二重人格か?」

文月「ふみい…」

龍田「大丈夫よ♪ここはメカニツク鎮守府、あぶれものや傷持ちが  
集う鎮守府よ♪」

天龍「まあ俺や龍田もあぶれもの出しな」

石畳を持った憲兵α「私もだがなほい、追加」

長門「ぐは!？」

文月「ふみい!!」

天龍田『あらあら』

鈴木「なついたようだな」

簡単にはまとめてやったよ!! 優奈めざまあみやがれ!!

~~~~~♪

壱逢世界にやって来た長門と陸奥と暁さてさてどうなることやら

∴次回は鈴谷再び、暁レディーへの道をもものすごく気長にのんびりお

待ち下さい

第貳拾蜂航海鈴谷再び、暁レディーへの道とついでにとある部屋

此処はメカニック鎮守府にあるとある部屋

北上「早くおきてよ…??つち…」

北上さん…この戦いが終わったら私…

使い物にならない奴は処分だあ!!

??つちは必ず起きます!!

北上「早く続きを教えてね…」

では、本編に行こう! シリアスはここまでだ!!

シリアス『ちよ!?マジかよ!!』

ところ変わり壱逢世界にある壱公前に長門、陸奥、暁がある人を待っていた

長門「もうそろそろだな」

陸奥「一体誰が来るのかしら?」

暁「提督はケチね」

??「やく♪久しぶりだね」

陸奥「その声は鈴…誰!」

そこには鈴谷と手を繋ぐおじさんがいた

鈴谷「パパと一緒に来たんだよ!!」

パパ「どーも、レイパパです」

長門「鈴谷!?お前春を売ったのか!」

鈴谷「違うし!!」

レイパパ「行き付けの喫茶店で話そうか」

回想入るか遡ること約数十分前

なんかチャライ奴らのいそうな路地裏に鈴谷とファミレスにあるナイフで鈴谷の頬をペチペチしている奴と息を荒げている奴らがいた

鈴谷「友達待たしてるんだけど?」

ペチペチ「どーせ友達と一緒にリーマンとすんだろ?友達と一緒に

俺たちとしようぜ」

鈴谷「は？キモいんだけど」

ペチペチ「おめえら、ひんむいてやっちま『すまないが退いてくれないか？』ぐはあ!？」

レイパパ「最近の若い奴は…」

ペチペチ「誰だ!!爺」

レイパパ「私かね？私はこの路地裏の先にある喫茶店にこうとしているおじさんだ、まあ今は違うがな」

ペチペチ「名前がペチペチになって『喋るなペチペチ』…」

レイパパ「見た感じ女将の知り合いらしいからなそれと君たちみたいな若者が燻っているのは見えてイライラしてな、わが社で働かないかね？」

ペチペチ「うるせえ!!お前に何がわかる!!」

レイパパ「知らんし知りたくもないな、どうする？私は知り合いの娘見たく『てめえら何している!!』おや？」

ペチペチ「長嶺さん!!」

長嶺「レイパパさん、ご無沙汰してます」

レイパパ「つい昨日会ったではないか」

ペチペチ「長嶺さん、知り合いつすか？」

長嶺「バカ野郎!!この方は番長の知り合いだぞ!!」

ペチペチと（、口、）『嘘だろ!?!』

長嶺「ああ…番長にバレたら『ん？俺がどうした？長嶺』ば、番長!？」

甲児「うつす!!レイパパさん、今から昼つすか？」

レイパパ「まあそうなんだかこの娘が絡まれているねちよつと首を突っ込んだんだよ」

甲児「相変わらずですね」

???「本当に困ったわ」

甲児「晶さん!!」

晶「パパさんと鈴谷ちゃんここは私達が何とかしとくわ♪」

甲児「また四音高制圧か…」

長嶺「番長、俺は巻き込まないでくださいよ」
数時間後にヤンキー高がブラックリストから一時期消えるのは別の世界の話

では、路地裏をちよつと進んだ先にある喫茶店…穴場喫茶に話を戻そう

鈴谷「とゆく訳」

暁「苦い…」

陸奥「砂糖たのめばよかったのに」

暁「一人前のレディーよ！大丈夫」

??「すみません、どうやら彼女にブラックを出してしまいました!!
お詫びにフルーツパフェとカフェオレをお持ちしました!!」

レイパパ「水蓮さんが間違えるなんて珍しい…明日は鉛の雨が降るか」

暁「美味しく!!」

~~~~~♪

甲児「ういゝす!!マスター、ハムカツカレーとキリマンジャロたのんますってレイパパさんもいた!？」

レイパパ「やあ、さつきぶりだね」

長門「そういえばここはコーヒーしか書いてないぞ!!」

甲児「常連のサービスだよ」

水蓮「十回くればサービスしますよ♪まあ氷ちゃんみたいな物好きもいますがね」

何処かのラボにいる氷蓮「うまい飯は何度でも食いたくなるもんじゃ」

レイパパ「さて、私はおいとましようか安心してたまえ支払いはわたしが持つよ」

暁「駄目よ!!レディーとしてそれはいけないわ!!」

レイパパ「わたしが持つよ、レディーに払わせたらアイツらに怒らせてしまう」

そのアイツらはどうと…

炎「マイ、アヤ!!お嬢様を見つけたらペロペロしていなさい!!」

マイ、アヤ『わふ!!』

田中「平和だなく」

鈴木「ああ、平和だ」

では、もどり此処は大型デパートストレンジの三階にある売り場

鈴谷「今日は真矢さんに手伝ってももらいます!!」

真矢「長嶺君も手伝う予定だったんだけど猫を庇って自転車に轢かれちゃって休んでいるのよ」

長門「長嶺って『しく』そうか」

四音高では

甲児「食後のヤンキー狩りじゃあ!!」

長嶺、ヤンキー『ぎやああ!?!』

優奈「腹いせ坂谷斬」

では戻ろう

真矢「何とか出来た…」

暁「どうかな?」

長門「…」ダバー

陸奥「鼻血出てるわよ」

鈴谷「ありや、かなりイケてるじゃない!!」

暁「これで一人前のレディーよ♪」

真矢「レディーとゆうより背伸びしたいお年頃かしら?」

????「鈴谷お姉ちゃん発見!!」

????「ハンバーグ♪」

鈴谷「おくさつきちとやよちん」

さつきち「彩月です!!」

やよちん「弥生です!!」

鈴谷「ハンバーグは今度ね」

弥生「うん!」

長門「ふがふが」

陸奥「何々…『もって帰りたいが構わないか?』知らないわよ!」

鈴谷「お持ち帰りしたら優奈さんが鬼神状態で来るからやめた方がいいよ」

四音高で暴れている優奈「飛竜斬解拳!!」  
ヤンキー『…』

返事がないジェノサイドされたようだ

甲児「すまんな」

優奈「礼は信康との式は是非稲荷でだ」

甲児「さあな」

服の描写?知らないわよ!! by着せ替え人形中の暁  
ではサラバ!!

くくくメカニック鎮守府で異変です!!次回はメカニック鎮守府遠  
足を気長にのんびりまったりお待ち下さい

## 第貳拾葦航海那珂ちゃん危機一髪

此処はメカニック鎮守府工匠奥の空き部屋…そこにあの艦娘がいた!!

???「那珂ちゃんは純情派アイドルだもん…汚れアイドルじゃないよ…」

那珂である!!なぜ、那珂が空き部屋にいるのか?私にも解らないし回想に入れない…謎のはどうによりこちらの声是那珂ちゃんに届いていないようだ…あつ部屋から出たら回想入れた!!では、遡ること一週間前…那珂ちゃんは純情派アイドルとしてスターダムを一段飛ばしで駆け上がっていたのだが

くくく

那珂『プロデューサー!?!』

プロデューサー『那珂ちゃん解る?今はねお偉いさんと寝ないと呼ばれないのよ』

那珂『いや!!那珂ちゃんは純情派アイドルなんだよ!?!』

プロデューサー『我が儘言わないの!!』

那珂『いや!!』

平行線のまま当日く

シャッチョさん『ぐふふ今売れっ子の那珂ちゃんとムフフ』

何かキモいんだけどく

プロデューサー『連れてきました…』

???『あらくイイオノコ♪うつつくん』

シャッチョさん『誰だ!?!この化け物は!?!』

プロデューサー『え?ナカちゃんですよ?二丁目のゲイバー『社会

全開窓』の売れっ子ナカちゃんです』

シャッチョさん『騙されただど!?!』

プロデューサー『たまには喰われて下さいよ♪いままでかわいいアイドルを食べてきたんでしょ?』

シャッチョさん『アッー!!』

プロデューサー『ではサラバ』

すたすた

プロデューサー『お待たせしました♪那珂ちゃん』

那珂『ガクガクブルブル』

プロデューサー『無理もないか…那珂ちゃん、暫く休みなさい』

那珂『はい…』

次の日

テレビ、ネット、新聞では『超売れっ子那珂ちゃん、デビュー前はクラブの超売れっ子ストリップパー』『夜はシャツチョのアイドル』『那珂ちゃんは元「閲覧規制」やら誹謗中傷が沢山出てきた!』

那珂「違うよ!!私はしてないよ!!」

ヒソヒソヒソヒソ

那珂「私は違うもん!!」

そして現在

那珂「違うもん…何で信じてくれないの…」

可愛そうな那珂ちゃん…その時である!!

???「おいおいアイドルって言うのはそんな事でピーピー泣く奴を言うのか?」

那珂「誰!?!」

???「ん?俺か?俺は優奈、メカニック鎮守府の非常勤さ」

どうやら優奈君も鎮守府にいついたようです

那珂「どうも…艦隊のアイドル那珂です…」

優奈?「新聞を読んだが酷いね〜メカニックから聞いたぞ、お前さん純情派アイドルとかいって枕する『してません!!』なら身体に聞こるか♪此処は誰も来『いるんだよなくコレが』誰だ!?!」

三角ーブラザーズYY!!

三角ーブラザーズYR『ライダーハンマー』

優奈?「ぐはあ!?!」

???「大丈夫かなく私は優実って言うただの風来坊よ」

???「やりますなく俺がモノホンの優奈だ」

優奈?「どうやって抜け出した!!」

優奈「憲兵αβγφΧΨΣΩに助けられた」

うつすら浮かんでいる憲兵ズ『那珂ちゃんを頼みますぞ!!』

優実「くたばってないからな」

優奈「さて、さっさと皮剥がれな」

??? 「クソツ」

那珂「シャツチヨさん!？」

シャツチヨ「もう少しで那珂ちゃんを手に入れたのに!!」

優実「さて、どうする?」

優奈「艦娘愛護団体会長呼ぶ?」

優実「いやな予感…」

??? 「あらく脂ぎったやり用のない野郎だな」

優奈「ブルー、アイツ那珂ちゃんを奈落に落とそうとしたぜ」

ブルー「何ですって!?! Y A R A N A I K A ?」

シャツチヨ「アツー!!」

優奈「さて、那珂ちゃんよ君には二つ選択肢がある」

那珂「選択肢…」

優奈「夢を棄てるか追うかだ」

那珂「私は艦隊のアイドル那珂ちゃんです!!こんなことで夢を棄てるわけないじゃない!!」

優奈「よろしい、メカニック!!」

鈴木「眠い…バックアップは任せなじゃ寝る」

暫くして何処かのスプリングが流した誤報と判明し那珂ちゃんは今日もスターダムのんびり歩いていく

那珂「艦隊のアイドル那珂ちゃんだよ!!」

~~~~~♪

クマー?にやあ♪次回は鮭とマタタビと近海の主を気長にのんびりまったりお待ち下さい

第参拾航海鮭とマタタビと近海の主

こちらメカニック鎮守府工匠入り口近くにある土鍋

「にやあ」

「クロタマ此処は多摩の寝床にや」

クロタマ「にや〜」

多摩「仕方ないにや…少しずれにや」

場所は変わり山奥の川

「クマー!!」

鮭「捕まりました…」

蜂蜜「採取されました」

「大量クマー帰るクマ」

再び場所は変わりメカニック鎮守府近海に新人のフルアーマー摩耶がいた

摩耶「摩耶様から逃げるなんてふてエ魚だな!!」

フルアーマー、分かりやすく言えばライフジャケット、釣竿、帽子、クーラーボックス装備です

摩耶「おりやああ!!」

魚「釣られた」

摩耶「うっし!!帰るぜ!!」

コレ全部夜明け前だからな

では、場所を4度変えてメカニック鎮守府の食堂では天龍園長と秋雲が見付けて連れて来て居着いた夕張（小降りメロン）がいた

天龍「そ〜いや、俺一回提督に怒られてたわ」

夕張「あの『怒る姿が想像できない提督ランキング』で2位を三億スコア突き放してぶっちぎり1位だもんね〜想像できないわってかどうやって怒らせたのよ」

天龍「この鎮守府って戦わないだろ?」

夕張「ええ、まさか…」

天龍「戦わせろって駄々捏ねたら艀装剥がされたうえに虎柄のロープで縛られて…」

回想入るか：遡ること第二航海後：

鈴木「戦わせろつて？ふざけるな!!この鎮守府は戦わない鎮守府だ!!戦いたかったら俺を倒せ!!」

始末帰りの優奈「アイツは決めたらゆき以外は曲げないからな」

天龍「俺達艦娘は兵器なんだよ!!戦わないと行けねえんだ!!」

鈴木「知るか!!艦娘は兵器?違うだろ!!人間だ!!」

そして現在

天龍「いや、あの頃は尖ってたよ本当に」

夕張「まるくなってる!」

鈴木「おはようさん」

天龍「よっ、寝癖付いてるぞ?、たく直してやるから来い」

夕張「コレ、秋雲の奴じゃないよね?」

ところがどっこい見ている光景が全てです

そこに冒頭の二匹?と一人が来た

???「クマー!!鮭と蜂蜜持ってきた球磨」

???「鳳翔さんクロタマと多摩にマタタビと猫まんまにや」

摩耶「ただいまつと、カジキ釣って来たぜ!!」

鳳翔「皆さん朝からお疲れ様です、はい猫まんまとマタタビジュー

ス慌てないでね」

多クロ『にやあゝ♪』

龍田「ぼいのお散歩終わりましたよ、ついでにブラッシングもね」

ぼい「ピカピカになったっぼい!!」

龍田「またぼいをブラッシングしてくるわ…」

夕立「語尾だからね!?!龍田のおかげでピカピカになったから!!」

龍田「もう、じょうだんよ」

後に夕立は目が笑ってなく後二歩遅かったら漏らしていたと語つた

長門「今日もダメだった!!」

ときあめ「僕をダシにしても無理だと思おうよ?」

陸奥「普通にすればいいのにね」

文月 「ふみい〜」

赤城 「ガツガツ」

加賀 「全く…」

瑞鶴 「何か翔鶴姉と一緒に配属されました!!」

翔鶴 「よろしくお願ひいたします」

RJ 「賑やかになったな〜」

まだまだ増える予定

〜〜〜♪

メカニック鎮守府には不思議がいっぱい!!次回はメカニック鎮守府見学会を予定変更しなければやるので気長にのんびりまったりお待ち下さい

第参拾壹航海長門の秘密

今日もメカニック鎮守府の談話室では文月と仲良くなるべく長門が特訓していた

長門「ふ、文月抱っこしてもいいかな？」

文月「コスの日月」「ふみい!!」

長門「そうか!!」

数分後

長門「文月、抱っこしていいかな？」

文月「ふみい!!」

この略

ロリコン提督『ぐふふく文月ちゃんはぷにぷにでちゅねく』

文月「ふみい!!」

偶然来た憲兵α「ん？飴ちゃんかい？」

文月「ふみい!!?ふみい!!」

憲兵α「へくそういえば龍田さんがパフエ作ってたな、文月ちゃん

行ってきたよ」

文月「ふみい!!」

憲兵α「さて、長門さんには酷な話をしよう」

長門「な、なんだ？」

憲兵α「文月ちゃん曰く長門さんからは前の提督と同じ気配がする

らしいです」

長門「ガーン!?!」

憲兵α「ロリコン提督と同じとか絶望っすね♪」

長門「…」

憲兵α「どうしましたか？」

長門「…のう…」

憲兵α「ん？」

長門「死のう…文月に嫌われているのに頑張っていてまるで道化だ

…提督に解体を薦めてこよう…」

ふらふら

執務室では…

鈴木「流星にねえ？」

秋雲「切り忘れです!!」

金剛似の人とBIGマグナムの『閲覧規制』について話していた

鈴木「無知な子多いんだよ流星にあれは…」

秋雲「わかりました!!明石さんの部屋を作業場にします!!」

明石『クルナ!!』

ガスツガスツガチャ

長門「世話なつた…提督…私を解体してくれ…」

鈴木「いきなりだな!?おい!!」

長門「文月と仲良くなれないなら死んだ『ぎげんな!!』!?」

鈴木「何、諦めてんだよ!!てめえは前の鎮守府の過ちを繰り返さな

いって言ってただろ!!」

話は第壱航海位

長門『私は仲間を救えなかった…』

屑提督『中破ごときで帰投してくんじやねえ!今すぐ逃げ!!』

長門『少し休ませてくれ!!』

屑提督『知らん!!さっさと逃げ!!』

長門『そして私以外皆沈んだ…もう嫌なんだ!!』

鈴木『そんな過去が…安心しろ!!このメカニック鎮守府は超ホワイ

トだ!!』

未来のメデイカル相川『ちよいブラックよ』

長門『信じてもいいのか…』

鈴木『長門…お前が決める!俺じゃなくお前自信が決めるんだ!!』

そして今…

長門「文月がなついてくれない訳だよ…私の根っこはあの屑と同じ

なんだからな…あはははは」

秋雲「シリアス辞めーや!!」

鈴木「困った」

秋雲「此処は提督の戦艦をも魅了する主砲で慰めれば?」

鈴木「アホ、ん?それだ!!長門、壱逢に行くぞ!!」

長門「何故だ…私は解体してくれ…」

鈴木「コレがダメなら潔く解体してやるよ!!」

長門「わかった…」

一体どうする気だ!!

~~~~~♪

長門を連れて壱逢世界に来た鈴木はあるところに行きます…次回、  
…を気長にのんびりまったりお待ち下さい

## 第参拾貳航海

前回のメカニックコレクションは…

憲兵α「絶望っすね♪」

長門「解体カッコガチ」

文月「ふみい!!」

さて、壹逢世界にやって来た鈴木と長門は久方ぶりの『占いゆきの館』前に来ていた

鈴木「よっ!」

ゆき「お帰りなさい!!もう向こうは大丈夫なの?」

鈴木「もうちよいかなあ?そこは作者の匙加減だな」

ゆき「天さん!!さつさと終わらせて鈴木さんとイチャイチャさせて下さい!!」

無茶言うな!!まだ出してない子いるんだからな!?壹逢の方で近いうちにメイン回するから我慢なさい!!

ゆき「今がいいです!!じゃないと鈴木さんの正妻の位置があ…」

長門「私は蚊帳か?」

鈴木「すまんすまん、ゆきちちゃん、長門頼むな俺はブルーさんの所とロボに用があるから半日いないからなく」

ゆき「あ…いってらっしゃい」

さて、少し未来に飛ぶが鈴木はZEROとローリングバスターライフル初霜に制裁されるが気にしないでいこう!!では、戻る

長門「…」

ゆき「悩みはなんでしょうか?」

長門「悩みか…解体される私にはもう『嘘ですな』違う!!本当に無いんだ!!」

ゆき「悩みはなくても何かあるはずですよ!!さつさと言えれば楽になりますってあの人達なら言いますよ♪」

薄くぼやけている優希『困っていたらダチなら共有!!危ない橋は渡らせない!!』

薄くぼやけている優奈『くたばってないからな』

薄くぼやけている優実『壺逢のメンツは団結力はあるからなく』

『ダチが困っていたら助けるのがダチだ』

『まほーつかいさんのともだちはかあさまやとうさまやわたしのともだちです!!』

長門「本当に『昔々あるところに親に捨てられた子がいました…』!?’

ゆき「ある日、知らないおじさんに連れ拐われある時は煙草の火を押し付けられ、またある時は不眠不休で働かされ、ある時は殴られたり蹴られたりしました…」

長門「辞めろ…」

ゆき「そんなある日、気絶から覚めたら研究室みたいな所にいましたがまた気絶してしまいました…」

長門「辞めてくれ!!」

ゆき「目が覚めると病院で寝ていました…その後、その子は優しい兄みtainな人、姉みtainな人達『もういい!!』」

長門「私とその子を一緒にするな!!」

ゆき「あなたには家族はいますか? 私には未来から来た息子とZEROがいます」

長門「私にも家族はいる!! 私より女子力の高い自慢の妹が!!」

ゆき「答えは見つかりましたか?」

長門「ああ、くよくよしていたのがバカらしいな!! ありがとう! 私には向こうに帰る!! すまないがしばらく提督を預らせて貰う!!」

ゆき「はい!!」

一方メカニックは?

ZERO「初霜、パジエロ!! パジエロ!!」

メカニック「待て!? 俺はダーツの的じゃないぞ!?’

初霜「ターゲット確認…」

メカニック「ちよっ『発射…』ぎやあああ!?’

ZERO「残念、束子だ!!」

ポロアフロニック「散々回して束子とか理不尽だ!!」  
では戻る

長門「その子はどうなったんだ？」

ゆき「貴女の目の前にいるかも知れませんよ♪」

長門「煮えきれん…」

ボロ半分アフロニツク「ただいま〜」

ゆき「おかえりなさい、派手にやられましたね〜」

鈴木「ZEROが試作ツインライフルを初霜っていう子に与えて俺を的にしやがった!!」

ゆき「後でZEROをメツ!!しときます…」

ラボのZERO『ゆきのメツ!!は可愛い!!』

進展あるまでメカニツク鎮守府にカメラを向けよう、あそこにいるのはクリスマスにナガタクロスからぬいぐるみを貰った文月だ!!

文月「ふみい〜」

ひそひそ

文月「ふみい？」

臈「長門さん鎮守府辞めるんだって！」

明石「何でも大金持ちの息子が惚れたんだとか」

文月「ふみい…」

クリスマスに遡る…

ナガタクロースの手紙『長門は君と友達になりたいそうだ』

文月「ふみい!!」

あっちこっち捜すが長門が見つからない…とうとう文月はあの鏡がある部屋まで来ていたが…鍵がかかっていた

文月「ふみい!!」

ドア大破!!

文月「ふみい…ふみい!!」

まぶしっ!?そこには大破したドアとぬいぐるみと鏡しかなかった

第参拾弐航海消えた文月

~~~~~♪

中途半端やなくん? 予告か!!

文月が行ったのはなんと!?次回時空を越えた友達を気長待とう

第参拾参航海時を越える文月

前回のメカニックコレクションは…

長門「ゆきちゃんの過去は壮絶だな…」

ゆき「友達がいます!!」

優奈「また世界に巻き込まれた…」

鈴木「本編逝くか…」

メカニック鎮守府では文月大捜索が行われていた!?

吹雪「あの鏡の前にぬいぐるみがありました!!」

明石「過去にいます!!」

深雪「こんな時に司令官がいれば…」

その司令官は…

ローリングバスター初霜「ターゲット確認…」

鈴木「また的『排除する…』ほああああああ!!」

では、過去に飛んだ文月は…

憲兵α「ロリコン提督と同じとか絶望つすね♪」

長門「提督に解体して貰うよう申請してくる…」

憲兵α「鈴木が許可出すわけ無いな…」

ふらふらガツガツ

文月「ふみい!!」ぎゅっ

長門「あはは、文月の幻覚が見えてきた…幻覚なら何をしても大丈夫だよな…」

夫だよな…」

文月「ふみい!?!」

略

ロリコン提督『ぐふふ』

文月「ふみい…」

長門「悲しい顔をするな…そうだ!!遊びに行かないか?」

文月「ふみい!!」

長門「よし、行くぞ!!」

勝手に次元転送装置を動かして長門と文月は壱逢世界のストレンジに来ていた…今回もヒーローショーがある日を狙ってますよ!!

カイガラン「会場の人を人質にして今日こそイカルスターを血祭りにあげてやる!!」

???「させるかあ!!」

カイガラン「来たか!!イカルスター!!」

イカルスター「カイガラン、貴様の悪巧みもここまでだ!!」

カイガラン「ワカメズ!!」

ワカメズ「動く人質に辛口カレーを食べさせるぞ!!」

文月「ふみい!」

イカルスター「卑怯な!」

司会のお姉さん『小さな子どもに辛口だなんて!?味覚がヤベーイ!!』

カイガラン「クツクツクツイカルスターよ止め『ふみい!!』何!」

文月「ふみい!!」

長門「やめろ!!部分展開するな!!」

???「~~~~~♪」

文月「ふ…みゆ…」

カイガラン「た、助かったあ…」

イカルスター「今の歌は…」

???「今をときめくまじかるゆうこちゃん参上♪」

まじかるゆうこちゃん「ファンの子供「ふおおお!!」

まじかるゆうこちゃん「イカルスター、加勢するわ♪」

とりあえずヒーローショーは滞りなく進みショー終了後の楽屋裏

では…

長門「すみませんでした!!ほら文月も謝る」

文月「ふみい…」

ワカメズ「大丈夫だから顔を上げて下さい!!」

長門「それでも…」

優子「大丈夫♪この人達はいつもギガント達と遊んでいるのよ♪」

長門「ギガント達と遊んでいる!」

カイガラン「非殺傷機能なかったら店潰れてるからね!」

文月「ふみい」キラキラ

長門「ギガントめ…」

訳あり戦闘中のギガントカウント『びやくしよい!!』
巻き込まれたダイナキング『汚なっ!!』

暇なスカイカスター『ダイナの顔オイルまみれ』

いないオーシャンレオ『マスターと遠出中です』

では、戻る

長門「さて、文月…君は誰だ？」

文月「ふみい!!」

長門「私の知る文月は私を見たら泣きながら逃げるぞ」

文月「ふみい…」

長門「まあいい、これは夢だ…文月がなつくなど…」

文月「ふみい…」

ナガタククロス『長門君はいつもやさしいじゃろ?』

明石「金持ちのボンボンの『閲覧規制』」

文月「いっちゃやだ!!」

長門「ふ、文月!」

文月「ながとおねえちゃんじゅふやめちややだあ!!」

長門「どういことだ!? 私は解体申請を…」

文月「え!? おかねもちのふとつたひとがながとおねえちゃんをつれ

ていくつてあかしさんが…」

長門「提督が何とかするさ」

ピカッ

文月「ふみい!」

長門「待て!? 文月!」

文月「ふみい!」

哀れ文月は次元転送装置により行ってしまいました…

現在メカニック鎮守府に近い林

文月「ふみい…」トボトボ

???「やあ、どうしたんだい?」

文月「ふみい」

??? 「そりや大変だ!! 一緒に行こう!」

文月 「ふみい!!」
すたすた

長門 「何!? 文月がいないだと!!」

憲兵α 「飴を仕掛けたら赤城さんが釣れました」

その時である!!

憲兵β 「熊が出たぞ!!」

球磨 「?」

憲兵β 「お前じゃない!! モノホンの熊だ!!」

名取 「猟友会に連絡しなきゃ!」

電 「あの熊さんなのです!!」

熊 「ぐあ」

文月 「ふみい!!」

長門 「文月!! 無事か!!」

文月 「ふみい」

長門 「熊さん、文月を見つけてくれてありがとう!!」

熊 「ぐあ」

電 「熊さん、文月ちゃんを見つけてくれたお礼なのです!! 森の皆と食べてなのです!!」

熊 「ぐあ」

ぽい 「長門さんが文月ちゃんだっこしてる!!」

帰って来た半ボロアフロニツク鈴木 「いつの間に…」

その後文月は暫く長門の後を付いていき噂の原因である秋雲は暫く長門と文月のほのぼのとした絵を本にするため描き続ける罰を受けました

秋雲 「罰というよりご褒美です」

~~~~~♪

赤城さん：次回は一航戦の宝物を予定変更するかもしれないけど  
気長にお待ちください

熊、鎮守府近くにある森の熊さん以外と子煩悩で電ちゃんの自称友達

## 第参拾肆航海加賀さんの宝物

ドンガラガツシャ〜ン!!

開始早々擬音…

赤城「加賀さんが大切にしているお皿が!」

そこには砕けた何があった!!

赤城「加賀さんが戻る『私が戻ると何か不都合が?』か、加賀さん!?!」

加賀「赤城さん…これは?」

赤城「私が戻ったところようになっていたから疑われたくないから隠滅を…」

加賀「そう…少し出掛けるわ」トボトボ

赤城「どうしよう…」

てくてく

執務室?

赤城「スズえもん!!」

鈴木「なんだい?赤太くん?また女将を困らせたのかい?」

赤城「違います!!実は…」

カクカクシカジカ四角いMOVE

鈴木「駄目だな、第一めんどい!!正直に言って謝りなさい!!」  
入ります

翔鶴「あら?」

鈴木「翔鶴ちようどいい時に来た!!」

翔鶴「はい?」

鈴木「加賀さんの部屋にあるあの皿ってなんだ?」

翔鶴「あのお皿は確か…私達と同じ鎮守府にいた頃に骨董コレクターが加賀さんに譲った奴ですね、売れば国が傾くとかなんとか」

赤城「どうしよう…」

鈴木「困った」

赤城「鈴木さん…お世話になりました!!」

鈴木「いきなりだな!?!おい!!」

長門「今、赤城が物凄い早さで走って行ったがなぜだ？」

鈴木「さあ？」

加賀さんはというと鎮守府から少し離れた一軒家にいた

加賀「おばあさんが大切にしていたおじいさんのお皿を割ってしまいました…」

おばあさん「あなたが大切にしていたのは話かたでわかりました：形あるものはいつか壊れる、おじいさんも許してくれますよ」

加賀「でも…」

おばあさん「ほら、可愛い娘がそんな顔しないの!!今日は雨が降るから帰った帰った」

加賀「はい…」

すたすた

加賀「只今戻りました」

瑞鶴「お帰りくあり?赤城さんは?」

加賀「赤城さん?」

その時である!!

翔鶴「え!?!赤城さん家出したの!?!」

鈴木「可能性としてはねく」

加賀「探してきます!!」

鈴木「雨だしなマツハに頼むといい」

加賀「わかりました」  
てくてく

マツハララングル「暇だなく」

加賀「マツハさん」

マツハララングル「ん?珍しい方がいますね」

加賀「赤城さんを迎えに行くので乗せて下さい」

マツハララングル「構いませんよ」

加賀ラングル探し中：では赤城はどこにいるのか?

赤城「という訳です!!」ハグハグ

優奈「狐式とどっこいだな」

壱逢世界にある稲荷家の食卓にいた!!

蛙野 「エンゲル係数が二倍じゃな」

呼ばれた鈴谷 「そりや赤城さんが悪いよ!! ね、熊野?」

熊野 「確かに、しかも無実の子を犯人に仕立てようとしてたからバレたら怖いですわ…」

鈴谷 「加賀さんが怒ると怖いよ」

優奈 「へくわーつたよ、赤城は暫く預かるからなく安心しろ今、J  
K艦がいるし大丈夫だろ」

鈴木 『飯代は持つ!!』

優奈 「気にするな、じゃあな」

赤城 「提督はなんと…」

優奈 「ああ、街でリーマンやチャライ奴や少年に『閲覧規制』しな  
ければ大丈夫だそうだ後、加賀さんが何故かマツハラングルに乗って  
いたのに風邪引いてダウンしただと」

赤城 「加賀さんが!? 優奈さん、私帰ります!!」

優奈 「♪私にいい考えがある!! 赤城ちゃん、今日は泊まって明日に  
しなさい」

赤城 「加賀さんが心配で…」

優奈 「君は加賀さんに怒られたくないから来たのだろ? 今いけば風  
邪と雷が同時に来るよ?」

狐式 「赤城さん帰るの?」

白黒彩弥 『一匹。』ジーン

鈴谷 「どうする? 赤城さん?」

熊野 「金融ネタはわかる人少ないよ!」

赤城 「わかりました…一晩だけ泊まらせていただきます」

優奈の考えとは何か? それは次回の話かな?

~~~~~♪

赤城さんは何処? 次回はずぶ濡れの勇者を気長にお待ちください

第参拾伍航海ずぶ濡れの加賀

前回のメカニックは…

コンボイ「私にいい考えがある!!」

メガトロン「失敗フラグだなコンボイ」

赤城「本編行きます」

加賀さんがマツハと一緒に赤城を探しているところから始まりま
す

マツハ「レーダー反応無し、こりや次元越えたか？」

加賀「一体どこに…あれは…」

そこには雨に濡れながら人混みに紛れている赤城？がいた

加賀「待って!?!赤城さん!!」

マツハ「おい!?!風邪引くぞって聞いてないか…傘出してつとチェン
ジ!!」

ガヤガヤ

マツハ「新作映画のゲリラ撮影なんですよ!!凄いでしょ!!」

通行人「つてことは映画に出れるのか!!」

絡まれてる間に加賀さん side

加賀「待って!?!赤城さん!!」

赤城? 「あの…私は赤木ですが…」

加賀「失礼…あまりにも知り合いに似ていたもので…」

赤木「合いたいですね…クシユン」

加賀「傘が…ありませんね」

赤木「近くなので家に来ませんか？」

加賀「いや、私『風邪引きますよ』お世話になります
すたすた

赤木「ただいま〜かがさん♪」

かがさん「わふ♪」

加賀「お邪魔します…」

かがさん「う〜、わん!!わん!!」

赤木「めっ!!」

かがさん「く〜ん」

赤木「ごめんなさい、何時もは吠えないんだけど…」

加賀「大丈夫、それよりは着替えなくていいの?」

赤木「そうでした!?すぐ上がるから待っててください!!」

加賀「あ…もう大丈夫なのに…」

かがさん「わう〜」

加賀「大丈夫よ、私は…」

かがさん「わう?」

加賀「やっぱり似ているわ…貴方と私」

かがさん「わう」

赤木「ふう〜あ!?お風呂どうぞ」

加賀「大丈夫よ、乾いたわ」

赤木「え!?!」

加賀「私は艦娘『すごい!!』え!?!」

赤木「私、艦娘さんに会うの初めてなんです!!名前は?」

加賀「私は加賀よ」

赤木「加賀さん!!何か、かがさんに似てますね♪」

加賀「貴女も赤城さんに似ているわ」

赤木「赤城さん…会って見たいな〜」

加賀「会えますよ、私達は同じ街にいるのだから…」

く〜く〜♪

赤木「なってますよ?」

加賀「何?」

マツハ「帰るぞ〜」

加賀「わかりました」

赤木「そうだ!!アドレス交換しましょう?今度美味しいお店に行こう

よ!!その時は赤城さんと一緒にね?」

加賀「構わないわ、困ったらメカニック鎮守府に行けば私達が貴女

を守るわ」

赤木「メカニック鎮守府!?あの最強メカ軍団のいる鎮守府ですよね
!?!」

加賀「ええ」

赤木「わかりました!! はい、交換完了♪えへへ」

加賀「じゃまたね」

赤木「はい!! また」

すたすたバタツ

加賀「少し無理をし過ぎたようね…」

???「おい、大丈夫あつ!? ひでえ熱じゃないか!?

チエンジ!!

マツハ「すまない、連れが迷惑をかけた」

???「いや、そんなことはないぞ」

マツハ「これより帰る!!」

加賀さんの熱はかなり高く暫くは隔離するようです…

くくく♪

加賀さんが熱でうなされている頃…次回は、赤城さん珍道中を気長にお待ち下さい

第参拾録航海赤城珍道中

前回の分かりやすいあらすじ

雨の中無理した加賀は倒れた

優奈「本編行くぞ〜」

壱逢世界にある稲荷神社では…

赤城「帰りた〜い」

優奈「見舞いに行きたい気持ちは分かるがな〜」

鈴谷「ん〜そうだ♪優奈さん、ストレンジに新しく手作りフワフワぬいぐるみコーナーが出来たのしってる?」

優奈「んにや、そうね〜よし、いくか!!」

次の日〜壱公前

優奈「言い出しつぺの奴が遅いとは…」

赤城「まだ時間がありますよのんびり待ちましょう」

鈴谷「いや〜待った?」

優奈「夜中からな〜」

鈴谷「次回埋め合わせするよ」

優奈「ならそのホテルで可愛がってあげるよ」

赤城「学生服でナンパはダメなような?」

熊野「アホやってないで行きますわよ」

優鈴『は〜い』

すたすたゲシゲシてくてくドカドカ

優奈「地味に治安悪くなったな〜」

鈴谷「鈴木君所のメカが居なくなつたからじゃない?」

優奈「俺や甲兎がいるのにね〜」

ストレンジに到着!!因みに今日は平日です

鈴谷「じゃあ行くぞ〜」

鈴谷以外『お〜』

すたすた

五階フワフワぬいぐるみコーナー…どこかでみたお方が…

???「久しぶり〜元気してた?」

優奈「ぼちぼちな焰さん」

任期三時間の壱逢高校最強元生徒会長焰がいた!?

焰「にしても見ないうちに美人を三人も捕まえて!!憎いね♪よ!!色男!!」

優奈「駄アホ!!一人はメカニツクの部下で二人はダチだ!!それと俺はいや俺達は日向と優狐一筋だ」

焰「二股はめっ!!」

優奈「おまゆう」

焰「とりあえず夜道とアレには気をつけてね♪」

優奈「ああ、アレは流石にな…」

焰「じゃあ帰るわ♪アデュー」

優奈「バイバイ」

制作工程?誰かが針で指を刺しまくった以外は普通だからな
数時間後

優奈「出来た!!」

鈴谷「私も出来た!!」

熊野「私も出来ましたわ!!」

絆創膏だらけの赤城「速いですね。出来ました」

???「いたいた、優奈さん!!」

優奈「里中どしたの?」

里中「どしたの?じゃあないですよ!!今日は犯罪対策会議と失礼
ずるずる

里中「ワンコの説教会があるんですよ!!」

優奈「あくC4勝手に持ち出しちゃった奴ね、あれ原因俺♪」

里中「マジか:はあ始末書増えますよ!!全く」

優奈「じゃあまたあとでな」

里中「はいはい」
てくてく

優奈「すまんね♪」

鈴谷「アレ?」

優奈「ああ、アレ」

熊野 「大変ですわね」

赤城 「これで帰れます!!」

優奈 「うまく逝くかね?」

鈴谷 「字違うくない?」

熊野 「合ってますわよ」

赤城 「それでは」

優奈 「んじゃ、俺は鈴熊とデートしとくわ」

鈴熊 『!』

さてと、どうなることやら?・

くくく♪

またあの覆面を…次回はA A キャツスル再び…仲直り作戦を予定
変更もあるかもしれないが気長にお待ち下さい

車から物は投げ棄てちゃ駄目だからな!!

第参拾七航海AAキャツスル?再び:仲直り作戦

前回の⑨でもわかるあらすじ、フワフワぬいぐるみ制作完了

此方はメカニック鎮守府加賀さんの部屋

メカニック「40℃:下がる気配がない」

加賀「ごほつごほつ」

メカニック「暫くは安静な」

加賀「わかごほつ」

ナース山城改「先生、次の患者です」

メカニック「わかった:いいかい?絶対に安静だからな!!」

加賀「大丈夫」

メカニック「じゃあな」

加賀「暇ですね:」

その時である

???「よいしょつと」

加賀「誰!」

???「ん?私?私は元宇宙暴走族ボーゾック1の大食いAAキャツスルの妹のKKレッドだ!!」

加賀「つまり不審者ね:」

メカニック『絶対に安静だ!!』

KKレッド「まあ、待ちな今は赤城って言う女から頼まれた物を持ってきたんだ」

加賀「赤城さん!!貴女赤城さんは今何処に!」

KKレッド「赤城さんは私を逃がすために:今頃因数分解や円周率を泣きながら解いているはず:」

く加賀さんの想像く

先生「間違えたら後ろのドアから脂ぎったオツサンが来るから必死に解けよ」

赤城「素因数分解!」

では戻ろう

加賀「助けないと!ごほつごほつ」

メカニック『絶対に安静だからな!!』

KKレツド「大丈夫か!? 熱い!? 酷い熱…ちやんと寝なさい!!」

加賀「駄目よ!! ごほっさんが今頃ごほっごほっごほっな目に」

KKレツド「寝なさい!!」

加賀「臆病者がごほっごほっ」

KKレツド「わかりました…ですがこれだけは受け取って下さい

…」

加賀「貴女からは受け取れないわ」

KKレツド「ですが…」

加賀「赤城さんを頼みます」

KKレツド「(どうしよう…このままじゃ…)」

加賀「少し寝ます」

数時間後…

加賀「ん…」

ピエロ赤城「はぁーい、かがあ?」

加賀「不審者ね?」

ピエロ赤城「違います!! 赤城です!! あの後、AAキャツスルさんと

KKレツドさんが泣きながら助けに来てくれたんですよ!!」

加賀「嘘ね臆病者が助けるはずないじゃない」

赤城「むく!! 本当ですよ!!」

加賀「少し下がったので間宮さん所行きますよ」

赤城「加賀さん、はい♪お粥orゼリー?」

加賀「ゼリーをお願いします」

赤城「はい♪あーん」ダラダラダラ

加賀「涎滴ながらあーんしないで下さい秋雲の本みたいですよ」

見舞い組『一匹。』ジー』

自室の秋雲「次の本は目の前の御馳走を食べさせてもらえない赤城

さんの本にしよう!!」

アシ白雪「さっさと終わらせて夜は焼き肉っしょ!!です」

では戻ろう

赤城「拭きますね〜」

やば!?!撤退!!

ふう、この作品は紳士や淑女やちみつ子が見る作品だからな、エロスはダメ、絶対!!

吹雪「下着姿見られました!!」

ゆき「見られました!!」

しばらく鳳翔食堂にいるか

鳳翔「いらっしやい」

日替わり定食一つ

鳳翔「かしこまりました」

鈴木「よ、天」

げっロリニツクだ

ロリニツク「クリニツクみたいだな珍しくいるな」

赤城さんが動けない加賀さんをひんむいて『閲覧規制』し始めたか

ら『ガタツ』逃げてきた!!

ロリニツク「瑞鶴が走ってたな」

混ざりにいったんじゃない?

数分後なにやら怪しい声が響いていたがぶちギレ長門と天龍園長

が殴り込みに行き何とかなりました

鈴木「いつまでいるんだ?」

もう大丈夫かなくんじゃ会計置いとくよ

鳳翔「あら?」

鈴木「一応屋根裏担当だからな」

では加賀さんの部屋に戻ろう

加賀「なるほど…赤城さん?」

赤城「は、はい…」

加賀「おじさんが言っていた…『形あるものはいつか壊れるだが、思

い出は壊れない』と…最初から話せば怒りません」

赤城「はい…」

加賀「今度友達と食べに行きます赤城さんの奢りで」

赤城「え!?!」

加賀「罰です」

赤城「わかりました…」

何とかなったようです

鈴木「天、お釣!!」

締まらないな

~~~~♪

加賀さんの友達？次回は赤城と赤木を予定変更もあるかもしれないが  
気が長にお待ちください



## 第参拾蜂航海赤城と赤木

加賀フォン 『今度の週末遊べるかしら?』

赤木フォン 『大丈夫です!!』

加賀フォン 『じゃあ初めて会った広場でいいかしら?』

赤木フォン 『はい!!』

つてなわけです加賀さんと赤城（何故かお散歩リード装備）はメカニック鎮守府からちよつと離れた広場にいた

赤城 「加賀さん」

加賀 「逃げるから外しませんよ」

赤城 「だって」

加賀 「余り使わないからです!!」

では多少回想をば

鈴木 「そういやみんなは給料何に使ってんだ?」

天龍 「チビ達と外に行った時に使うな」

長門 「陸奥と服を買ったり文月と遊ぶ時に使うな」

ゴーヤ 「釣り同好会用の釣具でち」

日向 「知り合いの材木店だな」

最上 「師匠は木彫り瑞雲を作っているからね」

金剛 「紅茶の葉と紅茶に合うお菓子の本に使っているネ!!」

秋雲 「画材」

R J 「酒代やお土産やな」

R J、日向以外 『いやいや!?!』

日向 「まあ、そうなるな」

壱逢世界の鈴谷 『私は親切な事をするとかれたりするかな』

優希 『みんな優しい人達だからね』

熊野 『親切な方ばかりですわ』

ではメカニックに戻ろう

鈴木 「赤城さんは?」

赤城 「お給料ですか：あまり使っていないですね」

鈴木 「え!?!狐とフードファイトするのにあまり使っていないだ?!」

赤城「はい、割引の日を狙ってますから♪」

それを加賀が聞いていたのだ!!

では戻ろう

加賀「もうすぐ時間ね」

赤城「いったい誰を『かつがさあくん♪』」

加賀「来たようね」

赤木「待ちました?」

加賀「いえ、赤城さんが逃げようとしてたりしたのでさほど待つてませんよ」

赤木「その赤城さんは何処に?」

加賀「また…」

赤城「ぐえ!?!」

加賀「逃げたら秋雲が持つてる不思議な面積ほぼ無しビキニを着けて浜辺に放置しますよ」

赤城「痴女じゃないですか!?!」

赤木「本当に似てる…」

赤城「私は赤城です、加賀さんは犬好きのシスコンよ」

加賀「赤城さん!?!」

赤木「どうも、赤木です!!加賀さんって笑うと可愛いですよね!!」

赤々『同士!!』

加賀「はあ…」

赤木「行きますよ!!」

てくてく

やって来ました出張喫茶YARANA IKA 鎮守府前店

ブルー「いらつしやいって赤城ちゃんと加賀ちゃんじゃないか」

加賀「まさかこことは…」

赤木「マスターと知り合いなの?」

赤城「提督の世界でアツ!!な事をしている喫茶店のマスターでたまに鎮守府の食堂でスイーツを作っているからね」

ブルー「何でか知らんが来てしまつてな『ただいま』店長が帰つて来たぞ」

店長「どうも」

赤加賀『戦艦タ級!?』

ブルー「店長だ」

タ級店長「戦うのは趣味じゃないから喫茶店をしてるのよ」

加賀「そう…」

ブルー「今日はレディースdayだ通常より三割安いからな」

タ級「お友達サービスで最大七割引きです♪」

赤城「赤字じゃない!?!」

ブルー「喜ぶ顔」

タブルー『プライスレス』

加賀「では、ふわふわスフレケーキとブレンドコーヒーに貴方の優

しさくブルーベリーを添えて〜」

赤木「パンケーキとアールグレイにチーズケーキ」

赤城「コーヒーとふわとろケーキにあんみつパフェ」

赤加木『お願いします』

じゃあ私は抜けますか、女子会に野郎はいらんからな

くくく♪

増えたよなく次回は脱線だらけのキャラ紹介でおまけを気長にお待ちください

## 第参拾葦航海脱線だらけのキャラ紹介

最初はこやつからだ!!

憲兵、S、メカニック鎮守府の憲兵、初めは艦娘達をぐふふとしていたがなブルーベリーキャンプによりα以外の憲兵は艦娘愛護団体になった

憲兵α、メカニック鎮守府の憲兵、鳳翔さんが好みで文月みたいな娘が欲しいと日々思っているがなかなか出会いが訪れない模様

熊野、壹逢世界にいる艦娘また葛が拾ってきたのだが：晶にメツ!!  
されたため稲荷に預けている

球磨、メカニック鎮守府にいる艦娘、鮭の時期になると山に行き熊と共に鮭を捕っている

多摩、日中はメカニック鎮守府の屋根で昼寝している艦娘、工場入り口横には土鍋があり夏場は大抵そこで合猫クロタマと一緒に寝ている

摩耶、メカニック鎮守府に來た艦娘、前の鎮守府では提督が屑だったので半殺しにしたらメカニック鎮守府に厄介払いされた、天龍曰くキャラが被っていたがゴーヤのおかげで何とかなかったらしい

夕張、メロンではない、冬コミ帰りの秋雲が見つけてきた艦娘、明石と一緒に愉快的な工場ライフを送っている

叢雲、メカニック鎮守府に流れ着いた艦娘、リグマツグの影響でガンダム特にSEEDで叢雲効の機体が好きになり部屋には大量のガンプラが置いてある

白雪、秋雲のアシスタント兼モデル、吹雪型お色気担当で吹雪型の作品では叢雲以外は彼女がモデルである

初霜、メカニックラボにいた艦娘、ZEROが見つけたらしい：ローリングバスターライフルのモーションに似ている

初雪、メカニック鎮守府の引きこもりのゲーマー、娯楽室のゲームは初雪が置いている

赤木、中心街で働くOLで赤城捜し日本一の加賀が間違えるほど似ている何か秘密がありそうです

かがさん、赤木が飼っているラブラドール、ある雨の日に段ボールの中で衰弱しているのを赤木が見つけた気を許した相手以外は吠えまくる

瑞鶴、お隣の鎮守府にいた艦娘、翔鶴が来る前は泣き虫だったが加賀さんに慰められ以後加賀さんを姉と慕う

翔鶴、お隣の鎮守府にいた艦娘でゴーヤの釣り同好会期待の新人  
シャチヨさん、那珂ちゃんを襲おうとしていたとある会社の社長、艦娘愛護団体の洗礼にあい今は全うな会社になっている

麦わら帽子の少女、長門ときあめが助けたアルビノの少女、実は深海凄艦の親玉の娘で今日もメカニック鎮守府の談話室でときあめとゲームをしている

戦艦夕級、出張喫茶店YARRANAIKA鎮守府前店の店長、戦いを好まぬ優しい人で人気もあり日々深海凄艦と人間との共存へ頑張っている

こんくらいかな？

♪♪

出来ました!! 次回は最上くん? ちゃん? さん? を予定変更もあるかも知れませんが気長にお待ちください

## 第肆拾航海最上さん?くん?ちゃん?

今回は夜中のメカニック工場から話を始めよう

明石「ぐふふ」

夕張「出来ましたか!!」

明石「もちのろん!!」

夕張「朝が楽しみですね♪」

めんどいが朝く

こちらはもがみんの部屋

最上「んくいい朝…」

???「やあ♪」

最上「うわああああああ!!」

鈴木「どうした!」

最上「見るなあああ!!」

鈴木「がふえ!!」

山城改「会心の一撃ね」

深雪「ご立派な物で」

最上「何であるの!?!僕女の子なんだよ!」

ボロニツク鈴木「とりあえず服を着なさい!!」

一方

長門「いい天気だなく文月」

文月「ふみい」

長門「こんな日はのんびりし『ふみいふみい!!』どうした?そつちはときあめとぽいが…つて子供は見てはダメだ!!」

そこにはときあめを襲っているぽいとスケブ片手に何かをしてい  
る秋雲がいた!!

長門「秋雲来い!!」

秋雲「ぐえ!?!新作があああ!」

ずるずるがたがたてくてく

執務室

長門「提督、原因を連れてきた」

秋雲「へぶ!？」

鈴木「また秋雲か…」

秋雲「違います!! 私は偶然居合わせただけの絵描きです!!」

鈴木「…秋雲以外出ていってくれ…」

ぞろぞろ

しばらくお待ちください

鈴木「秋雲が吐いた犯人は工廠ズだ」

吹雪「あの二人なら朝早くから旅行にいきましたよ?」

鈴木「逃げたな…仕方ない、最上と夕立を縛って放置しててくれ、

くれぐれも手を出さないこと」

最上「ご飯はどうするの!？」

鈴木「俺が与える」

数日後…

明石「いい旅行でした!!」

夕張「またいきたいね」

鈴木「お帰り♪」

明石「お土産あります?」

鈴木「制裁♪長門、園長」

長門「来てもらおうか?」

天龍「来なきやひどい目にあうぜ」

ずるずる

此方最上とぼいのいる部屋

長天『二人共、原因だ!!』

最ぼい『ふううう』

明石「ぎんぎらぎん!？」

夕張「いやくな予感が…」

天龍「ありや何日だ?」

長門「1週間だな…頑張れよ二人共」

明石「ちよ!？」

夕張「開けてよ!!」

壁『反省したら出すから潔くやってる♪』

別室

鈴木「あの部屋(『閲覧規制』するまで出られない山ちゃんの部屋改)残しといて良かったな」

山城改「ええ…」

とりあえず書かないからな!!

またもや吹き飛び数日後

天龍「スゲー獣臭いな」

長門「ああ、さてと片付けるか」

ずるずるべちやつ

天龍「提督、バカ二人と最ぼい入れてきたぜ」

鈴木「長門もご苦労様、ゆっくり休んでくれ」

たんたんたたーん♪

最上「直りました!!」

ぼい「ぼい」

これにて一件落着かな?

明石「ぶくぶくぶく」

夕張「大きなキノコが二本…」

しばらく漬かってなさい!!

くくく♪

何で温泉が? 次回は夜風と温泉を気長にお待ちください、メカニツクの新発明品もでるぞ!!



## 第肆拾壹航海夜風と秘湯

始まりは些細なこと

狐式「父上が崖下に温泉があるって言ってたよ」

赤城「温泉：卵：ジュル」

鳳翔「天然温泉かしら？」

赤城「お母さん、皆で入りに行こうよ!!」

鳳翔「そうねたまには温泉でリフレッシュしましょうか」

狐式「ご馳走さま!!」

鳳翔「またのお越しを」

時空移動中の狐式「たまに父上が入ってるって言うの忘れてたけど  
まあいつか♪」

「そんなわけで食堂閉店後：怪しい人影が…」

???「先に入ろつと」

瑞鶴（七面鳥）である

瑞鶴「○!?!」

てくてく

此方は崖下温泉：先客がいるようです

???「ふい〜」

瑞鶴「ねえ」

???「ん？」

瑞鶴「今から入るんだけど」

???「ここ、混浴だぞ」

瑞鶴「そうなの!?!」

???「ああ、因みに山の仲間達御用達だ」

瑞鶴「そう：ところであんただれよ」

???「狐式の父上優奈だよろしくな瑞鶴」

主人公（笑）

???『ついでに元神主の源九郎』

瑞鶴「そう…って何で名前知ってるの!?!それと源九郎さん透けてる  
じゃない!?!」

源九郎『霊体でいつもは優奈君のなかにいるのだがね』

優奈「メカニツクの発明品のお陰でな」

源九郎『たまにはのんびり湯に浸かりたくてな無理を言って造って貰ったんだよ』

優九郎『湯船専用特殊装置』

瑞鶴「そうなの」

優奈「名前は簡単さたまに俺は鳳翔食堂に居るからな」

瑞鶴「いるの!？」

前話

優奈「暇つすね〜」

前々回

優奈「一杯食べる君は凄い♪」

戻ろう

優奈「てな具合に」

瑞鶴「そういえばいたような?」

源九郎『とりあえずその格好では風邪を引くぞ』

瑞鶴の装備、タオル一枚

その時である

???「ぐあ」

熊襲来!?!危うし瑞鶴!?

優奈「よう、熊之助」

熊之助『旦那!!狐の嬢ちゃんはいないのかい?』

優奈「狐式なら家で入るだよ」

熊之助『そうですか…』

瑞鶴「(何で会話が成立してるの!?)」

優奈「稲荷神社のご利益だ」

源九郎『私と妻の加護だ』

優奈「源九郎さん、かえりますよ」

源九郎『おや、今日は長風呂になってしまったね』

瑞鶴「帰るの?」

優奈「明日学校だからなさつさと帰らんとこわ〜い先生の雷ドツ

カーン！だ」

では朝

鈴木「おはよう」

摩耶「よっ！」

天龍「また寝癖ついてるぞ」

鈴木「すまん」

瑞鶴「おはよう」

加賀「おはよう瑞鶴」

鈴木「瑞鶴、昨日崖下にいたな？」

瑞鶴「ええ、温泉に入りに行ったわ」

鈴木「あれ、普通入れないからな」

瑞鶴「へ？」

鈴木「あの温泉は特殊でな夕方から朝方までの温泉だ昼は普通の海水だからな」

瑞鶴「そうなんだ…」

鈴木「効能は美白と疲労回復と何故か出汁が録れるらしい」

暫くはツヤツヤな艦娘が多くなり珍しく鈴木が成分分析した結果未知なる物質が見つかったが気にしないことにしたそう

~~~~~♪

虫ね〜次回はトレイン？ビースト？インセクターを気長にお待ち下さい

第肆拾式航海トレイン? ビースト? インセクター?

メカニックこれくしょん、今回は工廠にある簡易ラボから話を始めよう

明石「提督の真似をして作りましょう!!」

夕張「おー!!」

とってんかっぺんんでもって次の日

明石「出来ました!!」

そこには見事な蒸気機関車がありました

夕張「名前なんにする?」

明石「んゝ『私はシューティングトレインであります!! マスター』
しやべった!?!」

シューティングトレイン「夜更けに怪しい輩が高性能AIを取り付けて逃げたのでこれ幸いと言語機能を取り付けたので有ります!!」

明石「メカニック印の超高性能AI!?!」

夕張「メカニック印って確か…」

明石「私達のお給料六年分だよ!?!」

シューティングトレイン「ついでにチェンジ!!」

明夕「変形した!?!」

シューティングトレイン「このように変形もできます!!」

明石「すごい!! これならイケる!!」

夕張「遠征の人達が楽できる!!」

明石「提督に見せに行きましょう!!」

すたすた

執務室く

明石「提督!!」

鈴木『あっ』

明石「ごゆっくりく」

数時間後…

鈴木「明石何のようだったんだ?」

明石「メカニック印の超高性能AIのお礼です!!」

鈴木「知らんぞ?」

明石「じゃあ誰が?」

次の日

鈴木「漸く完成した!!新たなスカイ組のレメカ、バードスナップだ!!」

バードスナップ「はじめまして!!バードスナップです!!」

遊びに来た優奈「ビーストか?」

鈴木「ヘルフェ○ツクスをモデルにした奴だからなく後、換装シテムを搭載しているから背中のスラスターを変えたらはい」

???スナップ「グリフィースナップになります」

鈴木「追加機能も近々搭載予定だ」

「それでもって数週間後」

工場では水着姿の明石と夕張、いつものだらしない格好の鈴木がなにかを造っていた

鈴木「裏の畑でブルーが鳴くつと♪」

明石「正直じい様アツー!!」

夕張「出来ました!!」

鈴木「ハンマーボディの兄弟機リボルバーボディだ!!」

リボルバーボディ「おっす!!俺はリボルバーボディ誰を討つんだ?」

明石「物騒!」

夕張「カブトムシ?」

鈴木「ハンマーボディはクワガタムシだからなそれの対になるよう造っていたんだ」

リボルバーボディ「ハンマーボディって奴を倒せばいんだな?」

鈴木「違う違う、仲間だからな!!」

シューティングトレイン「おや?見ないメカですネ?」

バードスナップ「確かに:新型か?」

リボルバーボディ「俺はリボルバーボディだおたくらは?」

シューティングトレイン「私はシューティングトレインです」

バードスナップ「俺はバードスナップだ」

??? 「ついでに俺はお前の兄ハンマーボディだ」

メカ組『歓迎しよう!!』

何やら新しいのが増えてきたようです

~~~~~♪

ね…さま…次回は再開…を気長にお待ち下さい

## 第肆拾慘航海再会と目覚める○○

最近ある噂が流行っていた…

また鎮守府に出たらしいよ

あの妖怪山探しが!?

そうなのよ、隣の鎮守府も壊滅寸前までやられたそうよ!!

隣の鎮守府は妖怪食っちゃ寝がやったから違うわよ

つとまあ物騒な噂が流れていたそして…ここメカニック鎮守府でも…

山城改「妖怪山探しですか?」

鈴木「ああ、憲兵γに調べさせたらここら一体の鎮守府ばかり狙われていて残りはここしかないんだ」

長門「妖怪なぞこのビッグセブンの敵ではない!!」

憲兵γ「失礼する提督、山城改さんにお客様です」

山城改「誰かしら?」

すたすた

では執務室に戻ろう

憲兵γ「実は山探しの正体がわかりまして」

鈴木「大体わかった」

長門「いやいや、わからないからな!？」

憲兵γ「始めに襲われた鎮守府には知り合いの憲兵αスペリオルがいます」

αスペリオル『あれは扶桑型に似ていた!!ちようど満潮ちゃんが来たと同時に現れたからな間違いなく扶桑型だ!!』

鈴木「最終的に合体しそうだな」

イーグル的な奴かな?

山城改『ねえさま!?!』

鈴木「どうやら来たようだ、逝くぞ〜」

すたすた

少しだけでもどるよ

山城改「宅配はないし、ときあめとぼいの餌は違うし最上用の「闘

覧規制」じゃないし」

とうとうあの二人はワンちゃんポジ…もがみん強く生きるんだぞ

…

?? 「久しぶりね山城…」

山城改 「扶桑ねえさま!」

再び少しだけ戻して??が寝ている部屋

?? 「ん…ここは…」

?? 『目が覚めたかい』

?? 「あなたはだれ?ここは何処?」

?? 『俺はビッグラングル、ここはメカニック鎮守府で君は半年間眠っていたんだ』

?? 「半年!?北上さんは!?北上さんはいるの!」

ビッグラングル 『ああ、大丈夫だ今は談話室にいるよ』

?? 「談話室まで案内してくれませんか?」

ビッグラングル 『その前にお粥食べるかい?』

では戻り玄関前では山城改が扶桑?を抱き締めていた

山城改 「ねえさまあああ」

扶桑? 「もう、泣かないの」

鈴木 「ピッ」

長門 「あれが山捜しか?」

憲兵Y 「そうは見えないな」

鈴木 「扶桑?さんとここに文月が行ったぞ!!」

文月 「ふみい?」

扶桑? 「可愛いわね?名前は」

文月 「ふみい!!」

扶桑? 「ふみいちゃん、私は山城の姉の扶桑よ」

その時である!?

プピー

またブラック提督が出たぞー!!

警報変えろ!!

扶桑? 「そういえばさつき私に似た人がいたような?」



山城改「今はねえ様を紹介することが先決です!!」

文月「ふみい!!」

結局山捜しとは誰なのか?それは判らない…

~~~~~♪

お粥を食べ終わりいざ行け談話室!!次回は北上探して徒歩三分大
きさの概念は捨て去れ!!を気長にお待ちください

第肆拾肆航海北上目指して徒歩三分、大きさの概念は捨て去れ!!

前回の分かりやすくいあらずじ

半年間寝ていたとある艦娘が目覚め、山城の姉さんが着任しましたでは、医務室にカメラを向けよう

ビッグラングル「熱いから気を付けるんだぞ眠り姫」

眠り姫「私は大井です!!」

ビッグラングル「それは失礼、北上ちゃんが『あれは眠り姫で王子様の口付けで起きるんだよ』『ふみい!!』って会話をしていたからね」

大井「もう、北上さんったら〜」

ふうふうはふはふ

大井「ご馳走様です、ビッグラングルさん談話室に連れて行って下さい」

ビッグラングル「かしこまり」

一方談話室では：

『イスタンクラッシュ!!』

『ぬああああ!?!』

『ゲームセット!!』

初雪「最終ステージ難しい!!」

りりぐマツグ「そうか?」

北上「やりすぎだよ」

ダイナシグマ「ノダメ、ノーアイテムはリグ位だからな」

家庭用ソフト大乱闘通りすがりブラザーズをしていた

りりぐマツグ「マスターは通りすがり兄でMEGAMAXvery

hardノダメ、ノーアイテム、最終ステージ二秒クリアしてるから

な

リグマツグ以外『なにもんなんだよ!?!』

鳳翔食堂の優奈『ただの通りすがりさ♪』

ダイナシグマ「MEGAMAXveryhardって確か、開始コ

ンマレベルで吹っ飛ばされる位ヤベー難易度だろ!？」

ℓリグマツグ「マスター曰く受け流しとカウンターで余裕らしい」
ダイナシグマ「反応速度高すぎだろ!？」

優奈『あれよか速い奴見てるからなくつとかつとじうどんと長良そばめしと加賀御膳お待ち』

赤城『ありがとうございます!!』

では戻ろう

ビッグラングル「ここが談話室だ」

大井「ありがとうございます」

ℓリグマツグ「お、新入りか？」

ビッグラングル「医務室の眠り姫だよ」

ℓリグマツグ「ああ、あの眠り姫か、私はメカニックメカ2号ℓリグマツグです」

ダイナシグマ「俺は超古代文明の叡智ダイナシグマだ!!」

ビッグラングル「他にもいるが今日は皆用事（買い出しついでにブラ鎮破壊）で抜けているんだ」

ブラ鎮破壊中のアナザーギガントカウント「五人抜けるとパワーダウンが否めないな」

残りは壱逢世界にオーシャングリッドと買い物にシューティングトレインである

では、談話室に戻ろう

北上「おはよう：大井っち」

大井「北上さあぁん!!」

北上「大井っち苦しいよ」

ダイナシグマ「あの二人って『聞くのは野暮だ』だな」

ビッグラングル「感動の再会スペシャルでも青葉に頼むか？」

ℓリグマツグ「それいいな、今度頼んでみるか」

その時である!!

プピ〜♪

ダイナシグマ「仕事だな」

ℓリグマツグ「逝きますか？」

ビッグラングル「労災降りるかな？」

レダイナ『メカだしむりだろ』

ティン丸出しのブラック提督が来たぞー!!

警報変えろよ!!

今日もブラック提督はやって来る…

また増えてきたな…捌けるかな？

くくく♪

赤木さんがメカニック鎮守府に来たようです…次回は赤木さんとかがさんメカニック鎮守府に行くをかなり気長にお待ちください

第肆拾伍航海赤木さんとかがさんメカニツク鎮守府 一般公開に行く前編

では、今回の始まりは…

赤木「何か緊張するな〜」

かが「わふ」

赤木さんとかがさんがいた

遡ること一週間前

赤木「ただいま〜」

かが「わん!!」

赤木「つかれたよ〜あのハゲ定時ギリギリで仕事増やさないでほしいよ!!」

かが「わふ」

〜〜〜♪

赤木「もしもし?」

???『こんばんは、赤木さんの携帯で間違いはありませんか?』

赤木「はい、間違いありませんがあなたは?」

???『失礼しました、私はメカニツク鎮守府の憲兵αです』

赤木「メカニツク鎮守府!?私はやましいことはしてませんよ!?!」

憲兵α『いえ、来週一般公開をするので招待するよう加賀さんに頼まれましたつきましては仕事に支障がなければお越しく下さい』

赤木「は、はあ」

憲兵α『今なら天然温泉『行きます!!』かしこまりました』

赤木「かがさんを連れていっても大丈夫ですか?」

憲兵α『大丈夫です、メカニツク鎮守府には狐や熊、猫に鹿もいますよ』

赤木「では来週』

憲兵α『はいそれでは失礼いたします…辛いことがあれば我々が力になりますよ』

赤木「それでは」

かが「く〜ん？」

赤木「かがさん、来週メカニック鎮守府に行く？」

かが「わん!!」

そんなわけで現在

赤木「一般公開っていつでも人少ないね」

???「そりやそうさ、ここ以外は金取るからね」

赤木「そうなんですか!？」

???「お国のためとか言いながら艦娘に酷い事をしながら豪遊してる奴らが多いんだよ!!それに比べてここはいい!!何てつたてここの提督は地域交流会を開いたり農らの手伝いをしたりする優しい提督じゃからの」

赤木「そうなんですか」

憲兵α「ようこそ!!これよりメカニック鎮守府一般公開を始めます!!」

加賀「では、私に付いてきて下さい」

赤木「加賀さんがいる!!」

チビツ子「は〜い!!」

すたすた

加賀「ここは鎮守府の本館で執務室や医務室に記録室、娯楽室があるわ」

鈴木「ようこそ、私はここの提督の鈴木です、ここからは私が案内します」

赤木「冴えない人だな〜」

鈴木「はい、その赤城さんのそっくりさん!!冴えないとか言わない!!泣いちゃうよ!!」

赤木「聞こえてた!？」

鈴木「続けましょう、この本館少しデカイのは何故か知っていますか?」

チビツ子「何で?」

鈴木「それは丁度いい、お〜い!!」

マスターズパイラル「どうしましたか?」

チビツ子「すげー!!」

鈴木「いや、丁度いたから声をかけただけだ」

マスタースパイラル「さいですか、ようこそ私はメカニック鎮守府のマスタースパイラルこう見えてジェット機型メカだ」

鈴木「談話室に他のがいるかも知れないよ」

マスタースパイラル「チームダイナソーとボデイ兄弟は夕方まで釣り同好会と一緒に釣り行ってますよ」

鈴木「ありや、これは残念」

加賀「私も釣りの予定でしたが提督が泣き付いてきたので泣く泣くこちらにいます」

鈴木「加賀さんは防波堤専門でしょ!？」

加賀「では、本館内部へ行きましょう」
すたすた

鈴木「ここは談話室、今なら大抵の子はいるかな？」

文月「ふみい!!」

マグナクルグ「いや〜文月ちゃんは強いな〜」

ℓリグマツグ「流石メカニックメカー手加減の出来るメカだな」

スカウカンター「ああ、俺たちはマスターのテクニックがインプットされてるからな」

アカウンタリビー「いらっしやい、このような格好で申し訳ない」

鈴木「このように遊んでいたりします、はい!そこの悪い顔してるお兄さん、ちよつと憲兵呼ぶよ!!」

お兄さん「すみません、風邪で来れなかった弟に写真をやろうと思つて」

鈴木「ならちゃんと許可取らないとダメだからね!!」

お兄さん「はい…」

文月「ふみい?」

ℓリグマツグ「我々を撮りたいのか、よし今暇しているメカは談話室に集合!!」

数分後

鈴木「まさか撮影会をすることになるとは…」

ッリグマツグ「バリエーションは沢山あるからな」

カスターペガ「私達とラングルズは武装合体で行けますよ♪」

ランドラングル「ルールは守ろうぜ!!」

熊が出たぞく!!

球磨「クマ?」

憲兵Σ「球磨ちゃんじゃなくてガチモンの熊だよ!」

熊「ぐあ!!」

暇潰しに来た優奈「どした熊之助」

熊之助『昨日から子供が帰って来ないんです!!』

優奈「巢立ちしたんじゃないの?」

熊之助『まだ一月なんですよ!! 巢立ちは早すぎです』

クルツポー

優奈「さいですか、熊之助、子熊なら電ちゃんの部屋にいるだと」

鈴木「マジカー電ちゃん、子熊連れて港まで来てくれ」

数分後

電ちゃんは前足を怪我した子熊を連れてやって来ました

電「昨日罨にかかっていたので応急処置していたのです」

熊之助『貴女には助けられてばかりだ、いい加減恩を返したいのだが…』

電「好きでやっているだけなのでいいのです」

熊之助『そうだ、こいつを貴女の傍に置いてください、どうやら貴女に偉くなついているようだ』

優奈「翻訳疲れる、さてどする?」

野生動物特に熊の飼育はほぼ無理です、良い子、悪い子は絶対に親御さんに『熊飼いたい!!』とか言わないようにしよう!!

電「わかりました、熊さんあなたのお子さんお預かりするのです」

電ちゃんはお父さん熊から子熊を預かった!!

子熊『よろしく!!』

球磨「クマ?」

だから球磨ちゃんじゃなくてガチモンの熊!!

鈴木「ここからは熊さんが驚くので大声を出さないようにしてください」

さい」

では、この辺で

~~~~~♪

愉快的アニマル達が赤木さんを癒す…かも？次回、赤木さんとかが  
さんメカニック鎮守府一般公開に行く後編を気長にお待ちください

## 第肆拾録航海赤木さんとかがさんメカニック鎮守府 一般公開に行く後編

前回の土底辺でイキってる奴らにもわかるあらすじ…

いつものように帰って来た赤木さん、加賀さんに招待するよう頼まれた憲兵αによりメカニック鎮守府一般公開に行っていた

鈴木「ここは食堂なんだけど…」

狐式「はぐはぐはぐはぐはぐはぐはぐ」

赤城「負けませんよ!!」

フードバトルをしていた

鈴木「こりや、明日からお茶だけだな」

優奈「俺はバイトの優奈だロリコン提督食材は安心しろ、ちよつと知り合いに頼んで工面したからな」

鈴木「知り合いつて?」

優奈「I O K三浦」

鈴木「誰!?!」

優奈「先代メカニックならわかるか?」

鈴木「師匠かよ!?!」

優奈「話の判る方で助かったよ」

回想の方は、はしよるがな

では、次へ参ろうか

鈴木「ここは工廠兼私のラボも兼ねてる建物です」

明石「私は工廠の管理を任されている明石です!!」

夕張「同じく管理補佐の夕張です!!」

赤木「メロン?」

夕張「脱いだらスゴいつてバカ!!」

鈴木「コンプレックス持ちが多いからなく」

お兄さん「工廠見学はできますか?」

鈴木「今はダメだよ、次の一般公開には見せるよ」

優奈「工廠は軍事機密の塊だからねくんじゃまた夕方来るわ」

狐式「きゅく!!」

鈴木「次が最後かな？」

すたすた

加賀「ここは鳳翔さんが働いている鳳翔食堂です」

赤城「美味しい料理が沢山あります!!」

おじいさん「農らの時代とは大違いじゃな」

鳳翔「ええ、あの頃は食べるものもありませんでしたね」

鈴木「ツアー最後はここで食事です、皆様艦娘達と楽しくお話し  
よう!!」

最近そうゆうツアー無いもんな

???「いかがわしいDVDに似たようなのありましたよ!」

???「やはり腐れマツドは殺るか?」

鈴木「普通に紛れないでねゆきちちゃんと恭!!」

ゆき「優にいに頼まれて来ました!!」

恭「煙草が切れたから来た」

鈴木「お前煙草吸わないだろ!!」

山城改「提督、恭さんってZEROさんですか？」

鈴木「ああ、ゆきコンを拗らした結果だ」

恭「ゆきに悪い虫が付かないようにな」

鈴木「こっちは山城達がいるからな」

恭「貴様のような猿がいるかも知れないから不安だ」

鈴木「ほれ、ゆきちちゃんのカレー味オイルだ」

恭「ヒヤッハー!!たまんねえぜ!!」

鈴木「これがなければイケロボなんだよな」

数時間後

加賀「これにてメカニック鎮守府一般公開を終わります」

赤木「楽しかったね!かがさん」

かが「わふ!!」

憲兵α「いたいた、赤木さん!!」

赤木「何のようでしょうか？」

憲兵α「裏一般公開です」

赤木「裏一般公開？」

憲兵α「加賀さんに頼まれてましてね着いてきて下さいすたすた

憲兵α「こちらは試験場です」

赤木「私は構いませんがかがさんは逃がして下さい！」

憲兵α「いえ、入れれば判りますよ」

ガラガラガラ

憲兵β「ようこそ、メカニック鎮守府ふれあいランド（仮）へ」

加賀「いらつしやい」

狐式「いらつしやい!!」

熊之助「があ」

鹿「きよーん!!」

白「わふ!!」

黒「わん!!」

狸吉「いらつしやい」

鷹助「びゅい」

蛙野「げこ」

優奈「ある程度は連れてきたぜ!!」

鈴木「お疲れちゃん」

赤木「あの…ここは？」

優奈「俺の家族や友達を連れてきた試験場だ!!」

赤木「優奈さんの家族ってムツ〇ロウですか？」

優奈「んにや、その狐と狼と蛙は稲荷神社の関係者って言うか俺の前世の家族だ」

蛙野「九郎ちと変わってよいか？」

優奈「いつものようにやりなさい」

蛙野「ふう、やはり人形の方が楽でいいわ」

優奈「妖力を大量に使うからあまり成りたくないとか言わなかったか？」

蛙野「たわけ!!九郎が逝って幾ばくもの時の間修行をしたのじゃ!!」

稲荷神社にいる優狐『居間でゴロゴロしながら落語番組を観てたの  
にね?』

赤木「え!?蛙がバインバインな美人さんになった!？」

蛙野「僕は青蛙の蛙野じゃ歳は百から先は忘れた!!」

赤木「妖怪!？」

かが「ガルルル」

蛙野「安心せい、僕は九郎に頼まれて来たのじゃ」

優奈「俺はそのメカニックに頼まれた」

鈴木「俺は加賀さんに頼まれた!!」

加賀「赤木さんを偵察機で覗き…提督に頼みました」

赤木「プライバシー筒抜け!？」

加賀「アニマルセラピーついでにここで働かない?」

赤木「いえ、職場が『あのハゲ定時ギリギリに渡すなよ!!しかもジ

ロジロと見てたし!!』それは…」

鈴木「今なら温泉とフレンドリーな先輩が丁寧に教えてくれるよ

!!」

優奈「悪質な勧誘だな」

ゆき「鈴木さんがそういうDVD持っていました!!」

ZERO「ゆきに悪影響が出るから破壊したがな」

鈴木「だまらっしゃい!!」

赤木「でも…」

~~~~~♪

優奈「モヒカン?」

??『フサフサです!』

優奈「んで、どしたの?大和」

大和『優奈さんに頼まれて調べてた赤木さんの職場あれ叩けば埃ど

ころか四トントラック呼ぶくらい不正だらけですよ!?!しかも直談判

も意味ないくらいの腐れ企業!!』

優奈「向こうなら余裕で動けるんだがなくそうだ、鈴木」

鈴木「なんだ?」

優奈「レとマグナ借りるぞ」

鈴木「カチコミか？」

優奈「ああ、赤木さんとこの職場潰してくる」

その間赤木さんはアニマルセラピー中で聞いてません

ゆき「ご都合展開です!!」

ZERO「オチは赤木さんは鳳翔食堂の住み込みになっただな」

くくく♪

文月ちゃんと女将が憲兵αの家族!? 次回は憲兵αの実家訪問を予定しているので気長にお待ちください

第肆拾七航海憲兵αの実家訪問前編

ガタンゴトンガタンゴトン

電車の中からおはこんばんちわ、今回は憲兵αと女将、文月ちゃんとおります

憲兵α「鳳翔さん、すみません」

鳳翔「大丈夫です」

文月「ふみい!!ふみい!!」

何故に電車かというと遡ること数週間前

憲兵β「αく手紙だぞ」

憲兵α「あんがとさん」

憲兵β「誰からだ?」

憲兵α「田舎のお袋だよ」

憲兵β「田舎のねく俺も手紙書くか」

憲兵α「マジかー」

かいつまんで言うと

憲兵αの母『はよ、嫁さんと孫の顔見せんか!!』

である

憲兵α「嫁さんと子供いないからどうするべきか…」

???「あの…αさん、文月ちゃんが『いたああああ!!!』ど、どうしたのですか!?!」

憲兵α「鳳翔さん!!」

鳳翔「は、はい!?!」

憲兵α「文月ちゃんと一緒に私の実家に行きませんか?」

鳳翔「よ、よろこんで!!…え!?!αさんの実家!?!」

物陰の???「青葉見ちゃいました!!」

次の日

談話室横の掲示板

ざわざわ

加賀「ありえないわ…」

赤城「ええ」

そこには『青葉の号外!!憲兵αと女将、禁断の恋!?結婚秒読みか!』と書かれていました

憲兵β「見られてたか」

加賀「βさん、これはいったい?」

憲兵β「αのお袋が嫁さんと孫の顔が見たく手紙を出したがαつて
独身だろ?丁度女将が来たから文月ちゃんと一緒に振りをしてもら
いたいんだと」

加賀「なるほど、お母さんと文月ちゃんは了承したの?」

憲兵β「さあな、根気よく行けば女将は折れるだろうし文月ちゃん
は着いてくдарろ」

んじやま前日

鈴木「しばらく休暇ね〜羨ましいよ」

吹雪「提督は学生さんですからね」

鈴木「ああ、こりや帰ったら留年かなあ〜」

優奈「先輩呼びだからなく」

ゆき『歳上になりました!!』

鈴木「いやいやゆきちゃんは年下だからね!」

吹雪「大丈夫ですか?」

鈴木「ああ、問題『入るぞ〜』αさんどうしましたか?」

憲兵α「これより女将と文月ちゃんを連れて実家に帰省します!!」

鈴木「シューティングトレイン使うか?あれなら目的地まですぐ着
くぞ?」

憲兵α「いいですね、ですが文月ちゃんに田舎の風景を見せたいの
で夜行列車で行きます」

鈴木「了解、気を付けろよ〜」

憲兵α「それでは」

鈴木「はあ…しばらく女将さんの飯はお預けだな」

吹雪「鳳翔さん、最近働き過ぎでしたしいじやないですか」

鈴木「だけどなく暴食漠食狐は納得するだろうか?」

：

狐式『ご飯がないならこの鎮守府を破壊するだけだあ!!』

吹雪「前ははなんとかなりましたし大丈夫ですよ!!」

鈴木「だといんだがね」

では電車も目的地に着きましたし今回はこれにて

~~~~♪

αさんの家族は優しい人達だらけです、次回は憲兵αの実家訪問後  
編をあまり期待しないで気長にお待ちください

## 第肆拾鉢航海憲兵αの実家訪問中編

前回のメカニックこれくしょんは…

憲兵α「女将と文月ちゃんを連れて田舎に帰省中」

狐式「この鎮守府を破壊するのを辞めることはできぬううう!!」

優奈「ハイハイ帰るぞ〜」

鈴木「んじやま本編行ってみよ〜」

憲兵α「帰って来たぞー!!」

文月「ふみい!!」

鳳翔「あらあら」

目的地に着いたようです

憲兵α「都会を離れると長閑な田園風景なんですけどね〜」

鳳翔「ソーラパネルだらけですね…」

都市開発の流れは自然豊かな景観をも破壊する…おのれデイケイ

ドオオオオ!!

憲兵α「天さんはほつといて行きましょう」

鳳翔「はい」

あり?二人共いないなく文月ちゃん知らない?

文月「ふみい!!」

さいですか、んじやま蜻蛉や蟬探しながら行きますか?

文月「ふみい」

女の子の遊びは分からんからなく綺麗な石でも探す?

文月「ふみい!!」

分からん!!仕方ないのでカメラを憲兵αに向けよう

鳳翔「文月ちゃんは追い付くかしら?」

憲兵α「天さんがいるし大丈夫ですよ」

鳳翔「あの人何か嫌な気がするのですが…」

憲兵α「大丈夫ですよ!!文月ちゃんに手を出したらこわ〜い人特に

園長が笑顔になりますよ♪」

文月「ふみい!!」

やっと追い付いた!!流石にポリスメンは御免だからな道行く人に

聞いてきたぜ!!

憲兵α「後ろにポリスマンいますよ?」

んな訳ないだろあれは田舎を専門にしてるポリスマンのコスプレしたハイエースの中川さんっていう筋金入りの変態だ

憲兵α「取っ捕まえて来ます…」

鳳翔「お気をつけて」

文月「ふみい!!」

その後憲兵αの活躍によりこの地域における連続ハイエース誘拐未遂はピタリと止みました

では少し戻してようやくαの家に着きました

憲兵α「着い『メエ』久しぶりだなく山羊助」

山羊助「メエ」

メカニック鎮守府にいる優奈『不審者が来たぞ!!』

文月「ふみい」

山羊助「メエ」

優奈『不審者が幼女を拐っているぞ!!』

???「騒がしいわね」

憲兵α「只今、お袋」

αの母「あなた!? 彰が…彰がべつぴんさんと子供連れて帰って来たわよ!?!」

αの父「ナニイ!?!」

鳳翔「大丈夫なのでしょうか?」

α「大丈夫です…多分」

文月「ふみい!!」

山羊助「メエ」

優奈『儂の角が光ぜ?』

文月「あるふあさんはつよいよ!!」

山羊助「メエ」

優奈『アレがか? あやつは儂が驚かしたら直ぐ漏らす軟弱な雄だ』

鳳翔「えい?」

パリッ

優奈「ピンポイントだな…よつと」

α「もうツツコミませんよ…」

優奈「大丈夫だすぐ帰るからな」

文月「ふみい〜」

山羊助「メエ〜」

優奈『ふははは、やはり軟弱な雄の子は軟弱だな!!』といっ  
ていま  
すんじゃ帰る」

じゃ私も帰る

〜〜〜♪

ガハハハ!! 次回は今度こそ憲兵αの実家訪問後編を予定して  
おりますので気長にお待ちください

## 第肆拾九航海憲兵αの実家訪問後編

前回の分かりやすいあらすじ山羊に泣かされた文月さあ、反撃だ!!  
では本編行こう

文月「ふみいく!!!」

憲兵α「どうしたんだ?」

鳳翔「山羊さんに虐められたようですね」

憲兵α「山羊助ダメだろ」

山羊助『軟弱軟弱!!』

メエくしかわからんからな

そこに二つの影が忍び寄る

???「αお兄ちゃんだ!!」

???「いつ帰って来たの?」

憲兵α「久しぶりだな!!睦月、如月」

ムツキーとなんちやってヤンキーである

文月「ふみい?」

鳳翔「天さん?」

さーせん

睦月「最強にやしい!!」

如月「α兄さんみたいな人達とダチになる女の子です!!」

α兄さんはロリコンだからなく

鳳翔「少し距離開けます…」

文月「ふみい?」

憲兵α「天さん?」

おく怖わ、お袋さんが呼んでるぜ、はよ行きなさい

山羊助以外『はい』

すたすた

見よ!!客間を多い尽くさんばかりの人を!?!祝え!!憲兵αの帰還で  
ある!!

メカニック鎮守府にいる優奈』とどのつまり、ちょうど親戚一同集  
まっていたのである』

α父「彰にべっぴんさんは勿体ないから儂と結婚『あなた?』飲んでくれジョークだよ」

α母「ささ、彰?こんなべっぴんさんはどこで捕まえたのか吐きなさい」

憲兵α「メカニック鎮守府で会って猛アタックしてようやくですよ」

…空気変わったな

α母「彰、今すぐ別れなさい」

憲兵α「お袋?」

α母「メカニック鎮守府って罪の無い艦娘達を見せしめで『閲覧規制』する所でしょ!」

憲兵α「違う!!あの提督がそんなことしない!!提督の何が分かる!!あいつがいなけりや俺は今頃墓穴だ!!」

鳳翔「提督さんは、この世界を破壊してくれる優しい人です!!」

文月(乙装備)「おばあちゃんはしれいかんをしらないからいうんだ!!あくだいかしちやおけないんだ!!」

憲兵α「文月ちゃん!」  
パリッ

優奈「仕方ないにや〜」

カメン♪ロリニック鈴木

???「へぶ!」

鳳翔「提督!」

鈴木「いてて…ありやαに女将に文月ちゃん?何でいんだ?」

憲兵α「ここは私の実家です」

鈴木「そなの?あつ、どうも私はメカニック鎮守府提督で憲兵αの上司鈴木兼続自称天災メカニック鈴木です」

α母「あなたが悪名高きメカニック鎮守府の提督ね!!」

鈴木「悪名高きねえ?やっぱり大本営潰すか…」

憲兵α「いやいや、潰したら皆さん路頭に迷うから!」

鈴木「現役高校生だし知らんがな」

憲兵α「提督の世界に就職先ありますか?」

鈴木「そういやブルーさんが接客と裏方と踊り子募集してたし夕級さんとこは近々居酒屋もするから裏方募集してたな」

憲兵α「ブルーさんとこは遠慮します、β見たいに掘られたくありません」

文月「おどろこしたい!!」

憲兵α「意味が違うからね!」

鳳翔「秋雲ちゃんの本かしら?」

メカニツク鎮守府の秋雲『新刊は最上くんX島風君のヤツにしよう!!』

アシスタント白雪『そこはときあめとぼいのほのぼのや長門さんと文月ちゃんの日常にしない?』

秋雲『創作意欲が高まってきたよ!!今のを同時進行で描こう!!』  
では戻ろう

鈴木「そういやα、ターボが不正資料markⅡ捜してたが知らんか?」

憲兵α「第一資料室にあるはずですよ」

鈴木「んじや帰るよ」

文月「ふみい…」

鈴木「ゆきちゃんを思い出すなくあの頃はあどけない天使だった…  
今も天使だけどね」

壱逢世界メカニツクラボにいるゆき「何か今馬鹿にされたような…  
メカ鈴木さん?」

メカ鈴木『ユキチャン、ソコノソケットノハイレッツチガイマス』  
では戻ろう、あり?宴終了!?!では台所に行こう

α母「ごめんなさいねどうやらメディアに洗脳されてたみたい…」  
鳳翔「気にしてませんよ♪私たちは艦娘…海の守り神兼人の成り損

ないですから」  
α母「ところで彰との関係は?」

鳳翔「夫婦です『母親を甘く見ちゃ駄目だよ』あらら」

α母「あいつはヘタレだからねくまあ、嘘でも嬉しかったよ」  
鳳翔「αさんのお母さん」

α母「何時帰るんだい？」

鳳翔「αさんが『たまには親孝行しないとなく明日は畑やら手伝うぞう!!』とおっしゃっていたので来週位迄はいますよ」

α母「ゆっくりしていきなさいって言ってもロクなもんないけどね」

しばらくは田舎生活です

~~~~~♪

救難信号？ 次回は来たぞ我らの二航戦を気長にお待ちください

第拾航海きくたぞ、我らくのにこくうせんく

メカニツク鎮守府今回は海上から物語を始めよう

??? 「うわく蒼龍：おおいねく」

蒼龍 「後、少してメカニツク鎮守府なのに：飛龍走れる？」

飛龍 「右足ヤられたからちよつと無理っばい」

蒼龍 「万事休すね：」

飛龍 「蒼龍：今度生まれ変わっても私達友達だよ」

蒼龍 「さあ？わからないけど善処するよ：」

哀れ二人は沈むのか？いや、その時である!!

??? 「チェンジ!!マスターの兄秘伝痛遅拳!!」

飛龍 「誰!?!」

??? 「間に合つて良かった：私はメカニツクメカ、オーシヤングリツド救難信号を受信して来たんだ」

蒼龍 「救難信号？」

オーシヤングリツド 「あなた達では無いのか？」

飛龍 「あつ私の奴だ、何かの拍子に入ったんだね」

オーシヤングリツド 「ところで貴女方は何故追われていたのかは後で聴くとしてチェンジ!!メカニツク鎮守府に行きますよ」

数分後：メカニツク鎮守府の港に陸奥さんがいた

陸奥 「グリツド？また拾ってきたの？」

オーシヤングリツド 「最近海に棄てるのが流行っているらしいですよソースはなんCHARRAスプリング」

陸奥 「まあいつか、ようこそメカニツク鎮守府へ、私は陸奥、提督は瑞鳳ちゃんの卵焼きと女将の卵焼きとゆきちゃんの卵焼き食べてるわ」

オーシヤングリツド 「お嬢も飽きないな」

蒼龍 「私は蒼龍」

飛龍 「私は飛龍こんな格好で悪いけどよろしくね」

陸奥 「グリツド後は私がしとくわ」

オーシヤングリツド 「感謝します」

では執務室にカメラを向けよう

鈴木「瑞鳳ちゃんのは美味しいし女将のはバランスがいいしゆきちゃんのは少し甘ったるいんだよね〜」

加賀「お母さんに一票」

恭「ゆきのに一票でメカニック殺」

赤木「みんなのに一票」

かが「わふ!!」

何故かいる優奈「かがさんは『女将さんのは私でも食べれるよう味付けされてて美味しかった!!』と申しています」

鈴木「勝者鳳翔!!」

ワアーワアー

優奈「カセット歓声だ」

鈴木「鳳翔さんには週休2日を進呈します!!それと瑞鳳ちゃんには次回は卵焼き以外の宿題とゆきちゃんにはそこの休憩室で朝まで語り合おうか」

恭「やはり腐れマツドだな」

陸奥「ホテルヒゲおじさん、グリッドが二名拾ってきました」

鈴木「最近艦娘達を海に棄てるのが流行っているのか?」

優奈「嫌な流行だな」

陸奥「いらつしやい優奈さんお茶いる?」

優奈「金剛さんの紅茶ならいる」

陸奥「金剛さん紅茶はうるさいからね〜」

お茶会中の金剛「へくち」

榛名「風邪ですか?」

比叡「紅茶に数滴ブランデーをいれるといいって近所のお姉さんがいつてました!!」

霧島「誰かが噂してるんじゃない?」

金剛「これはテートクが噂してるに決まってマース!!」

お茶会に参加しているぽい「金剛さんなんかペガサスっぽい」

テレビ『トムの勝ちデース』

テンテンテテテン

赤城「提督!!お風呂に不審者がいたので無傷で連れてきました!!」
首根っこ掴まれた蒼飛龍『どくも』

鳳翔「ちゃんと服を着せてる赤城ちゃん偉い!!」

鈴木「女将エ…とりあえずようこそメカニック鎮守府へ私が提督の鈴木兼続自称天災メカニック鈴木だ」

優奈「ういゝ俺は通りすがりの嵐だ空気だと思え」

赤木「偉く存在感のある空気ですね…私はメカニック鎮守府の住み込みしている赤木と癒し系マスコットかがさんです」

かが「わふ」

オーシャングリッド「赤城さん、廊下びしょびしょですよ!!」

赤城「ごめんね?」

オーシャングリッド「今私と北上さんが拭いていますですが次やったら秋雲ちゃんが所持している謎水着装備して『私は廊下をびしょびしょにしました』と書いた紙持たしてネオン街に放置するからな!!」

赤城「ネオン街はちよつと…」

ネオン街『イマナラカムストイツシヨニノミクイニセンポツキリ!!』

ナカちゃん『艦隊のアイドルナカちゃんダヨクウツフン♪』

客『オロロロロ』

では戻ろう

優奈「オロロロロ」

加賀「流石に無理ね」

鈴木「ネオン街の人達はインパクト高いからなくところでお二人は救難信号出したの?」

飛龍「実は…」

かいつまんで説明すると飛龍達は鎮守府の不正を見つけて大本営に直訴しようとして見つかり逃げていたのだ

優奈「因みに内容は?」

蒼龍「新人は憲兵の『閲覧規制』で逆らえば皆の前で『閲覧…』も
ういやだ!!私も飛龍も戻りたくない…けど不知火が…」

鈴木「どする?嵐」

優奈「暇潰しの肅清逃れ狩りに行くか…天!!予告よろ」

~~~~~♪

中途半端やなく

次回はミスミープラザーズ対下衆鎮守府を気長にお待ちください

## 第拾壹卷航海ミスミープラザーズ対下衆鎮守府

前回のメカニックこれくしょんは…

飛龍「初春ちゃん…」

蒼龍「不知火が…」

鈴木「優奈…ゴー!!」

では本編に行こう

此方は問題の鎮守府近くの街に優奈がいた

優奈「そこのお姉さん、鎮守府知らない？」

お姉さん「鎮守府だって!?今からまだ間に合うから引き返しな!!」

優奈「安心になって、俺は鎮守府を見に来ただけだよ」

お姉さん「なんだ…ならあの角を曲がって真っ直ぐ行けば着くよ」

優奈「ありがとう綺麗なお姉さん」

お姉さん「私が後、二十若けりや惚れてたよ」

優奈「今でもイケますよほら後ろの電柱にハラハラしている方がいますよ♪」

お姉さん「ありや私の旦那だよ!!」

優奈「心配性なんですネ♪では」シユタ

すたすたニンニン

此方はモンダイノチンジュフ

優奈「広いな」

憲兵「貴様!!何をしている!!」

優奈「ん?見てんだだけだが?」

憲兵「まさかスパイか!!」

優奈「人の話聞けや」

居合飛球斬

憲兵「ぐは!?!」

優奈「峰打ちだ…さて行くか」

すたすた

優奈「そーいや天?」

なんだい?ティン丸出しの屑野郎をタコ殴り中の優奈さん

優奈「ぼいときあめつて何で改二仕様なんだ？」

可愛かったからだ!! 因みに私のところは改だがな…レベル高過ぎなんだよ!! 今、那珂ちゃんと扶桑さんと暁が改二だからな!! 大本営さんレベルの下降修正頼みます!!

優奈「では戻ろう」

それおれのお…

優奈「生臭いしここだな」

あつ、今回はメカニックメカ無しでたのんます後、ダイナソーもね

優奈「さいですか、じゃあ変身!!」

ミスミープラザーズYY!!

優美「また呼ばれた…」

優奈「んじや行くぞく!! ライダータックル!!」

提督「なんじゃ!？」

??? 「も…や…お…」

優奈「おまはんが大将か？」

提督「誰だ!? 儂の楽しみを邪魔するやつは!!」

優奈「もう一度聞く…お前が大将か？」

提督「くせ者だ!! 誰かいなのか!？」

優奈「ご自慢の憲兵は皆おねんね中だ、ところで今まで何をしていた…」

提督「ま、待て!! この化け物をやる!! だから見逃してくれ!!」

優美「どする? とりあえず殺ろうよ、さっさと殺ろうしよう」

優奈「貴様は俺の逆鱗に触れた…死ぬ」

俺は貴女でく貴方は私でくミスミープラザーズ…YY!!

ミスミープラザーズ『さっそく根絶タイムだ!!』

ミスミープラザーズ『さっそく根絶タイムだ!!』

ミスミープラザーズ『ライダークラッシュ』

提督「ぐは!？」

変身解除する

優奈「全く…女の子は優しくしなくちゃダメさねホレ優狐の服だが我慢してな」

??? 「あ、ありがとう」

優奈 「さて、名前を聞こうか？ 因みに俺は優、通りすがりの嵐だ」  
??? 「不知火です…」

優奈 「よし、不知火ちゃん仲間を助けに行くよ!!」

不知火 「待ってください、皆提督や憲兵の…」

優奈 「さいですか…おい、起きろ」

提督 「がは!?! 貴様!! 今すぐ大本営に『残念ですね〜大本営は君を切るよ?』なんだと!?!」

優奈 「そりやそうだろう? 艦娘達をぞんざいに扱う提督を大本営は助ける? 俺なら殺すよ♪」

提督 「そ、そんなわけない!! 私は国のためにやって来たのだ!!」

優奈 「国のためにね〜こりや三面記事は決まりだな!! 『提督謎の不審死艦娘の逆襲か?』 だな…飛龍断貝剣!」

提督 「ぐは!?!」

優奈 「さてと、どうせ地下にいんだろ? 不知火ちゃんはどうする?」

不知火 「ついて行きます…」

すたすたニンニン

地下〜案の定生臭い鎖に繋がれたボロボロの艦娘達がいた

優奈 「うげ〜」

不知火 「イクさん!?!」

優奈 「キヤーイクサーン?」

不知火 「潜水艦伊19です」

優奈 「にしても派手にしてるね〜他はお〜ご丁寧に名前が書いてある先頭は生意気な那智にチヨロい陽炎、妙高、鳥海、羽黒、巻雲にいつちばくん!! 白露、おつまるゆに陸軍魂あきつ丸、見てて惨いな… 不知火ちゃん大丈夫かい?」

不知火 「姉さん…」

く〜く〜♪

メカニックメカ、シューティングトレインのみ修理完了

優奈 「タイミング…さて鎖を破壊しますか!! 古今流奥義…最破碎斬!!」

不知火「大和さんでも千切れなかった鎖が斬れてる!？」

優奈「錆びてたんじゃね？」

かめん、シューティングトレイン&コンテナ

シューティングトレイン「何用ですか？」

優奈「この子達をメカニック鎮守府まで頼む、後着く直前に女将か  
暇してそうな子呼んどいてね」

シューティングトレイン「貴方はどうしますか？」

優奈「元帥メに行くが不知火ちゃんはどうする？」

不知火「優さんについて行きます…」

優奈「さいですか、じゃ頼んだよ」

シューティングトレイン「了解!!」

では、ここまで

~~~~~♪

ここが大本営か…テーマパークみたいでテンション上がるなく次
回は大本営終了のお知らせを予定変更するかもしれませんが気長に
お待ちください

第拾貳式航海大本営終了のお知らせ（笑）

前回の⑨でもわかるメカニックこれくしょんは…

優奈は下郎の鎮守府を解放しお供にチョイとマシな不知火を連れ本拠地に向かっていた

優奈「そーいやミスミープラザーズYYはメカニックに預けてたんだった!! 何であんだ?」

不知火「さあ?」

優さんでも気づかないスピードで入れた奴がいるようです!!

??? 『ふい〜』

優奈「ところで…大本営ってあれか?」

なんか遊園地みたいですね

不知火「遊園地ですか…」

優奈「入場料はつと、高校生一枚に駆逐艦一枚たのんます」

憲兵「入場料はてめえの命だ!!」

優奈「へ〜?」

〜〜〜♪

??? 「ヤラナイカ?」

憲兵「アツー!!!」

優奈「あり? ブルーさん今日こつち?」

ブルー「店長が大本営に出前に言っただけ帰って来ないんでな様子を見に来ただけだ」

??? 「ついでに俺は酒と煙草が切れたからきた」

優奈「へ〜晶にチクロ」

不知火「あの…貴方は?」

??? 「失礼、私は葛…只の根なし草『JKに手を出した変態だろ?』優奈!」

とりあえず、現段階最強が来てしまった…

不知火「JKですか…」

此方は壱逢世界

晶「鈴谷ちゃんと熊野ちゃんってタピオカチャレンジできる?」

鈴谷「勿体ないからしない」

熊野「同感ですわ」

一「残念」

木ノ井門「一時期古タイヤで代用して事件になった奴があつたな」

鈴谷「タイヤ!?あり得ないんだけど!!」

晶「それ知ってる!!けどその後どうなったの?」

一「異国のことは解らぬ後、稲荷の蛙よ私ではなく別世界の私に文句を言え!!」

では遊園地に戻ろう

不知火「大本営です!!」

優奈「どつたの?」

ブルー「いつものだろ」

葛「普通に遊園地だったら晶とデートしてるのにな」

優奈「ゲイと嵐とロリコンに憐れな子羊…バランス悪いな」

不知火「?」

~~~~~♪

メカニックメカ、修理完了…レオアース、コンテナ、ポケルツト以外任務発生により不在

優奈「レオとコンテナにルツトとミスミーのみかく過剰戦力だな」

葛「へ〜最近の奴は便利だね?」

優奈「こいつはメカニック印の奴だ大気圏をも通過できるぞ」

ブルー「高校生が造るレベルではないな」

不知火「何か生臭い…」

優奈「毎度ご苦労様♪」

??「誰だ!!ここは部外者『ブルーさん来たの?』タっちゃん!」

ブルー「店長、知り合いか?」

タ級「昔の友達よ…紹介するわ、彼は元帥ここのお偉いさんね」

元帥「ど、どうも」

優奈「名乗られたら名乗り返すのが礼儀だな、俺は優奈、三國志を四國志にして天下太平したり異世界を旅してたりしている嵐だ」

ブルー「俺はブルーベリーの漢、タ級店長の店の店員だ」

葛「俺は葛、突撃野郎Tチームっていう軍団のリーダーで優奈の手伝いをしている」

優奈「正確には介入だな」

不知火「不知火です…」

元帥「何の用で来た」

優奈「んくと、元帥と屑野郎をブチコロがしに来た!!」

ブルー「店長の様子見」

葛「武力介入♪」

不知火「被害者です」

元帥「被害者だど?! 不知火：儂が至らんばかりに苦勞をかけた!! 申し訳ない!!」

優奈「ん？タ級店長？元帥って味方か？」

タ級「ええ、私みたいな化け物でさえも助けるお人好しよ」

ブルー「ほう、なら手は出さないほうがいいな」

葛「ブルーさんのばあい手というより尻だな」

不知火「許しません…皆に謝ってください!!」

優奈「えつと？ありや、こりや墓穴がたくさんやなく」

葛「これは酷い」

ブルー「元凶はどうした？」

優奈「下郎鎮守府の地下で汚い野郎と『閲覧規制』する幻覚を見せてるぞ」

元帥「憲兵を向かわせよう…儂の罪は消えん…だが今できることをやらんといかん」

不知火「元帥さん…」

タ級「じゃ、皆帰るよ」

優奈「さて、ぬいはどする？メカニック鎮守府に行くか、タ級店長の店で働くか、葛に『晶にメツ!!』されたから無理だ』さいですか、俺について行くか、新しい鎮守府に着任してひそひそされるか選びなさい」

不知火「優奈さん：私をメカニック鎮守府に連れて行って下さい」

優奈「元帥さん、不知火の辞令たのんます」

元帥「ああ、駆逐艦不知火、これよりメカニック鎮守府に転属を命ずる!!」

不知火「わかりました!!」

本当に作者は捌けるのか？

~~~~~♪

捌けないので一度整理します、次回は脱線上等!! キャラ紹介を気長にお待ちください

第拾慘航海脱線上等!! キャラ紹介

トップバッターはこのメカだ!!

シューティングトレイン、愉快的な工廠ズが造った自称メカニックメカ、最初はメカニック印の超高性能AIは組み込まれてなく完成した日の夜にこそ泥スタイルの???が取り付けた(大体わかるよね?え?わからないの?説明下手ですまんね)のをこれ幸いと言語機能、変形機構、合体機能を取り込んだ、今はメカニック鎮守府の談話室で先輩メカと遊んだり艦娘達の送迎をしている

バードスナップ&グリフィースナップ、メカニック鈴木がスカイチーム強化のために造った鷲型メカ高速戦闘に長けたバードスナップ、背部バーニアと翼をスライドし両前足を着けたら起動型メカグリフィースナップになる

リボルバーボデイ、メカニック&愉快的な工廠ズが七徹して造ったハンマーボデイの弟メカ、今はメカニック鎮守府の鳳翔食堂で手伝いをしている

熊之助、裏山にいる熊、主に息子の熊太郎が電ちゃんに助けられており熊太郎を電ちゃんに預けたあと、母熊に前足でペチペチされたらしい

扶桑、新しくメカニック鎮守府に来た艦娘、山城のお姉さんで文月語録の数少ない理解者

山捜し、主に西村艦隊関連で出没する妖怪その正体は扶桑改二である

大井、メカニック鎮守府で半年間寝ていた艦娘、まあ原因は出世欲の高い提督が犯人だけどね〜今は北上や球磨、多摩、木曾と一緒に過ごしている

憲兵αスペリオル、憲兵αとは養成所の同期で山捜しの被害にあった鎮守府にいた尚、合体はしない…とりあえずその鎮守府はホワイトだと記しておこう…

睦月&如月、憲兵αの実家近くにいる隠れ艦娘、隠れ艦娘とは…轟沈したことにして逃亡している艦娘のことをいい、以前紹介した最

上、叢雲、名取がこれにあたる、では紹介に戻ろう今は学校に通っており毎日を楽しく過ごしている

山羊助、憲兵αの実家にいた山羊、αが山で拾ってきた以外謎に包まれている近所では迫り来る深海凄艦を一鳴きで撤退させた伝説の山羊ではないかと囁かれているが真偽は不明である

大乱闘通りすがりブラザーズDXZ、壹逢世界から鈴木が態々持ってきたゲーム、基本談話室に置かれておりレクリエーション目的で使われているがメカニックメカが使っている頻度が高い

タピオカチャレンジ、作者が流行りに乗ろうとしたが性別的にムリとわかりじゃ鈴熊にさせるか!と思いたつがなんかヤバそうなので辞めた、この作品を読んでいるよるこ、悪い子の皆!!食べ物で粗末にしないで残さず食べきれぬ量を食べよう!!

I O K三浦、元メカニック三浦で今は田舎で可愛い嫁さんや子供に囲まれた生活をしており趣味の機械いじりから農具の修理補強をしている傍ら嫁さんの畑の手伝いをしている

~~~~~♪

不知火は何かあった次回はようこそメカニック鎮守府へを予定変更の可能性もあるけど気長にお待ちください

## 第拾肆回 航海ようこそメカニツク鎮守府へ

前々回のわかりやす〜いあらすじ、元帥は味方で不知火はメカニツク鎮守府に転属するようです

優奈「暇だなく」

葛「ブルーさんと夕級店長は店に戻っていないし」

不知火「流石にこの渋滞は堪えますね…」

帰省ラッシユの渋滞にかかっていた

では、メカニツク鎮守府にカメラを向けよう!!

おや?あそこにいるのはもがみんと日向さんですね?

日向「瑞雲ランドがあるらしいな!!行くぞ!!」

もがみん「師匠:瑞雲ランドは期間限定です」

日向「なに:瑞雲は!?!瑞雲はあるんだろうな!?!」

もがみん「瑞雲は:(今は)ありません!!」

日向「…」

日向はショックのあまり倒れた!!もがみんは経験値1000を得

た!!もがみんは(テインの)パワーアップした!!

もがみん「天さん!」

では、他の人を見よう

ふみ〜♪

文月ちゃんが一人だど!?!危ない!!怪しい奴が拐かすかもしれない

し私がついて行こう!!

ふみい?

(ふい〜ステルス覚えといてよかった)

???'「ぐあ?」

熊!?

文月「ふみい!!」

熊「ぐあ!!」

文月ちゃんは熊に跨がりお馬の稽古ならぬ何処かに行きました:

では川内さん後、よろしくお願いいたします

川内「気付いてたの!?!」

作者だからな

川内「わかったよ、危なくなったら手を出すからね」  
たのんます

川内「じゃニン」

さて次はくん？ 叢雲ちゃんがいますね

叢雲「あく!! 長さ間違えた!!」

邪魔はいかな

なにかないかな

??? 「天さん」

何ですか？ 加賀さん

加賀「駆逐艦の子とのコミュニケーションの仕方を教えてください  
!!」

へ？ 加賀さんや：君は仏頂面だが優しい心を持っている、このグラフィを見なさい、メカニック鎮守府の駆逐艦に聞いた加賀は好き？ 嫌い？ 因みに挿絵は無いからな

好き48.2%

一部抜粋

ブリザード『冬場はポカポカして好きです!!』

ずいずい『最初は嫌いだったけど今は大好き!』

レディ『尊敬するレディだわ!!』

嫌い45.0%

一部抜粋

ワンちゃん『わふ（最近構ってくれないから少し嫌い）』

つる『妹を捕られましたけど少し嫌いです』

その他6.8%

一部抜粋

B F『今製作中だから後でお願いいたします』

夜『そんなことより夜戦!!』

でち『オリヨクルいやでち…』

瑞雲『そんなことより瑞雲は好きかい?』

加賀「違うのも混ぜってますね」



そんなもんだろ？因みにこのアンケート入口横に置いてたらこうなった!!憲兵のもあるが読もうか？

加賀「ええ」

α『加賀さんは個人的には好きです、もつと笑顔になりなさい!!』

β『加賀さん？好きだ!!』

γ『加賀さんは駆逐艦の子達に人気ですからね〜羨ましい』

Σ『あまり接点が無いからわからない』

メカニツク『加賀さん？『閲覧帰省』してるときに無言で立ってたのはビビったな』

加賀「あれは提督が悪い」

Φ『食堂で美味しそうに食べている姿に気力を貰っています』

χ『加賀さんとはあまり接点はありませんね』

δ『たまにぼいちゃんやときあめちゃん、かがちゃんと散歩に出てるのを見ますね』

人気なのは確か『着いた〜!!今度から空だな!!』どうやらお客様のようですよ？

加賀「そのようね」

優奈「あり？加賀さんと天だけか？」

ちようど話をしていた『ふみい!!』『ただいま〜』

川内「天さん!!聞いてよ!!」

文月「ふみい!!」

不知火「あの…」

加賀「挨拶は執務室に行つてからにしましょう」  
オチはようこそ不知火だ

~~~~~♪

天龍と龍田が二人!?次回は被り艦娘を予定変更の恐れがあるけど
気長にお待ちください

第拾拾悟航海被り艦娘

不知火がやって来てしばらくたったある日のこと

ゴーヤ「ダブルヒットでち!!」

加賀「異世界の閻魔様見たいね」

ぽい「くんくんくんぽいぽい!!」

ちよつと近場で釣りをしていた

加賀「ここ掘れぽいぽいかしら?」

ゴーヤ「金銀財宝でちつとトリプルヒットでち」

ぽい「天龍の匂いにするっぽい!!」

加賀「天龍?今日は暁達と資源エネルギーセンターに見学に行つてるはず」

ぽい「あつちからするっぽい!!」

加賀「ここは任せるわ」

ゴーヤ「任されたでちつとクアトロヒット!?龍田さんが釣れたでち!!」

すいゝ

ぽい「ぽいぽい♪」

天龍?「なんだあ!?!」

そこには少し肌の黒い所謂(いわゆる)2Pカラーの天龍がいたところ代わり資源エネルギーセンター見学組は?

天龍「ふあゝ」

龍田「眠いの?」

天龍「んにや暇なだけだ!!」

(夜中まで資源エネルギーセンターのホームページ見てたのは黙っておこう)

職員「ここには皆様からいただいた資源をエネルギーに替える機械があります」

暁「でっかいね!?!」

響「これは凄い…」

雷「職員さん?あのランプは何?」

職員「あれはコンピューターがエネルギーの量を教えてくれるんだよ」

電「すごいのです!!」

天龍「お、俺は知っていたけどな」

龍田「パソコンの履歴…」

天龍「龍田!？」

龍田「黙っているから安心して♪」

雷「職員さん：暁が赤いボタン押してたけど大丈夫なの？」

職員「赤いボタン!? 確か：思い出した!! 『へぶつ!?』扉を開けると何故か尻が飛び出るボタンだ!!」

天龍「なんつーもんつけてんだよ!!」

職員「ギャグマンガ好きの主任に言ってください!!」

作業中の主任『今度はスライムを仕掛けようかな』

ではメカニック鎮守府に戻ろう

ゴーヤ「てーとく、春売ってそうな天龍田拾ったでち!!」

鈴木「誰だ!! ハート停めてる奴!!」

文月「ふみい!!」

長門「ダイヤは誰だ!!」

名取「はわわ」

七並べをしていた：仕事は!？」

鈴木「仕事? 淀さんに手伝ってもらったよ♪だって大半がメカの技術寄せせやら辞めるやらウザかったから元帥に頼むようしたからな」

長門「大淀さんいたんだな…」

鈴木「皆が居ないときに来るヘルプだ!!」

何処かにいる大淀『ヘルプじゃないです』

文月「ふみい!!」

長門「文月が一番だな」

ゴーヤ（ZZ装備）「話を聞けエエエ!!」

ちゅどくん

アフロニツク「ハイメガかよ!？」

中破名取「何で私まで…」

畳ガード長門「危なかった…怪我はないか？」

文月「ふみい!!」

鈴木「で、その GANG ロ姉妹はどしたんだ？」

ゴージャ「風呂に叩き込んでるでち!!」

長門「GANG ロ…」

鈴木「失礼なこと言うが昔黒人奴隷が殿様に会ってな」

殿様『肌が黒い奴などおらん!! 洗ってこい!!』

しばらくして

家臣『殿様!?! 肌が黒いです!!』

鈴木「てな具合の奴があつてな」

長門「ああ、信長公の話だな!!」

名取「弥助さんですな!!」

ゴージャ「信長公？」

鈴木「極めて天下に近く限りなく天下に遠い殿様だな」

なにやら騒がしい声が

川内「ふあく喧しくておきたじゃん」

鈴木「もう昼だ」

川内「あたしは夜戦しかやらないよ後、夜間任務」

鈴木「さいですか」

川内「後、寝ている提督の『閲覧規制』で『閲覧規制』しようとし

ている村雨を停めるのもしているよそれとたまに食堂の冷蔵庫の蜂

蜜を貪り喰う熊さんも止めてるよ」

鈴木「それは感謝しているよ」

昨日の夜

電「蜂蜜を食べたらメツ!!」

熊「きゅくん」

電「食べたくなつたらいうのですよ?」

熊「ぐあ!!」

こりや聞いてないな…この説教これで1400回目だ…

では戻ろう

赤城「提督、浴場から出てきた GANG ロ姉妹を無傷で連れてきたの

でござ美下さい」

「ガングロ姉妹『ども』」

鈴木「じゃ赤城ちゃんには文月ちゃんと一緒に食堂で確か香取さんと何故かいる師匠の知り合いのパティシエール海藤さんと間宮さんと伊良湖さんがスイーツ対決してるから行っておいで」

長門「提督、私も行つていいか？」

名取「私も…」

鈴木「しゃーない…」

携帯「カメン!!光!!」

光「ん?なんの用?」

鈴木「いや、部下全員居なくなると寂しくなるから暇してそうな光を喚んだわけ」

ゴーヤ「私はいるでち!!」

光「どうも」

とりあえず割愛するがオチはガングロ姉妹は居着くが暇すぎてとある世界の優奈の手伝いに呼ばれてしばらく帰って来ませんでした

くくく♪

提督のアレが消えてしまいました次回は、消えたアレを気長にお待ちください

第拾陸陸航海消えたアレ

今日も平和なメカニック鎮守『ふみいいい』 S O R R Y なにやらあつたようです

長門「どうしたんだ？」

文月「ふみい…」

長門「そうか…バレないようになんとかしようか」

文月「ふみい」

ではところ代わり執務室では

鈴木「無い!?無い!?ぬあいいいいい」

不知火「呼びましたか？」

鈴木「呼んでねえよ!?すまん…」

不知火「不知火は…落ち度だらけの悪い子…」

鈴木「いやいや、ちよつとテンパっただけだ不知火は偉い子だ!!

まあ今は居ないが深雪にや負けるがな」

遠征中の天龍幼稚園組『反乱してやる』

鈴木「いやくちよつと書類が無くてな」

不知火「書類ですか？」

鈴木「そうそう大本営に出す重要『捜してください!!』あつはい」

私は散歩しとくか」

ニンニン

???「てんさくん」

ん?どつたの?秋雲

秋雲「いやくネタがなくてね、私が前の話をば」

君が前の鎮守府にいた頃の話にすれば?

秋雲「あそこはねく」

吹雪、深雪に聞けばかけるよまあ山城改さんはノロケると思うけど
ねく

秋雲「ありがとう」

では次はく

???「あぶなくい!?!」

ん？仕方ない：斬る!!ふいゝ

???「傘で斬った!？」

我が百代目哀傘愛娘に断てぬ物は基本無い!!んで今回は何を仕出
かした？青葉

青葉「仕出かした前提!？」

ああ

青葉「新入りの不知火ちゃんが小屋で生活しているという情報を手
にいらしたので真偽を調べに行ったら」

ぬいと書かれたプレート付き犬小屋に首輪で繋がれた不知火がい
たと

青葉「はい」

おいおい冗談はよし子ちゃんだぜ、不知火は先程執務室にいたから
な

青葉「ちえ、バレましたか」

もつとマシな冗談を期待しようアディオス♪

腹減ったなくたまには間宮さんの所でもいや鳳翔さんの所も：
いつそのこと自分で作るか：んゝ

???「何してるんだよ」

昼は何にしようか迷ってるのですよ木曾ちゃん

木曾「ちゃん付けは辞めろ!!」

球磨ちゃんや多摩ちゃんは喜んでいたのに：

木曾「あの二人は別格だ!!」

さいですか、そうですね：木曾さんお昼大丈夫ですか？

木曾「まだだがどうした？」

あの二人には劣りますが何か作るので食べませんか？

木曾「いいのか？」

食堂を少し借りるだけです

では私が料理を作っている頃秋雲ルームでは：

???「吹雪ちゃんのすべすべお肌をペロペロしてやるぜ!!」

吹雪『やだあ!?!司令官さんにもされたこと無いのに!!』

???『今日から僕が司令官だから大丈夫だよ』

吹雪「プシユ」

秋雲「読まれた…」

白雪「大丈夫？」

秋雲「一応KENZENな奴だからいいけど…」

白雪「あゝアレね」

くくくく♪

『秋雲…今すぐ来い…』

秋雲「なんだろう？」

その後秋雲をみた奴は次の出番までいない…

では食堂に戻ろう

木曾「天さん、サブタイのアレとは？」

秋雲「ちゃんの書いた三日目の奴だよ♪お代わりいるか？」

木曾「戴こう、たまにはワンランク落とすのもいいかもしれないな

後、私も料理を習ってみよう」

比叡「ちゃんもだいたい旨くなりましたしね

木曾「だな…」

ではさようなら

くくく♪

グへへ次回はおータムクラウドを捜せを予定しているので気長にお待ちください

第悟拾七航海オータムクラウドを捜せ!!

メカニツク鎮守府?

グへへへ今日も可愛がってやるからな

やだあ…

もう二度とアイツのそこには返さないからな

???「我が鎮守府ではこのような本を描いている艦娘がいた…その名はオータムクラウド…彼女はおつとこれはネタバレになるな、では本編に行こう!!彼女の運命(さだめ)を見に…」

くくく?

前回から多少経ったメカニツク鎮守府

鈴木「秋雲知らない?」

長門「さあ?」

加賀「知りません」

白雪「いましたっけ?」

鈴木「何かいたようなきが…」

???「提督!!遠征終わりましたよ!!」

鈴木「ご苦労様」

文月「ふみい!!」

長門「おお良く書けてるな!!」

文月「ふみい」

長門「秋雲が書いたって?文月、秋雲は居ないんだ…」

文月「ふみい!!」ダツ

長門「文月!!」

鈴木「そろそろ飽きてきたしなく長門く秋雲は何処にいった?」

長門「あやつは地下牢に入れといた!!」

では地下牢に行こう

何も知らない憲兵γ「秋雲ちゃんなにやらかしたんだ?」

知っている憲兵β「廊下にドギツイ奴を落としたのを気付か無くてなくそれを文月ちゃんが拾ったらこうなった」

γ「御愁傷様では?」

β「反省を込めて前回からずっと『私はいたいけな子供にいやらしい本を読ませてしまった』と四百字詰め原稿用紙 I N F I N I T E 枚書かせてるところ因みに五店ほど四百字詰め原稿用紙が品切になりました」

γ「これピコで書かせたら良くないか？」

β「その手があったな」

???「賽の河原だな」

β γ『誰!?!』

???「どうも、新参の憲兵レであります!!これより、罪人駆逐艦秋雲の面倒をみることにしました」

β「おし、γ休憩だ」

γ「はいよ〜」

β γ退出後

憲兵レ「秋雲ちゃん!!牢の鍵だ!!」

秋雲「ありがとう…何で鍵をくれたの？」

憲兵レ「妻と子が世話になったからな早く逝きな」

秋雲「まあ、いっつか♪ありがとね!!」

憲兵レ「さてと、行きますかね〜」

数分後〜

緊急警報!!地下にいたオータムクラウドが逃げ出した!!繰り返す

!!地下にいたオータムクラウドが逃げ出した!!

鈴木「暇だし秋雲狩りの時間だ!!捕まえた奴には穴場喫茶店と Y A

R A N A I K A を奢ろう…優奈が」

優奈『Z E R O 〜♪』

赤城「いきますよ!!」

加賀「いきますか…」

では、オータムクラウドは何処にいるのか？

秋雲「いてて…」

???「あんれまくゴロウドン空からめんこい子がきただね」

ゴロウドン「だなくヨサク」

何処かで見た農民がいた!!

優奈 『暇だしアラカサさんとこ行くか』

久しぶりに役者は揃った!! さあ、異世界編（笑）に行こう

~~~~~♪

ガツガツ次回はオータムクラウドより愛を込めてを予定している  
ので気長にお待ちください

## 箸休み話メカニック鎮守府の謎

メカニック鎮守府には謎がある

何処からか現れた提督

ご飯やおやつ時に現れるブルーベリー色のツナギを着た人と狐と  
保護者

山の神

資材を消費しないで完成したメカ

崖下温泉の出汁

タイムマシンの鏡

関係ないと思うけど閻魔の使い↑奴だな

提督の自称お嫁さん

??? 「それを私、長良が解き明かそうと思います!!」  
いざ行け!!

長良 「まずは提督です!!」

鈴木 「ふへやかはふは?」

吹雪 「提督、食べるか喋るかどっちかにしてください」

鈴木 「ガツガツガツガツ」

吹雪 「恐るべしゆきちゃんの愛妻弁当…」

数分後

鈴木 「どったの?」

長良 「提督は何処から来たのですか?」

鈴木 「艦娘や深海凄艦のいない世界だな!!後、メカニックメカやゆ  
きちゃん、優奈にブルーさん、狐ちゃんも同じ世界だ!!」

深雪 「犬かきで来たからなく」

吹雪 「海のだ真中だもん」

鈴木 「いや〜」

長良 「犬かき!?!」

犬かき中の鈴木 『わっせわっせ平泳ぎ位覚えとけば良かったな…  
わっせわっせ』

くくく♪

提督、お客様です

鈴木「誰だ？元帥じゃないしゆきちゃんは夕方だしブルーさんは店にいるし…ん？？」

???「オトシモノデス」

鈴木「どうもって夕級店長!？」

夕級店長? 「チガウワタシトカノジョハ別個体だ」

鈴木「さいですかわざわざ敵陣まで届けてくれてありがとうお礼にお茶でもどう?」

夕級「ナンパかしら?」

鈴木「んにやただの世間話をする口実さ」

夕級「そう…なら頂くわ」

では、長良に戻ろう

長良「フムフムそれから?」

優奈「奴はヘンタイムツツリじゃから名取がよく夜に呼ばれとるよ…」

鈴木「なにしてんだ?」

優奈「鈴木が悪行を話してるとこ」

鈴木「マジかよ鈴木最低だな」

優奈「そうだろ?最近なんか知り合いの子を駆逐艦のコスプレさせて『閲覧規制』してるとかなんとか」

鈴木「マジかよ鈴木最低だな」

優奈「毎日生臭い臭いで帰ってきてそのまま学校『ちゃんとシヤワー浴びさせているからな!』どした?鈴木」

鈴木「話って俺の話かよ!!」

優奈「お前以外に小五の子に手を出す犯罪者いるか?」

鈴木「千数百年生きてる稲荷の未亡人に手を出した二股野郎には負けろさ」

優鈴『ハッハッハッ…表に出やがれ!!』

鈴木「そろそろ雌雄を決しようではないか」

優奈「そうだな、開発と実践の違いを教えてやんよ!!」

長良「停めなくていいの!？」

吹雪「また始まったよ」

深雪「さあ、我が鎮守府の提督対アルバイトの優さんの戦いだよ!!」

長門「提督に賭けよう」

文月「ふみい!!」

狐式「父上におやつの油揚げ!!」

川内「優さんかな」

では続く

~~~~~♪

辞めて!!私のために争わないで!!次回、鈴木暁に散るを予定していますので気長にお待ちください

第拾鉢航海飲んべえ達のお酒事情

メカニツク鎮守府には飲んべえがいるのだが…

??? 「千歳おねえ」

千歳 「どうしたの？千代田」

千代田 「お酒飲みたい!!」

千歳 「提督が以前飲んで偶然来ていたゆきちゃんをめちゃくちゃ『閲覧規制』して『閲覧規制』で『閲覧規制』した後寝ちゃってしばらく口聞いてもらえなかったから全面禁止にしたらしいよ」

千代田 「自業自得に巻き込まれてた!？」

??? 「はい、アスパラビール揚げときゅうりのビール漬け」

千歳 「ありがとうございます」

千代田 「誰!？」

??? 「ども、メカニツクのダチでゆきの兄貴分の優奈だ」

??? 「儂は暇だから来た大蛙の蛙野じゃ」

優奈 「アイツは酔わない限り優しくするらしいぞ」

千代田 「営みなんて聞いてません!!」

蛙野 「くつくくくつまだ初頃の九郎を思い出すのう」

優九郎 『何度も話すな!!…失礼した私は稲荷源九郎、優奈君の前世で稲荷の神主をしていたものだ』

千代田 「どうも、私は水上機空母の千代田ですこっちは姉の千歳です」

千歳 「どうも、千代田の姉千歳です」

千代田 「優奈さん、提督に禁酒令を解除するよう説得してくれませんか?」

優奈 「無理だな、アイツはゆき関連以外は曲げないぞ」

蛙野 「あやつの正妻はゆきだけらしいぞ」

優奈 「あれはなく見るか?盛りニツク」

千歳 「辞めとくわ!」

優奈 「懸命な判断だ…」

壱逢世界メカニツクラボのZERO『蠟燭に首輪…縄か…メカニツ

ク殺!!』

では戻ろう

蛙野「九郎、さっさと帰るぞ」

優奈「もう時間か、禁酒令を解きたかったらゆきに頼めよ」

千歳「行つちやつた」

千代田「ゆきちちゃん今日は来るかな？」

時は吹き飛び夕方

千歳「今崖下温泉にいるって」

千代田「何で分かるの!？」

千歳「提督以外の皆に艦LINE翔ばしたらに連絡来てた」

瑞雲「提督の嫁?崖下温泉にいたぞ報酬は瑞雲を頼む」

女将『今日は狐さんと熊さんが山菜をおそろわけしてくれたので山の幸御膳がありますよ』

岬『気分が高揚します』

AAキヤツスル『いいな』

ズズズイ『異世界鎮守?』

ふみい『ゆきちちゃんとおふろにいるよ!!』

サンキヤツスル『ズズズイに突っ込まなくていいの!』

もがみん『ラノベだと思っよ』

不幸『最近小さな幸せが多いような?』

7変形『メカニック殺メカニック殺メカニック殺メカニック殺メカニック殺メカニック処刑』

ハリケーン『いい湯だなく鹿もいるぞ』

千歳「つてな具合」

千代田「へ〜明らかに違う人もいるね」

千歳「7変形さんとハリケーンさん?あの二人は艦LINEしてなくとも何故かトークしてるのよ」

千代田「じゃ行こうか」

~~~~~♪

こちらは崖下温泉

ゆき「ふい〜」



文月「ふみい〜」

優奈「タレゆきとタレ文月だな」

鹿『いいじゃないですか、ここしばらくここに入っていないようす  
ししかもなかなかな絶景ですよ』

優奈「鹿：お前ロリコンか：まあいい、夕飯は紅葉鍋だな」  
そこに怪しい四つの山が：

優奈「ん？ヒュ〜絶景絶景」

千歳「優奈さん、ゆきちゃんいる？」

優奈「あつちでタレ文月というぞ」

???'「ゆきに危害をくわえたら破壊する…」

千代田「あなたは？」

???'「ZERO改め恭だ」

優奈「ただのバカだ」

恭「にい!？」

優奈「さーせん」

千歳「ゆきさん」

ゆき「はい？」

千歳「提督に禁酒『ダメです!!』え!?!何ですか!?!」

ゆき「飲んべえの皆さんはドクターストップを無視して飲んでい  
のと鈴木さんに飲ませたからです!!」

優奈「聞いた話じゃゆきの『閲覧規制』に酒流し込んだとか？」

恭「まことか？なら破壊だな」

ゆき「誰から聞いたの!?!」

優奈「先日ゆきが寝言で言ってたじゃん」

ゆき「え!?!」

優奈「茜ちゃんが頭抱えるlevelの音量だったぞ」

恭「それはヤバイな」

優奈「もち、次の日は職員会議で半ドンだったかな」

恭「今のやつらは半ドンなんて使うのか？」

優奈「井カツくらいじゃね？」

ゆき「あたし聞いてないよ!!」

優奈「そりやサボりで柿拾いに行くからだな」  
新たななるモフい影が!?

???'ぐあ」

熊さんのエントリーだ!!

優奈「よう、旦那はどした?」

熊さん『狩りに出してるよ』

千歳「優奈さん?この熊さんは?」

優奈「電ちゃんどこにいる熊の母さんだ」

恭「にい、ゆきを頼む」

優奈「タオル巻こうな」

恭「すまん…」

三十秒後：港にケツに酒瓶を突っ込まれた鈴木と冷やややかな目で  
見ているZEROがいた

鈴木「ひやにしゅんだよお」

ZERO「貴様がゆきにしたことをしたまでだ…初霜」

初霜「ターゲットロックオン…」

鈴木「ひやしやしいく『ツインバスターライフル発射』ぎやあああ  
!?!」

ZERO「ではゆきの方にカメラを頼む」

はいはい

優奈「まあ許してやりなよ」

ゆき「優にいの頼みでもいや!!鈴木さんが酔っ払った原因は飲んべ  
え達の誰かが無理矢理飲ましたらしいんだよ?謝るまで禁酒です!!」

優奈「皆嗜む程度に飲むからなく一部を除いて」

恭「待たせたな」

優奈「二度風呂かい?」

恭「腐れメカニックをダブルピースにしてきた」

優奈「あくたまに鈴木がゆきのやつ見てニヤけてるやつな」

※くどく言うが一部を除いて壱逢軍団は高2の思春期真っ只中  
す

さてさて話が進まんぞく

優奈 「千代田さんや禁酒令を出す前の夜誰が飲んでた？」

千代田 「確か：私とおねえに那智さん、長門さん、R J、ジュンヨウさん『犯人いた!!』誰ですか!？」

優奈 「可能性的にジュンヨウさんだな」

ゆき 「優にい!!行くよ!!」

優奈 「タオル巻こうな」

千代田 「普通に入っているけど優奈さんって何者?」

優奈 「通りすがりの三國志を四國志に変え、別世界の王になった喫茶店のマスターさ」

ふきふきててくる

こちらは最近建てられた場末酒場なっちゃんマスターは那智である

優奈 「ジュンヨウさんいるか?」

那智 「ジュンヨウ?アイツなら裏山の石碑に行ったぞ」

優奈 「墓参りか?」

那智 「ああ、先代のな」

優奈 「わかった」

その後ジュンヨウが笑いながら謝ってしまいゆきがキレて暫くは禁酒令は解除されないようです

~~~~~♪

場末酒場なっちゃん、鳳翔食堂、甘味屋間宮：メカニック鎮守府の
バランスである次回は屋台ラーメンとラーメン大好き椀ちゃんを
予定していますので気長にお待ちください

第拾九航海敵教官陸堅物娘「きびしいきようかんとりくのかたぶつむすめ」

メカニツク鎮守府の正門に怪しい二人が…

憲兵α「こうも平和だと眠いな」

???「あの…」

憲兵α「はいはい、ご用件は？」

???「大本営からの通達でこれより川内型二番艦神通お世話になります」

???「陸軍からの通達で揚陸艦あきつ丸お世話になります」

憲兵α「わかった、β後頼んだぞ」

憲兵β「へいへい」

すたすた

執務室…の隣にある『鈴木とゆきちゃんの部屋』

鈴木「すび〜」

寝てやがる…どうせゆきちゃんとやってたんだろケツ

憲兵α「鈴木〜新入り連れてきたぞ〜って寝てやがる…昨日彼女とやってたんだろケツ起こすか確か…っ」と

???『艦隊のアイドルナカちゃんだよ〜うふん♪』

鈴木「ぎやあああ!?!」

憲兵α「恐るべしナカちゃん…」

鈴木「なにさらすんじゃ!!」

憲兵α「新入り連れてきたのに寝てる奴が悪い」

鈴木「明石ちゃんや夕張ちゃんとうおターキリングの強化してて今さつき終わってさあ寝るぞって時に起こしやがって」

憲兵α「謝らないからなじゃ帰るー」

鈴木「じゃあな〜すび〜」

神通「提督!?!」

鈴木「ん…新入りかく後、三時間…」

結局戻ってきた憲兵α「しや〜ない、この時間ならあの人がいるか

…」

神通「あの人？」

憲兵α「鳳翔食堂のアルバイトさんがなすたすた

こちらは鳳翔食堂、変な格好の男と狐耳、狐尻尾装備の少女がいた
変な男「ほい、愛宕御膳と加賀御膳お待ち!!」

加賀「ありがとうございます」

幼女「はぐはぐはぐ」

憲兵α「何やってるんですか？優奈さん」

優奈「暇潰しさくん？この二人は？」

憲兵α「新入りの神通さんにあきつ丸ちゃんだ」

優奈「へく、俺は通りすがりの嵐こと優奈で鈴木のだちだ!!」

幼女「私は稲荷狐式!!今日は父上とお手伝いに来たの!!」

憲兵α「狐ちゃんの場合は賄い狙いだがな」

狐式「違うよ!!今日は本当にお手伝いに来たんだよ!!」

優奈「とりあえずスペシャルパフェ置こうな」

狐式「はぐはぐはぐ」

優奈「結局食うのかよ…」

それが狐ちゃんじゃん

優奈「だな…二人とも注文は？」

では退散!!

こんななにい天気なら洗濯物も直ぐに乾くな

??? 「世界地図だな」

??? 「ふみい…」

よつ、今日は天龍とかい？文月ちゃん

文月「ふみい…」

天龍「俺も昔はしてたし気にするな!!」

大乱闘通りすがりブラザーズX s p e c i a l 最弱メカ決定トー

ナメントに巻き込まれた龍田『私の替わりにね♪』

次は誰かな

うがー!!間違えてRFフライトユニット買っちゃてる!?

叢雲ちゃんですね…ここはifを考えてみましょう

叢雲「…BFフライトユニット…ありね!!ありがとう天さん」

どういたしましてだな

???「ぽい?」

やあ、夕立ちちゃん

夕立(GP02装備)「遊ば!!」

とりあえずアトミックバズーカは置こうね〜」

夕立「ソロモン繋がりっぽい!!」

キヤラがこゆいんだよな〜あの人

夕立「遊ばないと、あることないこと提督に言うっぽい!!」

仕方ないな〜はいお手『ぽい!!』おかわり『ぽい!!』そうれ取って

こ〜い!!

夕立「ぽいいいい!!」

さて、次はつと時間だな

再び執務室…の隣

鈴木「くあ〜多少だが寝れた!!」

さいですか

鈴木「新入り二人は?」

メカニックメカの洗礼受けてしばらく寝込んでる

鈴木「あれね〜あれ辞めたほうがいいよ」

通りすがりブラザーMEGAMAXベリーハードクリアな

とりあえず頑張れ!!

〜〜〜♪

宝捜しゲームか…懐かしいな次回はゴールデン神威を予定して
いますので気長にお待ちください

第六十航海ゴールデン神威

メカニック鎮守府上空と海上に赤い服を着た不審者達がいた

??? 『ジングルベージングルベーリア充欒く♪ユナタクロースがやああてきたHEY!!♪』

??? 『ジングルベージングルベーそりをひく♪ナガタクロースがやああてきたHEY!!♪』

同じ場所にサンタ擬きがブッキングしたようです

ユナタクロース 『やあ、昨年ぶりだね』

ナガタクロース 『ああ、昨年ぶりだな』

トナ式 「ユナタクロースさん」ガクブル

トナ取 「ナガタクロースこの衣装恥ずかしいし寒いよ」ガクブル

ユナタクロース 『仕方がない：私は軽巡、重巡、戦艦、空母、潜水艦をしよう』

ナガタクロース 『私が駆逐艦だな!!』

トナ取 「毎年駆逐艦にプレゼント配る時はよだれ垂らしてるよね」

トナ式 「さっさと配って温かい食べ物食べようよ!!」

では次の日

鈴木 「プレゼントは何かなく」

プレゼント 『ゆきちゃんの名場面集監修ZERO』

ZERO 『特別に見せてやろう貴様が居ない時のゆきがいかにかわいらしいかを記録した名場面集だ』

鈴木 「マジカー」

ドタドタ

??? 『司令官!!』

鈴木 「どつたの？ 暁」

暁 「サンタさんがプレゼント間違えてる!!」

鈴木 「んな訳ないだろ？」

暁 「私はレディの勧めを頼んだのにペンギンのぬいぐるみだったのよ!!」

鈴木 「わかってるねーサンタさんは暁が優しいレディだからぬいぐる

るみにしたと思うぞ」

トコトコ

??? 「ふみい!!」

鈴木 「よう、文月ちゃんかわいいぬいぐるみだね」

文月 「しれいかんさんありがとう!!」

鈴木 「違うからなくサンタさんだ」

ユナタクロース 『こたつに鍋それと一家団欒くう!!最高だな』

トナ式 『はぐはぐはぐ』

ナガタクロース 『トナ取寒かったな…すまん』

トナ取 『くしゅん』

湯たんぽ代わりに呼ばれた加賀 『貸し1です…』

一方ユナタクロース担当の子達は…

北上 「宝捜しゲームかく懐かしいね〜」

球磨 「宝は熊五郎の寢床前クマ」

多摩 「クロタマの散歩コース?」

木曾 「お、こいつは大井姉さん宛てか」

大井 「あら、木曾宛てね」

一部宝捜しになっていた

場末酒場なつちゃんにカメラを向けよう

那智 「なんだ?大量のプレゼント?」

宝捜しのゴールになっていた

那智 「開けるべきか…」

〜〜♪

那智 「いらつしやい、朝だから酒は出さないからな」

??? 「いや、朝セットをたのんます」

那智 「わかった、すまんが席はカウンターで構わないか?」

??? 「大丈夫ですよ」

那智 「しばらく待っている」

カタコト

那智 「お客さんは見ない顔だね、新入りか?」

??? 「新しく赴任した憲兵ゆと申します」

那智「私はこの酒場の女将兼艦娘の重巡那智だ」

憲兵φ「重巡!?住み込みのアルバイトさんじゃないのですか!？」

那智「私は艦娘だ後、鳳翔食堂の女将も軽空母だ」

~~~~~♪

那智「いら…っしや…い…」

そこには四足の悪魔こと狐式ちゃんがいた!!

ポフィン

狐式「メニュー端から端まで!!後、ミルク!!」

那智「機嫌悪いなどうした?」

狐式「今日は父上とデートするはずだったのに父上が『悪いなこたつの魔力に囚われた優狐あくん♪』って言ってたからヤケ食いに来たの!!」

憲兵φ「最近寒いからなくそうだ!!次そんなことあつたら狐ちゃんがマフラーになればいいじゃないか!!」

狐式「父上喜ぶ?」

那智「さあな」

憲兵φ「そこは父上さん次第だね」

優奈「びやくしよい!!」

????「大丈夫?」

????「なぜ?」

優奈「んにやただの噂だいや〜白、黒人気者は辛いね」

一方その頃

鈴木「山城さん、新しい子?」

山城改「ええ、何でも深海凄艦の強硬派に仲間の補給中捕まり夕級店長率いる穩健派が来るまで搾られていたとか」

鈴木「へえ〜」

????「来ましたよ!!」

鈴木「誰だろな?」

????「本日付けで配属してきた補給艦神威です!!」

鈴木「真面目ちゃん来たな」

山城改「ええ…」

神威「補給なら任してください!!」

増えた：

~~~~~♪

北上さん？次回は北上、進化!!を予定していますので気長にお待ち
ください

第六拾壹航海北上、進化!!

前回のメカニックコレクションは…

メカニック鎮守府の弱点を探るゲス雑魚鎮守府の提督は深雪を拉致し海軍ティン棒で尋問を開始しようとして『本当に合ってるの!?!』
ん…これ秋雲が冬コミで出す予定のゲス提督X深雪のネームじゃねえか!?

失礼…こほん話は前回のすこし前に遡る

鈴木「改二通達書だ、誰かな〜」

通達書『暁、北上の改二を許可する、個人の意思を尊重するので大丈夫ですってタッチャン勝手に書かないでください!!』

鈴木「そんなに育ったのか〜戦ってないのだが? 淀さん知らない?」

大淀「さあ?」

鈴木「ん〜わからん!!」

~~~~~♪

大淀「どうぞ」

???「よう」

鈴木「夕級店長?」

夕級店長?「違う、別個体だ」

鈴木「どんな要件?」

夕級「この近くにスーパーをだすのはいいチラシ」

鈴木「ご苦労様、以外に近いな…しかも新鮮品が安い」

夕級「鮮魚は私たちが取りに行き捌くのは隠れ艦娘さん達で野菜は近くの農家さんにもらっていく予定だ」

鈴木「そーいや近くにすむ五郎じいさんが野菜畑の野菜消費に困ってたな」

大淀「五郎じいさんの野菜は美味しいですよね」

稻荷神社にいる狐式『野菜嫌いも治るよ!!』

夕級「頼んで見ようかしら」

鈴木「五郎じいさんの嫁さんヲ級っぽいしなんとかなるだろ」

一方その頃

??? 「ふみいふみい♪」

何かあつたらしい文月ちゃん、教えて?」

文月「ふみい!!」

大体わかつた、今日のご飯は文月ちゃんの大好物なんだね!!

文月「ふみい!!」

そこに蔽つい影が…

??? 「蔽ついは余計だ…αの野郎俺はガキの子守りは苦手なんだよ」

憲兵βのようです

文月「ふみい?」

憲兵β「気にするな、ほれ飴ちゃん食べるか?今ならイチゴ味だぞ」

文月「ふみい♪」

憲兵β「αの野郎…何して遊ぶ?」

文月「ふみい!!」

憲兵β「わからん!!文月の書借りるべきか…そうだ!!文月ちゃん、

この紙に書いてくれないかな?」

文月「ふみい!!」

さらさら

紙『ふみい』

憲兵β「なんでだよ!?!」

文月「ふみい…」

~~~~~♪

憲兵β「糞α今すぐ来い、さつさと来いじゃないとあることないこと文月ちゃんに言うからな」

憲兵α『ちよ!?!』

憲兵β「もう少しでαのアホがくるから『αのお兄ちゃんは優しいの!!バカじゃないよ!!』そうだなとりあえずライフル置こうな」

文月(ジム装備)「やだ!!αのお兄ちゃんに謝るまで置かない!!」

ではαが来るまで場所を変えよう

此方は談話室…天龍と優奈がいた

天龍「不知火に聞いたんだが剣術使いか?」

優奈「んにや古今流剣術に我流を合わせた奴だまあプロの前じゃ赤子のチャンバラだな」

そうは見えんぞ!!お前さんの斬りまくった悪人は全て名のある格上だ!!

天龍「つて天は言ってるが?」

優奈「奴の戯れ言に耳を傾けるな!!」

天龍「あ、ああ」

優奈「話を戻すがまさか手合わせの頼みか?」

天龍「ああ、日向さんや神通さんはなんか手を抜いているようだな」

優奈「なる…仕方ない本気デシテヤルカ…クタバンナヨ?」

その後中庭でぼろ雑巾みたいに打ち捨てられた天龍がいたとかい
なかつたとか

じゃ、メカニツクに戻ろう

鈴木「いつの間にか暁が改二になってるし…」

暁改二「これで理想のレディに一步近づいたわ!!」

鈴木「理想のレディ?」

暁「司令官の世界で会った占い師のお姉ちゃんよ!!」

鈴木「いつの間に…」

???? 『くちゅん』

???? 「大井つちが改二になるまでならないよ」

大井「北上さん…」

作者の北上さんは改二だけどな

~~~~~♪

あら?次回は狐と女将と酒場なっちゃんを予定していますので  
長にお待ち

## 第録拾弍航海狐と女将と酒場なっちゃん

此方はメカニツク鎮守府にある鳳翔さんの部屋…

~~~~~♪

鳳翔「ん…朝かしら…ん…今日もいい天気です…す…え!？」

面食らったのは無理もない!!外ではとんでもない光景が繰り広げられていた!!

待てー!!

きゅ~~~~!!

憲兵☒S対九尾狐の追いかけてつこが繰り広げられていた!!

憲兵α「入門書に手続きをしてくれ!!」

狐「きゅ~~~~!!」

憲兵β「厳つい顔だから逃げてしまふな…」

憲兵γ「モフらしてくれ!!」

憲兵φ「混ざってます」

残りの憲兵「暇潰し」

とりあえずφ以下は仕事しろ

鳳翔「早く助けなきゃ!？」

時を同じく場末酒場なっちゃんでは…

那智「酒瓶の隣に蛙?」

座敷に酒瓶が転がり蛙が寝ていた

那智「とりあえず蛙を何とかせんとな…」

蛙? 「ん…なんじゃ優狐、儂は寝とらんぞ」

那智「蛙がしゃべった!？」

蛙? 「なんじゃ…ん?…ここはどこじゃ?はて儂は昨日優狐に無理やり酌をさせた後はて?思い出せん…まさか誘拐!?いや〜かわいいつてのも罪じゃな♪」

那智「珍しい蛙ならわかるがアオガエルを誘拐するやつは知らんぞ」

蛙? 「儂は蛙じゃがそんじよそこの蛙ではない!!」

ポフン

???「儂は北は東北、南は沖縄まで荒らしまくった大蛙の蛙野じゃ!!」
那智「つまりあやかしか」

蛙野「そうじゃ!!後、儂は不老不死じゃがないやく不死の山にはまだ薬はあるかの?」

那智「さあな、そういや名乗ってなかったな私は『九郎から聞いておる、那智じゃろ』ああ」

待てー!!

きゅく!!

蛙野「この童は日曜日の夕方かの?」

那智「いや、あれは山の動物が悪さしたんだろ」
ガラツ

狐? 「はあ:はあ:」

蛙野「おお、優狐ではないか」

ポフン

優狐「蛙野!?あなたも来てたの!」

那智「今度はなんだ?玉藻の前か?」

優狐「違います!!私は邪馬台国の時代から生きている稲荷神社の神子です!!」

那智「なに!?あの稲荷神社の神子だと!?私は『旦那様から聞いていますよ那智さん』そ、そうか:(旦那様って誰だろう?)」

蛙野「そういやなんで追われてたのじゃ?」

優狐「中庭にいたらしくそれで:」

那智「まあ暫くいればいい直ぐに提督が何とかするだろ」

蛙野「あの童は宛にならん:はあ、九郎よ早く来い」

その童ことメカニツク鈴木はと言うと山城改、深雪、ゆきちちゃんと夜通し『閲覧規制』して泥のように寝ていた

一方鳳翔さんは憲兵☒sをメツ!!していた

憲兵α「あ、足が:」

鳳翔「はい?」

ではなっちゃんに戻ろうって食堂に四足の悪魔が!?

大淀「食材が:」

優奈「ホンマすんまへん」

空母対狐式をしていたがあまり関係『旦那様!!』あつたようです

優奈「あり？優狐と蛙野何でいるんだ？」

蛙野「それはこっちが知りたいわ!!」

那智「(暇潰しに艦LINE飛ばしたら食堂にいるとは…)貴様が旦那様か？」

優奈「ああ、俺は優奈通りすがりの嵐だそれと君に似た子を手助けしたかな」

??? 『ぬいぬい』

?? 『ふみい!!』

??? 「？」

優奈「さつやよ白黒が心配してそうだしな確か…あつた!!」
パリッ

??? 「もう次元破壊辞めてくれないかな？」

優奈「なまこがオーロラカーテン返してくれたら辞めるよヤプールさん」

ヤプール「ハイハイ」

那智「怪物!？」

優奈「違うからなこの人は異次元に住む異次元人でたまにバミューダしてるんだよ」

ヤプール「バミューダ後はわからんからな」

さて、無事に帰っていた狐と蛙…子狐はお説教だぞ

~~~~~♪

怪しい段ボールが二つ…次回は摘まみ食い作戦を予定していますので気長にお待ちください



## 第録拾慘航海忘れられたキャラ紹介

はじめはこの子かな

木曾、メカニック鎮守府に長門達と来た艦娘、メカニック鎮守府の一部曰く『男なら迷わず告白する』位のイケメンで最近料理を始めたらしい

蒼龍&飛龍、メカニック鎮守府に新しく来た空母、前の鎮守府の不正を大本営にたれ込みしようとして追われていたけど偶然救難信号を出してたらしくオーシャングリッドに助けられそのまま居着いた、今は力の飛龍、技の蒼龍と呼ばれてみたいと思い優奈や長門達と鍛練をしている

不知火、飛龍達のいた鎮守府にいた艦娘、姉や仲間を人質にされていて無理矢理『閲覧規制』させられていたが我らが艦娘愛護団体永久ライセンス持ちのミスミープラザーズにより助けられた…たまにぬいぬいと言う形態になり文月ちゃんと遊んでいる

場末酒場なつちゃん、メカニック鎮守府にある酒場、マスターは那智で朝は軽めの料理で夜は酒場になり主に憲兵達が利用している

憲兵レ&ゆ、新しく来た憲兵だと思う

艦LINE、メカニック鎮守府のみ使える艦娘専用通信機能なんだけど、優奈とZEROが使える…基本鳳翔食堂のオススメやなつちゃん予約に使われる

大和さんでさえも壊せない鎖、不知火達がいた鎮守府の地下にあった鎖、優奈が碎破碎斬で壊したんだけどなぜ壊せたのかは不明

天龍田(2Pカラー)、ゴーヤとぼいの散歩に来た加賀と遭遇した艦娘、基本的性能は変わらないがちよつと好戦的

ナガタクロス&トナ取、毎年駆逐艦の枕元にプレゼントを置く謎のビッグ7と巻き込まれた気弱っこ正体は謎でありトナ取曰くヨダレを垂らしながらプレゼントを配っているらしい何故かはわからないがナガタクロスが来た後名取が風邪を引く

神通&あきつ丸、メカニック鎮守府に来た艦娘、真面目なあきつ丸に堅物教官神通のコンビは今日も鎮守府で鍛えている

元帥、海軍トップにいるおじいさん、海が好きでその昔浜辺に倒れている深海凄艦を助け、様々なことがあり元帥まで登り詰めたブラック鎮守府を許さないが動けないので日々嘆いている

大本営、テーマパークみたいでテンション上がるな

Z・ZZ・GM装備、メカニックが暇潰しに作った装備Z・ZZは変形するがなんか気になってオミットしたらしい基本文月ちゃんの護身用で威力はメカニックはアフロ鈴木になり名取は中破グラになるレベル

バスターライフル、ZERROが初霜に与えたライフル、なぜZERROが持っていたのかは不明

400字詰め原稿用紙INFINITE枚、メカニック鎮守府地下牢で行われるお仕置きの一つ主に秋雲が喰らっている

千歳&千代田、メカニック鎮守府にいる飲んべえ、禁酒を解くべく奔走する千代田と心配で着いていく千歳の姉妹、結局禁酒が解けたのは半年後だったらしい

この後めちやくちや『閲覧規制』した、よるこ、悪い子の皆は真似しないでね

神威、メカニック鎮守府に新しく配属された補給艦、食堂にいる

~~~~♪

うげ〜次回は好き嫌いをなくそうを予定なんだけど…気長にお待ちください

第録拾肆航海好き嫌いをなくそう!!

鈴木「いきなりで悪いが電ちゃんと文月ちゃんには1ヶ月間ナスとピーマン生活をしてもらう!!」

電「ナスは嫌なのですって」

文月「ふみい!!」

鈴木「私も心を鬼にしないとな」

狐式「ちゃんと食べないと元気にならないよ!!」

優奈「セロリ丸かじりな」

狐式「苦いからや!!」

優奈「パセリは食うのにな」

鈴木「つてな訳でゆきちゃんと女将、那智さんに最終兵器優奈が作った料理を29日食べて最終的にはお野菜ゴロゴロ夏野菜カレーを食べてもらう!!」

優奈「今は冬だぞ」

鈴木「シヤアラップ!!」

ここからは語るまい…泣き叫ぶ文月ちゃんにグズる電ちゃんを見たいか?私は見たくないついでに狐式ちゃんとはぐはぐしてました

吹き飛ばして前日

狐式「父上は嫌いなものあるの?」

優奈「嫌いと言うよりまだ見ぬ料理がかな?」

鳳翔「皆が『旨いから作って!!』っていい始めたら材料やら味付けやらわかりませんしね」

那智「この前なんて『おやつにあんこでもち米包んだ奴!!の枝豆版』って頼まれてなずんだ餅は作ったことないからな!!」

ゆき「鈴木さんが以前『ケーキの上にある砂糖菓子!!』って言ってたけどイラツてきて酢昆布にしましたよ♪」

優奈「片栗粉位だな…たまにホットケーキに牛乳じゃなくて野菜ジュース混ぜたりしてます」

料理は毎回味の変わる味噌汁に濃い野菜炒め、甘酸っぱい酢の物です
すね

文月「ふみい!!」

電「ご馳走様なのです!!」

狐式「ご馳走様!!」

優奈「最近よう食べるようになったなく明日で最後やしこりや楽しみだな」

その時とある人の目が光っていたのはスルーしよう

次の日…此方は憲兵詰所なんだが…

文月人形装備の憲兵α「あはははははは」

憲兵β「1ヶ月間文月ちゃんに会わないだけでこうなるとは…」

憲兵γ「文月ちゃんがベツタリだったからな」

憲兵δ「α||文月ちゃんだからなく」

憲兵ε「今日が最後出し大丈夫だろ」

憲兵ζ「何!?!食堂に行くぞ!!」

すたこらさっさ

食堂

優奈「味付けはく甘口カレー♪」

鈴木「辛口あるか?」

優奈「さあなく鈴木の方はゆきが作るらしいぞ」

鈴木「楽しみだな」

憲兵α「文月ちゃん!!」

優奈「よお、まだ夕飯じゃないぞこの食いしん坊め♪」

憲兵α「文月ちゃんはいないのか!!」

鈴木「まだ時間あるからな」

優奈「今頃モフモフセラピーしてんだろ」

文月「ふみい」

狐式「我慢…」

夕方

優奈「カレーお待ち!!」

なす『やあ!!』

ピーマン『甘いぜ!!』

電「美味しいのです!!」

文月 「ふみい!!」

鈴木 「生セロリか…」

狐式 「にぎやい」

優奈 「二人は強引だが克服したぞ次はあなたの番だ」

~~~~~♪

白雪は？次回、秋雲のアシスタントを予定しておりますので気長に  
お待ちください

## 第録拾五航海秋雲のアシスタント

今年のあらすじ、秋雲のアシスタントに無理やりなってしまった白雪は不思議な水着を着けてネオン街に立っていた

白雪「あの…」

???「私だって負けないわよん♪」

おえ〜

Sorry、本編行こうか

メカニック鎮守府：

秋雲「にゅふふ」カリカリカリ

白雪「はい」

秋雲「ありがとー」

白雪「秋雲ちゃんはアシスタント増やさないの？」

秋雲「増やしたいけど私って弱小サークルだしそれに…」

白雪「それに？」

秋雲「何でもない!!」

白雪「む〜」

カリカリカリはぐはぐはぐカリカリカリはぐはぐはぐカリカリカリはぐはぐはぐはぐ

秋雲「だあー!!」

白雪「!？」

秋雲「仕方ない…」

すたすた

こちらは執務室珍しく鈴木が仕事をしていた

鈴木「描写がないだけでちゃんとしているからな」

秋雲「提督!!」

鈴木「どったの？」

秋雲「静かな所ない？」

鈴木「行きなり言われても『あるよ』ちよ!?!優奈!？」

優奈「今ならシャーペン文芸部の部室が静かな所だぞ」

秋雲「貸してくれない？」

優奈「茜ちゃん次第だな」

くくく♪

優奈「よかったなついでに助っ人も頼んどいた」

秋雲「ありがとー!!白雪に知らせないとね」

鈴木「いいのか?」

優奈「あの子がいるから大丈夫だろ」

鈴木「あの子?」

優奈「そ、最近加治屋の堺さん家にいる居候がね」

では、場所は変わり吉逢高校シャーペン文芸部では

秋雲「広いんだね」

???「鈴木が世話になっているから特別に貸してやるだが持って帰るなよ」

白雪「こんな静かな所を貸してくださいありがとうございますございます茜先生」

茜「白雪と言ったな」

白雪「はい」

茜「うちに来ないか?」

カリカリカリ

白雪「へ?」

カリカリカリ

茜「いや〜久しぶりに先生と呼ばれてな嬉しくてつい、気にするな」

白雪「は、はあ」

カリカリカリ

ガラガラガラ

???「すみません!!遅れましたー!!」

白雪「秋雲ちゃんが二人!」

秋雲式「どうも、今回のみのアシスタント加治屋見習いの秋雲参上!!」

秋雲「加治屋!」

秋雲式「そ、見習いだけどね〜さあ久しぶりの絵描き行くよー!!」

茜「私は職員室にいるからほどほどにな〜」

数時間後

秋雲「出来た!!」

白雪「お疲れ様です」

秋雲式「やるじゃん」

秋雲「いや」

白雪「印刷所に行きましょう!!」

秋雲「そうだね…」

秋雲式「どした?」

秋雲「いや、何でもないよ」

白雪「それでは、秋雲ちゃんまたね」

秋雲式「またな」

その後加治屋の堺さん家に秋雲の本が届くようになったらしい

くくく♪

まだかな〜次回はふみいとぬいぬいを予定しておりますので気長にお待ちください



## 第録拾録航海ふみいとぬいぬい

ふみい〜♪

はあ：

今日はメカニック鎮守府：嘘だろ!? 壱逢世界の商店街から始まり  
ます

憲兵α「ここは何処なんだ？」

文月「ふみい!!」

???「いらつしやい、ご注文はなんだい？」

憲兵α「すまないここは何処なんだ？」

???「ここは商店街で肉屋だよお客さん知らないのかい？」

憲兵α「いや知っているが、どうやら世界を越えたらしい」

肉屋のお姉さん「何があったか知らないけど揚げたてホカホカコ

ロッケ食べるかい？」

憲兵α「：2つ下さい」

肉屋のお姉さん「まいどあり♪」

文月「ふみい!!」

お姉さん「熱いからね」

文月「ありがとう」

※憲兵αは私服です

憲兵α「美味いな」

そこにあの狐?が

???「あら? 貴方は」

憲兵α「漠食暴食狐!」

???「それは娘のあだ名です!!」

憲兵α「娘え!」

???「はい」

文月「ふみい!!」

???「私は稻荷神社の神子稻荷優狐です、貴女は?」

文月「ふみい!!」

憲兵α「先ほどは失礼しました!! 私はメカニック鎮守府の憲兵αで

す!!」

優狐「鎮守府? ああ、海上自衛隊の方でしたか、危うく旦那様の知り合いに連絡『幼女を連れだした不審者がいると聞いて!!』誰かが呼んだようね」

???「神子様離れてください!! あやつは幼女誘拐の疑いがあります!!」

憲兵α「いやいや!? 今日は非番だから町に繰り出したただけだからな!?!」

文月「ふみい!!」

???「犯罪者は皆そんなことを言う!! 話は署でじっくりタマを潰しながら聞こう!! ほらお嬢ちゃんこっちにおいで」

文月「ふみい!!」

憲兵α「いやいや!?」

その時である!?

~~~~~♪

あのブルーベリー色のツナギはまさか!?

???「ヤラナイカ?」

アツ!!

憲兵α「ブルーさん!」

ブルー「よう、なんかぬいぬいしか言わん奴が引つ張るから来てみたら知り合いか?」

ぬいぬい言う人「ぬい!!」

文月「ふみい!!」

憲兵α「不知火ちゃんありがとな」

不知火「ぬい!!」

優狐「?」

そこに怪しい影が:

???「ひまゝ道端に高額カードか会社の不正資料の入ったUSB落ちてないか?」

憲兵α「前者はボロボロで後者はあり得ない話ですよ!?!」

優狐「旦那様?」

文月「ゆうなお兄ちゃん？」

ブルー「優奈お前今日は蛙と一緒に鴛鴦に会いにいったんじゃなかったか？」

優奈「いや、蛙野にフラれましてな暇潰しに優狐の荷物持ちをしようかと」

優狐「まあ♪」

憲兵α「(完全に違うと思うけど黙っとこう…)」

ブルー「さてと仕込みがあるからおいとまするかじゃあな」

不知火「ぬい!!」

優狐「さてと旦那様行きますよ♪」

優奈「じゃあな」

憲兵α「さてとお嬢様方まいりましょうか？」

文不『ふみぬい!!』

次回には続かないからな

~~~~~♪

ようやく完成だ!!次回は不殺の聖衣を予定しておりますので気長にお待ちください

## 第録拾七航海不殺の聖衣

今日も寒いメカニツク鎮守府の談話室では夕立、時雨、読者中の長門がいた

くくくく♪

テレビ『燃えろ!!俺の小宇宙!!』

夕立「行けっぽい!!」

時雨「熱くなるね」

数分後

テレビ『次回、決着!!戦士よ永遠に：君は小宇宙を見たか』

夕立「待ちきれないっぽい!!」

時雨「そうだね」

長門「聖衣か：提督に頼むか」

サラサラカキカキ

くくく

鈴木「開いてるぞく」

長門「提督、聖衣造ってくれ!!」

鈴木「聖衣?造れるちゃあ造れるがモチーフはなんにするんだ?」

長門「私ではなく夕立にだ」

鈴木「???」

長門「テレビみてたらキラキラした目をしていてな」

鈴木「了解、オリジナルになるが構わんな」

長門「ああ、頼む」

長門退出後

鈴木「はあ：暫くはお預けかゝさてと造りますか」

数日後く

夕立「提督さん何の用なんだろう?」

ポフポフ

手紙『夕立へ、君に渡したいものがある今夜ラボに一人で来てくれ

b y てんすあいメカニツク鈴木』

夕立「骨っこだったら怒るっぽい!!」

いやいや流石ないだろ…

山城改『え?』

ここにいたわ

『てんすあいメカニック鈴木と愛らしいゆきちゅあんの部屋』

夕立「趣味悪いっぽい!!」

ガチャ

夕立「提督さん用ってなくにい!」

面食らったのは無理もない!?目の前に時雨が吊るされていたのだ

!!

鈴木「ふははははは!!我が実験の邪魔はさせんぞ!!あつそこにあるやつは使わないでね♪」

夕立「時雨を離すっぽい!!」

鈴木「断る!!こいつはモルモット時雨だ!!一步でも動くとかポチツとな」

時雨「ぐああああ!!」

鈴木「このようになるからなそれとそこにあるやつは使わないでね

♪

そこにあるやつ『…』

夕立「許さない!!」

???『聞こえますか…』

夕立「誰っぽい!」

時雨「ぐああああ!!」

???『今こそ私を纏うのです!!』

夕立「だから誰っぽい!!」

鈴木「次はこいつだな?」

時雨「ぐああああ!!そろそろ飽きてきたんだけど」

鈴木「一応肩こり用の電気マッサージだからなく」

???『大切な人を救うために纏うのです!!』

夕立「纏うつてもわからないっぽい!!」

???『貴女の目の前にあります』

時雨「足つぽマッサージはないのかい?」

鈴木「検討中だ」

そこにあるやつ『さあ!!』

夕立「時雨今助かるからね!!」

チャキン!!

夕立「提督：倒すっぽい!!」

鈴木「ふははははは!!貴様もモルモットにしてやる!!」

マツサージ中の時雨「ふひ〜」

夕立「ぽい星拳!!」

鈴木「ぐああああ!!」

夕立「時雨!？」

マツサージ中の時雨「ふひ〜」

鈴木「まさかぽいぬ座に選ばれしものがいるとは…がぶっ」

ぽいぬ夕立の活躍により時雨は救われた!!ありがとう!!

時雨「提督?」

鈴木「なんだい?君のはあっちにあるからな」

時雨「いや聞いて無いから」

くくく♪

でっかい亀さんなのです!!電ちゃんが出会った亀彼は最後の亀だ  
と言う：次回はロンリータートルを予定しておりますので気長にお  
待ちください

## 第録拾蜂航海ロンリータートル

出会は些細なこと…

電「大きな亀さんなのです!!」

熊の助「ぐあ♪」

数十分前の談話室から始まるこの日、鈴木、電、熊の助はゆきちやんが録画していたAV（アニマルビデオ）を見ていた

テレビ『彼の名はジョージイこの島に一匹しかいない亀です』

鈴木「ジョージイか」

電「ジョージイ?」

鈴木「ジョージイっていう亀は発見されてから約百年近く1人で島に住んでいるんだ」

電「百年!?!」

テレビ『沢山いた亀も今やジョージイ1匹研究者達はジョージイの為に嫁さんを連れてきたりしましたが番にはなりませんでした』

鈴木「為にではなく研究だな見ていて腹立つな〜」

電「それでも家族がいたら寂しくないのです」

テレビ『結局ジョージイは亡くなってしまいました…』

電「え!?!」

テレビ『ですが最近の研究により近くの島にジョージイの親戚がいることが判明しました約百年もの間一匹だったジョージイに親戚がいたのです!!』

電「よかったです!!」

鈴木「最先端科学パネェ〜」

熊の助「ぐあ♪」

???「我々の技術は?」

???「そうだそうだ!!」

鈴木「ダイナボルトやダイナシグマ、ダイナオメガ、ダイナサンダーはオーバーテクノロジーだからな」

ダイナボルト「半永久機関は実用化されていますが自動修復機能はまだまだですよね〜」

鈴木「マウント取ろうとしないところで何かあったか？」

ダイナボルト「港に海亀らしき亀が流れついて人気者になっている位しかありませんね」

鈴木「そりや珍しい」

電「行つてきます!!」

鈴木「はいよく熊の助電ちゃん頼んだよ」

熊の助「ぐあ!!」

冒頭に戻ろう

鈴木「おゝつてアーケロンじゃねえかああ!!」

電「アーケロン？」

鈴木「ガチもんか!?もしガチもんなら大発見だぞ!!」

ダイナボルト「アーケロン、我々が造られる前にいた生き物です」

電「司令官さん」

鈴木「なんだい？」

電「アーケロンさん飼つちや駄目ですか？」

鈴木「構わないぞ」

電「ありがとうございます!!」

数日後

そこには人気者になっているアーケロンがいた

鈴木「まさかの浦島ごっこ」

バイト中の優奈「竜宮城は無さそうだな」

鈴木「あるよ」

優奈「あんのかよ!？」

鈴木「ほれあそこにな」

『休憩処竜宮城』

優奈「アカーン!!!」

鈴木「あれ海鮮料理屋だぞしかも美味しいからな」

優奈「紛らわしい!!」

鈴木「元はラブホだったのを店長が改装したかな名前はその名残ら

しい」

優奈「前言撤回」



鈴木「行くか？」

優奈「仕方ない、新規開拓といきますか」  
ではこの辺で

~~~~~♪

以前チラッと出てきた大和作者は持っていないはずだが…次回は
ラムネのお姉さんを予定していますので気長にお待ちください

第録拾IX航海ラムネのお姉さん

ぷびゅ

??? 「ラムネくラムネはいらんかね〜」

ラムネのお姉さんだー!!

始まりたるは平日の夕方、荷車を引くは超弩級戦艦大和の魂を持つ艦娘大和さんである

大和 「はい♪」

ありがとう!!

大和 「ちゃんと分別してね」

は〜い!!

大和 「またね〜」

カラカラカラ

ここは誰もいない『いるんだよなくこれが』失礼、大和さんの家？

大和 「優奈さんいらつしやい」

優奈 「いや〜メカニックとこの温泉帰りにコーヒー牛乳が飲みた

かったけどなくてな大和ちゃんラムネある?」

大和 「もうありませんよ」

優奈 「そりや残念」

大和 「なんちやつて♪はい♪」

優奈 「ありや」

大和 「新作のコーラムネです」

優奈 「匂いコーラの風味ラムネか?」

大和 「逆です!!」

優奈 「いただきマンモス」

ごくつごくつ

大和 「味は…」

優奈 「クリアコーラだな」

大和 「あるの!?!」

優奈 「一時期あつたんだよ」

味はお察しだな…

大和「むう〜」

優奈「帰るけどライム、バナナは辞めとけよ〜」

次の日こちらメカニック鎮守府の執務室

大和「鈴木さん!!」

鈴木「ゆきちゃん…」

ゆき「ひゃ!?!」

大和「びにやあああ!?!」

詰所にいる憲兵α「やはり盛りニックだな文月ちゃんは真似するなよ」

憲兵αの膝の上にちよこんと座っている文月「ふみい!!」

数分後

鈴木「いや〜お見苦しいところを見せてしまい申し訳ない」

ゆき「また見られた…」

大和「するなら夜にしなさい!!」

鈴木「最近溜まってなゆきちゃんが来るとついヤっちゃうんだよ」

大和「…宇宙戦艦さん…バラックシップさん…大和の力…お借りします!!」

合体!!ヤマト、スペースシップ

大和「発射!!」

鈴木「ゆきちゃんもいるんだぞ!?!空間返し!?!」

ゆき「鈴木さん!?!」

アフロニック「全く」

大和「生きてたの?」

鈴木「まあなプラスチックドライバーがなければ即死だった」

ゆき「鈴木さん!!」

うわ〜目がハートだよ

カランコロン

優奈「ういくん?大和さんイメチェンか?」

大和「パワーアップしました♪」

優奈「さいですか、ほれ、幻のインカラムネの書と美味しいラムネ割りの極意これで意中の殿方もドツタンボタンギシンギシンby

熊野監修の書だ」

大和「ありがとうございます」

ゆき「優にいい他にはない？」

優奈「他ね〜これか？旨い飯に一工夫愛しの彼がビッグカノンで大昇天by晶監修か？」

鈴木「まるで意味がわからんぞ!？」

ゆき「ありがとう!!優にいい!!」

鈴木「ゆきちゃん!？」

その後大和はインカラムネや普通のラムネを配り夜はラムネ割りを出している姿が目撃されたらしい

~~~~~♪

名取ちゃんの様子が？次回は名取と憲兵[S]を予定しておりますので気長にお待ちください

## 第七拾航海名取と憲兵 $\boxtimes$ S（ $\gamma$ 以外）

前回のあらすじ

メカニツク鎮守府地下に艦娘が鎖で繋がれていた

鈴木「んな分けない」

では本編に行こう

ここはメカニツク鎮守府憲兵所にある $\alpha$ の部屋

憲兵 $\alpha$ 「さて、どうしたものか？」

何故か知らないが泣きつかれて眠っているような名取がいた!?

憲兵 $\alpha$ 「昨日は文月ちゃんを部屋まで送ってその後 $\gamma$ となつちゃん

で少し飲んだのは覚えてるんだが…」

街にいる $\gamma$ 『今日は非番だ』

憲兵 $\alpha$ 「文月ちゃんならわかるが名取ちゃんはなく朝ごはん食いつ

ぱぐれたらかわいそうだし起こすか、おくい」

名取「ん…あれ？ここは…」

憲兵 $\alpha$ 「私の部屋だ」

名取「え…」

憲兵 $\alpha$ 「安心したまえ私は合意でしか手を出さない!!」

詰所にいる憲兵 $\beta$ 『普通合意しないぞ』

???「ふみい？」

憲兵 $\alpha$ 「おはよう文月ちゃん」

文月（LSTG装備）「あるふあおにいちゃん？」

文月の脳内図式あるふあおにいちゃんとなどりおねえちゃんが  
い  
る  
↓  
な  
ど  
り  
お  
ね  
え  
ち  
ゃ  
ん  
な  
い  
て  
た  
?  
↓  
あ  
る  
ふ  
あ  
お  
い  
ち  
ゃ  
ん  
が  
い  
じ  
め  
た  
!!  
↓  
ふ  
み  
づ  
き  
が  
お  
こ  
ら  
な  
き  
や  
!!  
↑  
今  
こ  
こ

憲兵 $\alpha$ 「ふ、文月ちゃん？」

文月「あるふあおにいちゃん？だめだよ？」

名取「違うからね!？」

???「ういゝ緊急警報!! $\alpha$ の野郎二股の修羅場ってるぞ!!」

???『マジで!？』

憲兵 $\gamma$ 以外全員来ました

憲兵δ「α：信じてたのに…」

憲兵χ「α：DTだよな？」

憲兵α「χてめえ!？」

憲兵Φ「なんか修羅場と言うより勘違いじゃね？」

憲兵α「天龍園長に誓う俺は名取ちゃんに手、足、口は出してない!!朝起きたらいたんだ!!」

憲兵δ「天龍園長に誓かうなら本当の事だな」

憲兵β「だな天龍園長なら信じよう」

憲兵χ「良かったな文月ちゃん、αはマダだぞ」

憲兵α「χ？首逝くか？」

文月「あるふぁおにいちちゃん？なとりおねえちゃんいじめてない？」

名取「文月ちゃんあのね…」

かいつまんで言うと言と寝ぼけ眼でお手洗いに行きαの部屋に入ってそのまま眠って悪夢を見ていたらしい

憲兵β「ん？憲兵詰所から文月ちゃん達の寮って反対だよな？」

憲兵α「正直言うと言と寝ぼけ眼の名取ちゃんがフラフラ歩いてたのを拾ったが俺も少し酔っててなそのまま寝かしたんだよ」

憲兵δ「それにしてもよく見付かんかったな夜は川内ちゃんが見廻りしてるはずだぞ」

憲兵α「ああ、昨日は釣り同好会の夜釣りに付き合ってた張り切ってたからなく」

憲兵β「だろうな今日は又級やヲ級ちゃん達と合同で釣った烏賊に河豚、海鼠につて海産物だらけだからな」

憲兵α「河豚捌ける奴いるのか？」

憲兵δ「さあ？どうせ優奈さんがなんとかするだろ」

優奈『河豚は無理だな』

文月「ふみい!!」

憲兵α「はいはい、いきますよリトルプリンセス」

ではこの辺りで

Φ「結局、冒頭は何だったんだろ？」

♪♪♪♪

秋雲ちゃんが落ち込んでいるようです次回はメカニックス鎮守府c  
O m i c祭を予定しておりますので気長にお待ちください

第七拾壹航海メカニック鎮守府c o m i c 祭前編訳  
は赤木さん

??? 「…はあ…」

冒頭からテンション引きーなくおい!!

そこに徹夜明けの我らが盛りニツクが来た!!

鈴木「さて寝るか」

??? 「でいどぐ!!」

鈴木「うわっ?!秋雲どうした?こりや百年の恋も覚めるな」

秋雲「これみてよ!!」

ネットニュース『新型の影響か?今年のコミケ開催危ぶまれる』

鈴木「あく仕方ないな諦めなよ」

秋雲「嫌だ!!せつかく描いたのに出さないとか物書きじゃないよ!!」

鈴木「売れてる?」

秋雲「もち!!一番人気は提督とゆきちゃんです!!」

??? 「ほう?」

鈴木「よう、ZERO」

ZERO「マイエンジェルゆきを汚す奴は死罪だ!!特に鈴木!!」

鈴木「今回は違うからな」

ZERO「貴様の部屋は防音じゃないからだ」

鈴木「防音だぞ」

ZERO「そうか?」

やーせーんく!!

鈴木「前言撤回」

ZERO「特にゆきはぺったんではない!」

鈴木「そこかよ!」

秋雲「そうなの!」

ZERO「昔のゆきはふによんだ!!」

鈴木「つまり歳相応だな」



※ゆきちゃんはちよつと胸に栄養がいつてる元小学四年生で今は  
高校生の未来から来た子持ち

ZERO「今も昔もかわいいがな」

鈴木「そこだけ一致するよな」

ZERO「ああ、私は帰ろ、今頃ゆかがワックスの用意をしている  
はずだ」

鈴木「あんまりし過ぎるとスクラップになるからなく」

ZERO「月1の楽しみだ」

鈴木「さいですか」

秋雲「提督く新型やつつけてよ!!」

鈴木「無理!!」

~~~~~♪

???「提督!? 掲示板にこんなのが!」

揭示物『ふみい!! (メカニックcomic祭開催!! 絵本を描いて地
域交流をしよう!! aさん合ってますか?)』

鈴木「マジで?」

秋雲「提督!! しようよ!! 地域活性だよ? 元帥さんや店長さん達を巻
き込んでしようよ!!」

鈴木「出来るかな?」

というのが数日前の話此方は壱逢世界何時ものメンバーに鈴熊と
加治屋の秋雲がいた

鈴木「イカれたメンバーを紹介するぜ!!」

加治雲「しなくていいからね!」

???「なるほど? comic festivalの警備依頼か?」

???「サンドイッチ系の用意だろ?」

???「いやいや、読み聞かせコーナーの設置や迷子センターの設置だ
な」

???「設置は轟組や親衛隊を使うが肝心の本はどうすんだ?」

鈴木「自信ないしね」

加治雲「多少ブランクあるけど…」

熊野「優奈さん、知り合いの方は頼めませんか?」

優奈「作家ね〜師範さんとブルーさんを巻き込むか♪」

鈴木「ブルーさんって描けるのか？」

優奈「店の内装と外装はやったらしいぞ」

???「アレをか!？」

※喫茶店Y A R R A N A I K Aの外装はあの人カラーです

熊野「ブルーさんはタ級さんところのアルバイトですよね？」

???「違うぞ、偶然迷ったら雇われただけだ」

優奈「ようブルーさん、出前かい？」

ブルー「いや、イイオトコの気配がしてたから来ただけだ」

鈴木「そんな奴はいたか？」

さあ？天龍か木曾ちゃんじゃない？

優奈「あつちに『ブルーさんにめちやくちやにされ隊』がいはずだが…」

鈴谷「なにそれ？」

優奈「只のキモロリコンデブヒモニートの集まりだ」

鈴木「簡単に言えば悪さした奴らさ」

アッー!!!

優奈「早速始めやがった…」

c o m i c 祭無事にすむのかね？

~~~~~♪

出禁だな次回はメカニック鎮守府c o m i c 祭後編を予定しておりますので気長にお待ちください

## 第七拾弍航海メカニツク鎮守府c o m i c 祭後編

前回のあらすじ

秋雲も参加するコミケが中止になったがメカニツク鎮守府でc o m i c f e s t i v a l をするようです

時は空間湾曲しc o m i c 祭当日

鈴木「大規模なイベントだなこりゃ」

何かどこかで見たような奴らがサンドイッチ屋や迷子センター、託児所をしていた

???「よう、元気か？」

鈴木「し、師匠!？」

師匠「そ、先代メカニツクこと今すぐお米食べ三浦です♪」

鈴木「師匠歳を考えてください歳を」

三浦「出資者に何か？」

鈴木「アザつす!!」

三浦「そっぴやあの有名グループが来てたぞ何でもマイナスご飯や出張の撮影らしいがな」

鈴木「山と河川ならワンチャン」

三浦「そっぴや私達のシチュー作り終わったぞ」

鈴木「マジで!?!あれ見たのに!？」

三浦「彼女が録画してんじゃね?」

鈴木「裏番組なら知ってるけど」

三浦「動物ラブアーか特に最初期の出演者がゲストと一緒にペットと歩く企画は面白かったなっ知ってるか?動物ラブアーの仙海さんあれアニマル濱田の師匠だぞ」

鈴木「そうですか」

三浦「元気ねえなくよし、後でメカニツク三浦最後の取って置きを見せてやるよ!!」

鈴木「どうせ全自動流しそうめん機ついでにめんつゆ付きですか?」

三浦「んなアホみたいな奴作るかよ!!」

場面は代わり販売ブースではメカニック鎮守府の秋雲と加治屋の秋雲がなにかをしていたのだから関係ないから憲兵☒sでも見るか

憲兵α「ひくま〜」

かなり暇をもて余していた

憲兵β「え〜迷子のお知らせだチェックの服を着た女の子の保護者は迷子センターまでお越しください」

憲兵α「仕方ないβ、散歩してくる」

憲兵β「ついでにγかλ、Φに昼飯頼んどいてちなみに文月ちゃんはCブースのもふもふエリアだ」

憲兵α「ハイハイ」  
すたすた

憲兵α「Φとβが昼飯ジヨロキアでいいだと」

憲兵Φ「あんの!？」

憲兵α「あんじゃね?じゃ」

憲兵Φ「文月ちゃんはさつき熊に跨がってブラりしてたぞ〜」

憲兵α「ハイハイ」

てくてくぐあぐあ

憲兵α「熊太郎が何でいるの!？」

熊太郎「ぐあ!!」

憲兵α「熊太郎、文月ちゃん知らない?」

熊太郎「ぐあぐあぐあぐあ〜」

ガリガリ

そこには鹿、獺、鶴、天狗、すねこすりと遊んでいる文月ちゃんが描かれていた

憲兵α「妖怪混ざってた!？」

そこに我らが主人公(笑)が来ていた

出前中の優奈「『鶴達は静かに暮らしているから刺激しないでください』だそうだ」

憲兵α「わかった、憲兵☒sにも伝えとくよ」

数時間後〜

???「メカニック鎮守府comicfestival閉幕いたします

!!忘れ物の無いように気をつけてお帰りください」

私も帰ろう

~~~~~♪

そういや淀さん何でいるんだ？次回、物置小屋の眼鏡委員を予定しておきますので気長にお待ちください

優奈「最近調子悪いからなこういう中途半端になるが気にしないでくれたら幸いです」

第七拾慘航海物置小屋の眼鏡委員

メカニツク鎮守府、今回は談話室から話を始めよう！なにやら摩耶が暁、最近流れ着いた響に怖い話をしていた

摩耶「むかしくむかしメカニツク鎮守府になる前の鹿屋鎮守府には開かずの部屋があった

鎮守府になる前は図書館だったらしくある日司書さんが閉じ込められ運の悪いことに休館日で助けも呼べずそのまま亡くなったとか、原因は建物の老朽化だった：今でもその部屋ではドアを叩く音やすり泣く声が聞こえるそうな」

暁「こ、子供騙しね!!れ、レディはそ、そんなんじやだ、騙されないわ!!」ガクブル

響「かなり震えてるね？」

暁「ち、違うわよ!!こ、これは妖怪ぶるぶるの仕業よ!!」

響「妖怪なら仕方ないねこの前寝太りが大和さんに憑いていたな」
摩耶「それ大和さんには言うなよ寝太りは文月のダチだからな」

そんなこんなで数日後くこちらは執務室書類仕事に追われる我が鈴木と淀さんこと大淀がいた

鈴木「淀さんや最近妙な話を聞かない？」

大淀「ええ、物置小屋の話ですね？提督数値に誤差あります」

鈴木「ありや、ありがとよアレ淀さんの奴だからな」

大淀「私は死んでません!!」

鈴木「だよなくアレ言つてた奴誰だろうなく（どうせ秋雲だな）」

大淀「私は確かに物置小屋にいましたよですが叩いたりすすり泣く声はあげてません!!」

鈴木「んじやま天さん雑な回想たのんます!!」

へいへいんじややりますかゝ遡ること長門が鈴木に解体申請出した後、文月が鏡で過去に飛び長門を探している時に戻ろう

文月「ふみい!!」

空振りく長門はどこにいるんだか？

文月「ふみい…」

かわいそうな文月ちゃん：長門は何処にいるんだ!!
そして件の部屋に来た

文月「ふみい!!」

ドア大破!?

???「何事!？」

文月「ふみい!!」

???「え!？」

文月「ながとおねえちゃんしらない!？」

???「長門さん?知らないわね」

文月「ありがとうじゃあねおねえちゃん!!」

???「なんだったのでしようか?あつドア開いてる!!」

すたすたぺちやぺちや

???「誰!？」

???「いやゝ失礼、私はこの鎮守府にいる提督のダチで優奈だ!!ずぶ

濡れなのはちよつち転移に失敗してな風呂借りるとこ」

???「そうですか：私は大淀です」

優奈「たまに来るからよろしくな淀さんじゃなくおくいメカニツ

クゝ風呂貸してくんない?へ?山城さん達が入ってんの!?!しやあな

いドラム缶とβ借りてくぞ後、淀さんいたぞ」

メカニツク「淀さん?」

大淀「どうも、私は大淀です」

メカニツク「だから淀さんか、私は最近提督になった鈴木兼続皆か

らはメカニツク鈴木と呼ばれているよ」

大淀「わかりました提督」

鈴木「鈴木さんでいいんだが：まあいいよろしくな淀さん」

回想終わり

鈴木「結局何で物置小屋にいたんだ?」

大淀「艦隊運用の資料捜し中に閉じ込められたんです」

鈴木「元帥のじいさんにはここは戦わない鎮守府って聞かなかつた

か?」

大淀「いえ、前提督の時代からいたので」

鈴木「え…」

その後メカニックを見たものは次回までいない…

~~~~~♪

次回、予定は未定を気長にお待ちください



## 第七拾肆航海かがさん!?

ものすごくわかりやすいあらすじ

淀さんは妖怪?

んじや本編いこか

メカニック鎮守府のとある一室…ちなみに夕飯前である

「出来た!!」

「明日が楽しみ♪」

○メロンと○焼きが何かをしていたまたお仕置きされるぞく  
んじや次の日ここは赤木さんとかがさんの部屋なんだけど…

赤木「んくおはようかがさ…ん!」

面食らったのは無理もない!!カーペットの上には、かがさんではな  
く加賀さんが寝ていたのだ!!

赤木「加賀さん起きて下さい!!」

加賀さん? 「くあくなに? あかきおねえちゃん」

赤木「加賀さん、かがさんしらない?」

加賀さん? 「かがさん? かがさんは私だよ? あかきおねえちゃん変  
だね」

赤木「いやいや、貴女は人間の加賀さんで私が言っているのはラブ  
ラドルのかがさんです…もうすぐ散歩の時間な『散歩!』早くいこう  
よ!!』だから…」

加賀さん? 「あかきおねえちゃん? 散歩行かないの?」

赤木「加賀さん、それはかがさんの首輪ですよ? 鈴木さんに診て貰  
おうね」

加賀さん? 「いや!! 散歩行くの!!」

~~~~~♪

??? 「朝から煩いわよ赤木さん」

赤木「ごめんなさい加賀さん…加賀さん!? じゃあ貴女は誰!」

加賀さん? 「かがさんだよ!!」

赤加『かがさん!?!』

とまあり幾ばくかの時が流れ場面は変わり執務室鈴木と尋問中の

秋雲がいた

鈴木「吐かなければ無垢な子達にお前さんの『閲覧規制』な奴を我が鎮守府一の変態憲兵βに読ませるからな」

秋雲「今回は違います!! 本当なんです!! 信じて下さい!!」

~~~~~

???「鈴木くクロタマがまたたび与えたら多摩ちゃん経由で教えてくれたぞ」

鈴木「α、犯人は秋雲と誰?」

憲兵α「んにや秋雲ちゃんは無実で犯人は愉快的な工廠組だちなみに有給取つてどっか行つたぞ」

鈴木「そうか、秋雲? 何で言わなかったんだ?」

秋雲「言いましたよ!! 私は違いますからね!! つてそしたら提督が『聞く耳持たん!!』つて言いましたよ!!」

鈴木「本当に申し訳ない」

憲兵α「謝るきねー」

かんかんかん♪かんかかかん♪

鈴木「空き箱叩きは優奈だな」

優奈? 「残念!! 私です!!」

鈴木「ゆきちゃんか」

??? 「私もいるぞ腐れマッド」

鈴木「ZERO付きかよ」

ZERO 「残念だったな」

鈴木「で、なにようだ?」

ゆき「かがさんモフモフしに来ました後、出番欲しいです」

ZERO 「貴様に頼むのは癪だが初霜を預けに来た安心しろ、自衛はバッチリだ」

鈴木「かがさんは今大変なことになってるから無理かな」初霜の件は任せろ」

ZERO 「頼んだぞゆき、帰るぞ」

ゆき「はいはいいじや鈴木さんまた来ますね」

鈴木「バイバイ」

秋雲「提督、どうするの？」

憲兵α「そうだぞ」

鈴木「そこはな…次回に続く!!」

~~~~~♪

マジかよ、次回はかがさんの散歩は白い目で見られたのは憲兵γを
予定しておりますので気長にお待ち下さい

第七拾伍航海かがさんの散歩を白い目で見られたのは憲兵γ

前回のあらすじ

かがさんと加賀さんが入れ替わっちゃった!?

鳳翔食堂でバイト中の優奈「んな訳けない」

本編いこう

こちらは執務室鈴木と自称地縛霊淀さん、憲兵α、秋雲、加賀さんだけど加賀さんじゃないかがさんがいた因みにかがさんだけどかがさんじゃない加賀さんは憲兵γに連れられて行きました

鈴木「ゲシユタルト崩壊しそう…」

秋雲「妻と毒はにていますね」

淀さん「いやいやγさんの心配しましょうよ!?!」

鈴木「大丈夫じゃ無さそうだな…」

α「γは人通りの無いうえに穴場的な店を見つけるセンサー持ちだからな〜ついでにペット可のところは知らない」

一方γと加賀さんはと言うと穴場的な魚市場兼食堂に来ていた

憲兵γ「おやつさん、請求はメカニック鎮守府か大本営まで」

加賀「この値段でこの量…赤字ね」

おやつさん「んなコタあねえよ!!嬢ちゃん達のおかげで漁が出来るんだ!!これくらいしか出来ないが感謝しているんだぜ」

憲兵γ「そうそう」

加賀「そうね…流石に気分が高揚します」

おやつさん「そうかい!!じゃあもつと作らないとなく」

憲兵γ「今回ばかりはこのセンサーを恨むか…」おやつさん、海鮮井と何か飲み物頼む」

おやつさん「あいよ!!」

では鎮守府に戻ろう執務室には安定の書類に追われている鈴木と淀さん、絵本を読んでいる文月がいたα?仕事してんじゃね?

鈴木「書類ダルいな〜」

文月「ふみい」

淀さん「あまり駄々を捏ねるといそがしさん呼びますよ♪」

鈴木「そりゃ勘弁だな」

文月「いそがしさんはダラけている人が好きなんだよ!!」

※メカニック鎮守府に来る妖怪達はそんな設定です、なぜ妖怪がいるのかって？後で語ろう

鈴木「呼ぶなら後神か座敷わらしにしてほしいな」

淀さん「座敷わらしさんはわかりませんが後神さんですか？」

鈴木「ラボにいるときにたまくにメランコリックになりたい時もあるんだよほい、書類終わり!!誤差あったらごめんな」

淀さん「お疲れ様です」

鈴木「んじや文月ちゃん行こうか」

文月「ふみい!!」

淀さん「そういやαさんは？」

鈴木「紳士同盟に引き摺られてどっか行った」

文月「あるふあお兄ちゃんはりっぱだったよ…」

薄く透けている憲兵α「死んでないからなく」

鈴木「ギャグパートだし次の次位には出るだろ」

淀さん「ところで天さん
んだ？」

淀さん「切り悪いですがオチどうします?..」

ご都合展開でかがさんは元に戻りましたとさ♪
愉快的な工廠組?暫く
とある組織の労働力になりましたとさ

~~~~~♪

次回、大和の持っていた握力計?ついでのキャラ紹介を憲兵αが  
帰ってくるまで予定しておりますので気長にお待ち下さい

## 第七拾録航海大和さんが持っていた握力計？ ついでのキャラ紹介

最初はこの人だ!!

大和、メカニック鎮守府にも壱逢軍団にも突撃野郎Tチームにも属さない孤高の艦娘日中はラムネを作りおやつ時から夕方にかけて荷車にキンキンに冷えたラムネを積んで歩いている最近ハーモニカ見たいな物を吹きながら歩いている風来坊に『次はあんたの番だ』と言われ無理矢理握力計見たいな物を押し付けられたが絵と文字が描いているけど解読出来ないのが最近の悩み

大淀、メカニック鎮守府の経理担当元は先代提督の頼みで資料室にある作戦資料を探しているときに閉じ込められ休眠していたが長門を捜している文月がドアを破壊したことにより再始動した因みに明石との仲は良いらしい

妖怪達、メカニック鎮守府に遊びに来ているヤツら基本的無害で駆逐艦達と遊んでいるが鈴木曰く見えないけどいるのはわかるらしい

天龍園長に誓って〇〇はしていない、憲兵達がやらかした時に言う言葉で元は天龍が弄られ過ぎて一時期マスコット化していた時に由来する

陸奥、メカニック鎮守府にしれつといた長門の妹、長門よりファツションセンスがあり休日とはたまにだが夕級店長の知り合いがやっている写真館のモデルをしている

長良、陸奥同様しれつといた子運動を嗜む程度の体育系だが初雪曰く天敵らしい

アーケロン、メカニック鎮守府にいる大昔の地球に生息していた亀さん、何故今まで見つからなかったのかは不明だが一部を除く艦娘には人気者である

加治屋の秋雲、壱逢世界にいる秋雲である日加治屋の堺が沢でプカプカ浮いているのを拾ったらしい今は弟子入りして絵が上達する(個人差あり)ペン先や堺さんがたまにする焼き物の絵付けをしている:

そこまで考えた作者を誉めるべきか貶すべきか迷うな

クロタマ、メカニツク鎮守府に居着く黒猫で多摩の相猫、いろいろな風景を見ており夜は多摩に話しているが多摩曰くにやあにやあだにやらしい『わからん!!by鈴木』

翔鶴、お隣の鎮守府の提督に無理を言っつて（瑞鶴は私がいないと駄目なんです!!）やっつて来た姉、実際は加賀さんが面倒を見ており『ひよっとして私…お邪魔?』とか考えていたが山の仲間達が心配して供物をあげたりした影響か山の神扱いされている『まるで意味がわからん!!by鈴木』

紳士同盟、イエスロリ艦（合意なら）、ノー『閲覧規制』を信条に活躍している艦娘愛護団体の亜種 $\alpha$ が引き摺られて行った原因は文月ちゃんに過度なスキンシップと頬つぺたにキスさせていた（文月ちゃんが目玉にする真似っこである…誰を真似てるのかは読者ならわかるよな?）である

五郎じいさん、メカニツク鎮守府近くにある畑を持つ農家実は元帥の幼馴染で時期は違えど傷付いたヲ級を助け最終的に嫁にした猛者今は野菜嫌いな子達用に品種改良したりしている

~~~~~♪

酷い目にあつたぜ…次回は憲兵 \boxtimes S会議を予定しておりますので気長にお待ち下さい

第七拾七航海憲兵☒S会議

メカニツク鎮守府、今回は誰も使わない部屋から始めよう…そこには紙袋を被った怪しい奴らとパンイチで磔にされている憲兵αがいた!!え?部屋の高さ?気にするな!!

「これより憲兵会議を始める!!」

『ヒヤッハー!!』

「進行は私、憲兵βがやります」

「おい」

憲兵β「黙れ糞屑ロリコンα」

α「違うからな!!」

憲兵β「こいつは我らが癒し文月ちゃんを独占し無理矢理チツスマでさせている!!てめえらどうする!!」

「殺せ!!殺せ!!」

憲兵β「落ち着け、もし我らがαを亡きものにしてみるそれを知った文月ちゃんはとうすると思う?」

文月(ダイナマイト装備)『あるふあお兄ちゃんがいないせいかいはイヤだ!!』

「それはいけない!!」

「ではどうする?」

憲兵β「簡単なことだ!!これよりどのようにαを社会的に亡きものにするか話し合うのだ!!」

憲兵α「本人の前で話すのは辞めような」

憲兵β「黙れ糞屑ロリコンキモいんだよ!!」

憲兵α「さつきより酷くね!」

「はい!」

憲兵β「おお、新入りのν何かあるのかね?」

ν「すみませんが初雪ちゃんとゲームする『裏切り者だアア!!』違えます!!」

「はい!!」

β「νか…期待してないが何かあるのかね?」

γ「そこに青葉ちゃんいるし捏造記事書かせたら？」

γ以外『……………それだアアア!!』

α「ある意味社会的に亡きものだな…」

次の日掲示板の前では

ガヤガヤガヤガヤ

掲示板『青葉新聞、驚愕!? 憲兵αは善人の皮を被った鬼畜男だった!! 同僚が語るαの正体!!』

鈴木「ほく」

ドラム缶風呂後の優奈「ふいくん？」

かがさん「がるるる」

赤木さん「そ、そんな…αさん…」

優奈「何々？ 憲兵αは善人な振りして夜は親しい子を無理矢理『閲覧規制』していると同僚達が証言しているね」

鈴木「よう、風呂上がりか？」

優奈「ああ、ちよつと元帥に呼ばれてな金剛達がいたが風呂勝手に借りたぞ」

鈴木「後で謝つとくよ」

文月ちゃん!? αさんに近寄ったらダメだよ!!

ふみい!!

優奈「メカニック、すまんが元帥の爺さんにちよつと遅れると伝えといてくれ…」

鈴木「はいよ」

その後何とか誤解の解けた憲兵αだが暫くは疑いの目があったとか無かったとか？ 因みに青葉はと言うと…

「ヤラナイカ?」

「アツー!!!」

青葉「もう捏造! しませんからブルーさんの特集記事ばかり書きたくありません!!」

壱逢世界にいたようです

~~~~~♪

元帥に呼ばれた優奈はて？ 次回は元帥からの依頼を予定していま

すので気長にお待ち下さい

## 第七拾鉢航海元帥からの依頼

此方は大本営、面談室に優奈と元帥がいた

優奈「んで用件は？」

元帥「君、提督なら『却下だ俺はまだ四国統一と旅、ナオの面倒を見なくちゃならんそれに提督など付けてみる本編で鈴木の出番がもつと減るぞ』それでも私は君に提督をやってもらいたい」

※最近文月ちゃんと周りの子達にスポットを当てすぎたな…

優奈「もしそのまま帰ったらどうする？」

元帥「刺し違えてもいいから君を殺す」

優奈「おゝ怖い…元帥、後任が来るまでの期間限定ならしてやるよ」

元帥「ほ、本当か!!」

優奈「どこの鎮守府だ？元ブラックなら帰るぞ」

元帥「新しく出来た鎮守府だ、だがちよつとな…」

優奈「ちよつと？まさか初期艦がいきなり戦艦とかは無しだからな」

※作者の鎮守府にいる戦艦はメカニック鎮守府に大和さん以外全員います

元帥「安心したまえそれはない、でもいい…行けばわかる、場所は離島鎮守府だ」

優奈「離島ねくんじやまいきますか」

数時間後

優奈「ここが離島鎮守府か」

???「行きますよ」

優奈「なんで不知火がいるんだ？」

不知火「元帥の玉を踏みつけゲフン優奈さんのサポート（夜戦的な意味）を頼まれました」

優奈「とりあえず今度元帥の爺さんに詫びの菓子折持っていくか…」  
てくてく

不知火「着きましたね」

優奈「たのもく!!」

??? 「ダレダ？」

優奈 「提督だ」

??? 「テイトク？ テキダナシネ」

優奈 「ファーストコンタクトは失敗か、しゃあないお久しぶりの最  
覇碎斬!!」

不知火 「字が変わりましたね」

優奈 「これが本家だいや、修得するのに三年かかったよ」

不知火 「三年？ 2ヶ月の間違いでは？」

優奈 「知り合いの世界にいったの!!」

不知火 「そうですか…とここでこの銃弾の雨霰どうします？ 流石に  
このままじゃお気に入りのお傘が駄目になります」

優奈 「真空覇碎斬!! これであんたは撃てない」

??? 「クツ、ダガマダマケテナイ!!」

不知火 「見よう見真似の最破碎斬!!」

??? 「グハッ」

優奈 「マジかーさてと医務室逝くか…  
ずるずるてくてく

此方は医務室???を寝かした優奈達は消毒薬を捜して薬品棚を見て  
いた

不知火 「優奈さんこの薬品の使用期限を見てください」

優奈 「昭和30年…昭和30年だと!」

不知火 「これ全て昔の奴ですよ!!」

優奈 「おいおい、まさかあの爺さん厄介払いしやがったな!!」

不知火 「なるほど…だから離島なんですな」

優奈 「よし、殺ろうどうせギヤグパートだ次の話位には笑いながら  
夕級店長の店でモーニングしてるだろ」

不知火 「お手伝いします」

その後、元帥の爺さんを見たものは次の話位までいない…

~~~~~♪

結局着任でいいのか？ 次回は、迷子の軽空母を予定しておりますの
で気長にお待ちください

第七拾九航海かなり暇した鈴木（んな訳ないでしょ!!
書類貯まっていますよ! by 淀さん）

優奈達が大本営で話している頃メカニック鎮守府では…

鈴木「たまには自分で作るに限るな」

「テイトクの手料理!？」

「ここは譲れません」

「逝けるかしら？」

物凄く久しぶりに鈴木が料理をしていた

鈴木「ゆきちゃんにビーフシチューを振る舞ってから約4年近くだから鈍ってたらごめんな」

「テイトクの手料理なら例え雑草の和え物や使用済み『閲覧規制』に入った『閲覧規制』だっでご馳走アース!!」

ガチもここまで来るとヤバイな

「大丈夫よ」

「加賀の言うとおりの自信を持ちなさい」

鈴木「金剛、加賀さん、扶桑さんサンキューなっとほれ煮汁DXだ」

金剛「テイトク？」

加賀「煮詰まった大根に卵？」

扶桑「ご馳走を期待してたのに不幸だわ…」

鈴木「ご馳走は夕飯だな」

※メカニック鈴木は基本手抜き料理です

金剛「テイトク？冗談ですよね？」

扶桑「不幸だわ…」

鈴木「アイツらの犠牲は無駄にしない…」

比明夕『チ〜ン♪』

買い物中の叢雲『三人はお酒弱いだよ』

鈴木「材料は大根とゆで卵に酒、砂糖、水、いりこだし、醤油を適当に入れるんだよ」

加賀「明らかにヤバイ代物ね」

鈴木「めんつゆの過程でおでんになりだからなくある意味料理は爆発だな」

※煮汁DXは作者がガチで作った奴です（作者は特殊な体質で自称化け物です）よるこ悪い子は絶対に真似しないで下さい

鈴木「冗談さ♪ほれお茶漬けチャーハン」

加賀「天さん？」

はいな、これは友達の家でかなり昔に食べさせてもらった奴です材料はお茶漬けの元と白米後は好みの材料です

鈴木「簡単オムライス（具なし）や馬鹿みたいに甘い卵チャーハンも出来るぞ」

金剛「テイトク！美味しいデス!!」

加賀「まずまずね…」

鈴木「手厳しいなくまつ女将や間宮さん、伊良湖ちゃんにや負けるさ」

扶桑「そういえば天さん？」

何ですか？

扶桑「山城はどこにいるのかしら？」

煮汁DXはスタッフ（山城改さん）が美味しくいただきました

山城改「何とか…完食『煮汁EXもあるぞ』もうダメ…」

鈴木「んじや今から久しぶりに豪華な飯作るから後でなく今日はゆきちゃんが来る♪」

金剛「やっぱりゆきちゃんには勝てませんね…」

加賀「諦めるのかしら？」

金剛「NO!!テイトクがいる間は私が独占してみせマース!!」

扶桑「応援してる『提督!!書類が残っていますよって逃げられた!』」
淀さん…空気読んで下さい」

加賀「今頃食堂ね」

次回、豪華な食事（予定）!!

~~~~~♪

ん？side change? 『憲兵α君は次回お休みです』つまり俺たちの出番だな!!次回憲兵βとタイプスピードにスタートユアエ

ン  
ヅ  
ン  
ニ  
!!

## 第捌拾航海憲兵βとタイプスピード

メカニツク鎮守府：

??? 「αのアホは文月ちゃん、三日月ちゃんと街に行ったが職質されてないか心配だな特に三日月ちゃんはトラブルに慣れてないからな  
く」

こいつは憲兵β、顔が厳ついけど実は子ども好きであるがわざと子ども嫌いを演じている少し残念な男である

憲兵β 「余計なことを言うな!!」

??? 「ヲ!？」

憲兵β 「わりい、島風ちゃんかいつもの走り込みかい？」

島風 「うん!!今度隣の鎮守府にいる永良さんと走るんだ!!」

憲兵β 「そうかいなら私のお守りを貸そう」

島風 「ミニカー?βってお子ちゃまなんだね」

憲兵β 「アホ、こいつはまあ持つとけばわかる頑張れよ」

そんなことがあり夜此方は島風の部屋寝てますね…なぜ夜なんだ?夕方がよくないか?

??? 『夢の中に行こう』

夕焼けの港そこに島風と少し優しい顔した憲兵βがいた

島風? 『β、私が沈んでも泣かないでね…』

憲兵β 『アホさっさと行って馬鹿みたいに走り回ってる』

島風? 『ひつどーい!!けどそうだね…帰って来たら一緒に走ろうね  
く!!』

憲兵β 『ああ、頑張れよ』

??? 『島風は沈んだ…』

憲兵β 『おいおい冗談はよしこちゃんだぜ司令』

司令 『ガチだ島風は皆を逃がすためにボロボロの身体で殿をつとめ  
たらしい…』

憲兵β 『ぎっけんな!!てめえなんで撤退させなかった!!』

司令 『この海域を取り戻せば反撃の狼煙があがる立派な役目だ…』

憲兵β 『ぎっけんな…クソツタレが』



司令『β：君は島風と仲が良かったそうじゃないか：酷だが島風の部屋を掃除してくれないか？』

憲兵β『小物系は貰うぞ』

司令『構わん…』

憲兵β『後、血拭いとけよ』

司令『ああ：どうやら道化にはなれないようだ』

憲兵β『てめえは道化じゃなく仏が似合いだじゃあな』  
すたすた

??? 『βさん』

憲兵β『んだよてめえは?! 島風の連装砲じゃねえかなんで喋れるんだ?』

連装砲? 『ひつどーい私だよ! 島風』

憲兵β『島風は沈んだ!!』

島砲『そうだねだから：最期のお別れに来たんだ…』

憲兵β『最期ね…』

島砲『私のお気に入りをβさんに貸してあげる!! これを持ってると速く走れるし連装砲ちゃんがイキイキするんだ!!』

憲兵β『ミニカー?』

島砲『違うよ!! これはシフトスピードレプリカ、優しいお兄ちゃんにもらった奴だよ!!』

憲兵β『そうか…』

島砲『だから：もし私がいや私に似た子が来たら渡してね♪』

憲兵β『わーたよったく沈んでもわがまま言う奴だな』

島砲『じゃあね太吉：楽しかったよ…』

憲兵β『おい島風?! ン? 連装砲ちゃんはどこだ? そしてなんで俺の名前知ってんだ?』

島風『ん：今のは：夢?』

てくてく

憲兵β『結局αのアホは普通に帰って『太吉!!』 なんだよ』

島風『反応した!?!』

憲兵β『よう、島風今から早朝ランニングか?』

島風「ううん、太吉さん見つけたから来ただけ」

憲兵β「そーいやなんで俺の名前知ってんだ？」

島風「夢かな？」

憲兵β「夢ねえあのスピード狂やりやがったな!!」

島風「太吉さん？」

憲兵β「んだよ」

島風「ひとつ走り付き合って!!」

くくく♪

わふ!!次回はかがさんのフラリ鎮守府巡りを予定しておりますので  
で気長にお待ちください

## 第捌拾壹航海かがさんのフラリ鎮守府巡り

メカニツク鎮守府今回は少し毛色が違うようです

??? 「わふ」

彼女？はかがさん、メカニツク鎮守府に住み込みで働いている赤木さんの愛犬である因みに此方は鎮守府東口憲兵詰所近くである

??? 「眠い：流石にオールナイトで映画はキツいな」

かがさん 「わふ!!」

??? 「よう、かがさん今日は一人かい？赤木さんはどうした？」

かがさん 「くくん：」

??? 「わからん!!こんな時に優奈さんがいればなく」

??? 「珍しいγどうしたんだ？」

憲兵γ 「鈴木か、そうだ!!鈴木バウリンガルあるか？」

※憲兵詰所と鎮守府本館は徒歩一分です

テスト中の優奈 『つまり隣だな』

鈴木 「あるぞく」

憲兵γ 「あんのかよ!？」

鈴木 「昨夜ゆきちゃんワンワンプレイ（意味深）したからな」

憲兵γ （助かる）やはりこいつが提督なのが心配だな…」

鈴木 「建前と本音逆だぞほい『バウリンガルEX』こいつは動物翻訳最高峰だ!!」

憲兵γ 「あんがとよ、かがさん何してるんだい？」

かがさん 「わふ!!」

バウリンガル 『赤木お姉ちゃん寝てるから散歩!!』

憲兵γ 「そうかなら俺と散歩するか？」

かがさん 「わん」

バウリンガル 『クチャイからヤダ』

憲兵γ 「そうかい：仕方ないバウリンガル着けるから動くなよ」

かがさん 「キヤインキヤイン!!」

バウリンガル 『助けて!?助けて!?クチャイ奴がセクハラする!!』

γ 「ほい完了」

かがさん「わん」

バウリンガル『取って〜』

憲兵γ「シャワー浴びるか…」

かがさん「わふわふ」

バウリンガル『取ってよ〜』

ポフポフ

此方は鎮守府西口艦娘寮近く

??? 「んだ？ワンころか」

かがさん「わふわふ」

バウリンガル『ねえ、これ取って!!』

??? 「ダルい」

かがさん「く〜ん」

バウリンガル『取って!!』

??? 「仕方ねえな動くなよこりやガチガチだな…一体誰がこんな酷いことしたんだ」

かがさん「く〜ん」

バウリンガル『クチャイ奴がしたの!!』

??? 「クチャイ奴!? 不審者だな!! 提督を叩き起こして知らせなきや!?!」

かがさん「ぼう!!」

バウリンガル『違うよ!! クチャイ奴はクチャインだよ!!』

??? 「わからん!!」

かがさん「わふ…」

バウリンガル『ごめんなさい…』

??? 「じつとしてろよ…お、少し緩んだ…よっしやほれ取れたぞ」

かがさん「わん!!」

バウリンガル『ありがとう!!』

?? 「じゃあなく」

かがさん「わふ」

バウリンガル『バイバイ』

てくてく

赤木「んゝおはようかがさん」

かがさん「わふ!!」

その後

憲兵γ「クチャイ不審者ねゝ知らない？新入りの憲兵√」

憲兵√「さあな」

ゝゝゝ♪

勝てない…次回はδとゲーマーを予定しているので気長にお待ち  
ください

第録拾弍航海俺の名はゼロ!!ウルトラマンゼロ!!ウルトラセブンの息子だ!!って知らないのか!?

宇宙：幾多の星が輝く無限の世界…なんだが、ちよつとなく

???'『うわあああ!?!』

角が二本生えた赤と青の身体に銀色の顔した何かが地球に降って来た!!

時は少し過ぎ地球…メカニック鎮守府近くの雑木林には文月ちゃんを連れて休暇を満喫している憲兵αがいた

そこ休暇取りすぎとか言わない!!にしてもコスモスが倒れてそうな場所だなく

憲兵α「秋桜?」

優しき、強き、勇気を教えてくれたヒーローさ!!

文月「ふみいいい!!」

憲兵α「どうしたんだい!?文月ちゃん!!」

たつたつたつ

此方は都合よく広い空間

文月「ふみい!!」

???'『シエア!!』

憲兵α「ふ、文月ちゃんが二人!?!」

そこにはな、なんと文月が二人いた!!

文月「ふみい!!」

文月?『シエア!!』

憲兵α「どつちが本物かわからない!!」

文月「ふみい!!」

文月?『すまんすまん、ちよつとこの子の身体を借りて真似てるだけだ』

憲兵α「さよかってかしゃべれるならしゃべれよ!!」

文月?『すまん俺はゼロ、ウルトラセブンの息子だ!!』

憲兵α「誰?文月ちゃん知ってる?」

文月「知らない!!」

ゼロ月『うそくん』

憲兵α「鈴木なら知ってるかもな」

文月「ふみい!!」

すたすたてくてく

此方は執務室なんだけど：

鈴木「いやくまさか国王のユウグさんまで来てしまうとは」

ユウグ「あらかた政務もすんで暇していたらダチに誘われてな」

鈴木「そのダチは今ドラム缶風呂：何も無いところですがゆつくりしていつて下さい!!」

ユウグ「いやいや、鈴木殿ここはいい所だ特に飯屋!!アラカサに教えてやりたい位だ!!」

鈴木「それでは今度ウチの子達を連れていきますね」

くくく♪

鈴木「はいよ〜」

憲兵α「鈴木、ちよつと話があるんだが」

鈴木「なんだって文月ちゃんが二人!？」

屋根裏に潜んでいた憲兵√「緊急警報!!αのアホが文月ちゃんを孕ませてたぞ!!!」

憲兵α√以外『なにい!?!』

憲兵☒sが来ました

憲兵β「GUILTYデース!!」

γ「マジかー結婚式呼べよ」

δ「もしもし、大本営?」

Φ「ちよつと落ち着け、文月ちゃんの娘?さん何歳だ?」

文月?『5900歳だ人間の年齢なら18だな』

β「信じてたよ!α!!」

δ「店長が新メニュー出したらしいですよ  
すごい手のひら返しだな

α「お前らな…」

文月「おねえちゃん!!」

文月? 『か、可愛い…なあ? 連れ帰ってもいいか?』

鈴木「ところで君は誰だ?」

文月? 『俺はゼロ!!ウルトラマンゼロ!!ウルトラセブンの息子だ!!』

ゼロα文月以外『誰?』

その時である!!次元の彼方からあの苦労人が!?

???'『ウルトラセブンに息子がいたのか!?』

ゼロ『ヤプール!!てめえ何を企んでいる!!』

ヤプール『まてまて、私は善良なヤプール人だ!!それにほら土産持参だ』

鈴木「いつもバカが迷惑かけてすみません」

ヤプール『いやゝあいつのおかげで似たような同胞に会えましたよ!!何でもエースと付き合い始めたとか』

ゼロ『マジかよ!?!』

鈴木「ゼロさんは何で地球に来たんだ?」

ゼロ『そうだった!!俺達の世界の月で宇宙の帝王(笑)が前線基地を作っていたんだ!!だがウルティメイトブレスが壊れてな』

鈴木「直してみよう貸してごらん?」

ゼロ『出来るのか!?!』

鈴木「1パーにかけな」

カチャカチャ

鈴木「ふいゝチームダイナソーより簡単だったから拍子抜けだった…」

ゼロ『これ…ノアの神がくれた奴なんだけど…』

良かったね!!これで帰れるよ!!その後その話を聞いたウルトラ五番目の弟が頭を抱えたのは言うまでもない

~~~~~♪

ふみい?ふみい!!次回は文月のふみいな夜を予定しておりますのでかなり気長にお待ちください

第鉢拾三航海文月のふみいな夜

夜：防音室（笑）で『閲覧規制』中の猿（鈴木）や夜勤の憲兵、明張淀、ハチミツ熊さん以外は寝ているんだけど

文月「ふみい…」

文月「ちゃんは起きていた!! 眠いから後は頼んだよ〜すぴ〜」

文月「ふみい…」

???「くあく昼寝してないから眠い」

文月「ふみい!!」

???「んだ? ようチビすけどうした?」

文月「ふみい!!」

???「なるほど…お手洗いで起きて帰りがけに不審人物をみたと…」

文月「ふみい!!」

???「おいおい、俺は不審な奴じゃないよ今ははぐれた相方を探してるんだ恐いぞ〜見つかったらガブリかもなく〜」

文月「ふみい!!」

???「んじゃ俺は行くわじゃあなチビすけ」

文月「チビすけじゃないよ!! ってあれ?」

稲荷のバカによるしくなく

朝：く〜よく寝た、執務室では鈴木の上で文月が昨夜のことを話していた尚書類は片しておらずエベレストなのを追記しておこう

鈴木「稲荷のバカね〜心当たりが一人いるんだが…」

最近出番がぬあい携帯『カメン、優奈!!』

タオル優奈「んだ? 朝風呂中に呼ぶなや」

鈴木「悪いな」

優奈「でどしたの? ブラックキモブタ提督と汚職大好き憲兵がなんかやったのか?」

鈴木「いや、昨夜文月ちゃんがバカの稲荷によるしくと言われたらしくな、知り合いにいないか?」

※この時優奈は高速で着替えております

優奈「知り合いね〜源九郎さん知りませんか?」

優九郎『何故かむしよくに腹が立ってきた』

優奈「知り合いらしいよ」

鈴木「本当ですか!？」

優奈「鈴木、泊まれるか？」

鈴木「大丈夫だ、問題ない」

文月「ふみい!!」

てな訳で夜：優九郎さんと鈴木と文月ちゃんがいたんだけど都合よく出てくるかね」

優九郎『やはりてめえか!!奏!!』

いたようです

奏『よう、夏祭りぶりだなとところで九郎、灰見てない?』

優九郎『さあな今頃稲荷で白黒と遊んでんじゃない?』

奏『つれないね』

優九郎『顔が近い』

奏『失礼』

鈴木「優奈、この透けている人は?」

優九郎『私の幼馴染で白黒の父親の奏だ』

奏『ようチビすけ昨日ぶりだな』

文月「チビすけじゃないよ!!」

奏『否定するってことはチビすけだな』

文月「むくくく!!」

優九郎『奏、何故ここにいる?』

奏『さあな〜時代の流れを見てて気がいたら灰もないしよく捜してたらチビすけ『ふみい!!』失礼、その子がいたわけ』

優九郎『さよか、じゃこいつ連れて帰るわ』

奏『じゃあね』

???「青葉見ました!!」

次の日

ザワザワザワ

壁『青葉新聞!!提督とうとうゆきちちゃん以外の小さな子に手を出す
!?!憲兵sに聞いた提督の性癖』

変わらない日常だな

~~~~~♪

へ？明石が最近変？淀さん知らない？次回は明石の秘密を予定しておりますので気長にお待ちください

## 第鉢拾肆航海守れ!! 平和を繋ぐ橋

今回は大本営から話を始めよう…優奈君の鎮守府?ご都合展開で廃止になりました

大本営にある執務室では夕級店長のモーニングを食べつつ新聞を読んでいるじいさんこと元帥がいた

元帥「最近はずいぶんニューズばかりだな…」

~~~~~♪

元帥「開いてるよ」

???「いい匂いだな朝食食ったのにまた腹が減ってきた」

元帥「久しぶりだな五郎」

五郎「久しぶりだな本唯(もとただ)、今は元帥殿か」

元帥「顔を出しに来たわけでないのだから?」

五郎「実は…」

かいつまんで説明すると五郎の嫁さんことヲ級の元部下り級が近々結婚するんだが相手が若者らしくてなヲ級が心配しているから素行調査をしてくれないかとお願いしに来たのである

元帥「そこは探偵の仕事だろうが」

五郎「奴らは信用ならん!!」

元帥「仕方ない…2日待ってろ」

五郎「やはり持つべきものは親友じゃな」

元帥「お前の野菜が旨いからなその礼だ」

数分後…此方は毎度お馴染みメカニック鎮守『αが文月ちゃんを『閲覧規制』しようとしたぞー(棒読み)』またかよ…

憲兵β「GUILTY」

憲兵α「違う!!文月ちゃんが山で汚れたらしいから着替えさせてたんだ!!」

憲兵√「リアリー?」

憲兵α「天龍園長と鎌鼬に誓うよ」

てるてる文月「あるふあお兄ちゃんはわるくないよ!!」

憲兵β「天龍園長に誓ったら言い返せないな」

「そーいや、γ達は？」

憲兵√「素行調査」

「だいたいわかった」

「おーい」

憲兵√「タイミングバツチりだな、γが帰ってきたぞ」

憲兵γ「話は後だ、執務室に行くぞ」

「デーモン!! 執務室なんだけど見よ!! 書類のマリアナ海溝だ!!」

鈴木「何かわかったの？」

憲兵γ「ああ、途中大本営の青葉ちゃんと一緒に調査したけどなんも無いぞ、ついでにその若者り級の正体を知った上で結婚するみたいだ」

鈴木「よし、元帥に報告『だがなく』、γどうしたんだ？」

憲兵γ「親が問題なんだよ親が」

鈴木「そりゃ心配するわな」

憲兵γ「違う違う、父親が政府官僚で母親が議員のエリートなんだよ」

鈴木「こりゃダルいわな失脚の危機ね」

憲兵α「どうする？」

鈴木「さあなく今夜は深雪とブラックプレイするか」
「だめだこりゃ」

憲兵α「店長には世話になってるし我々だけで何とかしよう」

憲兵γ「だな」

???「楽しいパーティーか？ 私達も動向しよう」

憲兵α「ブルーさんと誰!？」

???「どうも私達は突撃野郎Tチームリーダーの葛だ」

???「副リーダーの晶です♪今日はリーダーとラブブレードで最後は夜景の綺麗なホテルで『閲覧規制』の予定だったけどブルーさんの依頼で来ました!!」

葛「すまん晶は脳内花畑なんだ…」

晶「む」

縁談は上手くいくのかね？そこはいつかやろうでは

くくく♪

提督？これUSBですよね？次回は第三のミスミーを予定しておりますので気長にお待ちください

第鉢拾呉航海第三のミスミ

メカニツクこれくしよん略してメカこれ今回は工廠から始めよう

工廠：夜な夜なメカニツクがゆきちやんと『閲覧規制』する道具や艦娘の装備や建造をするとおころなんだけどもものすごい埃だな

??? 『装備作らないからだよ!!』

君は？

??? 『私は工廠妖精!!』

まあ机は綺麗だな

工廠妖精『提督さんが涎垂らしながら小さな子を苛めてたから煮沸消毒中!!』

さよか

工廠妖精『ところでこれなに?』

おいおい???ドライバーかよ!?

工廠妖精『???ドライバー?』

明日わかるんじゃない?

つてな訳で夜が明け朝く優奈と優希がいた

??? 『ルナ!!』

??? 『クラウン!!』

??? 『変身!!』

鈴木「今回は優希ちゃんと優奈だ」

優奈希『ルナとクラウンの意味は?』

鈴木「ルナは優しさ、クラウンは道化師だ!!ちなみにベルトは第三のアイテムミスミードライバーだ」

※変身は解除してます

優奈「ちよつと疲れるなそこは改善できるか?」

鈴木「とりあえず疲労はランダムだ諦めろだ」

優希「デメリットしかないよ!!」

鈴木「眠りが深くなるだけだ」

優奈「不眠症にはバツチリだな」

優希「いやいやピンポイント過ぎるからね!」

鈴木「今なら一人用のロストミスミーと巫女様御用達のスーパーで使えるクーポン券が付いてくるよ」

優奈「クーポン券はありがたい狐式が最近食べ盛りでな」

一方その狐はというと…

狐式『はぐはぐはぐはぐ』

???『がははは!!えれえ食いつぷりだな!!俺の奢りだ!!たらふく食え!!』

狐式『うん!!ありがとうね海賊のおじいさん』

世界を越えていた…ではところ変わり工廠では、明石と工廠妖精が何かを作っていた

明石「出来た!!」

工廠妖精『私も!!』

明石「大和さんが偶然来ていて持っていた握力計の造形からヒントを得て作った名付けて艦娘ライザー!!」

工廠妖精『艦娘の力を使って戦う名付けて艦娘カプセル!!』

ジーとしてもドーにもならんやつやな

ではその大和さんかというと執務室にいたついでに文月ちゃんと

憲兵αもいた

大和「え!?!この絵札の名前がわかったの!?!」

文月「ふみい!!ふみふみい!!」

憲兵α「確かにゼロさんですね」

鈴木「つてことはそれ(ゼロ)関連の奴か」

大和「ありがとうございます、お礼のラムネガムとラムネです」

憲兵α「いつもすみません、またお風呂にラムネの補充おねがいます」

大和「はい♪」

大和さんの持っている握力計?で遊んでいる文月「ふみい!!」

ウルトラマンジャック、ウルトラマンゼロ!!フュージョンアップ!!

ウルトラマンオーブハリケーンスラッシュ!!

ハリケーンスラッシュ文月「ふみい!!」

憲兵α「文月ちゃん!?!」

大和「あく懐かしい」

鈴木「デカいな」

※天井ギリギリです

優奈「ところで俺達どうすればいいんだ？」

まさかのオチ担当かよ

くくく♪

αの野郎許さん!!次回はα危機一発?を予定しているので気長に
お待ちください

第鉢拾呂久航海δと??の恩返し

ゴキツ

最初から擬音：ここはメカニック鎮守府にある資材置き場そこにかがさんと憲兵δがいた!!

憲兵δ「大丈夫か?かがさん」

かがさん「わふ!!」

憲兵δ「キヲツケルンダぞ」

かがさん「わん!!」

すたすた

憲兵δ「こりや逝つてるかもなく」

てくてく

医務室今日はナース明石とメデイカル相川の様子です

メデイカル相川「全治3ヶ月ね」

明石「δさんらしくないですよ?」

憲兵δ「いやはや、昨日の酒が抜けてなかったのかもなじや世話になりました!!」

明石「ちよつと!?δさんからはアルコールは検出されてないんだけど…」

メデイカル相川「青春ねく懐かしいわく」

明石「相川さん?」

相川「私も若い頃はモテモテなプレイボーイだったのよ」

当時を知るドクター相模『こいつは昔からオネエで女子にはめっちゃモテ委員長?並みのメイクテクを教えていたり覚えてるか知らんがメイクリスト伊藤が真似していたのをカチ込みしているからな』
では戻ろう

憲兵δ「xく風呂付き合って♪」

憲兵x「おいおい腕どうしたんだ?」

憲兵δ「名誉の負傷で全治3ヶ月!!」

憲兵x「そうか：α以外全員でサポートしてやるよ」

憲兵δ「助かる」

※文月ちゃんは憲兵αにお風呂と寝るとき以外べったりである

警ら中の憲兵α『モテるアプサーは辛いなちなみに文月ちゃんは天狗や河童と一緒に相撲を見に行ったから夕方までいないぞく』

では夕方くここは崖下温泉：憲兵δとな、なんと!?加賀さんがいた!!

憲兵δ「何で加賀さんがいるんだ!?他の皆は!?」

加賀さん? 「クチャイ人達はドラム缶風呂だよ!!」

δ&α以外の憲兵☒S『廃棄用のコンテナ風呂だ』

憲兵α『文月ちゃんや山の仲間達と山奥の秘湯だちなみに帰りは天狗に乗るから大丈夫：文月ちゃんはな』

憲兵δ「ところで加賀さん?タオルは?」

加賀さん? 「いらぬからポイした!!」

憲兵δ「ダメですよ!!全く：この作品はチビツ子や紳士、淑女が読んでいる可能性があるんですよ」

加賀さん? 「いつも使つてないもん!!」

憲兵δ「今は不思議な煙で隠れていますけどタオルを巻かないとダメですよ!!」

???『びやくしよい!!こりや明日は風邪だなスモークモクモクくつと』

加賀さん? 「クチャイデルタさん背中洗うからうごかないでね」

憲兵δ「憲兵δですよ!!」

すりすり

憲兵δ「か、加賀さん!？」

加賀さん? 「うごいたらガブガブするよ?」

???『モクモクくとりあえずふくよかだな』

その時である!!

加賀さん? 「あれ?」

憲兵δ「どうしましたか加賀さん?」

???「わふ!？」

憲兵δ「あれ?なんでかがさんがいるんだ?」

かがさん「くうくん」

憲兵δ「片手しか使え無いが風呂一緒に入るか？」

かがさん「わん!!」

その後憲兵δは加賀さんに何で消えたのか聞いたが加賀さんは身に覚えがなくしばらくは頭を抱える羽目になったそうなの

~~~~~♪

憲兵βがいた鎮守府の提督が来ました次回は仏提督を予定していますので物凄く気長にお待ち下さい

## 第鉢拾漆航海結局初期艦は誰なんだ？

今日はメカニック鎮守府にある談話室から物語を始めよう!!  
??? 「ねえ？深雪ちゃん」

深雪 「んだよ吹雪また憲兵~~箱~~sか提督にパンツ見られたのか？」

吹雪 「違うよ!?!私達って1話からいたよね？」

深雪 「ああ、ついでにリグさん達もな」

工廠にいる明石 『隠れていましたでしたが私もいましたよ』

吹雪 「結局初期艦って誰なんだろうかなって」

深雪 「あくそーういやそーうだなんじゃ聞きに行くか？」  
すたすた

ここは執務室の二つ左隣にあるてんすあい鈴木の実験所

鈴木 「初期艦？吹雪と深雪じゃないのか？」

吹雪 「普通初期艦は一人です」

鈴木 「んゝそれだと吹雪か深雪なんだよなゝ」

ゆつきりんりん♪ゆつきりんりん♪

鈴木 「失礼、はどうしましたか？隼人さん」

隼人 『その着メロなんとかならんのか？』

鈴木 「やだね！ゆきちゃんの声を着メロにして何が悪い!!」

吹深 『引くわー』

隼人 『じゃなかった今困つとるじゃろ』

鈴木 「ええいきなりの電『皆までゆうでない、初期艦は電じゃ』それは作者の初期艦です」

隼人 『正直いうと吹雪じゃ』

鈴木 「わかりました」

隼人 『たまには壱逢に帰って来い最近ゆきが泣いておったぞじゃ儂はこの辺で』

鈴木 「はいよゝ」

深雪 「で、誰が初期艦なんだよ？」

鈴木 「吹雪だそーうだ」

吹雪 「そうですね!!最近他所の鎮守府の初期艦会議に呼ばれて

行ったらゴトランドさんがいて気になったんですよ!!」

※ゴトランドさんは名前だけの登場です理由?私を持つてないからだ!!

鈴木「ゴトランド?ザンスカール帝国のMSみたいな名前だな」

深雪「SM!?鈴木さん昼間だよ!」

鈴木「ちがうよモバイルスーツ、起動兵器の略だよ」

吹雪「深雪ちゃん?SMって?」

鈴木「吹雪、君はいままで通り素直でいてくれ…」

深雪「ああ、ゆきねえが言つてたが鈴木さんって『閲覧規制』に『閲覧規制』しようとして嫌がったら日をおいて言うんだって」

鈴木「ゆきちゃん…今度絶対泣かす…嫌がってもしてやる」

壱逢世界にいるゆき『ちよつと寒気が…』

????「司令官、お客様だよ」

????「よう」

鈴木「ありがとね響後、久しぶりです!!師匠」

師匠「あの兼君が今は提督ねえ」

吹雪「あの…貴女は一体?」

師匠「私?あたしは久野小百合(くのさゆり)一時期兼君の師匠していた風来坊さ」

鈴木「詳しくは何時の日にか壱逢か放送局だな」

深雪「これ書かないヤツや」

鈴木「ところで師匠一体何ようですか?」

小百合「三熊って娘知らない?」

鈴木「三熊?ああ、確か書類が来てたなどこだっけ?あつた!!この娘ですね」

小百合「よかった…いや、散歩してて気がついたらなんとまあ胸糞展開だったから叩き潰したついでに連れてきたんよ!!」

鈴木「む、胸糞?」

小百合「百貫デブがのしかかるだ」

鈴木「作者がダメージ食らってますよ」

数分後…

小百合「つてな訳で三熊は私が連れてくよ」

鈴木「相変わらず師匠は急がしいんすね」

小百合「まあな、最近はや相模の手伝いだよもうモテるお姉さんは辛いわ♪」

鈴木「そーいや葛さん所に三熊の妹がいましたよ」

小百合「そーなの!?!わかつたわ久しぶりに晶ちゃんをイジりに行くわじゃあね」

その後何処かの副リーダーが頭を抱えていたのは云うまでもない  
~~~~~♪

大和さんに迫る闇の使者：次回、闇の囁きとハーモニカを予定していますので気長にお待ちください

第鉢拾捌航海闇の囁きとハーモニカ

メカニックこれくしょん、今回は大和さんがすんでいる家から始まります

大和「さてと行きますか」

カラカラカラ

???「やあ大和ちゃん」

大和「こんにちは蛇倉さん」

蛇倉「今日もラムネ売いかい？」

大和「はい!!最近はりピーターも増えているんですよ!はい、大和ラムネです」

蛇倉「ありがとよ」

大和「では」

カラカラカラ

蛇倉「今のアイツはアマちゃんだな…だがラムネは旨い…あのバカはなにしてんだか」

時を同じく隣街では

くくく

通行人「こんな時間に弾き語りか…」

???「いや、ただの趣味さ」

通行人「そういや最近若い娘ばかり狙う奴がいるって話だがひよつとしてアンタがんな分けないか!!」

???「ちよつと心配になつてきた…ありがとうな」

通行人「おうよ!!アンタも気を付けなよ」

では大和さんに視点を戻そうつとその前に…

蛇倉「ようやく帰って来たか…ガイ!!」

ガイ「ジャグラー…今度は何を企んでいる」

蛇倉「なにも?…しいて言うならご近所付き合いな」

???「こんにちは蛇倉さん、あらやだイケメン!?おばちゃんメイクしてないから恥ずかしいわあ」

蛇倉「大丈夫ですよこいつは気にしないから」

ガイ「すみません」

蛇倉「家で話そうか」

ガイ「ああ」

すたすた

此方はメカニック鎮守府空気椅子中の憲兵αとαの膝にちよこんと座っている文月がいたってまさか…

憲兵α「お帰り√」

文月「ふみい」

√改め蛇倉「ただいま」

憲兵α「お客かい？私は憲兵αこの子は文月ちゃん」

文月「ふみい!!」

ガイ「俺はガイ、ジャグラーの知り合いだ」

蛇倉「そういや今日大和ちゃんが来る日だったよな？」

憲兵α「大和ちゃん？そういやまだ来てないな」

ガイ「まさか…ジャグラー行くぞ!!」

蛇倉「はあ…ちよつと待ってろ」

すたてく

此処はメカニック格納庫

蛇倉「マツハラングル」

マツハラングル「やあ憲兵√」

蛇倉「ちよつと付き合ってくれないか？」

マツハラングル「構いませんよ」

では憲兵詰所に戻ろう

蛇倉「行くぞガイ」

ガイ「運転出来たんだな」

蛇倉「全宇宙共通免許だ」

ガイ「何時の間に」

蛇倉「ちよつとなマツハ、大和ちゃんに設定出来るか？」

マツハラングル「コンマお待ちを設定完了!!大和ちゃんならって町

外れの廃墟から反応していやがる!!」

蛇倉「そうか…んこいつは…ガイ、これを使え」

ガイ「これはジードライザー!?何であるんだ!」

蛇倉「ちよつと違うなくこいつは艦娘ライザーだ」

では移動している間廃墟にカメラを移そうなんか埃っぽい部屋の
ベッドに大和ちゃんが縛られていました

??? 「ぐふ、ぐふふ」

大和「あのく私いまからラムネの配達が『黙れ!!』ちよつと!!」

??? 「俺ア大和ちゃんのファンなんだよ!!だから最初は大和ちゃんつ
て『おいおいこいつは健全作品だって聞いている?』誰だ!」

??? 「お節介な風来坊と」

??? 「お節介な宇宙人だ」

大和!!吹雪!!フュージョンライズ!!ファーストリーダー!!

??? 「ジャグラーこいつは流石に恥ずかしいな」

ジャグラー「諦めるガイこいつは艦娘用のライザーだからな」

ガイ「仕方ない…撃つか」

ジャグラー「俺は大和ちゃんを助けるか」

大和「あのく普通に縄はちぎったのですが…」

ジャグラー「おくこわ」

ガイ「発射!!」

??? 「ぐふいいい!」

ジャグラー「じゃあなく」

ガイ「またな」

くくく♪

大和「まさか…なわけないか」

その後、若い娘ばかり狙う奴は現れなくなつたがたまに路上ライブ
が行われたりしているらしい

くくく♪

三日月「天さん私の紹介は!」仕方ないから次回はドキツ!?忘れら
れたキャラ紹介を予定していますので気長にお待ちください

第鉢拾九航海ドキツ!?忘れられたキャラ紹介

始めはこの娘だ!!

三日月、鉄華団ではない、メカニック鎮守府にいつの間にかいた艦娘長門の文月と仲良くなるう作戦に付き合わされていたが最近長門さんが構ってくれなくてちよつと寂しいらしい

ほいぬ座の聖衣、長門の依頼でメカニックが作った聖衣別名置物で今は夕立の部屋においてある因みに時雨の奴もあるらしい

加賀さんだけど加賀さんじゃないかがさん、愉快的工廠組がかがさんのご飯に混ぜた薬の効果で人間になったかがさん、見分け方はかがさんの方が幼くサイドテールがちよつとだけ短いが瑞鶴以外は気付かない

バウリンガルEX、鈴木が夜中ゆきちゃんワンワンプレイしていた時に使ったアイテムで翻訳器では現段階最高峰らしい

憲兵√、出生、出身全てにおいて不明な憲兵その正体はとある宇宙で次元振動に巻き込まれたジャグラス・ジャグラであるとりあえずガイとの仲は良好と言っておこう

ガイ、ジャグラと同じ宇宙出身の風来坊で大和さんに握力計?を渡した不審者でもある今は世界を廻る旅をしている

曙、最初期から鎮守府にいる釣りバカでゴージャに釣りを教えたのは彼女である

ウルトラマンゼロ、ウルトラセブンの息子である説明?大体察してくれ:

ヤプールさん、異次元人でウルトラ戦士と長きに渡る戦いをしてる筈なんだが...この作品では一部のヤプール人は温厚でたまにバミューダをしているのを見たらランダムで送り返しているらしいが主に優奈から被害を受けている

なまこ、名前だけの登場だがその正体は大体察してくれ...

ファーストリダー、艦娘ライザーに大和カプセルと吹雪カプセルをセットし変身する、基本フォームであり続々と増えていく予定です
提督、βがいた鎮守府の提督でかなりのホワイト鎮守府であり島風

を沈めた時は悪人になろうとしたがβに諭されその後仏提督と呼ばれるようになったのだがなぜβがメカニックに来たのかは不明

島風、βが前いた鎮守府の島風、誰よりも速くそしてその先を夢見た艦娘であり志し半ばで沈んだ…

タイプスピードレプリカ、島風がβに預けたミニカー、島風曰く『脳細胞がトップギアになり考えるな感じろ』らしい

ゴトランド、名前だけの登場でザンスカール帝国のMSに名前が似ている

加賀さん？、憲兵δと一緒に崖下温泉に入っていた艦娘？その正体は愉快的な工廠組にバウリングガルEXで頼み少量の薬を飲んだかがさん

久野小百合、一時期鈴木 of 師匠をしていた女性極度の方向音痴でたまに世界を越えたりしている

三熊、小百合さんが助けた艦娘近日登場予定

~~~~~♪

それでは開演いたします次回はでっかい暁と迷子を予定していますけどあんまり期待しないで気長にお待ちください

## 第玖拾航海メカニック鎮守府の艦LINE

ここは鳳翔食堂女将の鳳翔さんは大和撫子な皆のお母さんだ!!

♪

鳳翔「誰かしら?」

??? 『場末酒場なっちゃんリニューアルオープン!!』

鳳翔「お花を贈りましょう」

では場末酒場なっちゃんでは那智が文面を見ながら頭を抱えていた

♪ 那智「流石にこれで大丈夫だろうか?」

♪ 那智「はい、すまないが今は営業時間外だつて女将さんか」

鳳翔「お花を持って来ましたよ」

那智「これはありがたい!!よし、女将さん一緒に写真を撮らないか?」

♪ 鳳翔「構いませんよ」

♪

??? 「なっちゃんですか」

那智『女将さんがお花を持って来てくれたぞ!!』

??? 「赤城さん、今からなっちゃんにいきますよ」

赤城「朝から元気ですね、加賀さん」

加賀「こたつでタレてる貴女には負けますよ」

時を同じく此方は鍛練場に我らが主人公(笑) 優奈と飛龍、蒼龍がいた!!

優奈「久しぶりにやるか、古始今流超初心技破砕斬!!」

飛龍「速い!?けど蒼龍!!」

蒼龍「かわせる『残念♪初心技後ろの彼女はボロボロだ!!』飛龍!? ガハッ」

♪ 優奈「いっちょあがり♪」

飛龍「艦LINEだ」

那智『リニユーアルオープンにさっそく女将が花を持って来てくれたぞ!!』

優奈「ところで天さんや」  
んだ?

優奈「もうちよいマシな技名にしない?」

唐竹斬や大根斬は中級技だぞ

優奈「超初心技と初心技誰が名付けてたっけ?」

辛味動義勝（からみどうよしかつ）さんだ!!

優奈「しらね〜」

では時は吹き飛びなっちゃんに飲んべえ達と憲兵α、文月、優奈がいた

文月「なちお姉ちゃんのお祝い!!」

那智「ありがとうな文月」

優奈「ヒュ〜凄く上手いなこりや秋雲は要らないな」

文月「いや!!あきぐもお姉ちゃんはいていいの!!」

憲兵α「優奈さんシレつと酔ってます?」

優奈「大丈夫だ!!」

那智「まさか烏龍茶で酔うとは…」

優奈「冗談さ」

※よるこ悪い子の皆!!お酒は二十歳になってからだ!!後、二十歳越えた紳士、淑女の諸君!!調子に乗って飲み過ぎも注意だ!!壱逢劇場支配人との約束だぞ

憲兵α「必要ないと思うがR J以外の見た目ロリは文月ちゃん以外いないからな」

優奈「おい、今酒飲ませようとしたのは誰だ?出てこなければ酔い醒ましかまずぞ」

憲兵α「酔い醒まし、優奈さんの剣撃です」

文月「ゆうなお兄ちゃんほどほどにね」

那智「ジュンヨウです!!」

優奈「秘技奈落崩し!!」

ジュンヨウ「ちとちよも道連れじゃアア!!」

ちとちよ『ぐはっ』

憲兵α「さておねむの時間だ」

だなそれではまた時間

くくく♪

久しぶりの登場ゴーヤが瑞鶴になにやら指導するらしい次回は初見間違えるよなを予定してたらしいなうなので気長にお待ちください

い

## 第玖拾壹航海聖なる剣？

今日も今日とて此方はメカニック鎮守府の工廠に鈴木、明石、夕張、加治屋の秋雲略して加治雲がいた

鈴木「裏の畑でポチが鳴く〜」

明石「正直じいさん抜けぬ蕪〜」

夕張「実はポチは女の子〜」

加治雲「色々混ぜてる!？」

鈴木「まあ冗談さ」

明石「最終的に蕪は抜けますか？」

鈴木「さあ？」

加治雲「持って来たけど大丈夫かな？」

次の日、談話室では長門、名取、扶桑、憲兵√が双六をしていたつてかこの組み合わせは珍しい…

長門「2だな『提督の秘密を暴いたが独房に入り一回休み』」

名取「私ですネエイツ1：『中破グラがエロティック過ぎてシヨタが『閲覧規制』三マス戻る』そんな〜」

扶桑「いいですね…また1：『お金を交番に届けたら感謝された!!サイコロを振り出た目X6進む(ナノミクロンレベルの文字で扶桑さん、山城さん限定)』エイ!!6!？」

長門「一気にトップじゃないか!!」

憲兵√「ヤバイなそれ三『品評会で大絶賛されたニマス進む』」

長門「私は休みだ」

名取「私ですネエイ!!1『スタートに戻る』そんな〜」

扶桑「あと少しでゴールですエイ2『おめでとう!!だけどスタートに戻るだ』ぬか喜び!？」

憲兵√「後半はエゲツないな」

長門「優奈さんと提督監修だからな」

憲兵α『ちなみに子供用はバランスいいぞ』

~~~~~♪

鈴木『え〜メカニック鎮守府の皆さんメカ以外は中庭に集まってく

ださい』

ぞろぞろガヤガヤ

中庭、そこには街や釣りに行ったメンバー以外が集まっていた

鈴木『抜いたら勇者!? 聖なる剣? を引っこ抜けえええ!!』

明淀『ドンドンパフパフ』

鈴木『ルールは簡単この加治屋の秋雲特性の剣を抜いた選ばれし者には褒美を上げよう!!』

??? 「提督の正妻の『それはダメだからな』チツ」

憲兵α「俺らは?」

鈴木『憲兵さんも参加だ』

??? 「俺はすぐ終わるからパス」

鈴木「見本を見せよう!! カモンぽいちゃん!!」

ぽい「ぽいイイイイ!! 抜けないっぽい!! 提督さん、アレ使ってもいい?」

鈴木「構わんよ」

ぽい「来るっぽい!! ぽいぬ座の聖衣!!」

ガチャンガチツガチツズビシ!!

夕立ぽいぬモード「ぽいイイイ!! ダメっぽい…」

鈴木「ぽいぬ座の聖衣を纏った夕立は戦艦クラスの力があるぞ!!」

長門「次は私だ!!」

とうとう誰も抜けず最後の子が来たようです

??? 「出前で来ただけなのに…」

深雪「夕級店長頑張れ〜」

夕級店長「ウオオオ!!」

バキン!!

鈴木「ありや根元からバツクリ逝ったな」

夕級店長「弁償か!? 弁償したらいいのか!?!」

鈴木「大丈夫ですよ、まあ加治屋の秋雲が倒れる位です」

加治雲「わ、私の傑作が…」

夕級店長「すまない…」

加治雲「大丈夫!! これよりもっと凄い剣を打って来ます!!」

後に優奈と天龍の武器が加治雲製になるのは誰も知らない

くくく♪

何？間宮さん達がない？私の出番だな!!次回、比叡を越える者を
予定してたらいいなくでは気長にお待ち下さい

第玖拾貳航海比叡を越える者

メカニツク鎮守府『ひえええ!?』なにやら発生したようです
ガヤガヤ

青葉緊急号外新聞『鳳翔食堂、甘味処間宮、場末酒場なっちゃん緊急休業!!犯人は四足の悪魔か!?!』

からくりさん(仮名)『来週健康診断です』

ハリケーン『アヤツなら鎮守府なぞくあゝよ!!』

でち『釣り同好会は君を待っているでち!!』

スーパー深海『新鮮な魚介や野菜を格安販売中、近々商店街組合共通買い物券も使えるようになります』

憲兵α『秋雲ちゃんはさっさと郵便物取りに来てください、文月ちゃんが見ようとしているぞ〜』

とどのつまり珍しく店休日が被ったのである

鈴木「久しぶりにアレやるぞ〜」

鈴木以外「お〜!!」

数時間後

天「全世界艦娘スキ一の皆様お待たせしました!!これより第二回メカニツク鎮守府料理対決をいたします実況は私作者代理天の声と」

???'「なぜか呼ばれたクツキング田中がお送りする」

天「ルールは至極簡単選ばれし艦娘達が自分の腕だけで胃袋を掴む!!てめえら胃薬の用意は万全かあ?」

審査員『ヒヤッハ〜!!』

クツキング田中「審査員を紹介しよう、メカニツク鎮守府の最終防衛ラインこと憲兵☒sからγとΦ」

憲兵γ「しくよろ♪」

憲兵Φ「αは今頃山の宴会かあ〜」

天「次にメカニツク鎮守府提督、メカニツク鈴木」

鈴木「前回よりマシだといいな〜」

クツキング田中「次に今大会審査員長の歩く災害稲荷の悪魔稲荷狐式ちゃん」

狐式「とりあえず書いた人父上に言いつけてやる!!」

天「参加者の紹介だ!! 前回は無様を晒した一航戦のリベンジに青い方が登場だ!! 加賀さん」

加賀「赤城さんのリベンジです」

田中「次に最近やって来た自称料理人磯風!!」

磯風「優勝は貰ったな」

天「次に今大会ダークホース、実は鳳翔食堂でお手伝いをしていた涼風!!」

涼風「アタイに任せな!!」

田中「最後に本当は文月ちゃんがいたのですが、山の宴会に行っただので代わりに優奈さん!!」

優奈「テキトーにやるか」

天「それでは鈴木さん皆さまにちよいと激励をば」

鈴木「えくとりあえず狐ちゃんを攻略できれば優勝です」

田中「今回のお題は朝食、こりや涼風が有利か?」

優奈「どするかな?」

磯風「余裕だな」

鈴木「それじゃ開始!!」

数分後

優奈「描写? 親や妻、兄弟、親戚、祖父母の調理イメージで十分だろ?」

途中磯風が大火力バーナーを出した以外は何もないしな

天「んじゃ食べましょう!! 今回も安全第一でドクター☒sもいますよ」

※ここからはダイジェストでお送りいたします理由? さあな

田中「順番は磯風↓優奈↓加賀さん↓涼風ちゃんだ」

鈴木「磯風ちゃんたのんます」

磯風「ふうん、焼き魚定食だ!!」

優奈「焼き魚というより炭だな」

観客席の比叡『磯風は私が育てたけどやっぱり大火力は無理でした!!』

狐式「お魚さんが可哀想だよ!!」

鈴木「他が普通なのが問題だな…」

天「次はやる気が無い優奈君」

優奈「ほれ、蛙野直伝あさげだまあ女将達には劣るがな」

狐式「父上、蛙野さんの方が美味しいよ!!」

田中「旨い漬物だな自家製か？」

優奈「いや、蛙野特製悪食満足の漬物だ」

鈴木「今度ゆきちゃんに教えてくれないか？」

天「次はリベンジの加賀さん」

加賀「簡単和朝食です」

鈴木「どこが簡単だアアア!?」

田中「ガチモンの奴作るなよ!」

狐式「美味しいけど少ない…」

天「加賀さんが出したのはホテルの朝食をイメージしてくれたら助かります」

優奈「最後は涼風ちゃんだな」

涼風「はい、茶漬け」

憲兵γ「これは!」

憲兵Φ「この匂い…涼風ちゃん山城さんのお茶使っているね?」

涼風「ああ!!山城さんに聞いたら近所のだったから買ってきた!!」

憲兵γ「これを食べると一日頑張れるんだよな」

憲兵Φ「そうそうこの味、この舌触り…三食これでいくらいだ」

涼風「流石に言い過ぎ!!」

優奈「結果は?」

狐式「炭以外!!」

審査員『意義なし!!』

これによりたまにだけ涼風が厨房に立つ日が増えたらしい
くくく♪

やあ、地球の皆!!俺はウルトラマンゼット、あのウルトラマンゼロの弟子をやらせてもらっているってベリアアロクが小さな子といふ!?これはウルトラヤバイ事態だぜ!?次回、文月ちゃんと魔剣ベリアアロク

第捌拾貳・伍航海文月ちゃんと魔剣ベリアロク

メカニツク鎮守府…かつてそう言われていた場所は荒れ地とかしていた

??? 「ふみい…」

彼女は文月、メカニツク鎮守府にいた艦娘である

??? 『おまえは俺を手にして何をする?』

文月 「ふみい!」

??? 『なんだチビしかいないのか』

文月 「チビじゃないもん!!」

??? 『まあいい、あの男に似たヤツがいる「よう、ベリアロク」久しぶりだな』

文月 「るーとおにいちゃん!」るーとおにいちゃんはその時…

るーとおにいちゃん? 「誰だか知らないが俺はジャグラス・ジャグラーだ」

文月 「違うよ!!るーとおにいちゃんだよ!!ふみづきのこと忘れたの?」

ジャグラー 「はあ…仕方ない…暫くはるーとおにいちゃんとやらになるかところでベリアロク、お前はハルキ達と宇宙に行ったんじゃないのか?」

ベリアロク 『ああ、だが気が付いたらここにいたわけだ』

一方その頃、此方は何処かの宇宙

??? 『ハルキ!!気合い入れていきますよ!!』

ハルキ 『オツス!!ってゼットさん?ベリアロクさんが来ませんよ!』

ゼット 『なんだって!』

ではもどろろ

ジャグラー 「ところでここはどこだ?」

文月 「ここはきのうまでふみづきのおうちがあったところだよ…」

ベリアロク 『更地だな』

ジャグラー 「いや、たぶんヤツの仕業だな」

文月「知っているの!？」

ジャグラー「以前アスカに聞いた話なんだがこの手口は怪盗ヒマラ
だな」

一方その頃宇宙では…

???『ようやく帰ってきたってまた別の宇宙かよ!? やっぱりゼロに頼
めばよかったかな』

戦闘機が宇宙にいた

新作予定の世界にいる優奈『かなり進歩した奴だな』

もどろろ此方は廃墟の屋上…怪しい人がいた

???『この世界は美しい…全てを貰いたいがまたウルトラマンがきた
ら敵わないから一部だけ戴こう』

その一部がメカニック鎮守府ってわけね

ではまた場面は替わり裏山に戦闘機が降り立っていた

「やっぱり地球だよな?」

「ぐあ!!」

???「熊!?こんなときは死んだフリだ」

熊「ぐあ!？」

ズルズル

此方は文月ちゃん達がいるところ

文月「ふみい…」

ジャグラー「ヒマラの奴うまく隠れたな」

熊「ぐあ!!」

腹ペコ熊さんのエントリーだ!!

ジャグラー「熊?晩飯にするか」

文月「だめ!!このくまさんはやさしくまさんだよ!!」

ベリアロク『おい、アイツなんか担いでいるぞ』

ジャグラー「本当だな」

文月「ありがとね♪くまさん」

熊「ぐあ!!」

文月「ばいばい」

ジャグラー「こいつは、二人ともなんとかなるかもな」

ベリアロク 『知り合いか？』

ジャグラー 「こいつがアスカだ」

何時まで死んだフリしてんだ!!…続く？

~~~~~♪

ネオフロンティアのメカ：ゾクゾクするね次回は怪盗ヒマラと光  
になった男と光に選ばれなかった二人と反逆の剣を予定してるけど  
気長に待っていて下さい

第鉢拾弐、漆伍航海怪盗ヒマラと光になった男と光に  
選ばれなかった二人と反逆者の剣

前回、熊が連れてきた男はジャグラーの知り合いだった

鈴木「本編いくぞ」

此方は大和さんの家

大和「そんなことが…私も手伝います!!」

ジャグラー「いいのか?素性の知らない二人と一本が操っているか  
もしれないよ?」

大和「私は貴方に似た人とこれを授けた人に恩があります」

ジャグラー「ガイのやつなにやってんだよ!!」

~~~~~♪

??「呼んだか?」

ジャグラー「ガイ!!てめえなに渡してんだよ!!」

ガイ「ジャグラー忘れたのか?お前も同意してたじゃないか」

ジャグラー「ふざけるな!!こいつは…ん?お前俺の知っているガイ
か?」

ガイ「どうしたんだよ、頭打って記憶無くしたのか?」

文月「やまとお姉ちゃん?」

大和「あの人は昨日行き倒れてたから拾たの」

ジャグラー「またか…ウチで働けよ」

ガイ「まだ見てない所があるから今度な」

一方囚われのメカニック鎮守府では

超々ギガントカウント「ギガMAXキャノン発射!!」

鈴木「うへ〜破壊成らずか…こりやヤバイな」

瑞鶴「艦載機が通れる隙間があれば…」

鈴木「携帯使えないしな〜」

その時である!!

???『どうしましたか?』

鈴木「ヤプールさん実は…ってヤプールさん!?!」

ヤプール『おや？空が薄暗いですね？』

鈴木「どうやら閉じ込められたらしく出られないんです」

ヤプール『ほう？私が唾をつけている場所を横取りするとは…誰か向こう側にいますか？』

憲兵√「それなら文月ちゃんを芝生のある場所に突き飛ばしたが大丈夫かな」

ヤプール『探す次いでに元凶を懲らしめときますよ』

一方、

???『ベリアル!?』

ジャグラー「落ち着けアスカ、こいつはベリアロク、まあベリアルに似た剣だ」

文月「るーとお兄ちゃんの友達？」

ジャグラー「似たようなもんだ」

ベリアロク『俺は知らんがな』

アスカ「俺はアンタの元になった奴を知っているのこの件にクビ突っ込んだだけさ」

???『夜分すみません』

大和「はい」

文月「やぶーるさんだ!!」

ベリアロク『ヤプールだと!?』

ジャグラー「俺が行こう」

文月「やぶーるさんはいいいひとだよ!!」

ヤプール『文月ちゃん怪我はないかい、α君が√さんを殴ってたよ』
※ヤプールのイメージは巨大ヤプールを人間サイズにした格好でたのんます

文月「ぜーたそうびでおこつとく!!ってそうだ!!ふみい!!」

大和「日向さんの艦装!?にしても小さい」

文月「しれーかんが一回しか使えないからギリギリまでがんばってギリギリまで踏ん張ってもダメな時に使いなさいって渡されてたんだった!!」

ピンチのピンチのピンチの連続そんな時ウルトラマンが欲しい

♪やっぱり音程外しくってるな…その時である!!赤と青と銀のカラーは…ま、まさか!?

???『シエア!!』

文月「ゼロお兄ちゃん!!」

ゼロ「よう、元気してたか?つてアスカにベリアル!」

アスカ「よっ!!」

ベリアル「ゼロか切りごたえがありそうだ」

大和「私の部屋が…」

ジャグラー「ドンマイだな」

ガイ「いつものおまえなら悪どい笑みを浮かべながらなんか言っそうだな」

ゼロ「そーいやメカニックのとこ更地だったがなんかあつたのか?」

カクカクシカジカ四角いmoveでマルマルウマウマな訳だ

文月「ゼロお兄ちゃんもヒマラをメツ!!しに行こ!!」

ゼロ「ああ!!」

てな訳でヤプールさんに案内されてやって来ましたヒマラのアジトなんと!?!大和さん家の二軒隣だった!?

ジャグラー「灯台下暮らしだな」

文月「いくよ!!」

アスカ「ヒマラゝいるかく」

???「なんだい?騒がしいってダイナ!?!お前は这个世界に居ないはず!?!」

アスカ「ちよつと寄り道だ」

ヤプール『貴方が怪盗ヒマラですか…私が唾をつけている場所を盗んだ不屈き者め…ベロクロンとバキシム、バラバどれがいいですか?拒否権はありませんよ♪』

ヒマラ「ウルトラマンに異次元人ヤプール!?!敵対している奴等がなぜいる!!」

ジャグラー「この子が原因かもな」

文月「ふみい?」

ゼロ「さつきと返さないと痛い目見ることになるぞ？」

大和「どうしますか？」

ヒマラ「還します!!」

ガイ「あつさりいくんだな」

ヒマラ「ウルトラマンが四人とか勝ち目がありませんからね」

ベリアロク『興醒めだな：来たか』

???「ご唱和下さい我のつてし、師匠に隊長!？」

ジャグラー「久しぶりだなハルキ」

ゼロ「よう、ゼット」

文月「ゼロお兄ちゃん、るーとお兄ちゃんのもだち？」

ジャグラー「俺が隊長をしていた時の部下だ」

ゼロ「押し掛けの自称弟子だ」

ヤプール『皆さん、ヒマラが逃げてますよ？後、文月ちゃんこれを』

文月「ありがとう」

携帯『カモン!!優奈!!』

優奈「借りるぞ久しぶりの古始今流超技最覇碎斬!!」

ベリアロク『くたばりやがれ!!』

その後…

頭にたんこぶこさえたヒマラ「すみませんでした!!」

鈴木「いやゝ怒っていませんよ？私はね」

憲兵√「俺がいる!？」

ジャグラー「別世界の俺か」

ハルキ「こつちの隊長よりあつちの隊長がイイツス!!」

ガイ「本音は？」

ハルキ「優しそうだから!!」

文月「るーとお兄ちゃんつれてっちやだめ!!」

ゼット『師匠ここはどこなんですか？』

ゼロ「ここか？ここは俺の妹がいる世界だ」

優奈「ありがとよ」

ベリアロク『切りごたえが無かったがまあいい次は頼むぞ』

アスカ「ゼロ、ネオフロンティアまで頼めないか？」

ゼロ「まかせとけ!! すごいや鈴木さん、文月ちゃん借りてくぞ」

鈴木「なぜ!？」

ゼロ「親父がうるさいんだよ後、ヒカリが来るらしいからよろしく
伝えとくよ」

鈴木「ウルトラマンの知識か…楽しみだな」

メカニック鎮守府に新たな技術が来るようです

~~~~~♪

近所に泥棒が!?! おいおい、老いぼれ警官さん力貸すよ次回は最期の  
捕物か文月ちゃんウルトラの星に行くを予定しているけど気長にお  
待ち下さい

## 第玖拾慘航海文月ちゃんウルトラの星に行く

宇宙：数多な天体が輝く大海原…

ゼロ「大丈夫か？」

文月「ふみい!!」

赤木「浮かないからちよつと残念」

前回、ゼロに招待された文月ちゃんと一応保護者に立候補した赤木さんは宇宙にいた

ゼロ「もうすぐで着くからな」

ビュン

ここはウルトラの星、ウルトラマンの故郷である…元々ウルトラマンも我々人間と同じ姿をしていたがそこはタロウやメビウスやstoryoやギャラファイ二章を見よう!!はいそのウルトラマン博士ニキヤネキ突っ込みは無しだぞ

ゼロ「帰ったぜ」

???「お帰りゼロとここでこの二人は？」

ゼロ「親父から聞いてないか？妹を連れて『聞いてないぞ!?セブんに隠し子だ?!』落ち着けよゾフィー」

ゾフィー「セブンめいつの間に地球に行つたんだ!!これは大隊長に報告せねば…」

赤木「あゝゾフィーさん？」

ゾフィー「失礼、取り乱してしまつたようだ…私はゾフィー、宇宙警備隊の隊長をしているお嬢さん方の名前は？」

赤木「私はメカニック鎮守府の住み込みで働いている赤木です」

文月「私は駆逐艦のふみづゆきって言うの!!」

ゾフィー「メカニック鎮守府…ゼロから聞いているよあの後、ヒカリがヤケ酒して今は寝込んでいるな…」

寝込んでいるヒカリ『どうせ俺はダメな科学者だよ…』

ゼロ「ゾフィー、親父はいるのか？」

ゾフィー「セブンならコロセウムでジードとタイガを指導しているぞ後、エースが自慢の包丁を研いでいたが何かあつたのか？」

ゼロ「今日は皆で食うから張り切ってたろ」

ゾフィー「私は呼ばれてないぞ」

ゼロ「親父だな…」

その時のセブン『後はゾフィーか…ゾフィーのことなんていいか』  
※ウルトラマンの皆さんは人間大のデカさです理由？か弱い二人の声が届くと思う？

では場所は代わりコロセウムでは…ジープに乗ったセブンとボロボロのジードとタイガがいた

セブン「ヒヤッハー!!避けねえと倒せないぞ!!」

ジード「いやいや後ろに人がいるのに避けれなくはっ!!」

タイガ「セブンさん、アンタやっぱりスパルタぐはっ!!」

ゼロ「親父く帰ったぜ」

セブン「お帰りゼロそしてようこそ、私はウルトラセブンあっちで倒れているのはジードとタイガだ」

文月「ふみづゆきって言うの!!」

赤木「赤木ですセブンさん、ゾフィーさんは上司なんだから報連相はちゃんとしてください」

文月「ふみい!!」

セブン「不本意だがゾフィーに謝りに行くか…」

本編とは関係ないが暫くセブンはゾフィーの手伝いをしたようなでは戻ろう此方はエースが開いているレストラン今日は何やら貸し切りのようです

エース「ようこそ私はウルトラマンエース」

文月「やぷーるさんのともだちだよね!!」

エース「違うよ、それは別次元の私だ」

赤木「そうなんだ」

???「僕はタロウ、タイガの父だよ」

文月「こうじお兄ちゃんの声だ!!」

赤木「ウルトラマンタロスさん!」

タロウ「違うよ」

???「私はウルトラマン、ゾフィーやジャックとちがうからね」



??? 「私はウルトラマンジャック、ゾフィー兄さんとマン兄さんとは違うから間違えないでね」

赤木 「本当だ似てる」

タロウ 「三人は顔だけなら初見殺しだからね」

??? 「そうですよ!!何回テストで間違えたことか」

タイガ 「一番難しいのはマン兄さんだよ!!」

ウルトラマン 「そうか?」

タイガ 「なんだよ!!ガリガリからフツメンになってイケメンだよ!?地球任務の時に何があっただよ!!」

※ウルトラマンの顔は三タイプあります

ウルトラマン 「あれは地球のご飯が美味しくてねちよつと食べ過ぎたんだよ」

タロウ 「わかるよ!!地球のご飯って結構ボリュームある定食屋とかあるよね」

??? 「そうですよ!!そういうえばタロウ兄さんが行つてた食堂今カレー屋になってましたよ」

タロウ 「嘘!?あの店の満点定食美味しかったのに」

※ウルトラ戦士の滞在期間は80とメビウス以外ガチでヤバいからな…流石怪獣発生記…

エース 「出来たぞくつてメビウスいらっしやい」

メビウス 「お邪魔してます後、ゾフィー兄さんはもうすぐ着くそうです」

赤木 「美味しそう」

タロウ 「エース兄さんは一時期フレンチを開いていたからね!!」

エース 「それは別次元の私だ…あの世界の私の隣には夕子がいたから良かったと思うよ」

タロウ 「私は行けなかったから知らないけど私達のいない世界とは…」

赤木 「私達の世界にはウルトラマンや仮面ライダーはいませんよ」  
ウルトラマン 「仮面ライダーか…彼らは今も戦い続けているのだからか…」

とある世界にいる優奈『ミスミープラザーズとマキシマムミスミ  
はエグゼイドでミスミードライバーはダブルだからな』

ゾフィー「遅くなってすまない」

エース「大丈夫です今出来たからね」

文月「おいしそう!!」

タロウ「そういえば母さんたちは？」

エース「どうやら会食と被ったらしくてね『ただいま』父さん!」

父さん「いらつしやい私はウルトラマンケン宇宙警備隊の大隊長を  
しているけど地球の方にはウルトラの父のほうが有名かな」

???「私はウルトラウーマンマリーですがウルトラの母が有名かし  
ら」

文月「私はふみづゆきって言うの!!」

赤木「私はメカニック鎮守府に住み込みで働いている赤木です!!」

ゼロ「この二人はウルトラマンのいない世界の人間だからなく後、  
何故かヤプールはいるがな」

セブン「何!?!なぜそれを早く言わない!!」

ゼロ「エースには伝えたからな」

エース「すみません、なかなかシヨックを受けまして」

ゼロ「別次元だがヤプールと付き合っているらしいからな」

ウルトラの母「まあ!また孫の顔が見られるわ」

ウルトラの父「そうだな、長生きしてみるものだな」

赤木「ヤプールさんって性別あったかな?」

文月「知らない」

その後、セブンが文月ちゃんの可愛さに陥落しタロウと偶然来てい  
たアストラがドン引きしたりウルトラの父が絵本を読んだりしたの  
は別の機会に語ろう:

~~~~~♪

儂が奴を捕まえないきゃならん!!次回は最期の捕物を予定してます
…最近、もう艦これじゃなくね?」

第玖拾肆航海最期の捕物

梅雨も明けちよつと蒸し暑い日々が続くメカニック鎮守府、憲兵詰所から話を始めよう

憲兵 α 「 β 、近々荒鷲を再結成しないか？」

憲兵 β 「 α スペリオルがないから無理だ」

α 「それがさあ、元帥さんが一部憲兵再編案を通したらしく α スペリオルが来るんだよ!!」

β 「マジか!? よし、手入れは γ としとくから α は合いの手担当を頼む」

α 「了解!!」

その時である!!

??? 「すまんのう」

α 「どうしましたか？」

??? 「儂はこういう者じゃ」

α 「八曲署？」

β 「サツだ!？」

α 「何!? お巡りさん俺達は悪いことしてませんよ!!」

お巡りさん 「いや違うよ」

β 「よかつたー」

お巡りさん 「実はこのエリアで空き巣が多発しててな、何か見てないかい？」

α 「さあ？」

β 「 γ 達に聞いてみるかコホン α のバカが文月ちゃんに猫耳着けさせてたぞ!!」

マジか!!

α 「相変わらずチヨロいな」

γ 「写真はよ!!」

Φ 「文月は垂れ耳も良くない?」

X 「ちゃんをつけるやデコすけ野郎」

Ψ 「んでおじいちゃん何者?」

お巡りさん「只のお巡りさんじゃよ」

γ「αを捕まえに来たのか!？」

Φ「いやいや提督かもしれんぞ」

X「今日ゆきちゃん来てたよな?」

Ψ「amen提督:」

α「別件だ、最近空き巣が多発してるから聞き込みに来たらしい」

αβ「以外『知らん!!』」

β「だそうです、すみません」

お巡りさん「構わんよじやまたくるよ」

α「γ、川内さんと青葉ちゃん呼んで来てくんない?」

γ「はいよ〜」

数分後

川内「αさん何?」

青葉「そうですよ!!青葉新聞書いてる途中なんですよ!!」

α「さつきお巡りさんが来てなちよつと気になっただけだ」

川内「ハイハイ調べますよー」

α「話が速くて助かる」

β「どうゆうこっちゃ」

α「お巡りさんの目がちよつとな」

数日後

α「こりやヤバイな」

新聞『空き巣から殺人犯にジヨブチェンジ』

β「この前の奴か?」

α「ああ、何でもかなり前から活動していたんだがとうとう殺つちやつたらしい」

川内「αさん!!やっぱりαさんの睨んだ通りだったよ!!」

青葉「お巡りさんは長年空き巣犯を追いかけているらしいけど今回外されてたらしく自主捜査だったらしいよ!!」

α「しかも歳の的に定年間近だな」

青葉「当たり前です!!来週が退職予定だそうです」

β「で、どうする?」

α「突っ込んだ以上やるか：鈴木、憲兵☒sは有給で川内ちゃんは休暇よろ」

鈴木『ちょ!』

α「さて、着替えるか」

一方鎮守府に近い公園のベンチにてコーヒー片手に黄昏ているお巡りさんがいた

お巡りさん「あいつが人殺しする筈はない…あいつの無実を俺が証明する：それが俺にとっての仁義ってもんだ…」

遡ること数十年前：

おじちゃん!!お父さんが呼んでるよ!!

よう、俺は今回で脚を洗うよもう歳だ後この娘がそろそろ感づき始めたしな

また帰って来た：今度は殺し付きでな

???「すみません」

お巡りさん「どうしたんだい？」

???「メカニック鎮守府を探しているのですが…」

お巡りさん「メカニック鎮守府はこの先だよ」

???「ありがとうございます!!行くよー雪風!!」

ちよつと時間は遡りβとかがさんがいた

わふっ

憲兵β「かがさん張り切りすぎ!」

かがさん『久しぶりの街だもん!!』

憲兵β「なら仕方ないなそうだ確かこの公園はドッグLANがあつ

たなかがさん?迷惑行為しない?」

かがさん『しないよ!!したらあかきお姉ちゃんにメツされるもん!!

あたまペシペシきらい!!』

回想の赤木『かがさんメツ!!』

回想のかがさん『きやいんきやいん』

お巡りさん「そこはLじゃなくてRじゃよ」

憲兵β「あり?こりや失礼」

かがさん『お巡りさんだ!!』

お巡りさん「最近のワンちゃんは喋るのか…時代に取り残されたな…」

かがさん『違うよ!!首に着けたこの機械で喋ってるの!!提督さんに貰ったんだ』

憲兵β「正確にはγのアホがまたキツく締めたから√がキレてほどかないだけだ」

お巡りさん「そうかい」

かがさん『お巡りさん元気無いけど大丈夫?』

お巡りさん「ちよつと歳でな」

かがさん『あかきお姉ちゃんが言ってたよ!!お年寄りのちよつと歳でなは隠し事している奴って!!』

※個人差があります

お巡りさん「いやはやバレたかく実はちよつと友達と喧嘩してな」

かがさん『ならごめんなさいすればいいよ!!そのまま拗れたら今生の別れになるかもしれないよ!!』

憲兵β「かがさんは物知りだな…」

かがさん『あかきお姉ちゃんが見てたドラマで言ってた!!』

回想の赤木『ないわー』

回想のかがさん『中年のおばちゃん…きやいんきやいん叩いちやヤー』

憲兵β「まあ、若者のアドバイスをば、ケリは速めにですよ」

お巡りさん「そうだな…ありがとよ」

次の日

憲兵α「おく捕まったか」

新聞『刑事と泥棒の異色コンビ、真犯人を捕まえるだが刑事は退職間近のクビ』

お巡りさん「よう」

憲兵α「いらつしやい、ご用件はいかががざんす?」

お巡りさん「ここは老人採用してるかい?」

憲兵α「ええ、ちようど二人ほどでしてますね」

お巡りさん「ならよろしく頼むよ」

憲兵α「了解、では提督の所に案内しますね」

後に提督代理で観察眼と思い切りの良さを発揮する老人二人がいた
たそうな

~~~~~♪

今回はなんじやらほい？次回は艦娘アンケート箱を予定していますので気長にお待ち下さい

## 第航海艦娘アンケート箱

メカニック鎮守府にはアンケート箱がある…今回は何が書かれて  
いるのやら…

集計に鈴木や扶桑さん達がいた

鈴木「たんまり入ってんな〜」

扶桑「これはなかなか骨がおれそうね…」

鈴木「そこは淀さんやちとちよもいるし大丈夫だろ」

扶桑「今回は女将さんの新メニューでしたね」

鈴木「まさか肉限定とはな…後、ここぞとばかりに飲んべえどもと  
食いしん坊が出してないのが救いかな」

千代田「焼き鳥、炭火焼き!!」

千歳「提督特製水炊き!!」

鈴木「あれ、材料ランダムで出汁は無いからな」

千歳「出汁出てますよね!?!」

鈴木「鳥や野菜だな後、たまにいれるホタテだな」

※作者の家ではの話です

扶桑「焼き鳥と炭火焼きが多く次にハンバーグね」

大淀「せめてしようが焼きかしら」

鈴木「今回のイロモノ枠きたぞ」

にゃ『クマ肉にゃ』

意外に優秀『球磨の蜂蜜を盗んだ愚かクマの肉クマ』

鈴木「電ちゃんが泣くぞ」

扶桑「明らかに私怨ね」

千代田「クマさんって毎晩冷蔵庫の番してたよね?」

千歳「あれ球磨ちゃんの蜂蜜を食ってるだけよ」

鈴木「自分用冷蔵庫あるのに食堂に置く」

集計組『これがわからない』

大淀「提督?」

鈴木「んだ?」

大淀「何書いてるんですか!!」



千歳「イロモノ粹ね」

『女体盛り』

扶桑「ドン引きです…」

千代田「近づかないでよね!!」

鈴木「俺は違う!!筆跡鑑定を『問答無用!!』」

千代田「お次はくお、文月ちゃんだ」

ふみい『ふみい!!』

千代田「えつと?お子様ランチ?」

アフロニツク鈴木「暁がキレそうだな」

暁「ちよつと怒ったわ:屋上に行きましょう?」

千代田「ちゃんと絵描いてる」

鈴木「これ行楽弁当じゃね?」

文月ちゃん考案お子様ランチ(代理長月)『唐揚げ、甘ったるくふん

わり玉子焼き、好みのおにぎり、漬物、焼き鮭』

???『甘ったるくふんわり玉子焼きは邪道でしょ!!』

???『えく!!』

鈴木「電波が…」

大淀「個人的にはあつさりめが…」

鈴木「女将に見せて決めてもらうか」

千代田「艦LINE飛ばすね」

では鳳翔食堂にカメラを向けよう!!

鳳翔「いらっしやい天さん」

イワシの梅じそフライ定食とお茶下さい

???「いきなり裏メニユーとは:やるねく天さん」

おや?新人かい?いやいや、違いますよゴーヤちゃんが『女将さん

がイワシで何か作ってたでち!!』と言ってましてね

鳳翔「試作品ですが:はい召し上がれ」

女将さんのご飯は美味しいものばかりですから惣菜が味気無く感

じますね

鳳翔「ご自分では作らないのですか?」

気まぐれにですよ

鳳翔「ちゃんと作らないとメツ!!ですからね」

※作者の腕前？磯風以上鎮守府料理組以下です

そういや君誰だい？

??? 「あたしは皐月!!優奈さん所に似た子がいるけど違うからない!!」

その後、鳳翔食堂にイワシの梅じそフライとお子様ランチ、本格炭火焼きがメニユーに加わりました

~~~~~♪

てーとくさん、時雨と由良知らないっぽい？

次回：空に向かう方法：

第…航海…空に向かう方法…

夕立、行ってくるね

夕立、留守番頼んだよ

??? 「かれこれ数日前の話である」

執務室では物凄く重い空気が流れていた

鈴木「よ、淀さんこ、これ…」

大淀「提督、コレが現実です…」

書類『メカニック鎮守府所属時雨、由良二名轟沈確認!!』

夕立「てーとくさん、何か用っぽい？」

鈴木「夕立…時雨と由良が…」

夕立「時雨と由良さんがどうしたの!!」

鈴木「大本営から書類が来た、時雨と由良が沈んだ…」

夕立「ウソっぽい!! てーとくさんこれドツキりっぽい? 時雨と由良が沈むはずないっぽい!!」

鈴木「ガチだ…」

夕立「ウソだ…ウソに決まっているっぽい!!」

大淀「夕立『淀さん止めるな!!』ですが提督…」

鈴木「これは夕立のためでもあるんだ…」

夕立「そうだ!! あの不思議な鏡にお願いしたらいいっぽい!!」
またドア破壊したよ…

夕立「時雨や由良に会いたい…時雨や由良に会いたい」
ピカッ

そこには夕立のマフラ―しか無かった…

では、時雨と由良が遠征に行った海上にカメラを向けよう

由良「楽な遠征ならいいけど…」

時雨「そりや無理じゃないかな?」

見よ!! 空を埋め尽くさんばかりの戦闘機、海を染めるヲ級、イ級の群れを!!

おいおいおい

沈むわこんな大群

由良「どうする?」

時雨「逃げる?」

ヲ級「シズメ」

由良「無理ね」

イ級「アネゴ!!コイツラドウシヤスカ!!」

ヲ級「カンムスハシズマセルノガオヤクソクダガコンカイハヒメガ
ロカクヲキボウダイタメツケルダケニシヨウ」

イ級「ヒヤッハー!!テメエラ!!イクゼ!!」

しばらくたち、ボロボロの由良、時雨とほぼ無傷のヲ級がいた後、途
中最覇碎斬やら永谷斬やら聞こえたがスルーしよう

ヲ級「テコズラセヤガツテ」

時雨「弾はどのくらい?」

由良「弾切れよそっちは?」

時雨「不発弾一発のみだよ」

このまま二人は『閲覧規制』されるのか?!いや、そんなわけない!!
見よ海底から何かが来たぞ!!

???「ぷっは!?やつとこれたっぽい!!」

時雨「夕立!?何でいるの!?!」

夕立「時雨と由良さんが心配になったからイムヤさんに頼んで着い
てきたっぽい!!」

イムヤ「いきなり来たから驚いたわよ」

ヲ級「カンムスガフエタカ:カンケイナイナ」

夕立「今度は夕立が相手になるっぽい!!来て!!ぽいぬ座の聖衣よ
!!」

ぽいぬ座の聖衣は次元を越え装着者の元へやって来ることが出来
るが短時間で帰らないとただの重りになるぞ

ヲ級「ナンダア!?コノチカラハ!?ヤツハクチクカンデハナイノカ
!?!」

ぽいぬ夕立「ぽい聖拳!!」

ヲ級「グワアアア!!ワタシハ:ワタシハ!!」

ぽいぬ夕立「安らかに逝くっぽい:」

ヲ級「グワアア!!」

ぽいぬ夕立「さあ帰るっぽい!!」

時雨「そうだね、だけど夕立は提督のお説教が待ってるけどね」

由良「そうね、まあイムヤさんは弁護してあげるわ」

イムヤ「アザっす!!」

※しれっと夕立は元の時代に帰りました

一方、なにも知らない鎮守府の夕立は提督に理不尽に怒られ一週間デザート抜きにされかけていた

夕立「知らないっぽい!!夕立はお留守番してたっぽい!!」

時雨「そういえばあの時の夕立はマフラーしてなかったね」

由良「あの時の夕立ちゃんは誰かしら?」

イムヤ「司令官、ぽいぬ座の聖衣って防サビしてる?」

鈴木「んにや、あれは陸戦メインだからなしてないってそうか!!夕立、ぽいぬ座の聖衣持ってきてくれ」

夕立「ぷいっぽい」

鈴木「ゆきちゃん特製プリンやるから頼むよ」

夕立「仕方ないっぽい…」

んしょんしょ

鈴木「ピカピカだな」

夕立「妖精さんと一緒にピカピカにしてるっぽい!!」

妖精さん『夕立の姉さんはずっと部屋にいましたよ』

鈴木「なら一体誰が?」

ではカメラを本来のメカニック鎮守府に戻そう

夕立「てーとくさん、錆止め知らない?」

鈴木「錆止め?夕張が知ってるよ」

夕立「ありがとうっぽい…」

すたてく

此方は夕張の部屋

夕張「はい、錆止めちゃんとかえしてね」

夕立「わかってるっぽい…」

すたてく

外

夕立「ありがとうっぽい…」

???? 「錆止め？手伝うよ」

???? 「ちよつと!? スポドリ持ってくるわ」

夕立「ありがとう時雨…時雨!」

時雨「どうしたんだい？まるでお化けを見た顔だね」

夕立「ううん！何でもないっぽい!!」

ぽいぬ座の聖衣『あく生き返るく錆はイヤやからな』

???? 「はいスポドリ」

時雨「ありがとう由良さん」

夕立「ありがとうっぽい!!」

知らないうちに歴史が変わる…ここは夢か現か…

くくく♪

やるか次回は舞台裏を予定しているけど気長にお待ち下さい

第玖拾五航海はるる来たぜなキャラ&物紹介

今回のトップバッターはこやつだ!!後、説明は超ザックリです

聖なる剣、加治屋の秋雲が打った最高傑作だが夕級店長に折られた磯風、メカニック鎮守府に最近来た子料理の腕は壊滅的だったが比叡が教え、大火力以外はなんとかなった

涼風、鳳翔食堂にしれつといた艦娘基本夜間警備の憲兵に軽食を出したり鳳翔さんの手伝いをしていたが最近は表にででした

お巡りさん、二つ隣街の八曲署勤務のおじいさん、退職間近でクビになりメカニック鎮守府の結果待ち

空き巢、お巡りさんとは追いつ追われつの関係だったが娘が勘づき出したのを期に足を洗ったが似たような犯行と殺しを仕出かした偽物に怒りお巡りさんとコンビを組み汚名を返上したがそれが原因となりお巡りさんがクビになり責任を感じ知り合いを使ってメカニック鎮守府の募集をお巡りさんに話した今は結果待ち

臯月、メカニック鎮守府にいたが今の今まで出せなかった子、ついでに弥生も出せない理由?壱逢高校をみる

アスカ、艦これ世界にやって来た違う宇宙のウルトラマン深い説明?ウルトラマンダイナ、ウルトラ銀河伝説、ウルトラマンサーガを見よう!!

ヒマラ、アスカのいた宇宙から艦これ世界にやって来た怪盗、ウルトラマンダイナにこてんぱんにされいろんな宇宙の景色を盗んできたが我らがメカニック鎮守府にてを出したのが運のツキまたこてんぱんにされた

ジャグラス・ジャグラ、時空振動に巻き込まれていない憲兵✓、このジャグラはゼット終了後のジャグラです

ベリアロク、ウルトラマンゼットが使う剣自我を持ち切るに値する物や使い手を探していたりしていたが今はゼットで落ち着いている

ウルトラマンゼット&ハルキ、ご唱和下さい!!我の名を!!深い説明?ウルトラマンゼットを見よう!!

ウルトラマン&ウルトラマンジャック&ゾフィー、顔が似ている三

人をつれてきたよ!!

顔が似ている三人!?

ウルトラマン 『7つほどあります』

帰ってきた新ウルトラマン二世 『名前の統一…』

ゾフィー 『ファイヤーヘッド言った奴後で校舎裏な』

ウルトラセブン、ウルトラマンゼロの父親だがここ最近まで言わず仕舞いだった

深い説明?ウルトラセブン、ウルトラマンレオ、ウルトラ銀河伝説を見よう!!

ウルトラマンタロウ、神や悪魔になれるロボットを動かしたり、時の電車に乗ろうとしたりした人ではない

ウルトラマンA、ウルトラの星でレストランを開いているウルトラマン彼の料理は惑星規模の戦争を終わらせる力があるらしい後、ゼツトの名付け親であり別次元のヤプールが別次元の自分と付き合いだしたので知り数日間頭を抱えていたらしい

ウルトラマンヒカリ、ウルトラの星にいる科学者詳しい説明?ウルトラマンメビウスを見よう!!

ウルトラの星、最近作者の中でガバガバ警備の星になった

~~~~~♪

ふひふ次回メカニクマッサージ事情を予定しているけど気長にお待ち下さい



## 第玖拾陸航海メカニツク鎮守府マツサージ事情

メカニツク鎮守府にはまだ知られていない部屋がたくさんある  
今回は談話室から始めよう

談話室隅にはマツサージチェアがあり今日もときあめと長門がいた

ときあめ「ふひ〜」

長門「たれ時雨だな」

ときあめ「だって気持ちいいんだもん替わろうか？」

長門「そうだな最近肩がな」

ところかわり執務室では安定の書類のド―バー海峡に挑む鈴木と  
ファツション雑誌を読む陸奥と龍田がいた

鈴木「昨日干上がらせたのにまた増える!!やはり潰そうか？」

陸奥「これ結構似合いそうじゃない？」

龍田「天龍ちゃんにかしら？」

陸奥「長門によ」

ファツション雑誌『イケてない女子必見!!めっちゃイケコーデで玉の  
輿!!』

龍田「長門さんにはこつちじゃないかしら？」

ファツション雑誌『着たきり改善!!日々の生活習慣をちよつと変え  
よう特集!!』

鈴木「あと少し早くくしないとゆきちゃんがくる!!」

ゆき『鈴木さんザーコザ〜コ♪書類を終わらせられないなんてだつ  
さ〜い』

〜〜〜♪

鈴木「はいよー」

長門「提督、新たなマツサージ機を配備してくれないか？」

鈴木「そうだな〜また時雨とするか」

此方、執務室右隣にある『てんすあいメカニツク鈴木簡易ラボ』に  
鈴木と時雨がいた

時雨「なんのようだい？」

鈴木「そろそろ足つぼマッサージやオイルマッサージを導入しようかと思っけています」

時雨「それで呼んだのかい？」

鈴木「はい」

時雨「オイルマッサージは誰にさせる気なのかな？」

鈴木「一応、磯波ちゃんや子日ちゃん達に教える予定です!!」

時雨「なら安全だね」

鈴木「なので時雨には足つぼマッサージの師範足壺（あしつぼ）なぞるさんに実践して貰おうかと」

なぞる「安心したまえ!!イヤらしい声を出しても私は一向に構わん!!守備範囲外だ!!」

時雨「て、提督? なぞるさん凄く息荒いけど大丈夫だね？」

鈴木「大丈夫だ!! なぞるさんは未亡人が好みらしい」

時雨「扶桑や山城、鳳翔さんは来ないよう言っておこう」

なぞる「このツボかな」

時雨「いだだだだ!!」

数日後:

なぞる「ようし、君は今日から免許皆伝だ!!これからは指圧師時雨と名乗るがいい!!」

時雨「ありがとうございます!!」

鈴木「忙しい中ありがとうございます」

なぞる「いえいえ、これも仕事ですから」

時雨「また来てくださいね」

なぞる「もちろんだ!!」

鈴木「おたつしやで〜」

時雨「じゃ提督横になってくれないか？」

鈴木「はいよー」

時雨「じゃあ始めようか…コイ、ときあめ座の聖衣よ!!」

おいおいおい

死んだな提督

時雨「まずは足裏かな〜」

鈴木「貫通してない!？」

時雨「気のせい気のせい次は腰かな」

鈴木「刺さってる刺さってるから!？」

時雨「痛がる僕を助けないからだよ♪次は『閲覧規制』を握りつぶそうかな」

鈴木「ヘーローアップ!!」

その後時間限定だが時雨がマッサージをするようになり鈴木は暫く医務室のベッドの上にいたそうなの

~~~~~♪

新型と変異のせいでイベントができないな…次回はメカニクック鎮守府モフモフワールドを予定しているので気長にお待ちください

第玖拾七航海潮メカニック鎮守府へ行く

メカニック鎮守府：今回は朝もはよから駆逐艦が近づいていた
?? 「ここがああのメカニック鎮守府…」

提督『ぐふふ、ペロペロしてペットにしよう♪そうだな、憲兵にも
わけよう』

??? 「おや？あなたも転属ですか？」

??? 「ひえ!？」

??? 「失礼、私は本日付けで配属される憲兵αスペリオル長いからス
ペさんでも構わないよ」

??? 「私は駆逐艦潮です」

αスペリオル「ところで何故怯えていたのか教えただけは私が護
りましょう」

潮「本当ですか!?実は…」

要約すると潮ちゃんは新人らしく教官から『貴女の配属先はあの悪
名高きメカニック鎮守府になりました』と絶望した顔で言われたら
しい

αスペリオル「なるほど…で真偽はどうだ?α」

文月ちゃんを乗せて新聞読んでる憲兵α「それはないなまあ提督の
自称嫁がくる位だ」

文月「ゆきお姉ちゃんなら今帰ったよ!!」

??? 「只今くどうよ?鯛に秋刀魚に鰯が釣れたわ!!」

潮「曙ちゃん!？」

曙「潮じゃない!!」

αスペリオル「お友達ですか？」

潮「はい、私の先輩です」

曙「あんたは運がいいわね、私なんか超ブラックよブラック!!」

α「まあ一応ここもブラックだがな」

文月「しれいかんがね」

では執務室に行こ『あーれー』雪崩だな…大丈夫ですか?淀さん
大淀「大丈夫です、ありがとうございます天さん」

にしても増えましたな

大淀「新人さんの資料とクレームです」
さよか

大淀「新人さんは一枚に纏めてくれていますが残りが他鎮守府のクレームってなんですか!!ふざけるなって感じですよ!!」

そりや長年してた奴にとっては新進気鋭の鎮守府は気に入らんやろしかも演習のみときたからな

大淀「ですが…」

まあ、元帥が何とかするやろ

鈴木「たーすけて〜」

仕方ない…暇している子は黒ボールペン持って執務室に集合!!

大淀「天さん!?!」

提督代理だ、どうせつまらん奴やろ裏に『わたしのかんがえたさいきよーの兵器』書かして送り返してろ

数時間後

鈴木「助かった〜」

大淀「お手伝いありがとうございますはい、大和ラムネと間宮さんスペシャルの券です」

お手伝いに来てた子達『やったー!!』

鈴木「淀さん、間宮さんスペシャルとはなんぞや?」

大淀「間宮さん特製パフェ加賀盛りかあんみつを選べますよ」

鈴木「そりやうまそうだな」

大淀「加賀盛りは複数用ですがね」

壱逢世界の狐式ちゃん『ペロリいけるよ!!』

ハルヒ世界の優奈『あれで太らないからマジヤバイよなくぬいぬい、キリマンジャロと赤いスイセージと白いアク玉たのんます』

???「鈴木さくん来ましたよ〜」

鈴木「いらつしやい私が提督の鈴木兼続皆からはメカニック鈴木と呼ばれているよ」

新しく仲間が増えましたな

~~~~~♪

潜水艦見たく深海をみたいね？次回は深海へ行こうを予定して  
るので気長にお待ちください

## 第玖拾捌航海荒鷺再結成

メカニツク鎮守府：今回は憲兵α、β、γ、αスペリオルがいた

α「んじやま慣らし行くぞー」

α以外『おう』

~~~~~♪

β「久しぶりだからなかなか合わんな」

γ「チューニングミスかな」

αスペリオル「ボードは何かかな」

α「歓迎会に間に合うかね」

β「さあな」

γ「まあ、やるだけやるか」

αスペリオル「だな」

話は数日前に遡る

久しぶりの掲示板『青葉新聞』

『来週潮ちゃんの歓迎会をします!!それとな、なんと!?全鎮守府杯ライブ大会飛び入り参加でそのまま優勝をかつさらった荒鷺が今回出場すると関係者の取材により判明!!この青葉すでに興奮して夜寝れるか心配です!!』

鈴木「一体ドンくらいあんだよ…全鎮守府杯」

青葉「えつと、料理大会、赤城選手権、加賀選手権、比叡選手権、ライブ大会が知られてますね」

???「ついでに出歯亀もあるぞ」

鈴木「よく優奈、今日は何よう?」

優奈「ZEROの奴が『最近ゆきが机を擦って遊んでいる…癩だが腐れマツド何とかしろ』だって」

鈴木「最近構ってないからかな」

※最後にしたのは約半年前です

優奈「盛りニツクが半年ね」

鈴木「深雪や山城さんがね」

青葉「見ます?」

優奈「辞めとくよ」

では憲兵☒sに戻ろう

α「にゃ〜」

β「うりゃ〜」

γ「ふにゅ〜」

α「スペリオル」「さによ〜」

「ふみい〜」

以外『だれ!?!』

「ふみい!!」

α「文月ちゃんどうしたんだい?」

文月「きもちわるいこえがしてたからきた!!」

β「story my life:」

α「スペリオル」「泣けるぜ:」

γ「意味は違うがな〜」

※とある奴には四パターンあるらしい

α「そうだ!!文月ちゃん歌わない?」

β「野郎だけだと華は無いな」

文月「おうた?」

γ「なるほどね〜」

α「スペリオル」「それならコツチに専念出来るな」

α「文月ちゃんは何が好きかな?」

文月「まじかるゆうとちちゃん!!」

文月以外『知らねー!!!』

んじやま当日〜少し離れた席に優子さんとまだ学生中の甲児と逃

げて来た優奈がいた

優奈「わりいな甲児それと母さん」

甲児「久しぶりに優子さんに会えたし俺としてはヒヤッホーだ」

優子「鈴木君所かなり大所帯になったわね〜」

文月「まじかるゆうとちちゃんだ!!」

優子「あら?貴女この子だったの?」

文月「うん!!」

青葉『それでは!!今回のメインイベント!!伝説が今甦る!!荒鷲によるライブって文月ちゃん!?何々?よおしくし!!荒鷲With文月ちゃんです!!』

~~~~~♪

優子「そろそろかしらね〜」

優奈「母さん大丈夫?」

優子「ちゃんと練習したわよ!!ポンポン」

まじかるちえくんじ!!

優子「いまをトキめく魔法使いまじかるゆうこちゃん参上♪」

甲児「うおおおお!!」

~~~~~♪

優奈「歌詞はイメージネーションでたのんます」

まじかるゆうこちゃん&文月『あなたをね・ら・い・う・ち♪』

青葉『荒鷲With文月ちゃん&まじかるゆうこちゃんに拍手〜』

憲兵α「ゆうこちゃんありがとうございます」

優子「いいのよ私も久しぶりに歌ってみたけどまだまだ行けるわね」

※まじかるゆうこちゃんは名乗り口上何パターンもあるらしい

その後まじかるゆうこちゃんの新曲が発売されたの言うまでもない

~~~~~♪

とうとう来たか…次回ははるばる来たよメカニックを予定していますので気長にお待ちください

## 第玖拾玖航海はるばる来たぜメカニツク

メカニツク鎮守府：今回は文月ちゃんを背負ってスクワットしている憲兵αと欠伸をしながら見ているかがさんから始めようって大抵筋トレか新聞読んでいるかしてんなくアンタは

憲兵α「ご：五万…」

文月「あるふあお兄ちゃんすごい!!」

憲兵α「まあなく（秋雲ちゃんの横で『閲覧規制』本見てたからなんて文月ちゃんの前で言えなく）」

文月「こんどはふるあーまーだぶるぜーたでしよ？」

おいおいおい

死んだわα

???「あのく」

かがさん「わふ!!うくくくわふ!!」

憲兵α「いらっしやいなんのようだい？」

???「ここメカニツク鎮守府であつていますか？」

憲兵α「あつてますよ私は憲兵α」

文月「私、ふみづゆき!!」

かがさん『わたしかが!!』

???「やつとついたく!!私、ガンビア・ベイです!!」

憲兵α「とうとう我が鎮守府もグローバル化の流れが来たか…」

ベイ「admiralはいますか？」

憲兵α「鈴木？学校に補習をしに行ったから夕方までいないぞ」

ベイ「学校!？」

文月「すすきさんはがくせいだからね!!」

かがさん『すすきお兄ちゃん別の世界？から来たからね!!』

壱逢世界の鈴木『進級出来ないしこのままではゆきちゃんと結婚出来ないからなく』

壱逢世界のゆか『お父さん実は留年してることは黙っておこう』  
では戻ろう

憲兵α「そうだ、もうすぐあの人がくるな」

文月「ゆうなお兄ちゃんだね!!」  
パリッ

???「呼んだ?」

ベイ「増えた!」

???「どうも、パツキンのチャンネル俺は三角優奈、通りすがりの嵐だ」

憲兵α「最近は吹いてないがな」

優奈「うっさいロリコン」

憲兵α「違うからな」

優奈「で、新しく来た子かい?」

ベイ「ガンビア・ベイです!!」

優奈「ベイリーフね」

憲兵α「今、どこ地方にいますか?」

優奈「カントーとジョウトの間らへん近々チャンピオン兼Gメンで悪人に破壊光線かましたバカをシバきに行くところ」

ベイ「明らかにヤバい人がいた!」

憲兵α「そいつがチャンピオンとか協会はなにしてたか…」

F91装備の文月「きょうかいはあくだ!!ふみづゆきがやつつけにいくよ!!」

優奈「安心しろ、俺らがなんとかするからナイナイしような」

文月「ベリあろくさんもよばなきや!」

優奈「それもナイナイしような」

憲兵α「この前文月ちゃんのケーキを赤城さんが知らないで食べてな気付いたらいたんだよ…オーキス装備の文月ちゃんの手にはベリアロクさんが…」

※オーキスは結構デカイからミニサイズです

ベイ「ここって魔境!?配属先変更届け間に合うかな?」

優奈「住めば都さ、執務室行くぞ」  
すたすた

執務室

優奈「よう、淀さん」

淀さん「いらつしやい優奈さん、新入りかしら？」

ベイ「ガンビア・ベイです!!」

淀さん「グローバルね…」

???「お、新入りか？俺の名は天龍…フツフツ怖いか？」

ベイ「ガンビア・ベイです!!」

天龍「ビアガーデン!?!おい、飲んべえがくるから逃げてろ!!」

優奈「飲んべえは夜まで動かんよ」

淀さん「ガンビア・ベイ確か…半年前に配属書が来てましたね…どこにやったつけ？」

文月「ふみい!!」

淀さん「ありがとう文月ちゃんって落書き!?!」

優奈「ありやく裏に油性マジックとかヤバいな」

憲兵α「上手いじゃないか!!」

文月「ふみい♪」

淀さん「かろうじて読める…」

配属書『我が…ベイ…彼女…遅れ…しれな…いの…』

突然ですがここでクイズです!!この配属書には何と書かれているでしょう？回答はしないので各自心の中にしまっておいてくださいでは本編に戻ろうってもう夕方かよちなみに文月ちゃんはいませんですよ

優奈「大体わかった」

テカテカの鈴木「ただいま〜いや〜別れ際にゆきちちゃんが上着ぎゆつしてきたから『閲覧規制』して来ちやったよ♪おや？新入りかい？私は提督の鈴木兼続、皆からはメカニック鈴木と呼ばれているよ」

ベイ「ガンビア・ベイです!!よろしくお願いいたします!!」

~~~~~♪

最近アーケロン見たか？次回はウチのアーケロン見てませんか？を予定しているので気長にお待ちください

第百航海歪みないキャラ紹介

トップはこいつだ!!

団長、壹逢劇場で公演している劇団の団長よく一人旅と言う名の散歩をして地味に人脈をひろげている

支配人、壹逢劇場の支配人であり天の声前書き担当の団長と供に今日も劇場を見回ったりしている

荒鷲、憲兵 $\alpha\beta\gamma\alpha$ スペリオルの四人組バンド、憲兵になる前偶然解放日に開催された全鎮守杯バンド大会に初対面で飛び入りし優勝までかっさらったヤバイ過去をもつがみんなバラけてしまい α スペリオルが来るまでバンドらしいバンドはしていなかった

潮、駆逐艦にしてはダイナマツな娘、メカニック鎮守府には養成所卒業してきた曙とは先輩後輩の関係で曙の釣りについていき海岸で綺麗な貝殻をひろったりしている

ガンビア・ベイ、ようやく来た海外のパツキン、地図を逆さにして来たため半年かかった呼び名がコロコロ替わるためガンビーに統一させようと画策している

由良、メカニック鎮守府には最初期からいたが作者がガチで沈めたため急遽出てきた、この作品の由良は歴史改変により沈んでなく遠征時は夕立が護衛している

イムヤ、メカニック鎮守府にゴーヤと同時期に来た潜水艦夏は小学校のプールでインスタラクターをしているそれ以外？釣りが海上警備です

スーパー深海、タ級店長の元部下や隠れ艦娘が経営している街中に出来たスーパー、野菜は農家さんから直接卸して貰い魚は海から採ってくるをウリにしている月イチでマグロかサメの解体ショーをしている

チャンピオンで悪者に破壊光線かますGメン、優奈がいる世界のとある地方のチャンピオン兼四天王兼国際Gメン様々な媒体で悪役やらマニアやら宇宙にいるやらされているが問題はそれを協会が黙認していることである

青葉、メカニック鎮守府の掲示板にゴシップ記事を書いている困ったちゃん、川内とコンビを組めば最強のセキュリティがペラ紙になるヲ級、由良と時雨を沈めた深海凄艦、最終的には未来から来た夕立のぽい星拳に破れた

イ級、深海凄艦のなかでは最弱だが纏まったらウザいが由良と時雨としれつといた優奈、葛、不知火、木ノ井門に全滅させられた

ヒメ、名前だけの登場、あの大群は尖兵に過ぎないらしい人類は勝てるのか!?

間宮さん、名前だけの登場、食堂で料理を伊良湖ちゃんと供に作っていたが程度は鳳翔食堂と場末酒場なっちゃうに客が行き暇をしているがカレーの日だけは繁盛している

ベイリーフ、名前だけの登場、優奈がとある地方で仲間にしたポケモン人懐っこくロコンと仲良しでいつもあそんでいるらしい

響、メカニック鎮守府にプカプカ浮きながら流れ着いた艦娘、最近は料理にハマったらしく間宮さんに教えてもらっているらしい

~~~~~♪

あらやだ!?!お醤油をきらしてるわ!?!次回はようやく登場スーパー深海を予定しておりますので気長にお待ち下さい

## 第百壱航海ついに登場!! スーパー深海とついでに荒 鷺誕生秘話

メカニック鎮守府：今回は鳳翔食堂から物語を始めよう!! 鳳翔食堂の女将、鳳翔さんは包容力のあるお母さんで憲兵や皆の人気者だ!!

本日の客は憲兵<sup>s</sup>

憲兵 $\alpha$  「寒いから鍋物が多いですね」

鳳翔 「その分日持ちする食材がありませんけどね」

憲兵 $\beta$  「日持ちするのは酒とさきいかだけ、涼風ちゃん $\times$ の茶漬は頼むわ」

涼風 「がつてんだー!!」

憲兵 $\gamma$  「お前いつも $\times$ は茶漬けだな」

憲兵 $\beta$  「旨いからなしかも毎回味が変わるんだよ!! 先週は梅昆布で今日は何かなく」

憲兵 $\delta$  「あれだと思うよ」

お品書き 『涼風のギャンブル茶漬け味の保証は致しません』

憲兵 $\alpha$  スペリオル 「フツ：部の悪い賭けは好きだ」

憲兵？ 「そういえば $\alpha$  スペリオルってどこで $\alpha$ 達と知り合ったんだ？」

憲兵 $\alpha$  「大本営の開放日だが」

憲兵 $\beta$  「あの時は驚いたよなく」

憲兵 $\gamma$  「そうそう、 $\alpha$  がいきなり『バンドしようぜ!!』って現れたからね」

憲兵 $\alpha$  スペリオル 「しかもピンポイントで役割分担させてきたしな」

憲兵 $\alpha$  「勘だ」

憲兵 $\beta$  「後で聞いたがこいつ俺たちが一時期していたらしい即興路上ライブ聞きの来てたらしいぞ」

※ストーリートミュージシャンのことである一応許可は取ろうね

憲兵 $\alpha$  「 $\beta$ !?! いつの間に聞いたんだよ!?!」

憲兵β「お前が文月ちゃんのを磨いている時だな」

文月『はひい〜♪』

憲兵α『キレイキレイにしようなくほい、ガラガラペツ』

文月『ガラガラペツ』

憲兵α『よし、良い子』

憲兵γ「で、バンド名はちようど前の奴等が数年前にやった甲子園の応援歌でなそこから荒鷲になったって訳」

涼風「いっけねえ!? βさん茶漬けおまち!!」

憲兵β「今日は漬け茶漬けか」

ガツガツガツ

憲兵β「うめえ〜!!」

憲兵α「良く食うな〜」

憲兵γ「鍋と酒につまみと漬け茶漬け普通だな」

憲兵α「スペリオル」鍋が空母サイズを除けばな…」

飲んだくれ憲兵達の夜が更けて行く

次の日

鳳翔さんは町にいた

鳳翔「食材は自分の目で見なくちゃね」

※ネット通販や支給があるがこうゆうのは直に見ないとカモる奴はカモるからなまあ、直に見てもカモる奴はカモるな

???「ヤッホー女将さん」

鳳翔「優奈さんこんにちは」

優奈「買い物かい?」

鳳翔「最近寒いので鍋の具材の補充に」

優奈「荷物持ちに付いていきましようか? ちようどアツチに侍と蝉もいますし」

鳳翔「よろしいのですか?」

優奈「大丈夫だと思っう: おくいバカップル〜」

バカップル『逝くか?』

優奈「s o r r y」

蝉「どうも、白上沢甲児だ」



侍「財前字信康です」

鳳翔「軽空母鳳翔です」

甲児「えらいゴツいな〜よし、おひとりしようこさんね了解」

信康「私も見習いたいくらい美しいな」

優奈「んじや買い物行きますか」

すたすた

こちらはスーパー深海、新鮮品が安いよ!!

そういや漁業権大丈夫かな?

散歩中の元帥『この御時世に漁業権とか無いやろとりあえず一応許

可はいるがな』

※この作品の設定です

優奈「何を買いますかね〜?」

甲児「個人的には野菜や肉だな最近圭の奴鍛え始めたからな」

信康「新婚のダチにあまり肩入れするなよ向こうは迷惑かもしれない

ぞ」

優奈「そ〜そ〜嫁のオカンは孫の顔見たいらしいしな」

鳳翔「αさんのところみたいね…」

とある世界の圭『くしゅん』

???『圭君風邪!?!』

では戻ろう

優奈「そういや甲児ほれ、隼人から借りパクした無限エコバッグが

ちようど三枚あるからやるわ」

甲児「あんがとよ」

優奈「女将さんにもはい」

鳳翔「ありがとうございます」

信康「私には無いのか…」

優奈「次回だな」

???「ヤスイヨヤスイヨ」

???「今日は何が安いんだ?」

???「キョウハシンセントレタテサバトアサドレレタスダヨ!!」

優奈「そりやこの巨大水槽見りやわかるな…」

甲児「小さな水族館だな」

信康「古康が喜びそうだな…」

優奈「んじやサバを十匹にタコとイカ一杯ずつ」

???「マイドアリ」

甲児「エラく買うなくんじや鰻を五匹とそこの貝盛り合わせを二つ」

???「マイドアリ」

信康「野菜買ってきたぞ」

鳳翔「いつものあるかしら？」

???「ホウシヨウスペシャルハイッタゾー!!」

優奈「なんじやそりや？」

???「アンタ知らんのか？ホウシヨウスペシャルっていうのはまあ見りや早いか」

優奈「失礼、貴女は一体？」

???「私は敷波ここのアルバイトさ」

優奈「アルバイトさんでしたか、私は三角優奈メカニック鎮守府の超非常勤で自称嵐だ」

とうとう自称がついたか…

信康「私は信康、あそこで値切りしているバカの妻だ」

甲児「流石にそりやないだろ大将せめてこんくらいだな」

大将「流石に赤字だせめてこんくらいだな」

甲児「わかった、間をとってこんくらいだな」

大将「あんちゃんにや負けたよ!!私はり級だあんちゃんの名は？」

甲児「ただの蝉さ」

優奈「どうよ？」

甲児「たつくさん仕入れたぞしばらくは安心だ」

信康「私も手伝うぞ」

鳳翔「ちよつと張り切り過ぎたかしら？」

り級「女将さんいつものようにトラックだそうか？」

鳳翔「大丈夫です♪」

スーパー深海新鮮品が安いよ!!

くくく♪

俺の剣が無い!? 次回は天龍と剣を予定しているので気長にお待ち下さい

## 第百式航海天龍と剣

メカニック鎮守府、今回は天龍と龍田の部屋にある鏡の前でドヤツている天龍から物語を始めよう

天龍「うっし!! 今日もイカすぜ!!」

龍田「自分で言っただけで恥ずかしくないのかしら?」

天龍「こういうのはイマジネーションが大事だってカグラが言っただぞ」

龍田「テレビに影響されたのね…」

※この世界ではスーパー戦隊シリーズは放送されているが仮面ライダーはXまでとウルトラマンはウルトラマンタロウまでしか放送されてません理由? 他のヒーローに紛れて消えたのさ…懐かしのヒーロー特集では常連で近々新作をやるらしいぞ仮面ライダーZE ROとウルトラマンスカイらしいよ

天龍「さてと、朝飯行くぞ!!」

龍田「そうね、今日は何かしら?」

数分後、天龍の刀付近に異変が!?

???「ここは…本丸でもないし一体…」

なかなかのイケメン!! 私が女性であれば直ぐにアプローチしますぞ!!

舞台裏の団長『ハイハイ、詳しいいこうか眼帯して燕尾服っぽい服を着たイケメンがいた』

???「とりあえずでな『ふみい?』!?!」

ふみい「てんりゅうおねえちゃんがおとこのひとになってる!!」

???「まずいな…」

天龍「お〜い文月って、てめえ何もんだ!!」

???「ちようど良かった、話を聞いてくれないか?」

文月「てんりゅうおねえちゃんがふたり!?!」

天龍「とりあえず提督のところに『すずきさんがっこうだよ?』そうだったなくそうだ!! アイツなら何とかしてくれる筈だ吹雪く!!」

文月「いこ?」

??? 「そうだね」

すたすた携帯貸してくれ!!構いませんよサンキューてくてく

此方は執務室

最近拗ねそうな携帯『カメン!!優奈!!』

「かちようふうげつ」と書かれたエプロン装備の優奈「いらつしやいませくってよう天龍、文月ちゃん後、だれ?」

??? 「僕は燭台切光忠だよ」

優奈 「燭台切さんね〜燭台切!?ちよつと待ってろ」

携帯『カメン蛙野』

蛙野 「なんじや九郎よ?はて、イケメンは誰かの?」

燭台切 「奥方様お会いしとうございました:」

蛙野 「奥方!?まてまて儂はまだ祝言すら挙げておらぬ!!」

燭台切 「信長公の時代から私は見ておりました」

蛙野 「ほう?して名を何という」

燭台切 「燭台切光忠と申します」

蛙野 「久しい名じやなして光忠よなして今頃になつて出てきた妾を御輿に天下を取る気か?」

燭台切 「違います!!私達の世界は悪き奴らに歴史を変えられおり仲間と共に戦っております!!」

優奈 「こことあんまり変わらん」

天龍 「ああ、変わらないな」

文月 「たきゆうてんちようさんとをきゆうさんはいい人だよ!!」

天龍 「そうだな後、スーパー深海の人達もな」

優奈 「で、何でか知らないが燭台切さんがこの世界に来た訳か」

燭台切 「そういうことだね:皆は大丈夫だろうか:」

シユタ

鈴木 「ただいま〜おや?お客様かい?私はここの提督をしている鈴木兼統皆はメカニック鈴木と呼んでいるよ」

燭台切 「僕は燭台切光忠と申します」

優奈 「蛙野の知り合いらしいよ」

蛙野 「こやつは昔世話になつた殿様が持つておつた刀らしいが焼け

てしまった筈じゃぞ」

優奈「正確には鞘に張り付いて抜けないんだがな」

燭台切「ええ、確かに抜けないね」

優奈「だが最近、現代技術で再現したらしいぞ」

※結構最近です

鈴木「光忠さんこれからどうしますか？」

燭台切「僕的には帰りたいな主や皆も心配している筈だし」

天龍「提督、どするよ？」

文月「すずきさん？」

鈴木「よし、このだいてんすあい鈴木に任せとけ!!燭台切さんは何とかしよう!!」

優奈「ぶつちやけ燭台切が来た時間帯の歪み調べりや早くない？」

蛙野「九郎よ、それは砂漠で砂金とミラーハウスで姿見を捜すようなもんじゃぞ」

どうなることやら…

~~~~~♪

潮が出会った謎の生物…それは別次元からやって来たある男の親友だった…次回メカニックこれくしょん、ようこそそして久しぶり!!
お楽しみに

第百参航海ようこそ、そして久しぶり

メカニック鎮守府：今回は赤城さんの居場所こと裏山の林付近から物語を始めようって何で潮ちゃんがいるんだよ!!

潮「赤城さんが教えてくれたこの場所凄いな…」

回想の赤城『人気がなくて静かな所：裏山に夜は星が綺麗な場所がありますよ!! そうだ!! ソロキャンに興味あります?』

そりや見渡す限り木木木ついでに鹿鹿熊鹿三匹飛ばして未確認飛行物体だからなく

潮「未確認飛行物体!？」

未確認飛行物体「ばむく」

潮「噛むかな?」

未確認飛行物体「ばむばむく」

潮「かわいい…」

未確認飛行物体「ばむく」

潮「うちにくる?」

未確認飛行物体「ばむばむく」

すたすたキョンキョンぐあぐあ

此方はメカニック鎮守府の執務室鈴木とネオフロンティアに帰った筈のアスカがいた

鈴木「火星開拓とは凄い世界ですね…」

アスカ「まあなだけど侵略者が後をたたないのもあるこの前もスフィアが来たらしいし…」

鈴木「そこは人類の科学次第ですよ、師匠が言っていました『人類の科学は使い方次第で友情の架け橋になるが破滅の力にもなる』って」

アスカ「いい師匠だな」

鈴木「今は農家ですけどね」

憲兵αの背中にサイコガンダム装備で乗ってる文月『おいしいおやさいでげんきになるよ!!』

憲兵α『サイコガンダムはミスったな…』

では戻ろう

くくく♪

鈴木「はいよ〜」

潮「提督？この子の名前『ハネジロー!!』ハネジロー？」

アスカ「久しぶりだな〜元気にしてたか〜」

ハネジロー「ぱむ〜、ア〜スカ♪」

鈴木「知り合い？ですか？」

アスカ「スーパーガッツにいた時に出会った友達です!!コイツはムーキットと言ってファビュラス星っていう星じゃ神聖な奴らしいんだがコイツ威厳あるか？」

ハネジロー「ぱむ〜」

潮「崇めよ？」

鈴木「見てわかるな」

アスカ「で、ハネジローどうしたんだ？」

ハネジロー「ぱむぱむ〜」

???『今この映像を見ているのが地球のスーパーガッツに届いていることを祈る：私はファビュラス星人のアッシュ今地球が危ない!!』

アスカ「どうゆうことだ!!」

鈴木「録画だな」

ファビュラス星人『我々の同盟宇宙人がブラックホールより大量のスフィアを確認した!!我々も一応対抗したが物量に押され進撃を許してしまった：メツセンジャーとしてハネジローを送った』

潮「あつ：」

ハネジロー「ぱむ〜」

アスカ「鈴木さん行ってきました」

鈴木「落ち着いたらまた来て下さい」

アスカ「ラジャー!!行くか？ハネジロー」

ハネジロー「ぱむぱむ〜」

一方此方はネオフロンティアの地球なんだが：怪獣が街を破壊していた!!

???「何としても食い止めるんだ!!」

『ラジャー!!』

「隊長!! 大気圏より謎の飛行物体が『型落ちのガッツイーグルα スペリオルです!!』型落ち!」

隊長「帰って来たのか：アイツが!!」

アスカ「こちらアスカ応答『ぱくむく?』ハネジローちよつと下がってような」

隊長「アスカ!! すまないが援護を頼む!!」

アスカ「ラジャー!!」

「すごい：」

隊長「アイツがあのアスカだ：お前達良く見とけよ」

簡単に語ろう：ダイナは出なかったがアスカとハネジローは再会を喜びまた旅に出ていきました

くくく♪

なんか文月ちゃんがプンプンなんだが？ 次回は天岩戸（ウォルターガンダムの殻）を開ける方法を予定しているので気長にお待ち下さい

第百四航海【急募】天岩戸（ウォルターガンダムの殻）の抉じ開け方

メカニック鎮守府、今回は憲兵詰所にいるαと殻から話を始めよう
憲兵α「お〜い文月ちゃん、いい加減機嫌治してくれよ」

文月『ふい』

憲兵δ「何あれ?」

憲兵γ「昨日文月ちゃんが最後に取っていたケーキの苺をαが食べたみたいでな寝る前からああだそうだ」

憲兵β「であそこで積み重なっている我らの同僚は?」

憲兵γ「αに頼まれて抉じ開けようとして返り討ちにあったメンツだ」

残りの憲兵『死屍累々』

憲兵β「なあ?√の奴って怪人か?」

憲兵γ「今頃気づいたのか?√は大和さん所にいるガイさんと同郷の宇宙人だそうだ」

憲兵β「そうか?」

では、カメラを殻の中に向けよう殻の中は意外と快適なようで少女漫画片手に文月ちゃんがソフビ人形と話していた

???『それはいけないな〜』

文月「そうだよね!!SD（スパークドール）やぷーるさん!!」

SDヤプール『私にいい考えがあります!!文月ちゃんちよつと身体借りますね』

文月「ふみい!」

では外にカメラを向けよう

憲兵α「文月ちゃん」

文月『ふみい』

憲兵γ「わーお、グランドマスターガンダムじゃん勝てる?」

憲兵δ「ムリムリムリ!!第一ザクで苦戦するからな!!」

文月?『フツフツフ、我はヤプール、今は文プールと名乗ろう…こ

の小娘の身体は我の物になった!!』

憲兵⊠S『何iiiiiiii!!?』

文プール『ちよつと痛め付けたらすぐに入り込めたわ!!行くぞ!!グランドマスターガンダムよ!!』

憲兵γ「どーすつぺよ?」

憲兵δ「鈴木曰くオリジナルより約1割位の性能らしいぞ」

憲兵α「それより文月ちゃんだ!!」

憲兵β「まあ、大丈夫だろ?ヤプールさんは紳士だぞ?どうせ前の鎮守府の記憶をほじくりつてやはり殺るか!!」

その時である!!あの、赤のラインと銀の身体そして…トサカに空いた穴はま、まさか!!

???「とおあ!!」

憲兵⊠S『誰!?!』

???「私はウルトラ五番目の戦士ウルトラマンA」

文プール『久しぶりだな!!エースよ!!』

エース「ヤプール!!また悪さをしているのか!!」

文プール『違うな、私は文月ちゃんの為を思って行動しているのだ』

エース「本人の意思を無視してか?」

文プール『いや、意思は尊重している、そのα君をシバいたら私は返そうと考えている』

憲兵α「なぜ!?!」

文プール『聞けば、文月ちゃんが最後にとっていた苳を食べたと言うではないか!!あの食いしん坊赤城ですら横取りはしないぞ!!』

風呂場掃除中の赤城『くしゅ!!』

脱衣場掃除の瑞鶴『早く終わらせてのんびり浸かりましょう』

エース「なら仕方ないな、ヤプール!!私は今回は味方になろう」

文プール『エースが味方なら心強い!!』

憲兵β「どーすつぺよ」

憲兵γ「さあ?どうせ次回にはデビルガンダムコロニー担いでスクワットか腕立てしてんだろ」

憲兵χ「だな、では天さん予告よろ」

くくく♪

なんか任されたので次回予定の話をちよつとだけ…いつものようにぐつすりな鈴木君の耳元で囁くゆきちゃん…次回は未来から来た花嫁を気が向いたらやるのでキリンのように首を長くして気長にお待ち下さい

第百V航海未来から来た花嫁

メカニック鎮守府：今回は鈴木君の部屋から始めよう!!今日は鈴木以外誰もいないようです

鈴木「くかくにゆふふふ」

なに見てんだか：そこに不審者が寝込みを襲いに来た!!危うし鈴木君!!

不審者「お・き・て、ア・ナ・タ♪」

鈴木「んだ!」

不審者「おはよう♪鈴木さん」

鈴木「だれ!」

不審者「んゝ何と言いますか?では、未来から来たアナタの妻です」

鈴木「俺はゆきちゃん一筋だ!!」

不審者「やっぱり変わらないな」

???「おい、腐れマツドまたゆきが今度は貴様の服を着てってゆきの反応があるがお前は誰だ?」

鈴木「おはようZERO、自称ゆきちゃんらしいぞ」

ZERO「そうか、では自称ゆき、私と初めて会ったのはどこだ?」

自称ゆきちゃん「占いゆきの館裏にある廃墟のコンテナよ」

ZERO「腐れマツド、こいつはモノホンのゆきだこの話はゆきしか知らん」

鈴木「追加で俺もな」

ZERO「貴様は知らん」

鈴木「で、ゆきさんはどうして過去に?」

ゆき「あら?信じたの?」

鈴木「ZEROのセンサーは誤魔化せないらしいよ」

ZERO「ふうん」

ゆき「ありやりや、それは残念ね：話は変わるけど聞いてよ鈴木さん!!」

鈴木「やっぱりそっちのゆきちゃんがいいな」

ZERO「不服だが貴様と珍しく意見があったな」

ゆき「兼さんがね!!『最近、ユルくなった?』って言うんだよ!!そりや二人程子供いるけど『二人!』そうだけど?」

鈴木「ZERO?確か子供はゆかだけだよな?」

ZERO「年のはなれた子供かもしれないぞ!!」

ゆき「なるほど:ねえ?ふたりとも、私とデートしない?」

鈴木「何故に?」

ZERO「私は構わんが腐れマッドと一緒に戴けないな」

ゆき「高校生の兼さんとデートしたいのってダメ?」

ZERO「なるほど:ういういしさを思い出して帰ったあと『閲覧規制』するって訳か:腐れマッドやはりクロス」

鈴木「別時空のしかも未来の俺に言え!!」

???「鈴木さん?浮気ですか?」

ZERO「来たかこつちの世界のゆき今はロリゆきだな」

ロリゆき「美人さんがいますね」

ゆき「あら?私がいるじゃない!!かわいい」

鈴木「タイムパラドックスは起こらないかな?」

ZERO「別次元でしかも見た感じあのゆきは普通に成長した世界のゆきだな」

ゆき「そうゆうことくにしてもかわいい」

ロリゆき「髪の毛くしゃくしゃにしないで」

数時間後普通に帰って行きました:ロリゆきちゃん?ぐったりしてるよ?

~~~~~♪

海の底から現れた未確認にぽいぬ座、ときあめ座の聖衣にプチ艷装、メカニックメカはなすすべなく敗退してしまった!!今こそ修行の成果を見せるとき!!

優奈「本編はいつも通りだ」

次回は未確認対飛龍&蒼龍!決めろ!!最破碎拳を予定しているの  
で気長にお待ち下さい

## 未確認対飛龍&蒼龍！決めろ!!最破碎斬

メカニックこれくしょん今回は海上のボロボロなメカニックメカと皆から話を始めよう

ギガントカウント『全力でも倒せないとは…』

スカイカスター『どうするよ?』

ランドラングル『明らかに劣勢だな…』

長門『平和ボケが祟ったな…』

夕立『ぼい星拳!!』

???『アマイ!!』

夕立『ぼいいいいい!!』

時雨『雨天翔銀拳!!』

???『キカヌハ!!』

時雨『うわああああ!!』

文月『ふみい!!』

???『なんだあ?』

文月『ふみい!!』

長門『撤退だ!!』

???『イツデモクルガヨイ!!ワタシハニゲモカクレモシナイゾ!!ハツ

ハツハツハツハ!!』

撤退中

メカニック鎮守府では…

鈴木『ヤバイな…』

大淀『これで全敗です…』

鈴木『どうすつぺよ?』

大淀『やっぱり優奈さんやゼロさん達を呼んだほうが…』

鈴木『呼びたいのは山々だが優奈は行方不明でウルトラマンさん達は無理なんだよなく今どこにいるのやら?』

???の優奈『珍しく大ピンチだ』

ウルトラマン『我々は神ではないし地球人のいざごぎにはあまり介入しないようにしている』

※一説にはウルトラマン達は地球人の宇宙進出や進化の妨げにならないようにしていたり人類のいざこぎには介入しないようにしているそうです、考えて見よう!!アベンジャーズにウルトラマン達が介入してみろどうあがいても地球破滅√だぞ詳しくは平成セブンを見よう

??? 『提督!! 私達に行かせて下さい!!』

鈴木 「飛龍に蒼龍もいいのか?」

飛龍 「はい!!」

蒼龍 「優奈さん達との特訓の成果を見せるときです!!」

鈴木 「でも、動くのは明日だ」

飛龍 「何ですか!!」

鈴木 「アレ」

窓の外『今回の戦闘は終了しました明日も同じ時間に現れるので震えて眠れ』

大淀 「まさかの信号弾…」

鈴木 「しかも俺特製の奴だ…いつの間にスツたんだろう?」

次の日

鈴木 「一応、気をつけてな」

飛龍 「はい!!」

蒼龍 「吉報をお持ちします!!」

すいすい

海は広いなく大きいなくアカンやっぱり外してる…

飛龍 「目標発見!!」

蒼龍 「普通に目視出来るしね…」

??? 『ウグツ!?イマハシヨクジチュウダシバシマテ!!』

何か人間味あるなく

飛龍 「どうするよ?」

蒼龍 「瞑想しとく?」

回想の優奈『我が流派は瞑想をすることにより気を落ち着かすことで明鏡止水に至り新たな力が手にはいるだろう』

数時間後



??? 『スマヌナ、デハハジメヨウ』

飛龍 「はい!!」

蒼龍 「私は蒼龍」

飛龍 「そして飛龍」

蒼飛龍 『貴女を倒す名です!!』

???? 『ワタシハ軽巡凄姫!!』

蒼飛龍 『いざ、参る!!』

飛龍 「我流…痛速拳」

姫 『アマイ!!』

蒼龍 「なら!!我流速痛拳!!」

姫 『イミハイツシヨデハナイノカ!』

飛龍 「全然効かないね…」

蒼龍 「やっぱり無理なのかな…」

諦めるな!!

蒼飛龍 『その声は…師匠!』

磔にされた優奈 『お前達に古始今流の最終奥義を伝授する!!』

飛龍 「捕まっていますよね!』

優奈 『ふん!!』

パリッ

優奈 「いやくまさか処刑寸前とはねくどうも、通りすがりの嵐だ」

姫 『ナンニンフエヨウガテキデハナイ!!』

優奈 「古始今流…最終奥義!!最破碎斬!!」

蒼龍 「姫の横にあった無人島が消えた!』

※隣といつてもかなりはなれています

優奈 「この業は殺人剣であった我が流派を源九郎さんが活かす剣に替えたときに生まれたのがこれだ明鏡止水を忘れるな…怒りに任せた拳は殺人剣と変わらん!!じゃ帰るわ」

飛龍 「ヤバい業だね…」

蒼龍 「私達にできるかな?」

姫 『(アンナノヲクラッタラシヌ!!イマノウチニヤラナケレバヤラレル!!) クラエ!!』

蒼龍「ぐはっ!!」

飛龍「蒼龍!!」

姫「コイツデシマイダアア!!」

蒼龍が沈む：蒼龍が：

蒼龍「よろしくね飛龍」

蒼龍「提督：飛龍に酷いことしないで：」

蒼龍「ねえ：一緒に大本営行かない？」

優奈「俺の流派をね〜？我流だぞ？」

ピチヨン：ピチヨン：ピチヨン

飛龍「見えた!!我流：最破拳!!」

姫「グハッ!!」

飛龍「大丈夫!？」

蒼龍「ありがとう飛龍!!ちよつと!?!銀色に光ってるよ!!」

飛龍「ちよつと失敗しちよつとみたい…」

ザバツ!

???'『我が名はシーマリン、盟友から頼まれてこれを届けに来た!!で  
は』

蒼龍「私達の竹刀？」

飛龍「わかった!!はああああ!!」

蒼龍「竹刀が銀色になったうえに伸びた!？」

飛龍「蒼龍!!力を貸して!!」

蒼龍「うん!!」

姫「コイ!!」

蒼飛龍『我流古始今流：最破碎斬!!!!』

姫「ミゴトダ!!!」

飛龍「結構体力使うわ：ごめん後、よろしく〜」

蒼龍「飛龍!?!寝ちやった：ごめん私もげん：か…」

姫「ワタシモモウナガクナイ：サイゴニハイシヤノヤクメヲハタ  
スカ：」

時は少しだけ進みメカニック鎮守府の医務室に飛龍と蒼龍がいた  
飛龍「ん：知らない天井だ：」

??? 「目覚めたか」

飛龍 「貴方は…」

??? 「メカニツクのダチで和真だ相手はおねんね中だがお前ら1ヶ月寝てたからな」

飛龍 「1ヶ月!?!」

和真 「ああ、何でもボロボロの敵さんが担いで来たらしいぞ」

飛龍 「その後敵さんはどうなりましたか?」

和真 「着いた瞬間砕けたそうだが今は鈴木さんと明石ちゃんが工廠で砕けた欠片を解析してるみたいだな」

飛龍 「そうですか…」

和真 「優奈から聞いたがぶつつけ本番で最破砕斬使ったらしいな暫くは安静にしとけよくんじゃ工廠とやらに行くわ」

飛龍 「蒼龍…聞いた?」

蒼龍 「砕けたあたりからね」

蒼飛龍 『借りが出来たわね…』

一方工廠では…

鈴木 「なるほどく解析してもヒットしないハズだ」

明石 「まさか…ロストテクノロジーとは…」

和真 「お〜い、ダブルドラゴン起きたぞ〜」

鈴木 「ありがとうな和真さん」

和真 「さんはいらんが礼は受け取ろうんで俺はちんぷんかんぷんだが何かわかったのか?」

鈴木 「敵さんの技術が特攻や試作実験で散った学者の未完成技術という以外はな」

和真 「なら元帥潰したほうがはやない?」

鈴木 「今の元帥さんは味方だ」

和真 「さいですかじゃあ、あのカプセルに浮いているボインちゃんは何ものだ?とうとうメカニツクもマッドにクラスチェンジしたのか?ゆきちゃんが泣くぞ〜」

鈴木 「違うわ!!次回予定の子だんじや天さんよろしく〜」

〜〜♪

任されました!! 姫との戦いに勝利したダブルドラゴン：新たな力と出会いがあった次回、免許皆伝と巫女ツインを予定しているので長にお待ち下さい

## 第百奈々航海免許皆伝と巫女ツインの予定

前回のあらすじ

姫との死闘に破れた蒼龍、飛龍は敵の基地でおびただしい数の『閲覧規制』で『閲覧規制』を『閲覧規制』されボロボロになっていた  
不知火「違います」

優奈「本編行こうか？」

メカニックこれくしょん、今回は道場にいるダブルドラゴンとクローバー型眼帯をしている優奈君から話を始めよう

※本当はラブリー眼帯にしようとしたがネタが解るひとがいなさそうだから辞めました

蒼龍「師匠辞めてください!!」

優奈「キルキルキルキルキル…」

飛龍「師匠!!柳生抜刀齋に飲まれないでください!!」

優奈「キルキルキルキルキルキエエエエ!!」

蒼龍「師匠!?!」

優奈「飽きた」

ダブルドラゴン『ズコー』

優奈「とりあえず二人は暫く我流術は使うなよもし使ったら俺が二人に引導を渡すことになる…」

蒼龍「何故ですか!!」

優奈「基礎体力が低いからだ!!ダブルドラゴンは暫くランニングとうさぎ跳びに裏山全力ダツシュだ!!」

飛龍「あれは力加減を『ああ?』わかりました…」

優奈「ほれ餞別のふわふわタオルとしゃきしゃき鉢巻だ頑張ろ」

蒼龍「手紙がある何々…」

手紙『これを読んでいる時俺は帰っているだろう…ふわふわタオルは幾ら洗濯してもふわふわだ!!しゃきしゃき鉢巻は気合いを入れてくれるぞ後、大切なものや守るべきものを見つけた時に我流古始今流の免許皆伝を言おう…精進するべし我が親愛なる馬鹿弟子達よ』

飛龍「馬鹿弟子は傷つくなく」

蒼龍「今度来たら鳳翔さん特製コラボパフェ奢って貰うかな」

※コラボパフェについてはブツ壊れ劇場参照

そんな日が続き約2ヶ月後、優奈君はまだ来ない…

飛龍「体力は付いた筈だけどこないね」

蒼龍「大切なものや守るべきものってなんだろうね?」

???「そりや言葉の意味通りじゃよ」

飛龍「貴方は一体…」

???「儂か?儂はこの山で山菜狩りしとる爺じゃよ最近はお主らのおかげで知り合いの漁師や釣りバカが感謝しておったぞ」

蒼龍「良かったね飛龍」

飛龍「そうだけど、おじいさんここ一体はメカニック鎮守府の土地なんですけど?」

おじいさん「はて?儂は知らぬぞ?」

蒼龍「連れていきますね」

おじいさん「それはちと困るのう、そうじゃ儂と一つ闘わぬか?儂も昔は武をかじっていたからの」

蒼龍「どうする?」

飛龍「やります!!」

おじいさん「なら早いな、二人いっぺんに来なさいなあに、卑怯とは言わんよ」

蒼飛龍『行きます!!』

おじいさん「若いな…軌道が見え見えじゃよ」

蒼龍「くっ、速い!!」

飛龍「我流『遅い!!天下併願!!』ぐはっ」

蒼龍「飛龍『まだまだじゃな…岩齋空覇!!』きゃあああああ!!!」

おじいさん「弱いな…このままじゃ弱いものいじめになってしまうわじゃあの〜」

飛龍「まっ…て…」

おじいさん「驚いたのう、まだ立つとは…儂も老いたか」

飛龍「今の技は古今流と始今流の技貴方はまさか」

おじいさん「儂に勝てば教えようじゃが主は立つのがやっとなら

諦めよ所詮儂には勝てぬよ」

飛龍「師匠…私は禁を破ります…ごめんね蒼龍…我流…気合い爆発!!」

おじいさん「ほう…ならちよつとだけ本気をだすかのう…古今流…術中返し」

飛龍「行きます!!我流爆碎脚!!」

おじいさん「若いな…粉碎脚!!」

飛龍「ぐっ…」

おじいさん「すごいこのう、この技は相手の足をへし折る技じやがまだ立っておる」

飛龍「気合い爆発は全てのダメージを後回しにする私専用の技です(持って…私の脚)」

おじいさん「ほう、なら完膚なきまでに痛め付けねばならんな」

飛龍「あまり…粹がっていると弱く『岩バーン』蒼龍!」

おじいさん「卑怯とは言わぬな?」

崖の木に引つかかっている蒼龍「…」

おじいさん「どうする?儂を倒すのか?それとも友を救い上げるのか?」

飛龍「貴方を倒し蒼龍を救う!!」

おじいさん「ほう、儂も歳じや最高の技で貴様を倒そうそして蒼龍とやらをメイドとして無理矢理働かせてやるわ!!」

飛龍「わかりました…私も全身全霊の一撃で貴方を倒します後、蒼龍は渡しません!!」

おじいさん&飛龍『はあああああああ』

おじいさん「古今流『我流』」

飛じいさん『最破「覇」砕けえええええん!!』

おじいさん「かつ…た…」

飛龍「ワタシの勝ちだああああ!!蒼龍!」

枝が折れそうな木に引つかかっている蒼龍「…」

ポキッ

飛龍「蒼龍うううう!!」

哀れダブルドラゴンは崖下に：んな訳ない!!  
イヤア!!

あのウルトラマン見たいな頭ではなく左右が尖っていて腹部に  
マークのあるのはま、まさか!?

??? 『見せて貰ったぞ!!』

飛龍 「貴方は：」

??? 『私はウルトラマンレオ、ゼロ経由で優奈君に頼まれた者だ』

飛龍 「優奈さんから：」

レオ 『うむ、あの一撃は素晴らしかったぞ!!私も見よう見まねの拳  
術だったからな危うく宇宙拳法を使う所だったぞ』

飛龍 「ですが：私は優奈さんとの約束を破りました：」

レオ 『いや、君は破ってはいない、蒼龍君を助ける為に技を使った  
のだ優奈君の『大切なものや守るべきものを見つけた時』というのは  
か弱き者や危うい者を助けるという意味がある：もし、優奈君が何か  
言って来たら私や弟のアストラやレグロスが飛龍ちゃんを助けにこ  
よう』

飛龍 「ありがとうございますレオさん：」

レオ 『ほら鎮守府に着いたよじゃあ私は任務に戻ろう』

飛龍 「ありがとうございますレオさん」

レオ 『トオア!!』

??? 「おかえりなさい」

飛龍 「貴女は：」

??? 「次回よまあ直ぐに判明するわ」

この子は誰なんだよ!!

~~~~~♪

闇の中にいる蒼龍：次回、蒼龍を予定してるので気長にお待ちくだ
さい

第百鉢航海蒼龍…

前回のあらすじ

飛龍は敗北し蒼龍は露出度高めなメイド服を来ておじいさんに毎日躩されていた

不知火「んなわけあるかー（棒読み）」

焼かれている優奈「本編行くぞー後、そろそろ熱いし反撃と行きま
すかージャンヌちゃんも一緒になー」

???『ギガントム〜テ〜キ〜♪』

メカニック鎮守府の医務室から始めよう

飛龍「もうすぐ半年だね蒼龍…」

蒼龍「…」

くくく

こちらは蒼龍の深層世界…蒼龍と蒼龍に似た黒い何かと礫にされたボロボロの飛龍がいた

蒼龍『ぐはっ』

???『貴様の拳は軽いなく飛龍と言ったか？こいつの拳はまあまあ歯
ごたえがあったが敵ではなかったがな!!速くしないとねえ?』

蒼龍「させるかああああ!!」

黒蒼龍『だから軽いと言っている!!』

蒼龍「くっ」

黒蒼龍『貴様の拳はやはりテクニカルタイプだな何故パワータイプの
業ばかりつかう？バ火力頼みか？今時流行らんど』

蒼龍「違う!!私の拳はパワータイプだ!!」

黒蒼龍『認めなよ、君はスピードを活かした柔の業使いだ、だから
弱いし大切なものを直ぐ喪う、あの時の君みたいに!!』

蒼龍「だまれええええ!!」

黒蒼龍『皆山拳!!』

蒼龍「くっ…」

黒蒼龍『弱いものいじめになるし帰るね、飛龍ちゃんは私がたつぷ
り『閲覧規制』で『閲覧規制』に『閲覧規制』してズタバロにしてお

くよ♪今から楽しみだなく顔の似た別人にめっちゃめっちゃにされ絶望する顔が見れるんだよ♪』

蒼龍「ま…て…」

黒蒼龍『え〜仕方ないなくもう手加減無しの一撃で仕留めてあげるよ』

蒼龍「(このままじゃ負ける…やっぱり勝てないのかな…ごめんね…ひ『な〜くに諦めてんの?』) ひ…りゆ…」

薄くぼやけた飛龍『さっさとやつつけなよ蒼龍は蒼龍でしょ?』

黒蒼龍『これで最期だあ』師匠…貴方の力…お借りします!!』な、何!?!』

データロード…ゼロ、セブン、レオ…ウルトラマンゼットアルファ エツジ

蒼龍「イヤア!!」

黒蒼龍『なんだ!?その技は!!データに無いぞ!!』

蒼龍「無いのは当然!!だってぶっつけだもん!!いくよ」

黒蒼龍『くっ、さっさと始末しとくんだった!!』

蒼龍「まだまだあ!!」

データロード…優奈、マキシマムミスミー!!

蒼龍「ライダー…アタック!!」

黒蒼龍『がはっ!!』

蒼龍「これで最期だああああ!!」

データロード…優奈!!

蒼龍「最覇碎斬!!」

黒蒼龍『くそオオオオオ!!』

蒼龍「さっさと帰って来い私!!」

黒蒼龍『わかった…だが貴様がまたくたびりかけたら直ぐ貰うからな!!』

蒼龍「そういう時は力を貸しなさい、光と闇が交われれば最強よ!!」

黒蒼龍『そうだな…だがデータロードは多用し過ぎるな師匠も体調不良になる代物だ』

蒼龍「そうなの!?!」

黒蒼龍『いつ目覚めるか判らんがしばらくは相手をしてやろうそれ
までにはモノにしろ!!』

蒼龍「わかったわ!!」

蒼龍はまだ目覚めない…

くくく♪おはよう寝坊助…次回、目覚めを予定してるので気長にお
待ちください

第百久航海目覚め…

前回のあらすじく蒼龍は黒蒼龍に敗れ蒼龍の意識は消え黒蒼龍が飛龍をボロ雑巾のように扱っていた!!

マキシマムミスミ優奈『んな分けない、とりあえずここどこだ? 後、ジャンヌダルクってあの聖女だよな? まさか…めんどいがFGOの世界か…書かないからな!!』

不知火「本編です」

メカニック鎮守府…今回も医務室から始めよう! 蒼龍はまだ目覚めない…

飛龍「さつさと起きなさいよ蒼龍…」

その頃此方は蒼龍の精神世界…

蒼龍「データロード…作者…」

黒蒼龍『作者のバカみたいな回復力は時として武器となる!! 今は回復に専念しなさい!!』

※39. 0℃の熱を次の日には36. 6℃に下げ医者が首をかしげたりするからなく後、痛遅拳や遅痛拳はたまに発動する我流喧嘩拳です

蒼龍「まだ回復出来ないの?」

黒蒼龍『後、二晩我慢しろそれくらいには回復しているはずだ』

だが次の日の朝、蒼龍に異変が起きていた!! が同じ頃食堂ではお久しぶりな瑞鳳が何かを作っていた

瑞鳳「朝採れ新鮮卵で作った瑞鳳のだし巻き玉子だべりゆ? なんちやって♪」

う~~~~~う~~~~~

瑞鳳「な、何!? 今のうめき声」

う~~~~~

瑞鳳「そ、蒼龍さん?」

蒼龍「がるるるる」

瑞鳳「た、だべりゆ?」

蒼龍「うがああああ!!」

ガツガツガツガツ

瑞鳳「おかわりいりゆ?」

蒼龍「うみやいうみやい」

数時間後

鈴木「で、食べたら寝ちやつたと…」

飛龍「幸せそうな顔ですね」

瑞鳳「だから朝の生卵はありません!!」

蒼龍「でくたろくどく」

鈴木「データロード!?マジかよ」

最近ちよつと出番の増えた携帯『カモン!!優奈!!』

優奈「おはよう、あり?鈴木どつたのさ」

鈴木「蒼龍にデータロードを教えたか?」

優奈「んにや我流喧嘩拳と古始今流だけだ」

鈴木「実は蒼龍がデータロードしたらしいんだ」

優奈「あれつて体調不良のデメリット以外は使い勝手いいからなく

仕方ない:秘技コツポッキリ」

蒼龍「ぐは!?何するんですか!!」

鈴木「おはよう蒼龍、君は皆が楽しみにしていた瑞鳳のだし巻き玉子を一人で食べたのだが弁解はあるか?」

蒼龍「知りません!!」

瑞鳳「蒼龍さんがガツガツバクバク食べてました!!」

蒼龍「本当に起きたら食堂にいたんです!!信じてください!!」

優奈「話は代わるが蒼龍:データロードは誰から教わった?」

スツ

蒼龍?『データロードはあの子ぶつつけらしいわ後、いきなりごめんなさい私は蒼龍まあ黒蒼龍とでも名乗ろうかしら?』

鈴木「二重人格か?」

黒蒼龍『まあ、そうなるわね:後、優奈さん!!あの子の適正ちゃん
と見てるの!?!』

優奈「適正?」

黒蒼龍『そう、適正!!蒼龍はテクニカルタイプよそれなのにパワー

タイプ業は完全に潰してるわ!!」

優奈「なるほど…だからデータロードか…黒蒼龍よあいわかった次はそのあたりを重点に置こう感謝するし適正に気づかなかったことは詫びようすまない」

飛龍「蒼龍は大丈夫ですか？」

黒蒼龍『大丈夫よまあ直ぐ代わるから泣かないの、今回のだし巻き玉子の件はデータロードの弊害ねバカみたいな回復力をアテにしたのもあるけどまさか寝ながら食べるなんて想定外よ』

優奈「作者が使える我流喧嘩拳の一つだしなまだわからんのも多いし蒼龍にや多用は厳禁と言つててくれ」

黒蒼龍『基本的に作者は決闘者（デュエリスト）モードとルナモードですしね』

優奈「だがツメの甘さは天下一だがなく」

スツ

蒼龍「まさか…そんな力を手に入れていたなんて…」

優奈「データロードは多用し過ぎると腹痛や疲れが抜けなくなるから気をつけるんだぞ後、鈴木の後ろにいる巫女さんは誰だ？」

※データロードのデメリットは現在進行形で作者がなっていますよるこは真似しちやダメだぞ

???「はじめましてね、私は五十鈴あの二人にはちよつと縁のある艦娘よ」

優奈「まあ聞かんが俺は三角優奈、通りすがりの嵐を巻き起こしたりするが気にするな今は喫茶店のマスターをしながら高校生をしている鈴木、瑞鳳ちゃんちよつと付き合ってくんない？」

鈴木「構わないが手短にな」

瑞鳳「私は大丈夫ですよ」

すたすたでは場所を移しダブルドラコンの部屋では…

飛龍「五十鈴さんとの縁とは一体？」

蒼龍「なくんか嫌な予感がするのよね」

データロード…ゆき…

蒼龍「昔の敵は今日の友…力の使い方は大事…」

飛龍「どういういみ？」

蒼龍「ゆきちゃんの予知能力を真似て見たけど判らないや」

占い『ゆきの館』にいるゆき『当たるも八卦、当たらずも八卦です』

くくく

飛龍「どうぞく」

五十鈴「気になってるだろうし来たわ」

飛龍「単刀直入に聞くけど私達初対面よね？」

五十鈴「チガウナ、アレホドナグリアツタナカデハナイカ」

蒼龍「まさか…軽巡凄姫はないよね？」

五十鈴「ビンゴダアノアトワタシハシンダハズダツタガナゼカコン
ナスガタニナリスコシダケイスズトヤラノイシモアルサテ…ドウス
ル？」

飛龍「なにもしないわ昨日の敵は今日の友ということわざもあるし
第一知らなかったとはいえ私と貴女は同じ釜の飯を食べた仲間よ」

蒼龍「まだ送ってもらったお礼もしてないからね」

五十鈴「(ヤハリカテナイナ…) わかった、世話になるぞ」

しばらく後、優奈のハチャメチャ格闘塾に新しく五十鈴が入り蒼龍
はテクニカル系をならい始めたらしい…

くくく♪

募集かけるか…次回は格闘塾日誌を予定しているので気長にお待
ちください

第百銃航海喧嘩塾日記

前回のあらすじ

五十鈴を取り戻すべく飛龍と蒼龍はヒメ挑みかけた…

鈴木「本編いくぞ」

メカニック鎮守府には格闘場があり優奈君と優実ちゃんが我流喧嘩塾を開いていた

※門下生は飛龍、蒼龍、熊さん、五十鈴改め姫、たまに剣術をしに天龍と燭台切が来ます

優奈「まずは簡単な張り手です」

???「ぐあ!!」

優奈「熊さんはベアクローだな…」

蒼龍「はっ!!」

優実「ちよつと甘いかな?」

飛龍「やるね」

五十鈴「まだ足は治らないの?」

飛龍「全治半年から一年だからね」

優奈「粉碎撃は相手の鬨志や骨を完膚なきまでに叩き折る技だしな
熊さん、蜂蜜は早いぞ」

熊さん「ぐああ…」

優実「もうお昼だし休憩しない?」

優奈「そなの? んじゃ休憩!! 後、熊さんにはお詫びの鮭とどんぐり
だ」

熊さん「ぐわ♪」

場所は変わりこちらは食堂

優奈「今日は優狐特製軽食だ!!」

優実「私は蛙野さん特製の直ぐに運動できる軽食よ」

優奈「あまり食い過ぎるとリバースするからなく後、昼は特別ゲストを呼んでるから楽しみにしているように」

蒼龍「誰だろうね?」

飛龍「この前は先代シャッフル同盟の方々だったし判らないや」

五十鈴「終わったら終わつたで皆文月ちゃんに骨抜きにされてたけどね特にマスターアジアのじいさん」

???「いたいた優奈さんで合っているかな?」

サンドイッチを詰め込んでいる優奈「ふは?」

???「僕はヒビノ・ミライ、セブン兄さんとレオ兄さんとゼロとゼットに頼まれて来たんだ」

優奈「ありや、用事かい?」

ミライ「最近アブソリユーティアンが攻めてきているから大変なんですよ」

優奈「アブソリユーティアンねえ、ヤプールさんとプロフェツサーさんに頼んどこうか?」

ミライ「あの…ヤプールはちよつと…」

優奈「大丈夫、エースやゼロ、ゼット後、たまにメカニックに相談に来るヒカリは知ってるし当然ゾフィーやウルトラの父にも話はあるよ第一ヤプールさんが悪さしたら文月ちゃんや今はいないがロコンが悲しむからな」

優実「そうなの!」

蒼龍「この前はエースさんとコンビでαさんシバいてたね」

飛龍「切断技の雨霰とグラントマスターガンダムが放つ石破天驚拳には驚きましたよ」

優奈「原因が文月ちゃんが最後に取っていたイチゴを食べたのを除けば殺伐としているけどね」

優実「どうなったの?」

蒼龍「結局全部食べれるタイプのウエディングケーキを仲良く食べてたわ」

飛龍「あれは胃もたれするわ」

優奈「壱逢のスーツ大好きなメンバー総動員して最高に美味しい材料を探したからなああの時はマジ疲れた〜特に狐式」

ミライ「凄いですね…」

優奈「腹も落ち着いたと思うからミライさんすみませんが俺と優実の二人と模擬戦してくれませんか?」

ミライ「大丈夫ですよ!!」

優奈「ありがたい、ちなみに今日の夕飯はカレーだ!!ミライさんもどうですか?」

ミライ「本当ですか!?!ならさっさと始めましょう!!」

その後、久しぶりのカレーを泣きながら食べているイケメンがいた
そうな：

くくく♪

αが熱を出した!!熱を下げるには裏山にあると言われる熱冷ま草
が必要だが森の仲間達や妖怪も知らないらしい：はたしてあるのか
!?!次回は裏山にある熱冷ま草を予定しているので気長にお待ちくだ
さい

第百銃壱航海裏山にあるはず…熱冷ま草（前編）

今回は憲兵詰所にある医務室から始めよう

憲兵β「脱水か？」

憲兵γ「さあなく」

憲兵δ「またαが筋トレしてて倒れたのか？」

憲兵αスペリオル「正確には昨日の晩から倒れているらしい」

憲兵Φ「暑い…」

憲兵Ψ「全くだ…：そーいや裏山に熱冷ま草という薬草があるらしいが知ってるか？」

???『フミイ…』

憲兵Φ「知らん、そしてあの段ボールは何だ？」

憲兵Ψ「知らんぷりしとこうや」

カサカサ

こちらは隅っこ件の段ボールがあつた中身は何だろな？

???「ねつさまそう…」

文月ちゃんだ!!

文月「くまさんに聞いてみよう」

すたすた

文月「くまさん、ねつさまそうってしらない？」

くまさん「ぐあ!?!ぐあぐあ!!」

ちようどいた優奈『熱冷ま草!?!ヤバイヤバイヤバイ!!』

文月「教えて!!」

くまさん「ぐあ…ぐあぐあ」

優奈『すまん…：場所はわからんだが以前岩魚坊主が知っていると聞いたんだが…』

※岩魚坊主は超特殊エンカウントです詳しくは文献を探すか山奥の綺麗な川で魚を釣りまくろう後、フナにも似た話があるような？やはり文献を探すか…：個人的には妖怪ではなく百物語の鴛鴦の話はキライだ…：油断すると涙腺がヤバイからな

文月「いわなぼうず?」

優奈「あれか〜山奥の綺麗な川で魚を釣りまくると急に現れ説教して釣った魚を逃がす坊主の妖怪で正体はデツカイ岩魚っていう話だ」
ヒソヒソ

くまさん「ぐあ、ぐあぐあ?」

優奈「文月ちゃんには本当のことは言えんよ」

文月「?」

※誰か岩魚坊主が幸せな文献を教えてください!!

優奈「んじや俺は帰るわ」

文月「ばいば〜い!!」

くまさん「ぐあ!!」

次の日〜朝も早くからリュックを背負って鎮守府を出ていく小さな影が一つ…

文月「いわなぼうずさんいるかな?」

文月ちゃんである!!

文月ちゃんのお部屋の机にある置き手紙にカメラを向けよう!!
置き手紙『いわなぼうずさんにあつてねつさまそうをもらいにいつてきます』

では、カメラをいい感じの枝を持って歩いていく文月ちゃんに向けてよう

文月「ふみい〜♪」

???「お嬢ちゃんそんなに楽しそうにどこ行くんだい?」

文月「ふみい!!」

???「なら、これをかしてあげよう」

文月は知らない人から釣竿と爆釣祈願のお守りを預かった!!

文月「ありがとう!!ゆうなおにいちちゃん!!」

優奈「気付かれない自信があつたのがだな…」

文月「バイバイ」

一方、文月ちゃんがないメカニック鎮守府では…

鈴木「ねつさまそう?」

長門「そうだ!!何か知らないか!!」

鈴木「何か創界山や星界山にありそうだな」

優奈「ただいま〜およ?どしたのさ?」

鈴木「文月ちゃん見てないか?」

優奈「文月ちゃんならかわいいいリュックを背負って山奥に行ったぞ」

長門「貴様!!文月を一人で行かせたのか!」

優奈「何か決意の目をしていたからな釣竿と爆釣祈願のお守りを渡しといた」

長門「なら安心だな」

鈴木「稲荷のありがた〜い守護『無いぞ』へ?」

優奈「文月ちゃんに渡したのは普通の釣竿に週刊釣りマガジン定期購読者限定『あの、フィッシュャー真鍋が愛用する爆釣祈願お守り』だからな」

く〜く〜♪

鈴木「どぞ」

憲兵β「大変だ!?αのバカが居なくなった!」

鈴長『なにいいいい!』

優奈「何かあったのか?」

憲兵β「αは昨日から原因不明の熱出しててな朝までは憲兵sが看病してたが俺以外出払ってな冷やしタオル持って行ったら消えてた」

優奈「だから熱冷ま草か」

鈴木「何処にあるんだ?」

優奈「岩魚坊主に聞いてくれ〜」

憲兵β「岩魚坊主って超低確率妖怪筆頭じゃねえか!」

優奈「ウオツチ世界なら友達召喚で来るがな」

※妖怪ウオツチ?そろそろ消えるだろ(数年後位新規ハードでリメイクか移植しそうだがな)

長門「岩魚坊主とはなんだ?」

鈴木「山奥で釣りをしていると坊主が出て来て説教し釣り人が釣った魚を逃がしついでに握り飯を食べ消えていき釣り人が釣りを再開したらどデカイ岩魚が釣れてな腹捌いたら消化されない米が出てきてさっきの坊主はどデカイ岩魚だったって話」

優奈「他にも一食の恩で洪水から村を救うが死ぬ話もあるぞ」

憲兵β「都市開発と相まって超低確率なんだよ」

長門「つまり出てきたら死ぬという訳か」

優奈「そゆこと」

一方、文月ちゃんはつてそろそろお時間です

くくくく♪

文月ちゃんは岩魚坊主を見つけることができるのか？そして憲兵

αは何処へいったのか!?次回は後編、岩魚坊主とダム開発を予定して

いるので気長にお待ちください

第百銃式航海後編、岩魚坊主とダム建設

前回のあらすじ

曙『文月ちゃん山奥に釣りに向かったって!?行きたい!!』

優奈「本編だ」

では、文月ちゃんはなんとまあ、隣の鎮守府の裏山入り口にいた
※艦これMMDをみてたら鎮守府の裏に山がありましてな…因みに瑞鶴と翔鶴と加賀さんのいた鎮守府ではありません

文月「たしかぼのぼのまっぷによると…」

ぼのぼのまっぷ『隣の鎮守府には裏山があつて上流は綺麗な小川があり噂では岩魚坊主がいるらしいわ!!』

文月「まずはきよかをもらわなきゃだめだよ!それでもだめだったらあきらめようね」

裏山入り口『この先は鎮守府の土地です許可無く入ったり夜戦したりしていたら警察につきだします最悪軍法会議にかけるので入ったらダメです』

すたすたてちてち

文月「ふみい!!」

隣の憲兵「どうしたんだい?」

文月「うらやまでつりをしたいのではありませんか?」

隣の憲兵「んく私では判断できないから司令に聞いてみるね名前は
何て言うのかな?」

文月「あたしはめかにつくちんじゅふしよぞくのふみじゅきです!!」

隣の憲兵「司令?メカニク鎮守府のふみじゅきちゃんが裏山で釣りをしたいと申してますがいかがします?」

隣の司令『メカニク鎮守府!?わかった、許可しようそうだ、曙を連れて行かせよう少し待つて貰えないか?』

隣の憲兵「許可は降りたけど危ないから曙さんと行こうね」

文月「ふみい!!」

数分後

隣の曙「クソ提督に頼まれて来たわ」

文月「ふみい!!」

隣の曙「なによコイツ」

DGB(デビルガンダムベリアロク)装備文月「あけぼのおねえちゃん!! しいいかんさんはいいひとなんだよ? くそとかいったらめっ!!」
ベリアロク『こんなチンチクリンは斬るに値しないな』

所かわり別の宇宙では…

??? 『またベリアロクさんが来てませんよ!』

??? 『ウルトラヤバイですね!』

ではもどり、裏山を文月ちゃんと全身がヌチヨヌチヨする曙がいた
※デビルガンダムのコードは人体に影響のない素材を使用しております

隣の曙「つまりあんたんとこの私の地図を見てその岩魚坊主とやらを捜しにきたのね」

文月「ふみい!!」

隣の曙「ところでこのヌチヨヌチヨは何かしら? 味はしないし匂いもないからトロミ用じゃないし…」

文月「すぎさんがゆきおねえちゃんをいじめるときにつかっているのらしいよ」

書類のコロニーを片している鈴木『知り合い直伝天然由来の奴だ』
テスト中のゆきちゃん『最近カピカピになっていたり艶々の理由はそれですか…』

隣の曙「もうすぐで着くわ」

文月「ほんと!?!」

すたすた

こちらは裏山の小川なんだが…

隣の曙「おつかしいわね」

文月「おおきなあな?」

なんとまあ、小川の水は干上がり巨大なクレーターみたいになっていた!!

隣の曙「半年前は結構あったんだけど『いたいたお〜い!!』誰!?!」

バサバサシユタ

??? 「冷えピタ?なるものを着けた寝間着姿のα殿が行きなり来て

『文月ちゃんを助けてくれ!!』って言って来たから驚いたぞ、おや?失礼、私はメカニツク君に世話になっている鴉天狗のカー吉と申す」

文月 「あるふあおにいちちゃん大丈夫なの!?!」

カー吉 「α殿はちょうど万年雪から来た雪女と産女や牝の件が看病しておるよ」

隣の曙 「雪女って妖怪じゃない!?!」

カー吉 「それがなにか?我々妖怪は昔は人を驚かしてはいたが今はSNSとやらの普及により信じる輩が減ってな静かに暮らしておるのだよ」

文月 「カーきちいわなぼうずさんしらない?」

カー吉 「岩魚坊主さん?知ってるよ確かこの池の主だけど…あれ?小川だよね?少し前は岩魚坊主や人魚が泳いでただけど…」

※人魚にも種類があります

隣の曙 「少し前って何時の話よ…」

カー吉 「江戸幕府位だなそんなときはチビツ子鴉だったからなく」

隣の曙 「かなり昔じゃない!?!」

文月 「そうだ!!」

吹雪から一応借りた携帯『カモン!!優奈!!』

腰にタオル一枚の優奈「なんだ?せっかくのんびり水風呂に入ってたんだが?」

文月 「おいけなんとかできない?」

隣の曙 「ちよつと!?!服着なさいよ!!」

カー吉 「凄い傷ですな」

優奈 「ちよつと待ってる…我流始今流…蜘蛛より蚕より綿!!」

文月 「ふみい!!」

優奈 「やっぱり学ランが落ち着くぜ」

隣の曙 「速すぎてわからないわ…」

カー吉 「超高速早着替え!?!」

優奈 「お〜い、呆けてる場合では無いぞ〜」

文月「ふみい!？」

カー吉「速い!？」

隣の曙「さっきまでそこにいたのにいつの間にか小川端にいるわ!？」

すたすたバサバサ

優奈「これを見てみ」

文月「チョロチョロのおみず…」

隣の曙「泌尿器科のcmみたいね」

カー吉「つてことは上流になにかあるのか」

優奈「みたいだな」

すたすたバサバサ

優奈「わーお、そりや流れんわな」

驚くのは無理もない!! 枝や木がダムみたいにせき止めていたのだ!!

隣の曙「さっさと破壊しましょう!!」

優奈「まてまて、このまま破壊すると下手したら鎮守府沈むぞ」

隣の曙「そうなの!？」

カー吉「水の量によりますが濁流になり土砂崩れの危険もありますね」

優奈「迂闊に技も使えんな」

文月「きれこみをいれるのは?」

優奈「パスカルの力が働き切れ込みを入れた所はすぐ破壊され水が勢いよく出て濁流になって下手すりや麓は壊滅するからメツ!!だ」

※詳しくは名探偵コナンの霧天狗回の説明を見てください大体は言いたいことが判るはずですよ

カー吉「ではどうすれば…」

???「どうなされた?」

優奈「どうやらつてあんたは一体」

???「ただの坊さんじゃよ」

隣の曙「気付けなかった…」

カー吉「あんたは…」

坊さん（しいーじやよ？カー吉）

カー吉（わあーったよ坊さん）

優奈「どーすっぺか？」

隣の曙「ねえ？お坊さんは？」

カー吉「坊さんならまた旅に出たぞ次は東海道だそうだが、坊さんが文月ちゃんに渡してくれて何か草くれた」

優奈「ギシギシか？」

隣の曙「植物図鑑ある？」

文月「ねつさまそうだ!!」

優奈「これが熱冷ま草か」

文月「かえるね!!」

優奈「待てまで、帰るのはここの提督や曙にお礼を言うのと同じく
の状況を説明してからだ」

その後、お隣の提督がカー吉を見て驚いたり裏山の拡張工事をした
りして小川を再生したりしたらしい

憲兵α？雪女に抱き付かれながら産女にあやされているのを見ら
れちよつと気まずい光景だったけど熱も下がり文月ちゃんと帰って
行きました

~~~~~♪

新しい飯屋？次回、新規開店○○カレーを予定しているのでキング  
ギドラ並に首を長く気長にお待ち下さい

## 第百銃慘航海新規開店!!○○カレー

メカニック鎮守府今回は本館と艦娘寮に程遠く崖下温泉&天然サウナが近い建物の前で立っている比叡から話を始めよう!!

比叡「私のお店『比叡カレー』が出来ました!!毎日繁盛間違い無しです!!」

数日後くこちらは書類のラビアンローズを片している鈴木がいた後、燃え尽きた淀さん

鈴木「真面目にやるからそうなるんだよ〜つとコイツは落書き用だな」

淀さん「ですが…」

鈴木「大本营以外はメカニックメカ寄越せだから落書きくお、淀さん明日飯食いいかない?」

淀さん「いきなりどうしたのですか?」

鈴木「比叡からの陳情が来てた」

陳情『ひえええ!!客が来ないので助けて下さい!!』

淀さん「まあ、明日は何もないからいいです『あれれ〜明日は私と飲む約束してたよね?』明石!」

明石「提督はい、グリフィーとトレインのシステム改善案と近海調査の報告書です」

鈴木「書類は感謝するよん〜なら明石ちゃんもくる?」

明石「提督の奢り?」

鈴木「無論」

明石「カモン!!青葉!!」

天井裏にいた青葉「聴きました〜♪皆さんに通達しますね〜」

鈴木「汚い：流石明石：汚い」

明石「褒め言葉として受けとりますよでも来たとして、淀や私それと罰ゲームの人ですよ?」

次の日の朝く掲示板前ガヤガヤガヤガヤ

掲示板『青葉超緊急号外!!提督が最近出来た比叡カレーに大淀さんと明石さんを連れ込み食後『閲覧規制』するという情報を入手しまし

た!!私、青葉は提督の魔の手から二人を護りたいけど一人では無理です!!誰か力を貸して下さい!!尚戦艦か空母が望ましいです』

掲示板前の山城改「不幸だわ…」

いつの間にならっていた扶桑改二「大丈夫?山城」

赤城「金曜日なら行つてたわ」

加賀「金曜日なら行つてるわ」

では時は吹き飛んで仕事おわり鈴木と絶望した淀さんとワクワクしている明石と青葉がいた

鈴木「ほんじやまかいこか?」

明石「ゴチになります!!」

???「私が来た!!」

鈴木「ビスマルクか…」

ビスマルク「たとえばadmiralでも明石や淀を如何わしい目に合わせるわけにはいかない!!」

???「私もいますよ」

青葉「ウォースパイトさん!」

ウォースパイト「私を置いていかないでよ」

ビスマルク「すまん…ではいざ行かん!!」

すたすたガタガタ

こちらは比叡カレー前

鈴木「五人大丈夫?」

比叡「嫌みですか?」

明石「うひゃくガラガラ」

大淀「やっぱりメシマズが独り歩きしてますね」

ビスマルク「カレーを大盛でちょうだい!!」

ウォースパイト「カレー1つ」

なぜかいる狐式「カレー1つトッピングは左から全部!!それとくお金はないよ!!」

比叡「無銭飲食!」

『ひっちゅ〜ひっさつ』と書かれたエプロン装備の優奈「商売繁盛の御守りいる?」

鈴木「今日はこっちか？」

優奈「知り合いのライブ前の暇潰しさ」

鈴木「どんな知り合いだよ」

優奈「お前に会う三ヶ月前くらいに知り合って今は逆境アイドル60ミニッツのボーカルしているんだ」

鈴木「現役アイドルかよ!?サインよろ」

優奈「へいへい」

比叡「おまち!!カレー4つとカレーの大盛とエビ天カツ&チキンチーズキムチ納豆パクチーカレーです!!味に不満があつたら備え付けの福神漬けやらつきようとソースをお使いください」

優奈「キムチは自家製?」

比叡「はい!!駆逐艦の子も大丈夫なよう辛さを控えていますよ」

狐式「パクチー嫌い:」

優奈「カレーのスパイスにパクチーって無かったか?」

鈴木「別名で入っているはずだが:はて?」

ビスマルク「コレステロール見たいな名前だったような?」

狐式『『稲荷家訓:出された食事は例えメシマズでも完食すべし:』でもやつぱりパクチー嫌い:』

優奈「確か道行く人に聞いたパクチーは好きか嫌いかによると約半々らしいぞ」

※実際に統計とらんとわからんなちなみに作者はパクチーは嫌いというよりまだ食べてません

ウォースパイト「コーラにも入っていますよ?」

狐式「パクチーまじゆいけどご馳走さま」

比叡「おかわりありますよ?」

狐式「普通のカレーでいいです」

優奈「そーいやカレーが来てから一言も喋ってないが青葉ちゃん大丈夫?」

青葉「大丈夫ですよ!?美味すぎて新聞の一面にしようと考えているだけです!!」

比叡「本当ですか!?ミライさん:私やりましたよ!!」

大淀「何故人がいないのか謎レベルですね」

明石「可能性としたら皆の舌が肥えているのがありますね」

全員『あくありえる』

優奈「ちよつと物足りないな…比叡ちゃんカレーそば」

比叡「かしこまりました!!」

夜は更けて行く…

次の日こちらは掲示板前へ

掲示板『青葉新聞!!最近出来た比叡カレーに行つて来ました!!味は間宮さん達には頭一つ劣りますがトッピングもできおいしかったです!!ここで青葉極秘情報です、比叡カレーに行った時『青葉新聞を見た』と言うとな、なんと!!足柄さんと龍田さん観衆のカツと竜田揚げをおまけしてくれる模様!!期限は一週間だそうです』

赤城「加賀さん!!行きましよう!!」

加賀「ごめんなさい今日は可愛い妹がお弁当を作ってくれたの…」

妹瑞鶴「ごめんなさい赤城さん…」

ようやく完治した飛龍「師匠に勝てるかな?」

付き添いの蒼龍「バケモンだしわからない」

黒蒼龍『優奈さんって結局何者なの?』

その後細々とだが比叡カレーは繁盛したまに間宮さんのカレーを食べながら新しいカレーを作りとうとう全鎮守府杯比叡カレー選手権で長い間優勝したのは言うまでもない…

~~~~~♪

そういや増えたよな?今回は渚のキャラ紹介を予定しているので
気長にお待ち下さい

第百銃肆航海渚のキャラ紹介

今回もぎつくりテケトーにいくよ

ビスマルク、とうとう来たドイツの子、ガンビーが来て次の日位に来た模様何故か暁と意気投合し長門と熾烈なお姉ちゃん戦をたまに繰り広げているが最終的にはじゃんけんをしている

ウオースパイト、またまた登場外国のパツキン、前の鎮守府では見せしめで脚の腱を切られ歩けなくなったがメデイカル相川とドクター相模の緊急オペによりリハビリ中だがいつの日にか歩けるようになるだろう今はローラー付きの椅子で移動している

ぼのぼのマップ、曙が持つ釣りのできる場所が書かれた地図、伝承やヌシがいる場所も書かれているがいかんせん都市開発やダム建設、ソーラーパネル設置によりだいぶ少なくなっている

大鳳、ぶつこわれ劇場からの参戦!! 前の鎮守府では提督がロリコン予備軍だったので無理矢理メカニックに配属された今は瑞鳳、RJとトリオを組目標瑞鶴を目指している

軽巡凄姫、ある日突然メカニック鎮守府近くに現れ約一週間無敗を誇っていたが不完全明鏡止水の飛龍と蒼龍の最破碎斬に破れ気絶した二人をメカニック鎮守府まで運び砕け散り海の藻屑になろうとしていたが大部分を明石に回収されメカニックラボの奥深くで艦娘五十鈴として蘇った

五十鈴、上記の姫が生まれ変わった姿であり何故かは知らんが五十鈴の魂と半々らしく基本は五十鈴で飛龍や蒼龍と模擬戦をするときは姫に代わるらしい

燭台切光忠、ある日突然天龍の武器近くから現れたイケメン!! 元は蛙野の知り合いならぬ知り刀らしいが別次元から帰還中にメカニックこれくしょん次元に来たらしく仲間の心配をしながら買い物値切り交渉や今日の料理を見つつ過ごしたり優奈さんと模擬戦をしている

謎の老人、飛龍と蒼龍が出会ったいかにも怪しい修行僧の老人、格闘技術は優奈より上で正体はゼロ経由で優奈さんに頼まれたウルト

ラマンレオであり手加減していたとはいえ飛龍の足をへし折り蒼龍をドジっ子メイドにしようとしていたが拳を振るう意味を知った飛龍を認めているウルトラマンレオの説明？ウルトラマンレオ、メビウス、ウルトラ銀河伝説、サーガ、ビクトリーファイト、ゼロのサイドストーリーを見よう!!特にレオは暗い話ばかりだから覚悟するように

モフモフタオル&しやしきしやしきハチマキ、優奈がダブルドラゴンに与えたタオルとハチマキ、モフモフタオルは改造学ランにも使われている素材で出来ており吸水性と撥水性、速乾に優れておりハチマキは千切れないし破れない機能がついている

熱冷ま草、むかくし昔、とある国の姫が謎の高熱に魘されておったそうな：ある時家臣の夢に謎の老人が現れ草を渡し『これを煎じ飲めば熱はさがる』と言われ目覚めたら枕元にその草があり飲ませたら熱は下がりその草を熱冷ま草と名付けたそうな：民間伝承失われし薬草より抜粋

隣の提督&憲兵&曙、特筆する気は無いが一応、隣といってもかなり離れた鎮守府でありメカニック鎮守府の名を聞いても驚く位の提督とモヒカンヒヤツハーだが優しい憲兵と何故か帰って来た時には全身ぬちよぬちよしていた曙がいるが曙については自業自得である

データロード、なりたいたい奴になりきる技だがかなりの疲労が襲いかなり自己回復力、消化器官系も著しく下がるが使い勝手が良すぎるのが欠点である

妖怪達、メカニック鎮守府の裏山にいる妖怪達たまにだが万年雪の雪女や裏山奥から産女がやってくる優しい奴らです

黒蒼龍、蒼龍のうちなる人格であり蒼龍の良き理解者にして組手相手、バカみたいな回復力を当てにさせたりパワー系の業を教えている
ヒビノミライ、優奈から頼まれたゼロ経由でゼットからレオ経由で頼まれた青年その実態はウルトラマンメビウスでありメカニック鎮守府に来たら必ずカレーを食べて帰るようです詳しい説明？ウルトラマンメビウスやウルトラ銀河伝説、ゴーストリバース、ギャラファイを見よう

スーパー深海、メカニック鎮守府と喫茶店YARRANAIKA鎮守府前の丁度中間にあるスーパー、五郎じいさんの野菜と夕級店長自ら赴いて元帥から貰った許可証のある魚介類を販売している

敷波、スーパー深海で働く隠れ艦娘の1人野菜売り場担当で旬の野菜で作る料理のレシピやアレンジを紹介している

レ級、スーパー深海で働く夕級店長の元部下魚介類の目利きが凄く市場の競りに参加したり自分で採ってきたりしているいつぞやの紹介で言ったマグロとサメの解体ショーは彼女発案である

涼風のギャンブル茶漬、鳳翔食堂で憲兵βしか頼まない悲しきメニュー週替わりで違う茶漬が出てくるのだがギャンブルと付けたせいか皆警戒している

憲兵β「一番のハズレはチョコレート茶漬けだなバカ見たいな味だししかもブラックチョコレートに甘茶だからな」

涼風「今は普通の茶漬けだからな!!ちなみに今週は鯉茶漬けだ!!」
ハネジロー、アスカの友達で別名迷子珍獣ファビュラス星人の崇める神で神聖なる神らしいがアスカ曰く神聖な奴に見えるか?らしいが知能は小学二年生位あり個人サイトを開設する位の能力がありスーパーガッツのマスコットの存在でありダイナのピンチを幾度となく救っていた

ガッツイーグルアルファスペリオル、アスカが乗る戦闘機でありガッツイーグルアルファ号の強化発展機グランスフィアとの最終決戦時に破壊された筈だが何故かブラックホール内ではいたので偶然破壊を免れたのかも知れない後にネオスーパーガッツの訓練機となっている

ゆき(未来)、ゆきちゃんの至って普通に過ぎし鈴木と結婚した未来の姿でゆかのほかにもう1人子供がいるがこの時空の鈴木はゆかしありません理由?名前考えるのがダルいしキャラ付けがめんとい!!

比叡カレー、比叡がメカニック鎮守府と崖下温泉と最近見つかった洞窟サウナの丁度中間に建てたカレー屋始めは閑古鳥すら鳴かぬ程寂れていたが青葉新聞の効果かわからないが少しずつ客が増えていき不定期だが金曜日は店を休み間宮さんのカレーを食べて味の研究

をしている

水風呂、たまに召喚された時に優奈が入っている風呂なんだけど：わざわざ氷風呂にしたりかき氷を食べたりしているちなみに腰にタオルを巻いとかないと召喚された時に困るらしい

~~~~~♪

なぞなぞねえ？次回、なぞがなぞ呼ぶなぞのなぞを予定しているので気長にお待ち下さい

おっと失礼お一人忘れていました

阿武隈、大鳳と同じくぶっこわれ劇場からの参戦、YARRANI KAと鎮守府の中間でガンビーに捕獲されたらしいがいつも名前を書き間違えられるのが悩みらしく名札を付けているがやっぱ間違われる模様

阿武隈『あぶくまの漢字書けます？』

鈴木『危球磨』

阿武隈『違います!!』

優奈『虻熊』

阿武隈『だから違います!!』

## 第百銃伍航海などがなぞ呼ぶなぞのなぞ

今回はメカニック鎮守府ではなくとある料理屋から話を始めよう  
料理屋の名は『ハルサメ専門春雨飯店』と書かれていた

ハルサメ「はい、ハルサメの麻婆春雨です!!」

お客「ありがとね」

???「春ちゃん、春雨ランチご飯大盛!!」

ハルサメ「かしこまりました!!」

???「こっちは日替わり春雨ご飯山盛り!!」

ハルサメ「少々お待ち下さい!!」

???「こしきちゃんスペシャル!!」

???「こしきちゃんスペシャル入りました!!ってこしきちゃんスペシャル!」

ハルサメ「これじゃ回らない…誰か助けてー!!」

その時である!!

???『カモン!!クツキング田中&チャイニーズ石井!!』

クツキング田中「えれくいるな手伝うぞー!」

チャイニーズ石井「厨房は任せな!!」

カチャカチャジュウジュウでけたよ

チャイニーズ石井「三番、五番、バカ狐完了!!さっさと行きやがれ!!」

???『イエッサー!!』

クツキング田中「すごい式神捌きだな」

チャイニーズ石井「田中サボるな!!四番オーダー何!」

数分後

クツキング田中「あんなにいたのががらんどろろ」

噛み跡だらけのチャイニーズ石井「そりや俺がいたからだろ?」

???「商売半盛の効果だよ!!」

???「狐ちゃんそれは違うとおもうよ?」

ハルサメ「時雨姉さん!」

時雨「近くを通っていたら聞き覚えのある声がしてね春雨…元気

だったかい…」

ハルサメ↓春雨「おかげさままでねあの時姉さんが逃がしてくれなかったら私はここに居ませんよ」

時雨「雨の中真っ裸で犬小屋前土下座したかいがあったかな？」

春雨「酷い…」

時雨「今は大丈夫だけどね…」

まだいるチャイニーズ石井「メカニックの坊主なら安心だな!!」

同じくクツキング田中「知らないのか？アイツ未亡人とオロシーのCMに出てそうな子とゆきちゃんと『閲覧規制』してるぞ」

狐ちゃん「父上が言っただけどこの前ゆきお姉ちゃんにパウリングル着けて『ご褒美下さい』って言うまでお預けって遊びしてたらしいよ!!わたしなら死んじゃうね!!」

時雨「あくかがさんについてる奴ね」

鎮守府のかがさん『くくん…』

パウリングルEX『もう…あきらめたよ…』

クツキング田中「ほれ、0円春雨と春雨米だ」

春雨「なんか作ってた!？」

チャイニーズ石井「気にするな…田中はたまにテレビの影響をうけるんだ…」

時雨「そういえば夕立もそういうのあったねまあ、僕もだけど…来て…ときあめ座の聖衣…」

ときあめ座の聖衣『呼びましたか?』

時雨「春雨、僕の相棒のときあめ座の聖衣だよ長いからトツキーや聖衣でも大丈夫なはずだよ？トツキー、彼女は春雨僕の妹さ」

ときあめ座の聖衣『どうも、ときあめ座の聖衣です』

クツキング田中「自立型か?」

時雨「ううん、提督曰く脳波測定と防水、防塩機能に超低質AIを入れたらしいよ」

春雨「凄いですね」

チャイニーズ石井「狐ちゃんが持っている携帯もメカニック印だからな」

狐ちゃん「父上が『最近危ないから持つように』って渡してきたけど何かあったのかな？」

時雨「さあ？」

どこかにいる父上『さみ〜次の世界は氷かよ!!こりやスカイファイヤーいそう』

では戻ろう

時雨「そういえばお二人はいつ戻るんだい？」

チャイキング『わからん!!』

狐ちゃん「美味しいご飯のお礼に私が送るよ」

クツキング田中「今度満貫全席だな…」

チャイニーズ石井「仲間集めるか…」

その後料理人二人が軽度の腱鞘炎になったのは言うまでもない

くくく♪

何故狐ちゃんがいたのか？次回、狐式ちゃんinメカニックcorrectionを年明け辺りに予定しているので気長にお待ち下さい  
いそして皆様良いお年を〜

百銃陸航海狐式ちゃん in メカニック correction

メカニック鎮守府ではなく鎮守府と駅前を超激戦区入り口通称食  
べ道楽前にいる狐耳と尻尾を着けた巫女服幼女と敵ついおじさんか  
ら話を始めよう

??? 「今日は感謝デーで大食い大会もやるんだって!!おじさん」

おじさん 「嬢ちゃん1日で回れるかい?」

嬢ちゃん 「余裕!!」

おじさん 「まあいい行こうか」  
すたすた

嬢ちゃん 「たのもー!!」

おじさん 「しよっぱなこつてり系か…もたれそうだな…」

ポスター 『お客様感謝の大食いチャレンジ!!三キロの超超濃厚豚骨  
ラーメンを10分以内に完食出来たら商店街やメカニック鎮守府と  
スーパ―深海でも使える割引券を進呈!!但し失敗したら二千円札で  
お支払と閉店まで皿洗いをしてもらいます』

嬢ちゃん 「超超濃厚豚骨ラーメンと餃子とご飯大盛!!」

おじさん 「醤油ラーメンのレディースとご飯普通を頼む」

店員 「かしこまりましたー」

客 「超超濃厚豚骨だって!」

客二 「超濃厚豚骨はこの前制覇されたからって店主が自棄を起こし  
たのか!」

客三 「どつかで見たような…?」

※客三私も騒乱記で君を見たような気がするよ

嬢ちゃん 「おじさんありがとね」

おじさん 「店長が休めって煩かっただけだ」

おじさんの働いている店の店長 『労基がカチ込みかますからね』

店員 「醤油レディースとライスおまち!!餃子とライス大盛と超超濃  
厚豚骨は少々おまち下さい」

おじさん「そーいや三角の坊主に聞きそびれていたが嬢ちゃんどこなんだ？」

嬢ちゃん「んとね、父上が言うには『極めて近く限りなく遠い世界』だつて」

おじさん「わからん!!だが飯は共通なんだな…昔組に入った頃今は組頭の兄貴と食べたラーメン屋の味と変わらん…あの店長元気だったかな…」

嬢ちゃん「その店長なら元気だと思うよ？」

おじさん「嘘でもありがたいな…」

嬢ちゃん「むく!!そのお店つて『拉麺男キャメル・クラッチ&フライングレッグラリアート』だよね？」

おじさん「正確には拉麺漢だ何でも店長は昔アイドル超人の大ファンだったらしい」

嬢ちゃん「プロレスならたまに父上とお母さんがしてるよ？」

おじさん「嬢ちゃん？それは違うぞ」

店員「お待たせしましたー!!超濃厚豚骨ラーメンに餃子とライス大盛!!それじゃスタート!!」

嬢ちゃん「いったきまぐす!!」

おじさん「初めて見るがすごい食いつぱりだな…」

嬢ちゃん「んくなんか味が変…煮干し？椎茸？昆布？」

おじさん「年寄りにはいいがな」

嬢ちゃん「わかった!!もみじだ!!」ガツガツガツ

???'「すげえな!!うちの隠し味を見つけるとはな!!」

嬢ちゃん「ごちそうさまでした!!ちよつと味が分離してたよ？煮詰めたが甘いね!!でもおいしかった!!」

店員「店長!?記録更新してますよ!!」

店長「そうか!!ならクーポンを進呈しないとな!!それとお嬢ちゃんの写真も撮らんな名前はなんだい？」

嬢ちゃん「稲荷狐式!!」

店長「稲荷ちゃんねお連れ様はお父さんかな？」

狐式「違うよ、おじさんはおじさん!!」



おじさん「あゝ、ちよつと訳アリでな…」

店長「まさか誘拐!？」

おじさん「違う!!あゝ儂は元半社的な奴でな…嬢ちゃんは儂の監視員なんだよ」

店長「そうなんですけどね!!てつきり誘拐犯かと」

狐式「おじさんはいい人だよ?父上も『ヤーさんには惜しい人だな…』って言ってたもん!!」

おじさん「ウチの組はカタギには手を出さないをモットーにしているからな儂はあの時は焦っていたからな里中刑事に聞くまでまさか特殊詐欺の斡旋をしていたとは知らなかったからな」

狐式「おじさんは悪くないよ!!ちよつと渡世?を読むのが下手なおじさんだよ!!」

おじさん「泣きたい…」

店長「そうだった!?稲荷ちゃん写真撮るねゝはいチーズ」

狐式「きゅ!!」

後にそのラーメン屋に保健所が入るのは未来の話…

かなり巻き行くぞ

店員「DXあんみつ&超甘々善財完食!？」

おじさん「たい焼き旨いな…」

狐式「きゅく!!」

おじさん「坊主から聞いていたが凄いな魔法って奴は…」

店員「超濃厚ソース焼きそば完食!!」

おじさん「たこ焼き旨いなこりや飽きも来ないし繁盛するわけだ」

※おじさんのキャラブレツブレだつて?気にするな!!

狐式「最後のお店だよ!!」

おじさん「春雨専門店?嬢ちゃんあつちのステーキ屋にしないか?」

狐式「ステーキ!?…いや!!今日は春雨なの!!」

ポスター『春雨特製麻婆春雨(本場より20倍の辛さ)を完食できたらお店の料理全品無料ただし食べれなかったりシェアしたりしたら閉店するまで無償で皿洗いです仕事?辞めてくださいね♪』

そして前回へ…



とうとう恐れていたことが…次回、初めての遠征という名のお使いを予定しているので気長にお待ち下さい

## 第百拾七航海遠征という名のお使い

メカニツク鎮守府の売店から話を始めよう

鈴木「明石ちゃん6番ネジある？」

明石「売り切れてまして昨日頼んどきましたよ」

鳳翔「あら？万能油が無いわ？」

明石「あくメカ達が買い占めましてね今発注してる所なんですよ」

鈴木「女将さんも使うんですね」

鳳翔「毎日たつつくさん料理を作りますからね」

壱逢世界の狐式『鳳翔お姉さんのご飯美味しいからいっぱい食べちやうんだよ!!』

詰所の憲兵α『女将さんの料理は最高だからな』

大和さんの手伝いをしているガイ『たまの贅沢にな…』

大和『ガイさん!!ビー玉入れ忘れてますよ!!』

では戻ろうと思ったが鳳翔食堂にカメラを向けようと思つたがやはり執務室にカメラを向けよう!!執務室には鈴木と倍近く白くなつて椅子に座っている淀さんと暁、響、雷、電がいた

鈴木「君達に頼みたいことがある!!」

暁「とうとう暁達が活躍するときが来たのね!!」

鈴木「違うけど？」

響「なんで呼んだんだい？」

鈴木「来月淀さんに着せる服をクリーニンング屋から引き取るついでにスーパー深海の特売海域に行つて貰いたいそれとかがさんの散歩もな」

雷「目的が逆じゃないかしら？」

電「なのです」

鈴木「特売には歴戦の猛者しかいないからなもし買えなかつたら俺の夕飯は白米一杯と海苔二枚だ」

鈴木以外『そんなに困窮してるの!?!』

白淀「いえ提督はさつき鳳翔さんを怒らせて『今日は食堂となつちやんとアツチでは食べないで下さいね』と言ってましてそれが食い

しん坊ズの艦LINEで回ってしまい鳳翔食堂には赤城さん、食堂にはダブルドラゴン、比叡カレーには加賀さん、瑞鶴さん、瑞鳳さん、足柄さん、なつちゃんには飲んべえズと翔鶴さんが貸し切りまして…」

鈴木「つてな訳でいつてら〜」

白淀「そういえば提督来月私に何を着せるんですか?」

鈴木「亓逢で知り合いになった怪しい露天商の李さんから貰ったチャイナ服だ本当はゆきちゃんに着せたかったんだがサイズがな…そんなでもて余してたら淀さんが目視だがピッタリっぽいからな」

工廠の明石『淀は着痩せするタイプですよ』

工廠横にいる多摩『クロタマ曰くボボンキュキュにや…』

ではお使い組にカメラを向けよう

響「鳳翔さんを怒らせるって何をしたんだらうね?」

暁「どうせくだらないことね!!」

執務室のメカニック鈴木『流石に食堂でしちやいかな…』

電「なのです!!」

やすいよやすいよ

響「ここはどこなんだい?」

電「知らない場所なのです…」

暁「どこかで見たような?」

???「ふひ?」

暁「優奈さん!」

コロツケにかじりついている優奈「はふはふよう、お使いか?」

暁「ええ、司令官の夕飯を買わなきゃいけないの」

優奈「何しでかしたんだか、この時間ならストレンジが安いなどするよ?」

暁「連れてつてくれない?」

優奈「了解つとついでにもにゅもにゅ優希?ちよつと帰り遅くなるって母さんに言つといて」

優希『うん!!』

すたすた

こちらストレンジの惣菜売場

優奈「あいつならきんぴらごぼうや唐揚げだな」

雷「あのお刺身あの量普通ならお札レベルよ…」

優奈「安いなしかも都合よく○パック○○円の奴だサイレント広告したな…」

???「んな分けないだろコイツは俺が持ち込んだ奴だ」

優奈「なんだ青龍さんが持ち込んだ奴ね」

青龍「俺はフィッシャー青龍（あおたつ）、釣りが趣味の若者さついでに肉屋と牛乳屋がサイレント広告してたぞ後優子さんと興梠さん所の倅が大量買いつけたがなんかあんのか？」

優奈「いい情報ありがとよ母さんはわからないが和真は明日から連休だしブイヤベースでもつくるんじゃないかね？」

暁「お金足りる？」↑お菓子のみ

響「ギリギリ足りるかな？」↑酒瓶のみ

電「こっちは買えないのです…」↑アイスやジュース

雷「後は〜サラダ用の野菜とドレッシングね」↑唐揚げ、魚の柵、きんぴらごぼう、簡単なサラダ用の野菜のみ

優奈「おつ、コイツは珍しい産地の鱧と鯨だな蛙野のところに持つてくか」

稻荷の蛙野『個人的には目黒の秋刀魚が好きじゃな』

稻荷の優狐『私は遠い国で食べたキングの名がついた鮭ですね』

蛙野『ほう、あやつか懐かしいのう近いうちにカラクリの器械を使うかのあの釣りキチのことじゃ老いてなお健在だろうな』

※蛙野さんの場合はいつの間にか迷いこんでいつの間にか帰ってくるだからなくby壺逢騒乱記キャラクターファイルより抜粋

では戻り響以外なんとか買えたようです

優奈「仕方ないさ」

響「普通に買えるのに…」

???「あれ〜優奈さんが小学校低学年位の子といるよ!!」

???「警察呼ぶ？」

優奈「まてまて、麻美と薫こいつらはメカニツクの部下だ」

麻美「メカニツク君っていま何してんの？」

薫「聞いた話じやトドみたいな生活しながらゆきちゃんをパシッてるって話だよ!!」

暁「トド?」

電「トドさんは群れで生活していて繁殖期には雄1に対して残りは雌らしいのです」

雷「電…詳しいのね」

電「ゆきさんがAVで見せてくれたのです!!」

暁「え、AV!？」

優奈「あくあれな」

雷「電にはまだ早いわ!!」

電「え?かわいいのに…」

響「うちには憲兵さんもいるからトドじゃないけどね」

暁「そういえばさつきからちよくちよく雷はいなかったけど何処にいたの?」

雷「八百屋さんと魚屋さんを手伝ってたのよそれとみてみてジャーン!!新鮮な野菜と魚!!」

しれっといた青龍「かなりいい魚だな!!嬢ちゃん目利きあるんじゃないか?」

雷「そうかしら?」

青龍「じゃ俺もとっておきをやるか!!」

電「デツカイ烏賊なのです」

青龍「ダチがくれたんだが俺一人だしな腐らせるわけにもいかないからやるよ」

雷「ダメよ!!貴方の分が無いわ」

青龍「まだクーラーボックスに沢山あるから大丈夫だ」

クーラーボックス『何かの切り身やバラムツの切り身に小ぶりなアニコウにサメヒレにタコにカサゴに烏賊と豊富ですぜ』

優奈「この場合お仕置きの意味を込めてバラムツじゃね?」

青龍「バラムツはあれだ知り合いにやらんといかんからダメだ」

優奈「赤にか?」

青龍「そ、アカになあいつのお仕置きさ」

赤鳥（せきちょう）『やつほ〜♪』

優奈「今回やらかし過ぎじゃないかな〜」

その後何かバラムツの切り身が三切れ混ざっていてメカニックがしばらくムー〇ーマンを使うはめになったそうなの

〜〜〜♪

不幸だわ：次回は扶桑と山城と憲兵Φと時々洞窟サウナを予定しているのでキングギドラ並に気長にお待ち下さい

## 第百銃蜂航海艦LINEその2

草木生い茂る裏山から話を始めよう

??? 「お腹すいた〜しかもまだ釣れないし…今日は夕飯無しかな…」  
曙である!!

♪ 曙 「艦LINEだわ」

艦LINE 『鳳翔食堂、今日の日替わり夕飯はゴーヤチャンプルー  
定食です』

♪ さざざざ 『k t k r!!』

♪ クラブ 『美味しそう』

♪ なつちゃん 『最近バテバテだからな行かせてもらう』

♪ ヒエー 『夏野菜カレーもありますよ!!後、シチューも始めました!!』

♪ ア・バオア・クー 『シチューの取材大丈夫ですか?』

♪ ヒエー 『お願いします!!』

♪ フ 『ワレワレモテヲカソウ!!チクサンノサクラバアサントコロノ  
ギユウニユウヲテイキョウシヨウ』

♪ メカニツク 『淀さんがまた白淀になったので明日から来週まで淀さ  
んは休みです』

曙 「いいなく!!ってか何で五郎さん所のヲ級さんがいるの!？」

五郎さん所の畑にいる文月 『ふみい!!』

引率の山城改 『大本営に近い所の畑だから結構塩害が酷そうね…』

??? 「釣れましたか?」



曙「全然、あく何でこんな日選んだかしらね〜」

???「帰りますか？」

曙「冗談!!このままおめおめ帰ったらゴーヤに『ヌシも釣れないのに釣りキチを名乗る資格はないでち』やらクソ提督に『今後釣りは禁止だ!!もし破ったら釣竿を焼くよ』とか言われるわってかさつきから誰よ!!」

???「私?私は風門時冬希です何でかはしりませんが大方鈴木さんがやらかしたんでしょう」

曙「私は曙よ」

冬希「よろしくね曙ちゃん」

ドガアアアアン!!

???「んだ?天下の風紀委員様じゃん後、誰?」

冬希「楓さん!!あまりボカス力落ちないで下さい!!絶景がクレターだらけになります!!」

楓?「最高神に言え!!後俺はハルだ!!」

※以下略詳しくはチラシ裏だ!!

曙「また増えた…」

はる「で、ここどこだ?さつさと帰って和真の絶品!!茶碗蒸し食わないといけないんだが…」

冬希「メカニックさんのいる世界みたいです」

はる「ここがトドの世界か!!つてことは釣竿持っている奴は鈴木 of 『閲覧規制』だな!!」

曙「誰がクソ提督の『閲覧規制』ですつて!!冗談じゃないわ!!」

はる「鈴木は気の強い子が好きだからなく」

冬希「そうですね?」

はる「ああ見えてゆきは強いぞ〜戦闘力は俺より上だまあロリっ子状態なら最弱だがな」

※壱逢軍団の強さ的に化け物が優奈(ぶちギレ)で最弱はゆきちちゃん(ロリっ子)だ

執務室にいる鈴木『びやくしよい!!』

では戻り結局曙は帰ったようす

曙「ただいま…」

ゴーヤ「釣れたでちか？」

曙「二人程ね」

冬希「どうも」

曙に吊るされているバニーはる「にゃくお♪」

ゴーヤ「誰!？」

鈴木「よく」

冬希「鈴木さん吉逢に帰して下さい後、出席日数ギリギリです」

鈴木「次元転移機がご機嫌ナナメなんよやっぱりこの前ゆきちゃん  
と『閲覧規制』しててそんなときにゆきちゃんの『閲覧規制』がかかっ  
たのが不味かったかな？」

はる↓楓「鈴木さん!!何してるんですか!!後、はる!!」

精神世界のはる『にげこらさっさく』

冬希「いつ見ても多重人格なのが信じれませんね」

楓「そういえば今日携帯無いんだった…」

てこてこてこ

文月「ふみい!!」

楓「ありがとう…これ優奈さんの携帯じゃないですか!!」

???「よくペツタンと風紀委員様じゃん百合咲かせに来たか？」

楓「違いますって優奈さん!？」

フリフリエプロン装備の???「やあ!!私はサイバトロンの司令官コン

ボイだ君の知る素敵でダンディーな優奈君ではないぞ」

楓「普通マスクしますよね!?!堂々過ぎです!!」

優奈「だなくでどしたのさ? 因みにおすすめはシェアもできるパン  
ケーキだ」

冬希「パンケーキ買って…まさか…」

天まで行くかわからないパンケーキを食べている赤城「おいしいで  
す」

ゴーヤチャンプルー定食を食べている瑞鶴「ほへへ」

豚汁定食を食べている最上「これって『ぶたじる』か『とんじる』か  
呼び方が分かれるよね」

本日の焼き魚定食を食べている伊勢「芋煮のベースと同じじゃないかな？ そうだよね日向？」

食後のお茶をのんびり飲んでる日向「なぜ私にふる私はわからんかな」

※この話題は目玉焼きに何をかけるのかや起動戦士最強は何や光の巨人最強は何や仮面の騎手最強は誰やアニメ最強は誰に発展しそうでからやめだ!!

優奈「賄いのくミニ狐式ちゃん定食♪」

加賀「賄いのレベルを越えてますね」

優奈「こいつは鳳翔食堂の余り（普通なら大丈夫な部位）や間宮さん所の端材（普通なら以下同文）になっちゃん所の酒粕で作った粕汁や比叡のカレーだからな」

加賀「なっちゃんに酒粕はないはずです」

優奈「何でも酒作りをユウグの所で始めたみたいでな結構出来はいらしいぞ」

※異世界ウイグと艦これ世界では流れが違うので艦これ世界の1日がウイグでは3年です

加賀「ユウグさんの所は常夏じゃなかったの？」

優奈「魔王さん所の四天王に極寒（ごっさむ）のムターっていう奴がいてな適正温度にしてくれてるだ」と

赤城「艦LINE？」

ア・バオア・クー『青葉webです!!比叡カレーから新作比叡シチューが出ました!!鳳翔さん監修のため味は大変素晴らしくリピート間違いなしです!!ここで耳寄り情報!!比叡カレーで青葉webを見たと言えればカレーのトップピングが最大二個付きます期限は今日から1週間です!!』

磯辺揚げ『師匠の新作味あわねば!!』

♪ 100万石『くうくん』

♪ レッドフォレスト 『最近の音声システムはすごいな〜』

♪ α 『オークラさん荷物が来ているよ文月ちゃんが見ようとしているからさっさと来てくれ!!じゃないと中身を言うからな』

♪ オークラ 『それは辞めて!?今度こそ地面の中になっちゃう!』

♪ ホワイトスノー 『コピックまだですか〜?』

♪ B F 『ガンダムマーカールならあるわ』

♪ 園長 『何で名前変更出来ないんだよ!!』

♪ 竜田揚げ 『イメージかしらね〜』

♪ 優奈 『そこんどこどうよ?鈴木』

ウナカツ牛カレー丼を食べている鈴木「普通に変更できるが天龍のは龍田さんがパス知ってるぞだが簡単に教えてくれるかはわからん」  
その後龍田さんによる天龍の着せ替えシヨールが行われていたとかないとか…冬希ちゃんとペツタンメープル?優奈君が普通に帰したよ

~~~~~♪

白淀になった淀さんは壱逢にいた次回、白淀さんのお散歩を予定しているので気長にお待ち下さい

第百十九航海淀さんの散歩

前回白淀さんになった大淀は壺逢で休暇を満喫しようとしていた……ような気がする

大淀「仕事が…」

付き添いの優奈「今は羽を休めないかんよ」

大淀「ですが…」

優奈「ほれ、肉屋のコロッケ美味いぞなんたってあの鳳翔さんがりピーターになる位だからな」

※普通のコロッケです

大淀「もがっ」

一方、鎮守府では書類のアクシズを片す鈴木と何かメカメカしい淀さんがいた

鈴木「メカ淀さんだと書類仕事が楽だな」

メカ淀さん「スウチチガイマスコレデハユキチャンニ『ザーコザーコタネナシ♪ダカラユカシカコドモイナイノヨ』トイワレマスヨ」

鈴木「それは困るなってか未来はわからないのだが…」

では戻り此方は穴場喫茶店にブラック片手に淀さんにからむペチペチがいた

ペチペチ「最近（*、□、）が構ってくれないんだよ!!」

淀さん「仕事が忙しいのでは？」

カツサンドを食べてる優奈「ふふーふあんふおふいふえふえ（ブルーさんの店で）ごくっ一緒に働いているからな」

淀さん「ならシフトを調整すればいいのでは？」

優奈「ペチペチはホールで（*、□、）は厨房でな今も募集かけているが厨房は人手が足らんとブルーさんがタ級店長の店に行くからマジ昼間やおやつ時は激戦区だ」

ペチペチ「最近狐ちゃんの手伝ってくれてますよ何でも『父上を落ち度から取り戻すんだ!!』って」

優奈「不知火が勝手に付きまどってただけなんだが…」

ペチペチ「代理のノンケさんも休まないと過労死ラインギリギリな

んですよ」

優奈「長嶺さん所の血気盛んなヤンキーはどうだ？」

ペチペチ「全員店長に掘られてたり見せつけられたりしてブルーベリーやツナギを見ただけで個人差はあれどあれはPTSD発症してますよ…」

淀さん「深刻ですね…」

優奈「ヤバいな…」

水蓮「一応うちは婦人会の方（護衛付き）もいるのでそういう話はないで下さい」

優奈「すみません、勘定置いとくよ」

水蓮「お釣は？」

優奈「詫び代だ」

ペチペチ「すみません」

淀さん「ごめんなさい」

水蓮「またのお越しを…今度は真面目な話をお願いしますよ」
すたすた

此方は壱逢高校のシャーペン文芸部にペチペチと別れた優奈、淀さん、コミケに追われる秋雲ととうとう布面積極少ビキニ専用アシスタント白雪とスク水姿のパツキンがいた

優奈「何か増えてる…」

淀さん「新しく来たジャーヴィスさんです」

優奈「ハルヒ世界の時にはいなかったぞ」

淀さん「ナオ君の所でしたからねナオ君の所には文αと白露型と秋雲さんで壱逢には飲んべえズと赤木さんとかがさんがいきましたよ
そういうえばポケモン世界にはα以外の憲兵さんと金剛型やウォースパイトさん達が行ってましたねしかもデルビルやポチエナやマホイップを捕まえたとか」

優奈「番犬やお茶菓子だな」

鎮守府にいる憲兵α『俺の分は？』

憲兵β『無いぞ♪文月ちゃんには優奈さん経由でタケシ君からピイの卵をもらったがな』

α『だから最近にわとりコスして卵を抱えてえっちらほっちらしていたのね』

では戻り此方は稲荷神社の縁側に淀さんと甚平姿の優奈の膝で丸くなっているデカイ狐と大相撲を見ている蛙と庭をかける二匹のワ
ンちゃんと鷹がいたワンチャンジャナイヨ!!

優奈「優狐や今日はちと積極的だな」

優狐「きゅくん♪」

優奈「いやいやちゃんと構ってるからね?描写はないけど」

蛙「かつかつかつ、九郎よ諦めいこやつはお前の帰りを一日千秋の
思いで主の着物にくるまれながら待つておるのじゃぞ」

優奈「なら作者に言ってくれ」

作者『投げっぱなしジャーマンで放置だ!!』

淀さん「着物!?!」

優奈「獣臭いな…」

ガン!!

優狐「しつかり毎日お風呂には入っております!!」

蛙「湯を浴びるだけは風呂とはいわんよ」

優狐「だって…シャンプーは目が痛くなるもの…」

かけつこを終えた白「お風呂は終わったらふわふわして好き!!」

黒「お風呂?蛙野さんがペット用シャンプーで洗ってくれるよ?狐
式姉さんもたまに洗ってくれるしね」

くたくたの鷹『たまに旦那が隅々まで洗うから周りでは羨ましがれ
てますよ』

優奈「以上稲荷のチビツ子と隻眼の鷹さんからでした」

蛙「九郎よペット用シャンプーハットはあるかの?」

優奈「ペットショップに行けばあんだろ」

優狐「なら…」

淀さん「そういえば文月ちゃんもシャンプーハットしてましたね」

優奈「だそうだよ」

優狐「旦那様…洗って下さい…」

優奈「たまにならなく」

蛙野「つまらんの〜そこは『シャンプーハットなんて恥ずかしくて出来ません!!』じゃろ」

優奈「そーいや狐式はどうなんだ?」

蛙野「狐式はまあ…気にするな」

トキを同じく此方は蛙野がいた別の世界に湯を張ったたらいの中で泡だらけな狐式がいた

狐式『きゅ〜♪』

???『何で私が…』

???『そんなもんですよ?』

???『覗きですか?』

???『いやいや、あちきは懐かしい気を感じましてね〜あの超非常勤

歴史学教師さんのね』

???『生き字引の蛙先生?今は冬眠しているんじゃないかな?』

???『いやいや彼女は自分の世界に帰って行きましたよ私や中善寺さ

んやさつちゃんさんと送りましたからね』

狐式『まだ〜?』

???『はいはいお待ち下さいね〜』

???『そーいえば学生さん結婚したとか』

???『お相手は?』

???『さあ?そればかりはあちきにも』

狐式『お目痛い!!』

???『あらごめんなさい』

では稲荷に戻りかわいらしい浴衣を着た淀さんとふわモコ狐と疲労困憊の優奈君がいた

優奈「まさかシャンプーが目に入っただけで噛むわ暴れるわとか無いだろ…」

蛙野「お疲れ様じやのう九郎、ほれ甘さ控えめの儂特製大福じゃそーういえば主に似た浪人の知り合いもこの大福が好きだったな」

優狐「申し訳ありません…」

優奈「今の俺にはこの大福がご馳走だな…」

蛙野「明日儂の味噌汁を飲むか?」

優奈「んにや明日は優狐が作る味噌汁って決めてるから次回なく」
蛙野「つまらんのくじやがそれでこそ儂が見込んだ男じや靡いて
おつたら一週間程獣の糞を踏んだり当たる呪いをかけておつたわ」

淀さん「地味に嫌ですね…」

優奈「蛙野の呪いはヤバいからなく以前ここの御朱印と御守りを転
売したバカがいてなそいつは裏返ったの知らんで売って購入した奴
がサツに垂れ込みましたらしく今はブタ箱で不味い飯食ってるらしい
よ」

※今は健康管理ばっちりだそうです…私？まだムシヨには入って
ないからな!! つか入る予定は無い!!

蛙野「そういえば九郎よ」

デカイよもぎ団子を積めている優奈「ふひ？」

蛙野「たまにだがバンブルやアイアンハイドやサウンドウェーブと
やらが来るのだが知り合いか？」

優奈「茶がうめえ、何と言えば良いのやら…ユウグの所に何をト
チ狂ったか石化したコンボイとメガトロンがいてな元の世界に帰し
たらスペースブリッジとやらを改造して礼を同時に来てなドン
パチしようとしたから最空昇拳で黙らせたらどうやら回路がイカれ
たらしく今じゃご近所付きあいが出るまでになつてなバンブルと
アイアンハイドは街のみまもり隊でサウンドウェーブは同じサウン
ドシステムとやらのブロードキャストと一緒に喧嘩したりしながら
ラジオしてるんだわ」

こちらは何時ものラジオ局

ラジオ局のサウンドウェーブ『キョウハ、メガトロンサマノリクエ
ストヲシヨウトオモウ』

同じくブロードキャスト『いいね!! どんなんだ?』

サウンドウェーブ『ミチバタニアキカンヲステルタワケタニンゲン
ヲメツスルホウホウヲオモイツイタラシイ』

ブロードキャスト『最近多いからなくで、どんなのよ』

サウンドウェーブ『カドニテイイリヨクレーザーヲシカケステタヤ
ツヲカルクアブルトイウカンガエダ』

ブロードキャスト『そりや捨てるヤツは減るな』

サウンドウエーブ『ダガレーザーノナイバシヨニステハジメルカモシレナイ…ヤハリギョウセイニタノムシカナイノカ…』

ブロードキャスト『サウンドウエーブが迷路から出てくるまでこの曲です逆境の先に光を掴み未だに独走する逆境アイドル60ミニッツの新曲なんと!?!当ラジオ初みたいだ!!曲は逆境シンデレラです』

サウンドウエーブ『ヤハリメガトロンサマガデタホウガ…』
では稲荷にカメラを向けよう

優奈「優狐や大丈夫だからな」

優狐「ですが…」

蛙野「カツカツカツ優狐よはよう熱い茶を持ってこんか」

優狐「あなたがいけぼく？」

蛙野「儂はちとさむうてな動けんわ」

※季節的に冬眠間近です

優奈「だいぶ冷えてきたな…」

白を膝に載せてる淀さん「そうですね」

鷹助『姐さん夕餉は何ですか?』

蛙野「さあの、九郎よその狐に聞いてくれぬか?」

優奈「何かとろくんとしてるから淀さん妻を頼むわ」

源九郎『して何を作るのかね?』

優奈「さあな冷蔵庫次第だ」

蛙野「鍋の具材と知り合いがくれた野菜があるぞ」

優奈「うし、久しぶりのギャンブル飯するか!!」

源九郎『戯け!!普通に作らぬか!!』

優奈「冗談だ作者直伝の鍋とお久しぶりのミ○カン推奨御飯だ」

ザクザクグツグツジュワジュワシユワツチ!!キーンンブツピガ
ンでけたよ

優奈「ほい簡単具沢山鍋とミ○カンさん推奨のチューリップ唐揚げ
の甘辛ポン酢漬けだ鷹助は生野菜と解した茹で肉な」

淀さん「チューリップって花ですよね?」

蛙野「牡丹と紅葉みたいなもんじゃ」

※他にもあるから各自調べるよーにテストには出ないがな

ガツガツシヤクシヤクおかわり!!モグモグカムカム

優奈「そういえばいつの間に彩月と弥生いたんだ?」

彩月「いまのまにです」

弥生「お父さんおかわり」

優奈「ほい」

弥生「ありがとう」

優狐「いつもなら狐式が『おかわり!!』って言うのに今日はどこにいったのかしら?」

蛙野「さあの、九郎知らぬか?」

優奈「知らん!!」

一方件の狐は…

狐式「父上が言っていた:『たどえ不調がわかっているも許可しやうがしまいが触ったらいけないと:』」

「ぐはっ!!」

「トレーナーさん!」

「驚愕!、ウマ娘ではなくキツネ娘であったか!!」

何か世界を間違えていた

では戻りたかったがここまでのようです…では天さん任せましたよ

くくく

えく任されてしまいました、珍しくバトル回(予定)だ!!ある日一人の艦娘がメカニック鎮守府にやって来た:次回眠気MAXになると大半記憶ないんだよなくを予定しているので気長にお待ち下さい

第百二重航海眠気MAXの時に書くとろくなもん
じゃない

ちよつと遡ることお巡りさんとβが話している頃メカニック鎮守
府入り口にドリルラングルとスカウカンターがいた

ドリルラングル「α以外一斉に休むか？ふつ〜」

スカウカンター「α以外は有給消化してなかったからいいんじゃない？」

※αは後二回使ったら有給は来年度まで使えません

ドリルラングル「今頃他の面子はメカニック印のドンジャラを使っ
て通ブラ超最弱決定戦の予選してんだろうな」

スカウカンター「私とドリルそれと今はメンテ中のリグとマグナ以
外参加しているからね」

ドリルラングル「そういえば鈴木の新奴新しく工事メカを作るらしい
ぞ」

スカウカンター「ビルドメカですななんでも我々のサポートを目的
とした汎用メカみたいですね」

ドリルラングル「戦力アップは嬉しいんだが合体時の余剰パーツ問
題が解決してないぞ」

スカウカンター「そこは大丈夫かと武装合体らしくビルドメカの余
剰は出ないそうですよ」

ドリルラングル「それはうれしいことだな」

??? 「ねえ？」

スカウカンター「はい、なんででしょうか？」

??? 「提督はいるかしら？」

ドリルラングル「プロフェッサーならさつきまでいたが今は学校だ
な何でも留年を賭けた大事なテストらしいし非常勤のマスターはま
たもや行方不明だしな」

スカウカンター「どうせその後お嬢としっぽりムフフとやってんだ
ろ」

ではご期待に添えないで話を続けよう

ゆきちゃん『閲覧規制』中の鈴木『まあいいけど…』

「またもや捕まっている優奈『え〜香港で変態がマウンテンバイクしながらモンキーマジックする世界ですってか俺が悟浄かよ!!せめて村人Aあたりがよかった…んじやまおっ匠さまいかなさいますか?今なら大火力で殲滅したりおっ匠さまの物凄くありがた〜〜〜い説法を大音量で聴かせれますよ?』

おっ匠さま『無益な殺生はダメです!!彼等も我々と同じ生きるものです!!』

秋雲短刀でガリガリしている優奈『だそうだぞつとさて、悟空、八戒…峰打ち程度に痛め付けてありがた〜〜〜い説法を聴かせてやろうや…』

悟空『え〜ダルい〜〜〜』いたたた!!やりますよ!!やればいいんですよ!!』

八戒『素直じゃないよな〜悟空はさ』

優奈『そう言うてやるなや悟空はああ見えてやるときややるからなく昨日だっておっ匠さまの寢床について危ないなく飛竜剣!!』

悟空『言ったらクロス…』

おっ匠さま『ち、違いますよ!?!昨日のは悟空が寝れないからって来たからであって不浄なことはしてません!!』

優奈『そなの?おじさん勘違いしてたわ〜古今流範囲技夕飯カレーの時は大抵給食もカレー!!』

※かなりの確率らしいです

では戻り夕方〜カピツヤの鈴木が帰って来たようです

鈴木『いや〜帰りがけにゆきちゃんが可愛くてつい『閲覧規制』で『閲覧規制』を『閲覧規制』に『閲覧規制』してしまっただよ』

スカウカンター「お帰り、執務室で客が待ってるぞ」

ドリルラングル「その前に風呂行けや微かにだがお嬢の匂いがするぞ」

鈴木「最終的にラボにある簡易風呂場でしたからなく」

※メカニックラボ簡易風呂場にはゆきちゃんの使うシャンプー、コ

ンデイシヨナー、ボデイソープ完備ですたまに甘ったるい匂いのする
鈴木がいたら寝ぼけて使った可能性が高い

今回はこの辺でっつか眠い…

~~~~~♪

メカニック鎮守府に来た謎の人…次回は一戦いいですか？を予定  
しているので気長にお待ち下さい

## 第百二重市航海一戦いいですか？

前回のあらすじ

優奈「ちよつとアブないお姉さんみたいなおっ匠様こと三蔵法師様と行く天竺への旅…お供は思春期と発情期真っ只中の猿こと孫悟空と村の娘は我が妻を地で行く猪八戒とこの俺最強無敵の沙悟浄ポジの優奈様よ!!」

悟空「悪意があるな…」

優奈「諦めろ」

文月ちゃん「ほんぺんです!!ゆうなおにいちやんのいったのあるふあおにいちやんにきいてみよつと」

優奈「それは辞めてな」

此方は執務室、シャワーを浴びた鈴木と淀さんと客がいた

鈴木「失礼した私はこの鎮守府の提督をしている鈴木兼続皆からはメカニツク鈴木とよばれているよ」

客「私は西宮鎮守府所属の重巡艦高雄です」

淀さん「西宮といえば戦闘特化鎮守府ですね」

鈴木「で、その戦闘民族が何用だ？」

高雄「実は…」

かいつまんで説明しよう!!ダブルドラゴン対姫との激闘を偶然遠征帰りに見たらしく提督の許可を得て来たらしい

※時系列があやふやだつて？諦めてください

鈴木「レーダーに引つ掛かる筈なんだが？」

淀さん「確かに…あの時はダブルドラゴンと姫と優奈さんは引つ掛かりましたよ？長高度で艦載機使いました？」

高雄「ええ、いきなり島ひとつ消えたら周辺調べますよ」

鈴木「なるほど」

淀さん「どうします？」

鈴木「呼ぶか…」

淀さん「はい」

えく天龍、飛龍、蒼龍、五十鈴、ついでにいたら不知火は執務室に

大至急来て下さいそれとすみませんが燭台切さん、仕込みや家事が終わっていたら道場に熊さんがいると思うので整備をお願いしますすたすた

不知火「来たぬい」

ダブルドラゴン『参上!!』

五十鈴「何かしら？」

天龍「んだよ」

鈴木「すまないが高雄さんと勝ち抜きしてくれないか？」

ダブルドラゴン『私達の流派は喧嘩には使いません!!』

不知火「これから優奈さんを誑かす牝をシバきに逝くから無理ぬい」

ちよつとアブない優奈『嫌々まさか金角と銀角が概念系の奴だったとは…』

金角『そうね、まさか『ツルツルテカテカのメカメカしいアンドロイドじゃないと興奮しない!!』だなんて初めてよ』

銀角『お姉様はまだマシよ私なんて『妹!?つまりドジっ子でいつも姉が苦勞するタイプだな!!』とか言われたのよ!!』

優奈『悪かったって寝込みを襲おうとしたからちよつと仕返ししただけさ♪』

ちよつと戻ろう…此方は道場、熊さんが精神統一をしていた尚後ろでは唾然としている燭台切さんと何故かいるゆきちちゃんが毛に埋もれていた

飛龍「何やっているんですか？」

燭台切「来たときからああなっていたから僕もさっぱりなんだ…」

ゆき「ふかふかじゃない…」

熊さん「ぐあ…」

※ぬいぐるみと間違えた見たいです

天龍「熊公大丈夫か？」

熊さん「ぐあ!!」

不知火「熊さんこの(21)は提督の『閲覧規制』ぬいバレたら熊鍋になるぬい」



熊さん「ぐあ!!」

燭台切「それは無いと思うよ?」

何故かいる鈴木「ゆきちちゃん?」

ゆき「あくしゅじゅきしやんだ」

鈴木「熊さんやゆきちちゃん回収して大丈夫かい?」

熊さん「ぐあ!!」

鈴木「よいしょと、ゆきちちゃん?向こうに行こうなく」

不知火「その後ゆきちちゃんは真つ白に提督はカサカサになったぬい

やはり提督は(21)のド変態ぬい」

執務室隣の鈴木『今日はスライムの余りを使うの予定だ』

ゆき『あれ嫌なんですけど…』

壱逢世界格納庫のZERO『やはり殺るしかないな…』

では戻り道場では…

飛龍「我流…最覇拳!!」

高雄「甘いわ!!」

五十鈴?『ヤバクナイカ?』

蒼龍『『ゲータロード…ウルトラマン、A、タロウ…ベータスマツ

シュ…』ドおりゃ!!』

高雄「くっ…」

不知火「見よう見まねの最覇碎拳!!」

高雄「きやああああ!!」

燭台切に膝枕されている天龍「いつ見てもヤバいな」

燭台切「そうだね…敵対はしたくないよ」

五十鈴?『サキニクタバツタヤツガナニライウカ…』

天龍「あれは油断しただけだ!!」

燭台切「暴れない暴れない、五十鈴さんも煽らないの」

蒼龍「ガンマフューチャーとデルタライズクローそれにギヤラク

シーライジングはまだ使えない…ああ!!何が足りないの!?!」

飛龍「分身か残像と闇の力と絆じゃないかな?」

天龍「優奈さんから借りたオーブサーガみるか?若しくは鳳翔食堂

でお手伝い中の文月が使っているベリアロクさん」

蒼龍「あれ剣だよね!？」

鳳翔食堂の厨房にいるベリアロク『はあ…』

文月『ふみい!!』

ベリアロク『危ないぞ!!俺を置いてから動け』

文月『ふみい…』

では戻らず優奈は…

優奈『後付けは酷くない?』

おっ匠様『49の鍵がいるみたいですね』

悟空『ふざけんな!!さつさとコイツを外し『くくく』いだだだ!!』

八戒『明らかに後だしですね』

優奈『つまり…西遊記と見せかけてアソボットかよ!?せめて最遊記

ならわかるぞアソボットは酷いな』

おっ匠様『悟浄、アソボットとは?』

優奈『俺とおっ匠様と一部人間以外が人形つまりアソボットってこ

とだ』

※超ざっくりでありんす

悟空『俺達がアソボット…』

おっ匠様『悟空と八戒はアソボットではありません!!悟浄あなたは

仲間を疑うのですか!』

優奈『場を和ませるジョークさ、して門番よこの扉は開かないんだ

な?』

門番『左様…49の鍵以外いかなる場合も開かぬ』

優奈『本当だな?』

門番『くだい!!』

優奈『火よ水よ…天よ地よ…古始今流究極業最覇堂輪撃!!』

ドア『とびますとびます』

八戒『あれまく』

おっ匠様『悟浄やりすぎです!!』

優奈『えく俺きちんと確認したよ?』

悟空『お前ヤバいんだな…』

では戻り道場では…あのレオに似たマークはま、まさか!?

??? 「ゼロに頼まれたレオ兄さん経由で来ましたアストラです」

飛龍「似てませんね…」

アストラ「昔は似ていたけどマグマ星人という悪い奴が僕達の星を破壊しに来てレオ兄さんとペットのロンは逃げきれたけど僕は捕まってね…ウルトラマンキングが助けに来るまで家畜以下の扱いをうけてねこの足の鎖はその名残さ」

飛龍「知らなかったとはいえごめんなさい」

アストラ「昔の話だから大丈夫、今はこの鎖を使った足技を考えているんだ!!」

任務中のレオ『アストラ…遅くなったな…』

任務に動向中のシルバー族のモブトラマン『レオさんが感極まって泣いてる…』

同じく動向中のブルー族モブトラマン『ヒカリ主任に聴いてみよう』

ウルトラの星にあるラボで開発中のヒカリ『レオ兄弟の感応現象は論文込みで少し前に出そうとしたがウルトラマンキング達に怒られて目の前でメビウスのメビウムダイナマイトに投げ込まれたからな』

※ヒカリの言う少し前は約万単位です

では道場に戻ろう…なんで蒼龍さん分身してるの!?

さかのぼることside宇宙に飛んでいた頃…

アストラ「なるほど…では、レオ兄さんが会ったらしい武道家の力を借りましょう」

えらい限定されるぞ

飛龍「誰なんだろうね?」

データロード…ゆき…

蒼龍『愛は宇宙をいや、世界を救う拳と明鏡止水の心なり…』

アストラ「大体合ってるね…凄いなその力」

蒼龍「使いすぎは注意です!!」

お釈迦様と話中の優奈『腹痛と回復低下が付くからなく』

飛龍「明鏡止水なら私の力『お前の力はまだ未熟だ!!不安定な力は

破滅を呼ぶぞ!!』だれ!？」

あ、あの声は…ま、まさか!？」

アストラ「彼がレオ兄さんと会ったらしい武道家の…」

???'「ゴッドガンダムだ!!」

ロストヒーローズの方かよ!!

飛龍「天さんそろそろ…」

くくく♪

キリ悪いなく次回、データロードの弱点を予定しているので気長に  
お待ち下さい